
豊中市多文化共生に関するアンケート 調査結果報告書

2023年(令和5年)3月

豊中市

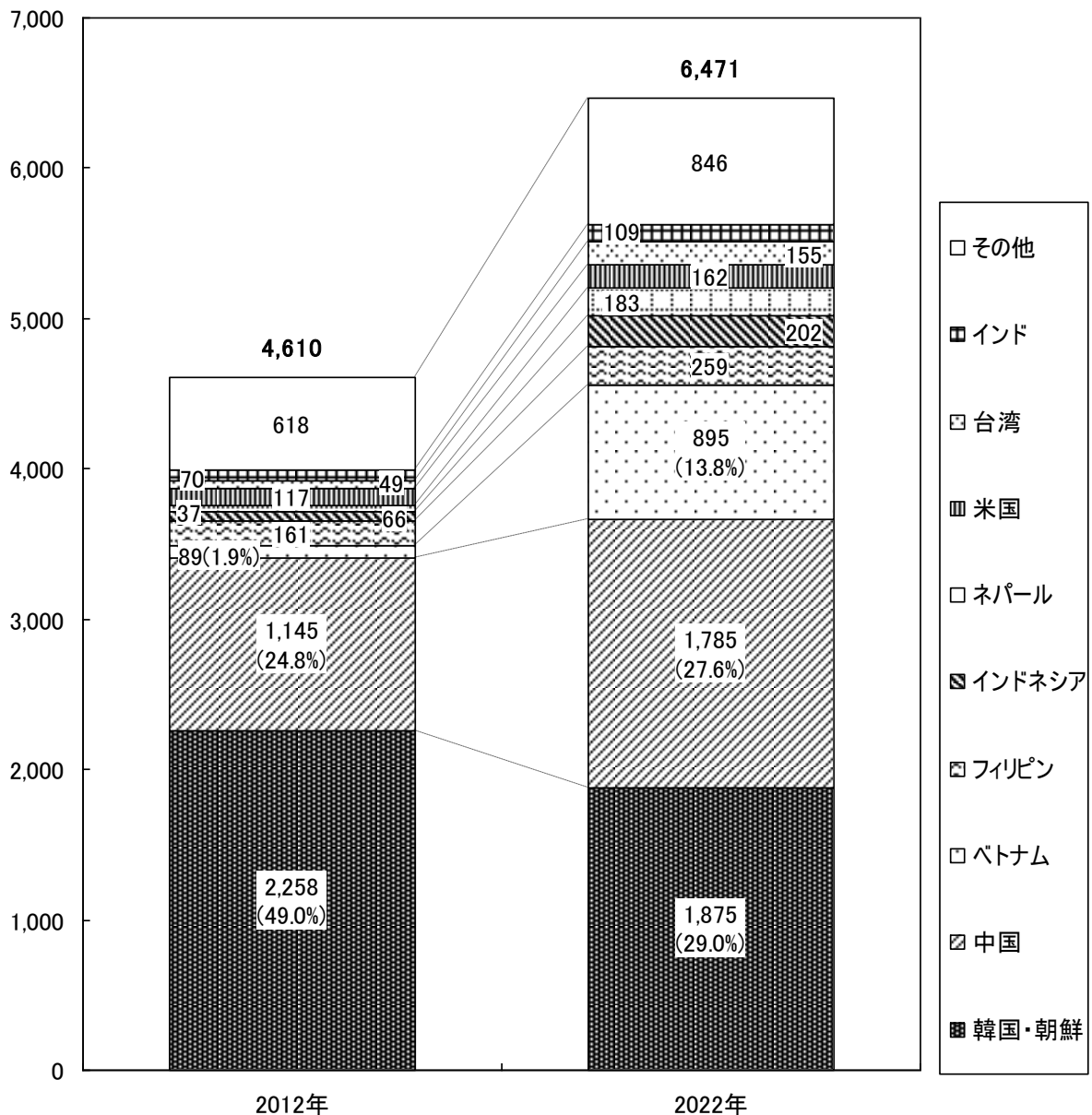
目次

I 豊中市の外国人市民の状況	1
II アンケート調査の概要	3
1 調査方法と回収状況	3
2 調査結果の概況	6
III 外国人市民アンケート調査の結果	11
1 あなたと家族について	11
2 ことばと文化について	21
3 地域での暮らしについて	28
4 市のサービスについて	52
5 子育て・教育・学校について	66
6 自由記述意見	75
IV 日本人市民アンケート調査の結果	87
1 基本項目	87
2 あなたのことについて	90
3 外国人とのかかわりについて	94
4 多文化共生のまちづくりについて	108
5 自由記述意見	122
V 調査結果の分析及び考察	130
回答者の属性、日本での在住期間・形態、日本語能力 などについて／関西大学 名誉教授 石元 清英	130
外国人市民の地域での暮らしと行政サービス／ 関西外国語大学 広報部 小牧 規子	135
外国人市民の子育て・教育、日本人市民の外国人との かかわり・多文化共生の考え／ 甲南女子大学 国際学部教授 野崎 志帆	142
今回調査の結果からみえてきたもの／ 関西大学 名誉教授 石元 清英	150
参考資料	152
調査に用いた封筒	152
調査依頼文	153
回答フォーム	155

I 豊中市の外国人市民の状況

- 豊中市における外国人市民の人口は、2022年9月末現在 92か国 6,471人（無国籍を含む）で、10年前の2012年と比べて19か国 1,861人の増加となっています。
- 国籍・地域別にみると、韓国・朝鮮が最も多い1,875人となっていますが、2012年と比べて383人減少し、外国人市民全体の構成比も2012年の49.0%から2022年の29.0%へ大きく低下しています。
- これに次いで、中国 1,785人（2012年から640人の増加）、ベトナム 895人（同806人）、フィリピン 259人（同98人）、インドネシア 202人（同136人）、ネパール 183人（同146人）、米国 162人（同45人）、台湾 155人（同106人）の順となっています。

国籍・地域別外国人市民人口の推移



○2012年と比べて人口が大幅に増加した国籍・地域をみると、ベトナム（10.06倍）、ミャンマー（6.20倍）、ネパール（4.95倍）、台湾（3.16倍）、インドネシア（3.06倍）、ロシア（2.47倍）の順となっています。

○特にベトナムは外国人市民全体の構成比が2012年の1.9%から2022年の13.8%へ大きく割合が高まっています。

国籍・地域別外国人市民人口・構成比、2012年と2022年の比較

国籍・地域	2012年9月末	構成比	2022年9月末	構成比	2012年→2022年
韓国・朝鮮	2,258	49.0%	1,875	29.0%	0.83倍
中国	1,145	24.8%	1,785	27.6%	1.56倍
ベトナム	89	1.9%	895	13.8%	10.06倍
フィリピン	161	3.5%	259	4.0%	1.61倍
インドネシア	66	1.4%	202	3.1%	3.06倍
ネパール	37	0.8%	183	2.8%	4.95倍
米国	117	2.5%	162	2.5%	1.39倍
台湾	49	1.1%	155	2.4%	3.16倍
インド	70	1.5%	109	1.7%	1.56倍
タイ	67	1.5%	79	1.2%	1.18倍
ブラジル	67	1.5%	77	1.2%	1.15倍
ミャンマー	10	0.2%	62	1.0%	6.20倍
英国	41	0.9%	54	0.8%	1.32倍
カナダ	30	0.7%	41	0.6%	1.37倍
ペルー	50	1.1%	39	0.6%	0.78倍
フランス	26	0.6%	37	0.6%	1.42倍
ロシア	15	0.3%	37	0.6%	2.47倍
マレーシア	23	0.5%	33	0.5%	1.44倍
ドイツ	18	0.4%	23	0.4%	1.28倍
モンゴル	20	0.4%	22	0.3%	1.10倍
その他	251	5.4%	342	5.3%	1.36倍
合計	4,610	100.0%	6,471	100.0%	1.40倍

※その他には無国籍、未確定を含む

Ⅱ アンケート調査の概要

I 調査方法と回収状況

① 外国人市民

調査目的	豊中市に住む外国人市民の生活を支援するために行政が提供している情報やサービスについての認知度及び活用状況、また生活する上での支援ニーズを把握し、「多文化共生のまちづくり」を推進する上での基礎資料とする。
調査対象	豊中市内に在住する外国人市民のうち、2022年(令和4年)9月21日現在18歳以上の人 2,000人(無作為抽出)
調査方法	○対象者宛てに調査目的とアンケート回答フォームのURL、二次元バーコード等を記載した調査依頼文を郵送(居住地域別に用紙の色を変えて送付)。 ○回答方法は、①インターネット上のアンケート回答フォームによる回答、②とよなか国際交流センターに来てスタッフの補助を受けながら回答、③紙の調査票による回答、のいずれかを選択。 ○アンケート回答フォームは、やさしい日本語、英語、中国語(簡体字)、韓国・朝鮮語、ベトナム語、ネパール語、スペイン語、インドネシア語の8言語を用意。
調査期間	2022年(令和4年)10月7日～10月31日
回収状況	対象者抽出数 2,000件/転出等33件 依頼文配布数 1,967件/不達数17件/依頼文到達数a 1,950件 有効回答数b 501件 有効回答率(依頼文到達数aに占める有効回答数bの割合) 25.7%

② 日本人市民

調査目的	豊中市に住む日本人市民の外国人市民とのかかわり、多文化共生についての関心を把握し、「多文化共生のまちづくり」を推進する上での基礎資料とする。
調査対象	豊中市内に在住する日本人市民のうち、2022年(令和4年)9月21日現在18歳以上の人 1,000人(無作為抽出)
調査方法	○対象者宛てに調査目的とアンケート回答フォームのURL、二次元バーコード等を記載した調査依頼文を郵送。 ○回答方法は、①インターネット上のアンケート回答フォームによる回答、②とよなか国際交流センターに来てスタッフの補助を受けながら回答、③紙の調査票による回答、のいずれかを選択。
調査期間	2022年(令和4年)10月7日～10月31日
回収状況	対象者抽出数 1,000件/転出等3件 依頼文配布数 997件/不達数2件/依頼文到達数a 995件 有効回答数b 302件 有効回答率(依頼文到達数aに占める有効回答数bの割合) 30.4%

■性別・年齢別回収状況

		外国人市民アンケート			日本人市民アンケート		
		到達数	回答数	回答率	到達数	回答数	回答率
性別	男	956	224	23.4%	466	112	24.0%
	女	994	273	27.5%	529	187	35.3%
	いずれでもない		2	-		3	-
	無回答		2	-		0	-
年齢別	18歳～29歳	553	146	26.4%	137	30	21.9%
	30歳～39歳	476	157	33.0%	135	46	34.1%
	40歳～49歳	327	106	32.4%	175	67	38.3%
	50歳～59歳	235	50	21.3%	179	74	41.3%
	60歳～69歳	169	28	16.6%	120	53	44.2%
	70歳以上	190	13	6.8%	249	32	12.9%
	無回答		1	-		0	-
計		1,950	501	25.7%	995	302	30.4%

■外国人市民アンケート：回答者の国籍・地域と回答フォームの言語

		日本語	英語	中国語	韓国・朝鮮語	ベトナム語	ネパール語	スペイン語	インドネシア語	計
1	中国	56	3	102	0	0	0	0	0	161
2	韓国・朝鮮	57	0	0	25	0	0	0	0	82
3	ベトナム	7	0	0	0	67	0	0	0	74
4	ネパール	1	4	0	0	0	41	0	0	46
5	インドネシア	0	3	0	0	0	0	0	15	18
6	アメリカ	4	10	0	0	0	0	0	0	14
7	台湾	7	0	6	0	0	0	0	0	13
8	フィリピン	3	9	0	0	0	0	0	0	12
9	インド	1	6	0	0	0	2	0	0	9
10	タイ	2	2	0	0	0	0	0	0	4
11	ブラジル	3	0	0	0	0	0	1	0	4
12	その他	21	33	3	0	0	0	6	0	63
	国籍・地域不明	0	0	0	0	0	1	0	0	1
計		162	70	111	25	67	44	7	15	501

■外国人市民アンケート：回答者の居住地と回答フォームの言語

		日本語	英語	中国語	韓国・朝鮮語	ベトナム語	ネパール語	スペイン語	インドネシア語	計
1	北東部	26	16	18	4	5	1	0	0	70
2	北中部	30	13	18	5	1	10	0	3	80
3	北西部	27	15	31	8	9	8	3	5	106
4	中部	10	10	8	1	10	12	1	1	53
5	中東部	17	3	10	2	6	0	2	1	41
6	中西部	22	6	9	2	16	11	0	3	69
7	南部	29	7	16	3	19	0	1	2	77
8	居住地不明	1	0	1	0	1	2	0	0	5
計		162	70	111	25	67	44	7	15	501

※アンケート調査結果の各設問の母数 n (Number of caseの略)は、設問に対する有効回答者数を意味します。

※各選択肢の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。

※グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%です。

※属性別クロス集計のグラフ・集計表には、属性が無回答であったサンプルの集計結果を割愛しています。また、クロス集計元が複数回答設問である場合は、個々の属性の件数(n)を合計すると集計対象全体の件数(n)を上回る場合があります。

※選択肢「その他」の記述内容のうち、日本語で記述されたものは原文のまま取り扱い、外国語で記述されたものは翻訳を行い、その結果を記載しています。

2 調査結果の概況

① 外国人市民

《回答者自身や家族のことについて》

- 回答者の年齢は前回調査より50歳以上が減少し、49歳以下が大きく増加しています。
- 日本以外で生まれた人が前回調査より大きく増加しています。
- 豊中市での居住年数は、前回調査より10年以上という人が減少し、4年以下という人が大きく増加しています。
- 国籍・地域は中国、韓国・朝鮮、ベトナム、ネパールの順で多く、前回調査と比べると韓国・朝鮮が大きく減少し、中国やベトナム、ネパールなどが大きく増加しています。
- 在留資格は永住者、技術・人文知識・国際業務、留学の順で多く、前回調査と比べると特別永住者や永住者、留学などが大きく減少しています。
- 家族と一緒に住む人が63.1%となっています。また、一緒に住んでいる人に日本語を話せる人がいるという人が87.3%となっています。

《ことばと文化について》

- 日本人と同じ程度や日常的なレベルでの会話や読み書きができるという人が7割前後を占めていますが、前回調査と比べると日本人と同じ程度にできるという人が大きく減少しています。
- 日本語を勉強したことがある人が84.6%を占めており、「日本に来る前に学んだ」と答えた人が54.2%となっています。また、日本語を勉強したことがない人に日本語を勉強したいと思うか尋ねたところ、「はい」と答えた人が77.8%を占めています。
- 日本で生まれ育った外国にルーツをもつ子どもたちが、父母や祖父母の出身国・地域の言葉、文化などを学んだり体験したりすることは83.2%の人が大事だと答えています。
- 自分の国や出身地域の人たちが集まったり、SNS上で交流することは68.4%の人があると答えています。

《地域での暮らしについて》

- 豊中市に住んで良いと感じることを尋ねたところ、「電車やバスなどを使って、行きたい場所に行きやすい」「自然環境が良い」「犯罪が少なく安心」「買い物がしやすい」「周囲の人がやさしい」「市役所のサービスが使いやすい」「公共施設が多い」などの順で多くみられます。
- 困ったことがあったときの相談先は、「日本にいる家族・親せき」「日本人の友だち」「出身国・地域にいる家族・親せき・友だち」「職場の人」の順となっています。
- ふだんの生活に必要な情報は、「税金・年金・保険のこと」「仕事のこと」「病院やくすりのこと」「子育て・教育・学校のこと」「火事や地震のときの対応」「日本語の勉強のこと」「病気や事故のときの連絡先」などとなっています。

- 情報の入手先については、「インターネット」や「市の広報紙『とよなか』」「日本語のテレビ・ラジオ」「豊中市のホームページ」「日本人の友だち」「家族や一緒に住んでいる人、親せき」「職場や学校」などとなっています。
- 日本の病院に行ったことがある人は76.4%で、病院の医者や看護師が説明するとき、言葉が「わかる」と答えた人が85.6%を占めています。
- 病院やくすりのことなどで困っていることがある人は22.4%で、困っている内容は「病気やけがを治せる病院がどこにあるかわからない」や「わかることばで書かれた病院やくすりなどの情報が少ない」「自分や家族の話す言葉を使える病院がどこにあるかわからない」などとなっています。
- 69.0%の人が就労しており、豊中市内で働いている人が33.3%となっています。
- 仕事のことで困っていることがある人は20.8%で、内容別には「仕事のさがし方についての情報が少ない」「使える言葉で相談できない」「資格のとり方がわからない」などの順となっています。
- 災害時の避難場所を知っているという人は52.3%となっています。
- 住んでいるまちの人たちと、つきあいがある人は57.9%で、つきあいがあるのは「家の近くに住んでいる人とのあいさつや会話などで」「仕事や職場で」「自分や家族が通っている学校の活動やイベントで」という人が多くみられます。
- 住んでいるまちの人とのつきあいで困っている人は18.0%で、内容別には「つきあう機会が少ない」「言葉がわからず、仲良くなれない」「忙しくて、つきあう時間がない」などが多くみられます。
- 住んでいるまちの人たちと積極的に交流したいと思う人は68.5%で、「日本の文化や習慣を学びたい」「友だちになりたい」「住んでいるまちのイベントと一緒に参加したい」という人が多くみられます。
- 回答者自身がやってみたい活動を尋ねたところ、「外国人を支援する活動」や「住んでいるまちの人と一緒に、まちのために活動すること（そうじ、おまつりなど）」「通訳・翻訳などをして、困っている人を助けること」などが多くみられます。
- 日本でのくらしで回答者の58.3%が何らかのことがあったと答えており、内容別には「文化や習慣のちがいを理解されない」「外国人であることを理由に、家を買うことや借りることをことわられる」「外国人市民の意見が、政治に活かされていない」という人が多くみられます。
- 豊中市は外国人市民にとって住みよいまちか尋ねたところ、86.2%の人が住みよいまちだと答えています。

《市のサービスについて》

- 豊中市のサービスで使ったことがあるものは、「マイナンバーカードをもらう」「予防接種をうける」「国民健康保険によるサービスをうける」「市民健康診査をうける」「母子健康手帳をもらう」「乳幼児健診をうける」などの順となっています。
- 豊中市が提供している日本語ではない言葉で書かれた資料のうち、「ごみの分け方・出し方早わかりガイド」は47.1%が使ったことがあると答えています。

- 豊中市役所へ行ったときに困ったことがある人は14.8%で、困った内容は「どの窓口に行けばいいかわからない」「自分が使える言葉の通訳がない」「手続きのしかたがわからない」「自分が使える言葉で書かれた書類がない」「通訳が少ない」「窓口が開いている時間に行けない」などとなっています。
- 「とよなか国際交流センター」を知っている人は54.0%、事業に参加したりサービスを使ったことがある人は27.5%となっています。また、参加したり使ったりしたいものは「にほんごの教室」や「相談サービス」「その他のイベント（国流フェスタなど）」などとなっています。

《子育て・教育・学校について》

- 18歳までの子どもがいる人は40.0%で、前回調査と比べて増加しています。
- 18歳までの子どもがいる人の17.0%が、子ども自身が学校のことで困ったことがあると答えており、「先生と言葉が通じない」「日本語があまりできないので、授業がわからない」という人が多くみられます。
- 子どもの次の進路については「日本の教育を大学まで受けさせたい」という人が66.0%となっています。
- 子育てや教育・学校のことで、困る（困った）こと、心配する（心配した）ことがある人は43.0%で、「子どものことを相談できる人や場所がない」「子どもに家族や子ども自身の出身国・地域の言葉や文化を伝えることがむずかしい」「こども園や学校などに入るための手続きがわからない」「出産や子育て、教育・学校にかかるお金が高い」「働きたいが、子どもをあずけられない」という人が多くみられます。

② 日本人市民

《回答者自身のことについて》

- 豊中市に住んで、良いと感じることは、「交通の便が良い」「治安が良い」「買い物がしやすい」「自然環境が良い」などの順となっています。
- 日本語以外の言語を使う（理解する、話すなど）ことができる人は31.8%で、そのほとんどが「英語」となっています。
- 仕事や旅行で海外（国外）に行ったことや、海外で生活をしたことがある人は84.5%で、「海外へ観光を目的とした旅行をしたことがある」が多くを占めています。

《外国人とのかかわりについて》

- 外国人とのつきあいがある人は37.1%で、「仕事や職場で」「友だちとして」という人が多くみられます。また、外国人が困っているときに相談にのったり、助けたりしたことがある人は64.3%となっています。
- 地域や職場などでの外国人とのかかわりで、困った経験などがある人は23.2%となっています。
- 地域や職場などに外国人が増えることで、地域社会にどのような影響があると思うか尋ねたところ、「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」「社会に多様性が生まれる」と答える人が70%以上となっています。
- 外国人とのかかわりについて6項目の問いかけをしたところ、各項目とも「積極的に受容できる」と「まあ受容できる」と答える人が80%以上を占めています。
- 外国人とつきあうにあたり、壁になっていると感じるものは、「言葉の違い」「宗教や文化・生活習慣などの違い」「ものの考え方・価値観の違い」と答える人が多くみられます。
- 住んでいる地域では、今後、外国人市民とのかかわりをどのようにしたらよいか尋ねたところ、「他の日本人市民と同じように関わっていく」が63.6%を占めています。
- 地域の外国人市民と交流したいと思う人は69.2%を占めています。また、どのような交流をしたいと思うか尋ねたところ、「外国人市民から出身国・地域の文化や習慣を学びたい」「友だちになりたい」「地域のイベント活動と一緒に参加したい」の順となっています。

《多文化共生のまちづくりについて》

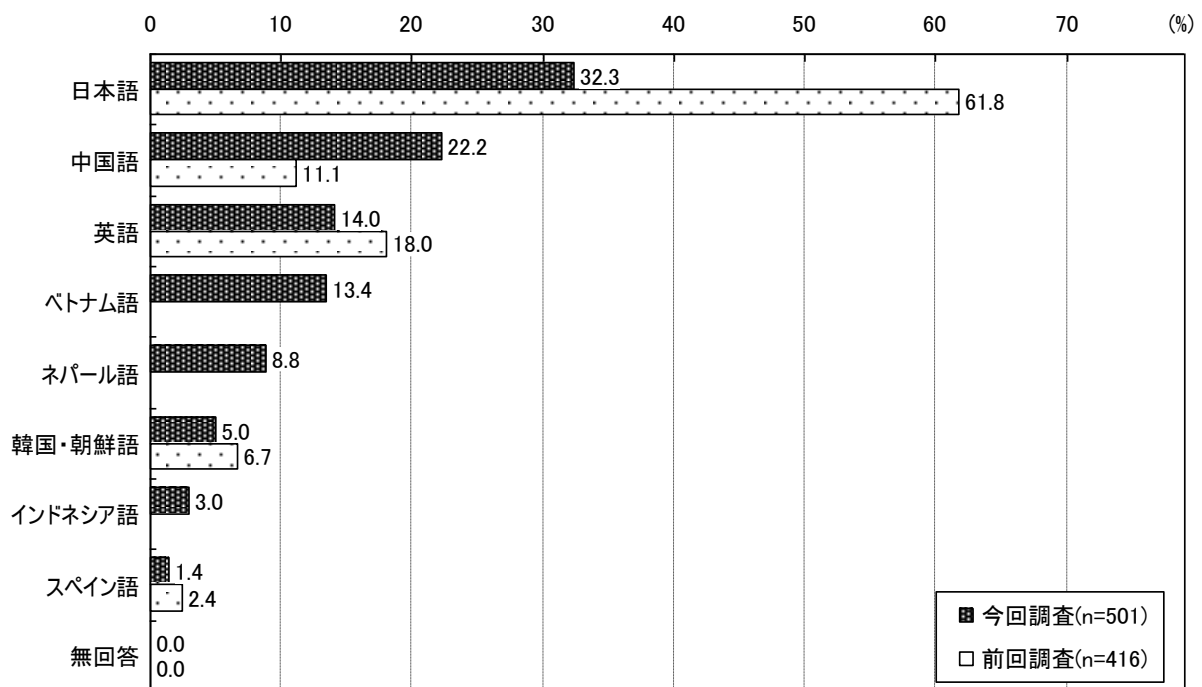
- 日本に住む外国人にかかわる内容について、これまでに学習したり知識を得たりしたことがある人は33.4%で、「新聞・雑誌の記事を読んだ」「テレビ・ラジオの番組で知った」「小・中学校で学習した」という人が多くみられます。
- 日本人は、外国の言語や文化を学び、外国人の背景を理解するほうがよいと「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて90.4%の人が回答しています。
- 日本社会は、外国人に日本の習慣やルールを押し付けないほうがよいと、64.2%の人が回答しています。

- 行政は、外国人が出身国・地域の言語や文化を守れるよう援助するほうがよいと、79.1%の人が回答しています。
- 行政は、外国人が日本の言語や文化を学べるよう援助するほうがよいと、93.0%の人が回答しています。
- 外国人は、日本の言語や文化を身につけるために努力したほうがよいと、86.7%の人が回答しています。
- 外国人は、地域の活動に積極的に参加するほうがよいと、77.4%の人が回答しています。
- 外国人は、日本社会にとけこむよう日本の習慣やルールを学ぶほうがよいと、91.1%の人が回答しています。
- 豊中市は、外国人市民にとって住みよいまちだと思う人は48.0%となっています。
- 外国人には、日本社会での生活のしづらさがあると思う人は66.2%を占めており、「文化や習慣の違いが理解されない」「同じ仕事をしていても日本人より賃金が低いなど、労働条件が悪い」「外国人であることを理由に、住宅の購入や入居を断られる」と答える人が多くみられます。
- 外国人市民と日本人市民の交流活動や、外国人市民への支援活動に参加したことがある人は概ね1割以下にとどまっています。
- 外国人市民と日本人市民の交流活動や、外国人市民への支援活動に対して何らかの関心を持つ人は79.1%で、「外国人との交流を目的としたイベントやお祭り・交流会」や「外国の文化や風俗・風習などの体験（芸能、衣服、食事など）」「日本語ボランティアや通訳など外国人の言葉のサポート」などの順となっています。
- 「とよなか国際交流センター」を知っている人は34.1%で、「利用したことはない」人が63.1%を占めています。
- 「多文化共生のまちづくり」に向けて、豊中市が力を入れたらよいと思う取組み（施策・事業）については、「外国人市民がいろいろな相談をしやすくする」と最も多く、次いで「外国人市民の子どもがしっかり学べるようにする」「日本語を学ぶ外国人市民を支援する」の順となっています。

Ⅲ 外国人市民アンケート調査の結果

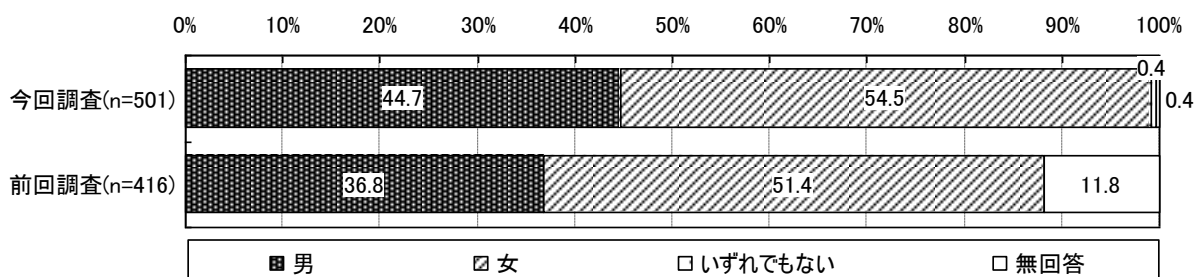
1 あなたと家族について

回答言語



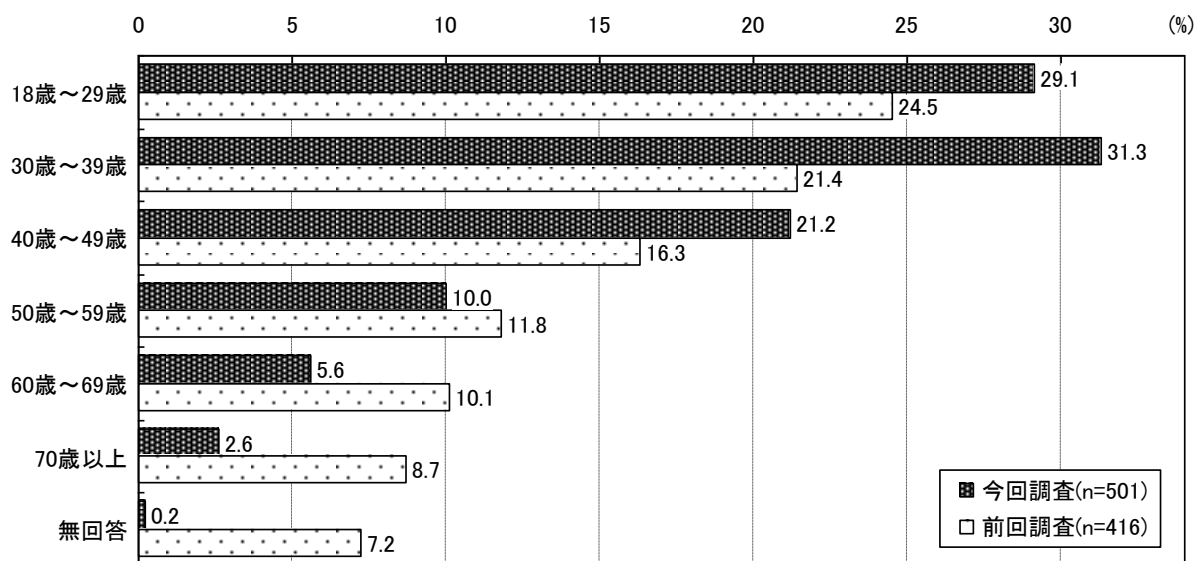
- 回答言語をみると、「日本語」が32.3%と最も多く、次いで「中国語」が22.2%、「英語」が14.0%、「ベトナム語」が13.4%、「ネパール語」が8.8%などと続いています。
- 前回調査と比べると、「日本語」が大きく減少し、「中国語」が増加する結果となっています。

F-Q1. あなたの性別を教えてください。(1つ選んでください)



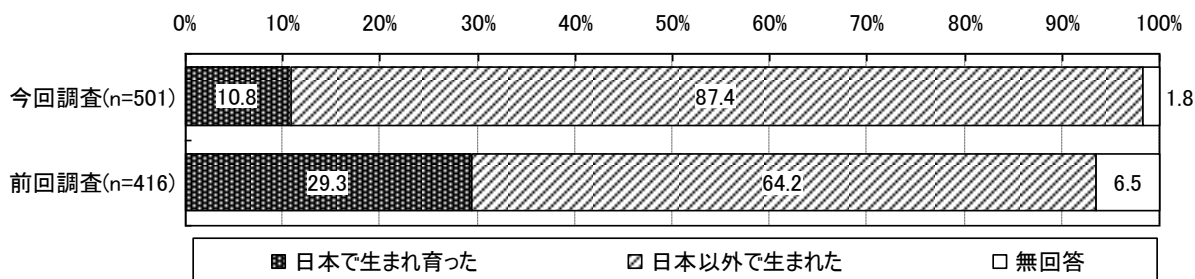
- 「女」が54.5%、「男」が44.7%となっています。
- 前回調査と比べると、「男」が増加する結果となっています。

F-Q2. あなたの年齢を教えてください。(1つ選んでください)



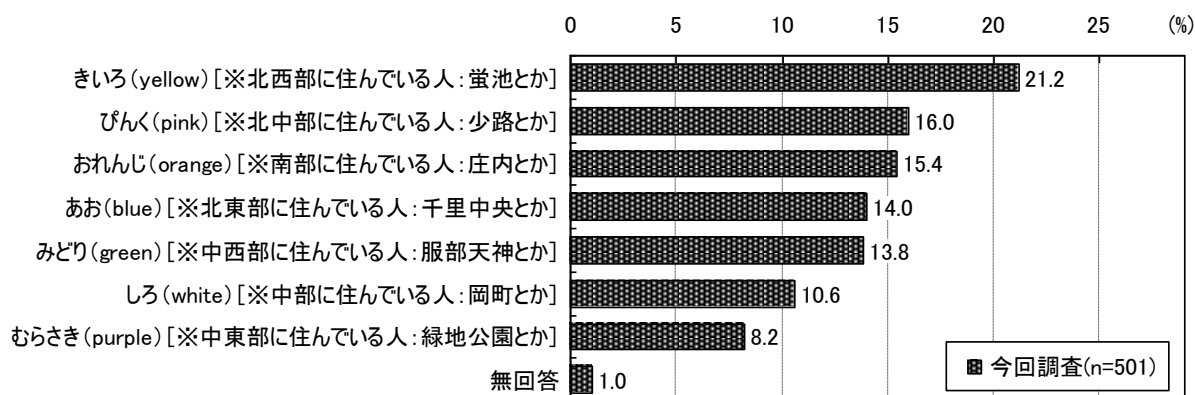
- 「30歳～39歳」が31.3%と最も多く、次いで「18歳～29歳」が29.1%、「40歳～49歳」が21.2%、以後年齢が高くなるにつれ少なくなっています。
- 前回調査と比べると、50歳以上が減少し、49歳以下が大きく増加する結果となっています。

F-Q3. 生まれたところはどこですか。(1つ選んでください)



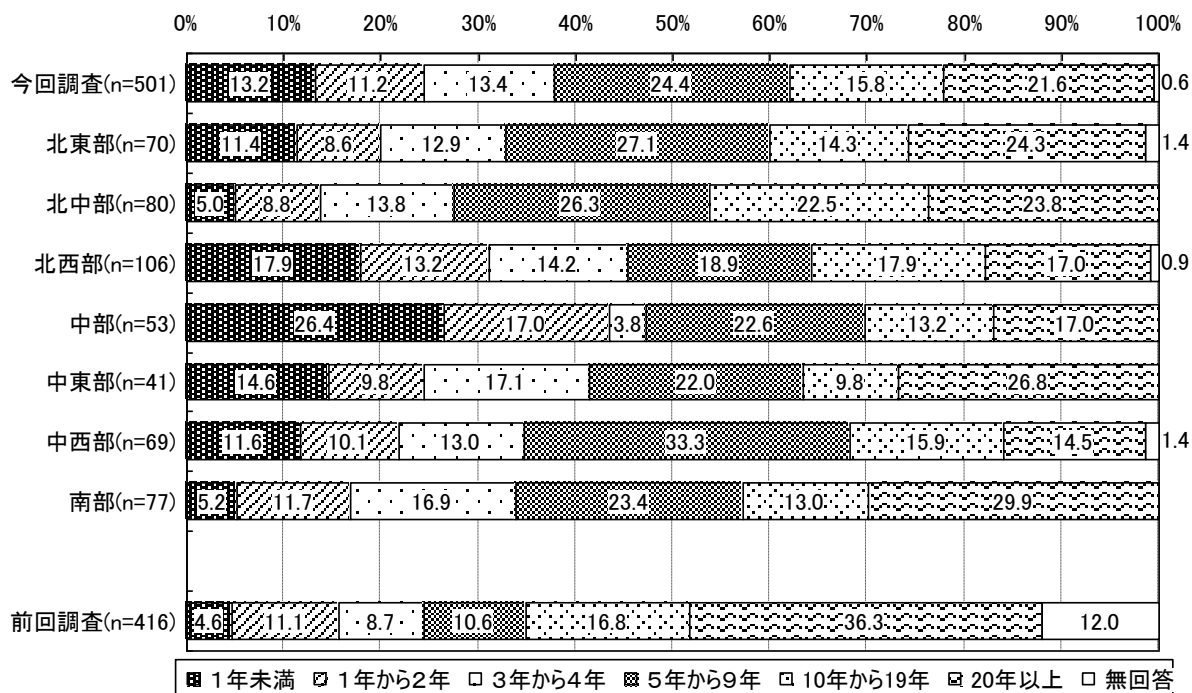
- 「日本以外で生まれた」が87.4%を占めています。
- 前回調査と比べると、「日本以外で生まれた」が大きく増加する結果となっています。

F-Q4. 「豊中市多文化共生に関するアンケート - アンケート調査ご協力のお願ひ - 」という二次元バーコードの付いた紙の色を教えてください。(紙の色で、みなさんの住んでいる地域がわかります)。(1つ選んでください)



○居住地は、「北西部」が21.2%と最も多く、次いで「北中部」が16.0%、「南部」が15.4%、「北東部」が14.0%、「中西部」が13.8%、「中部」が10.6%、「中東部」が8.2%となっています。

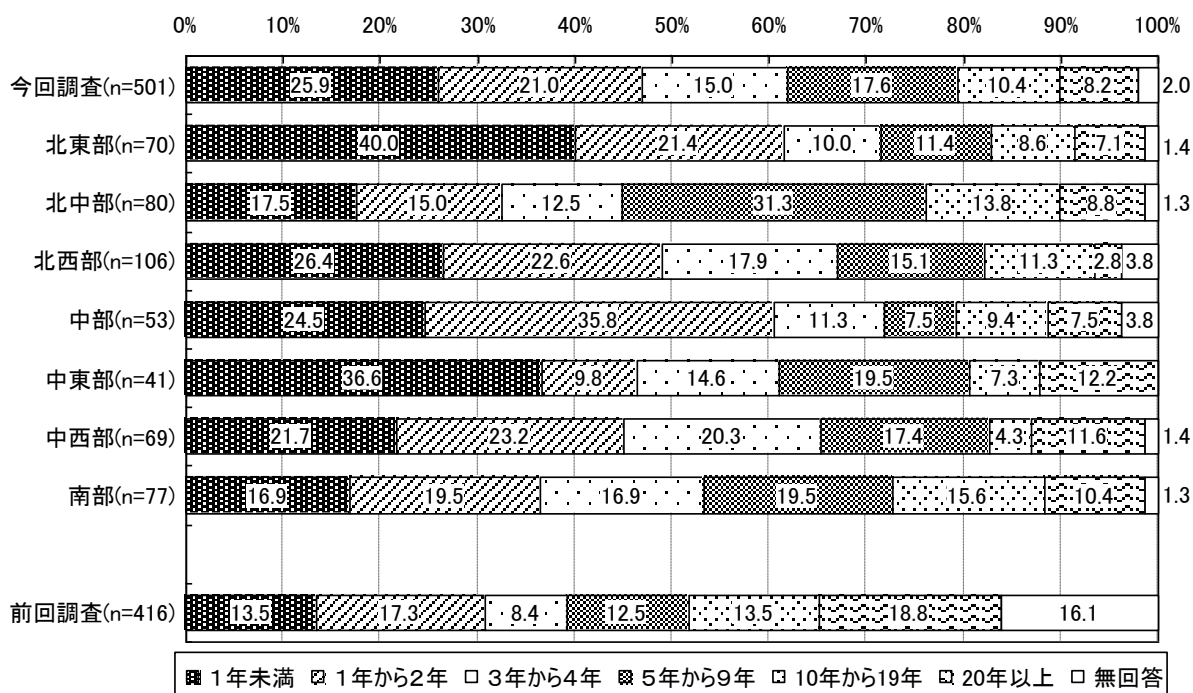
F-Q5. 日本にこれまで合わせて何年住んでいますか。(1つ選んでください)



○「5年から9年」が24.4%と最も多く、次いで「20年以上」が21.6%、「10年から19年」が15.8%などと続いています。居住地域別にみると、中部で「1年未満」が26.4%と多くみられます。

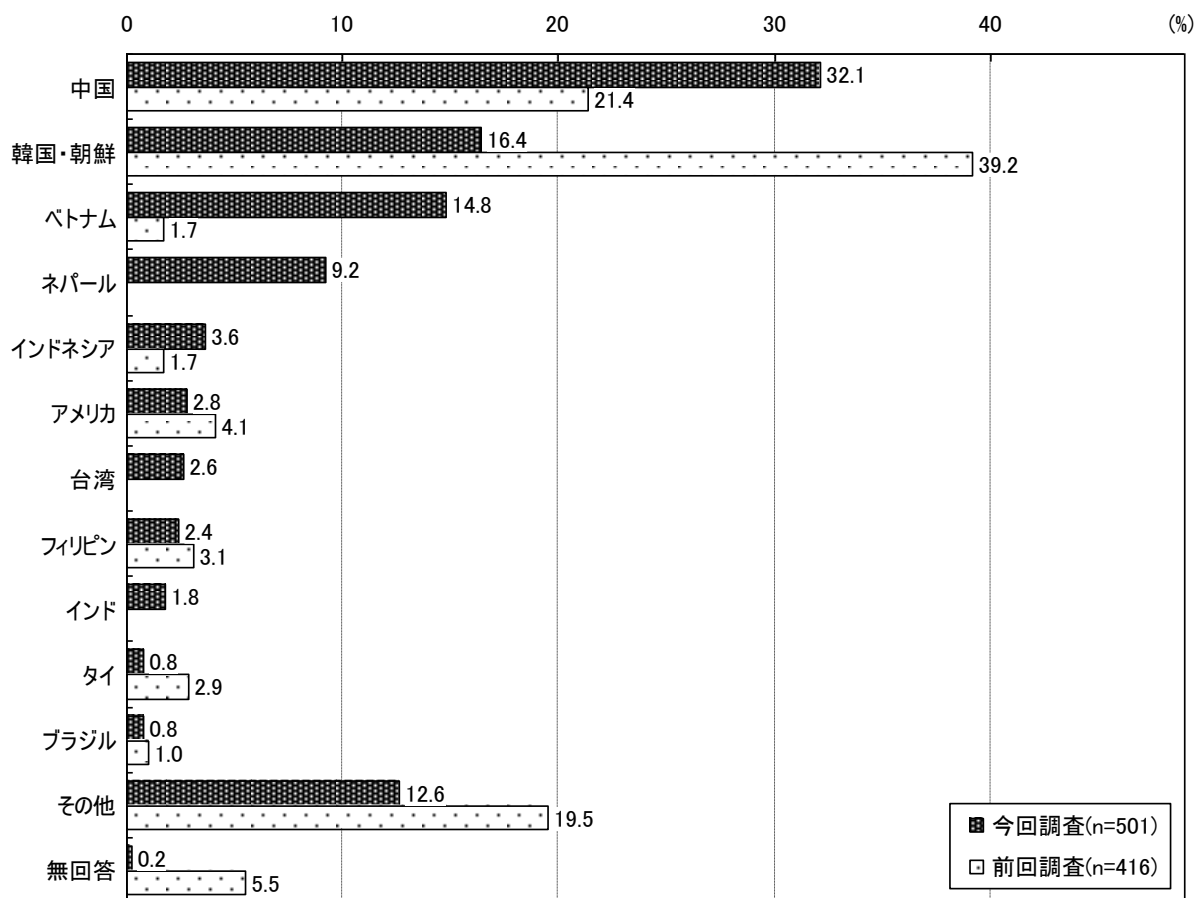
○前回調査と比べると、「20年以上」が減少し、「1年未満」や「5年から9年」が増加する結果となっています。

F-Q6. 豊中市にこれまで合わせて何年住んでいますか。(1つ選んでください)



- 「1年未満」が25.9%と最も多く、次いで「1年から2年」が21.0%、「5年から9年」が17.6%などと続いています。
- 居住地域別にみると、北東部と中東部で「1年未満」、中部で「1年から2年」、北中部で「5年から9年」と答える人が多くみられます。
- 前回調査と比べると、10年以上という人が減少し、4年以下という人が大きく増加する結果となっています。

F-Q7. 国籍・地域はどこですか。(1つ選んでください)



○「中国」が32.1%と最も多く、次いで「韓国・朝鮮」が16.4%、「ベトナム」が14.8%、「ネパール」が9.2%などと続いています。

○前回調査と比べると、「韓国・朝鮮」が大きく減少し、「中国」や「ベトナム」などで大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容 ※()内の数字は同じ記述のあった人数を意味します。

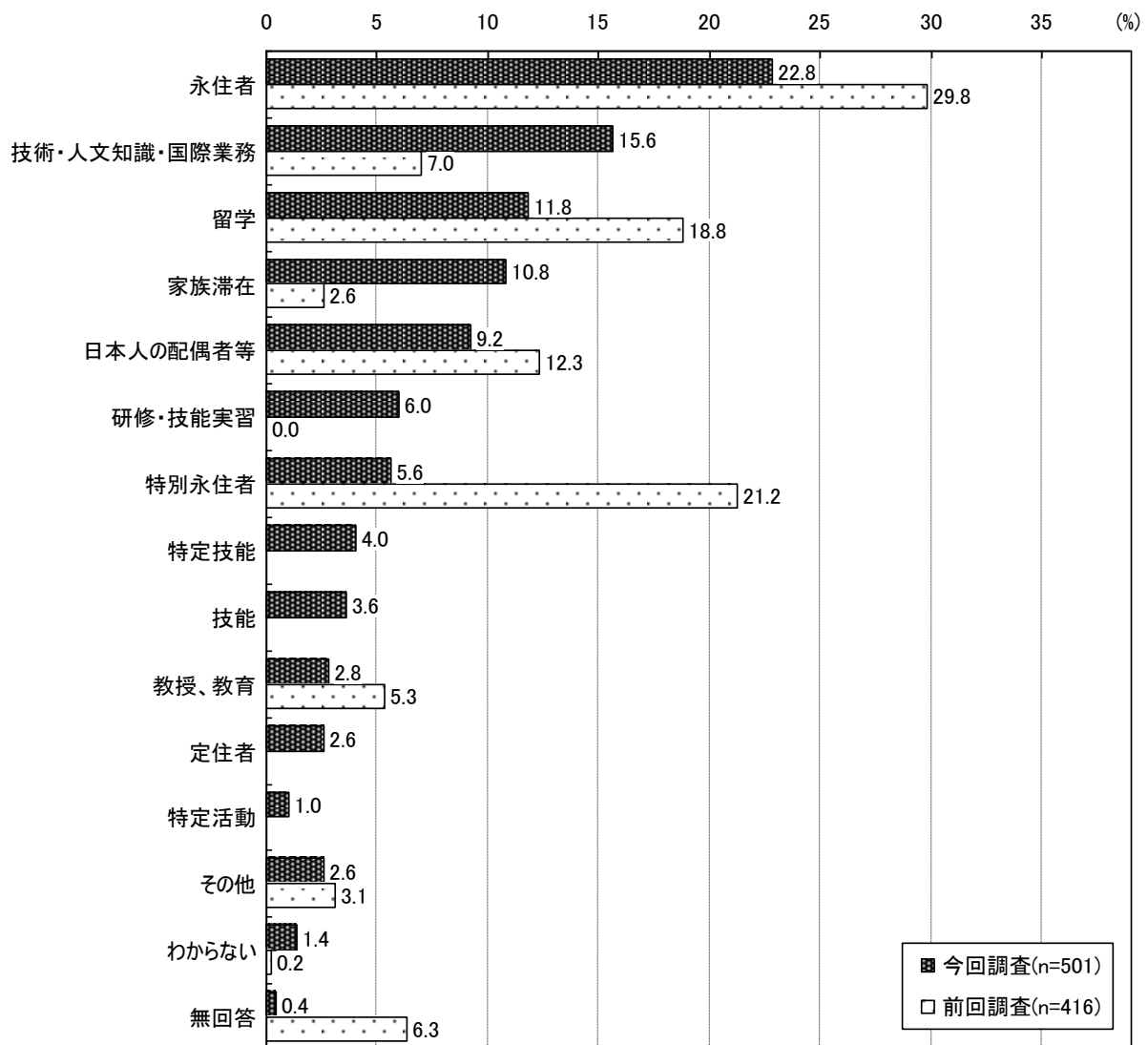
- ・ フランス (6)
- ・ イギリス (5)
- ・ パキスタン (2)
- ・ エクアドル
- ・ グアテマラ
- ・ シリア
- ・ ハンガリー
- ・ モンゴル
- ・ 香港 (6)
- ・ カナダ (3)
- ・ トルコ (2)
- ・ オーストリア
- ・ シンガポール
- ・ ガーナ
- ・ ペルー
- ・ ロシア
- ・ マレーシア (5)
- ・ ドイツ (2)
- ・ イタリア
- ・ オランダ
- ・ スペイン
- ・ ナイジェリア
- ・ ボリビア
- ・ カナダ&オーストラリア
- ・ ミャンマー (5)
- ・ ニューージーランド (2)
- ・ イラン
- ・ キューバ
- ・ スウェーデン
- ・ ノルウェー
- ・ メキシコ

○居住地域別にみると、北西部で「中国」、中部で「ネパール」、中西部と南部で「ベトナム」が多くみられます。

居住地域別 (単位：%)	全体 (n=501)	北東部 (n=70)	北中部 (n=80)	北西部 (n=106)	中部 (n=53)	中東部 (n=41)	中西部 (n=69)	南部 (n=77)
中国	32.1	35.7	38.8	42.5	18.9	26.8	26.1	26.0
韓国・朝鮮	16.4	22.9	16.3	14.2	11.3	19.5	13.0	18.2
ベトナム	14.8	8.6	2.5	9.4	18.9	17.1	26.1	26.0
ネパール	9.2	1.4	12.5	6.6	28.3	0.0	15.9	0.0
インドネシア	3.6	1.4	6.3	4.7	1.9	2.4	4.3	2.6
アメリカ	2.8	4.3	6.3	0.0	1.9	2.4	0.0	5.2
台湾	2.6	4.3	3.8	0.9	1.9	2.4	1.4	3.9
フィリピン	2.4	1.4	0.0	2.8	3.8	4.9	1.4	3.9
インド	1.8	4.3	3.8	0.0	3.8	0.0	0.0	1.3
タイ	0.8	1.4	1.3	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0
ブラジル	0.8	0.0	0.0	0.9	0.0	2.4	0.0	2.6
その他	12.6	14.3	8.8	15.1	9.4	22.0	11.6	10.4
無回答	0.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

F-Q8. 在留資格<外国人<日本でできること>は何ですか。(1つ選んでください)



○「永住者」が22.8%と最も多く、次いで「技術・人文知識・国際業務」が15.6%、「留学」が11.8%などと続いています。

○前回調査と比べると、「特別永住者」や「永住者」「留学」などが大きく減少し、「技術・人文知識・国際業務」「家族滞在」が増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

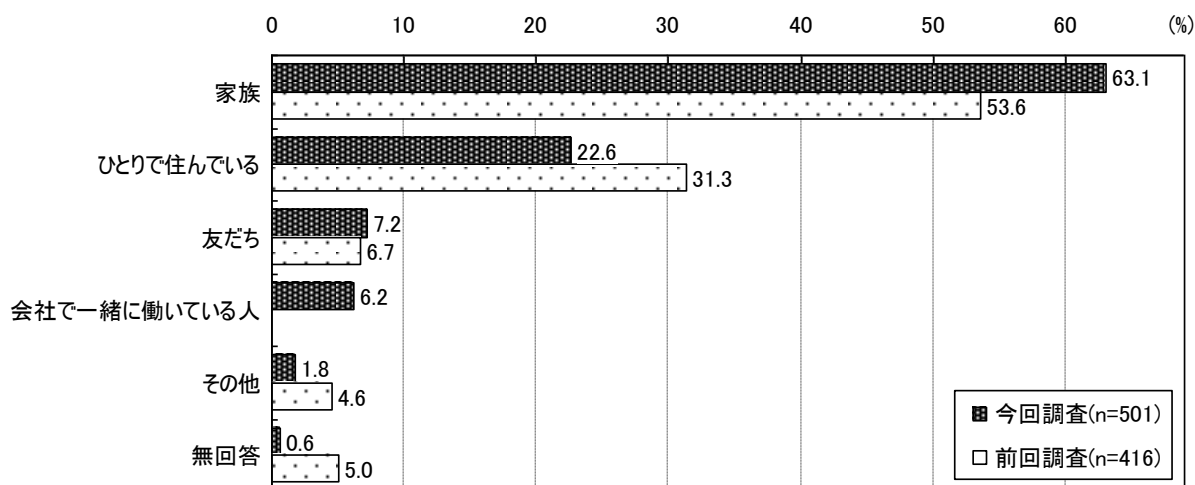
- ・介護(3)
- ・経営管理(3)
- ・企業内転勤(2)
- ・高度専門職(2)
- ・経営管理ビザ
- ・ビジネス

○居住地域別にみると、北西部で「留学」が28.3%と多くみられます。

居住地域別 (単位：%)	全体 (n=501)	北東部 (n=70)	北中部 (n=80)	北西部 (n=106)	中部 (n=53)	中東部 (n=41)	中西部 (n=69)	南部 (n=77)
永住者	22.8	22.9	28.8	23.6	15.1	24.4	13.0	28.6
技術・人文知識・国際業務	15.6	21.4	7.5	8.5	20.8	14.6	24.6	16.9
留学	11.8	10.0	8.8	28.3	18.9	4.9	2.9	1.3
家族滞在	10.8	8.6	10.0	12.3	9.4	14.6	13.0	6.5
日本人の配偶者等	9.2	4.3	16.3	4.7	9.4	9.8	8.7	11.7
研修・技能実習	6.0	1.4	2.5	5.7	9.4	0.0	8.7	13.0
特別永住者	5.6	8.6	5.0	2.8	5.7	7.3	4.3	7.8
特定技能	4.0	2.9	3.8	3.8	1.9	4.9	8.7	2.6
技能	3.6	1.4	3.8	1.9	3.8	4.9	7.2	3.9
教授、教育	2.8	5.7	3.8	2.8	1.9	2.4	1.4	1.3
定住者	2.6	5.7	3.8	2.8	0.0	0.0	1.4	2.6
特定活動	1.0	1.4	1.3	0.0	0.0	7.3	0.0	0.0
その他	2.6	5.7	3.8	0.9	1.9	2.4	1.4	2.6
わからない	1.4	0.0	0.0	0.9	1.9	2.4	4.3	1.3
無回答	0.4	0.0	1.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

F-Q9. だれと一緒に住んでいますか。(いくつでも選んでください)



○「家族」が63.1%と最も多く、次いで「ひとりで住んでいる」が22.6%などとなっています。

○前回調査と比べると、「ひとりで住んでいる」が減少し、「家族」が増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

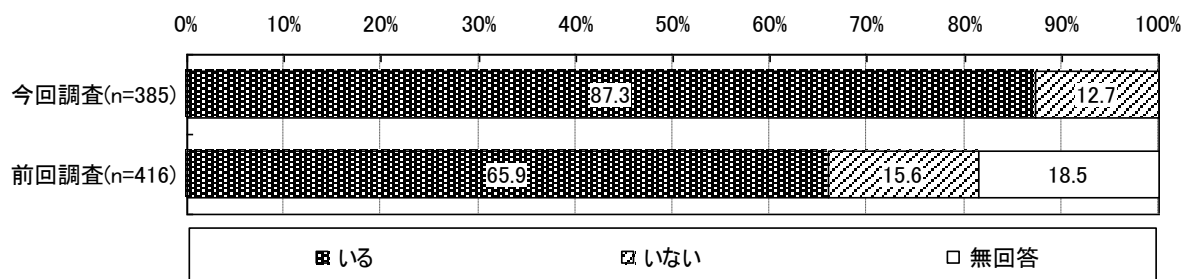
・ 婚約者(2) ・ 妻(2) ・ 子ども(2) ・ 夫 ・ 日本人の彼氏

○居住地域別にみると、「家族」は北中部と北東部、「ひとりで住んでいる」は北西部、「友だち」が中部でそれぞれ多くみられます。

居住地域別 (単位：%)	全体 (n=501)	北東部 (n=70)	北中部 (n=80)	北西部 (n=106)	中部 (n=53)	中東部 (n=41)	中西部 (n=69)	南部 (n=77)
家族	63.1	74.3	76.3	54.7	47.2	61.0	65.2	59.7
ひとりで住んでいる	22.6	14.3	16.3	34.0	15.1	29.3	17.4	27.3
友だち	7.2	5.7	2.5	6.6	30.2	0.0	10.1	0.0
会社で一緒に働いている人	6.2	4.3	2.5	4.7	13.2	4.9	5.8	10.4
その他	1.8	1.4	1.3	1.9	0.0	4.9	1.4	2.6
無回答	0.6	0.0	2.5	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0

※網かけ太字は全体構成比より10ポイント以上高いもの

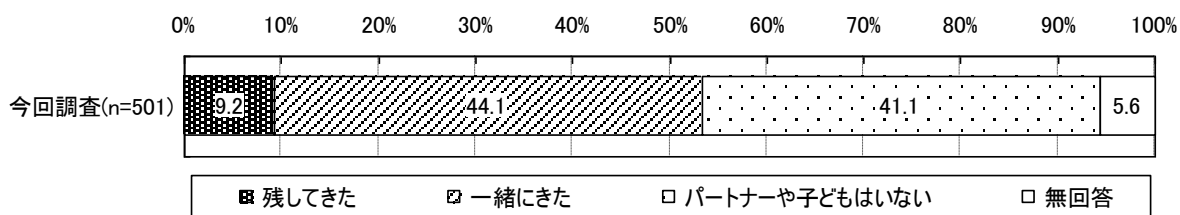
F-Q10. 一緒に住んでいる人に日本語を話せる人がいますか。(1つ選んでください)



○「いる」が87.3%を占めています。

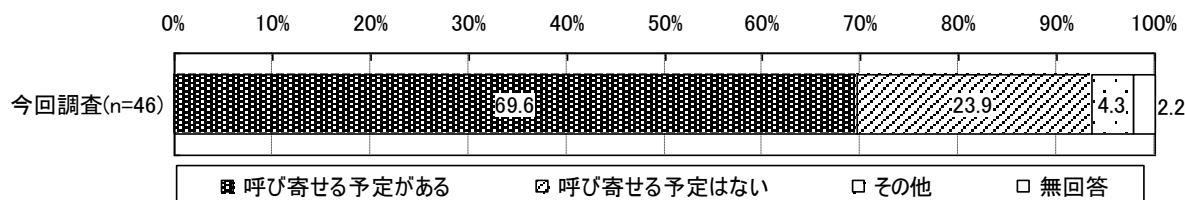
○前回調査と比べると、「いる」が大きく増加する結果となっています。

F-Q11. パートナーや子どもを国に残して日本に来ましたか。(1つ選んでください)



○「一緒にきた」が44.1%と最も多く、「パートナーや子どもはいない」が41.1%、「残してきた」が9.2%となっています。

F-Q11-1. 今後、日本にパートナーや子どもを呼び寄せる予定はありますか。(1つ選んでください) [F-Q11 パートナーや子どもを国に残してきた人が回答]

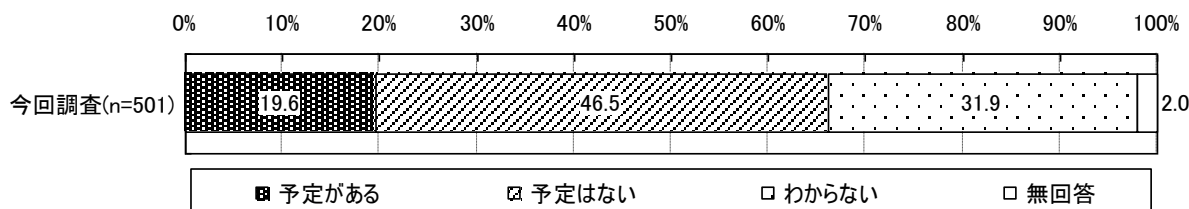


○パートナーや子どもを国に残してきた人に日本にパートナーや子どもを呼び寄せる予定はあるか尋ねたところ、「呼び寄せる予定がある」が69.6%を占めています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・できれば遊びに呼びたいです。
- ・息子は日本で生まれました。
- ・まだパートナーがいない。
- ・配偶者も子どももいないので不明。
- ・彼らはすでにここにあります。
- ・まだ子どもがいない。
- ・すでに日本に。

F-Q12. あなたは日本での生活を終え、出身国・地域へ帰国する予定はありますか。(1つ選んでください)

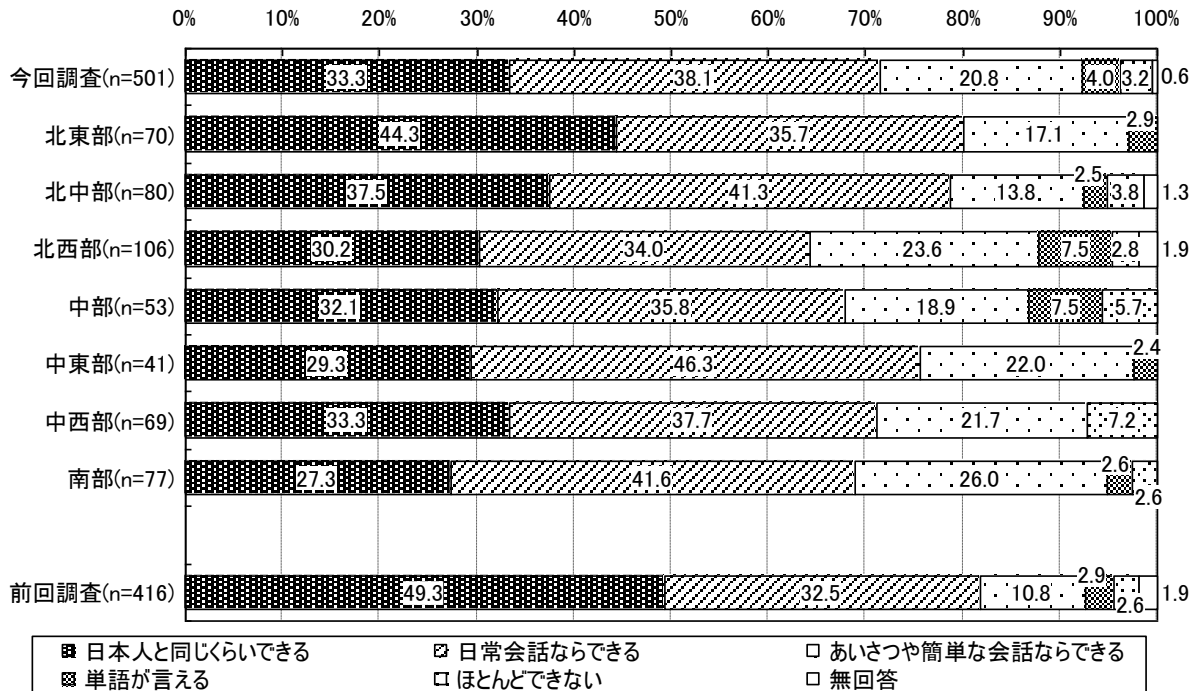


○「予定はない」が46.5%、「わからない」が31.9%、「予定がある」が19.6%となっています。

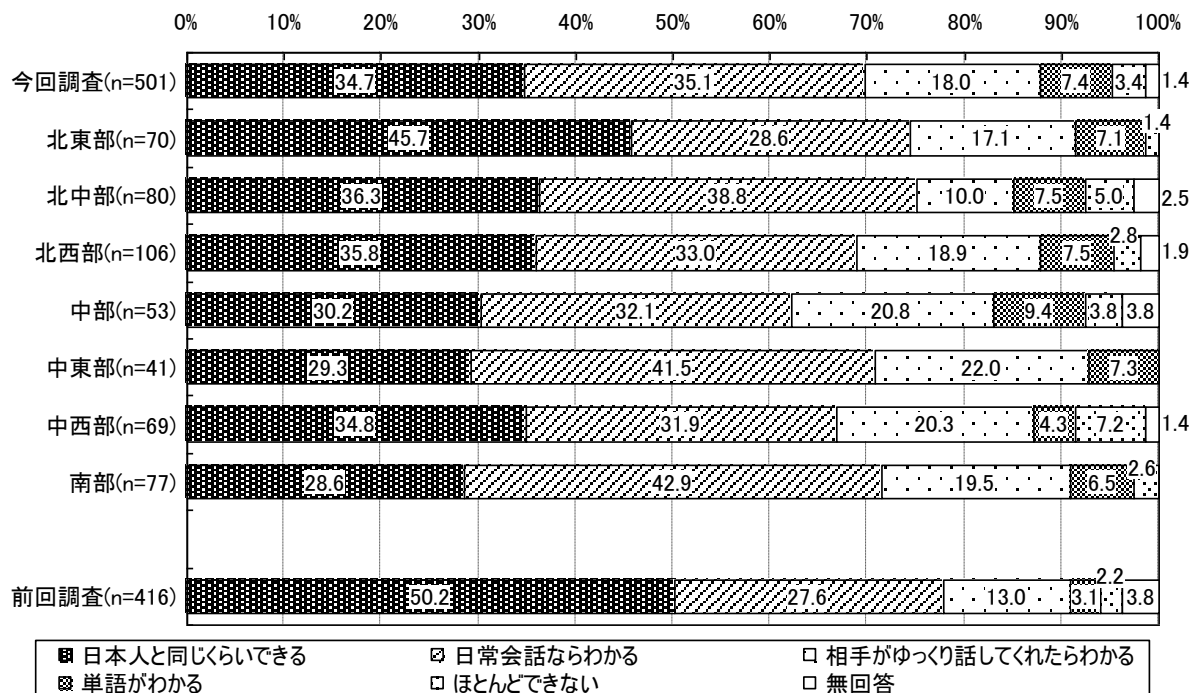
2 ことばと文化について

F-Q13. あなたは、どのくらい日本語ができますか。「話す」「聞く」「書く」「文字を読む」「文章を読む」の一つずつ、一番あてはまるものを選んでください。

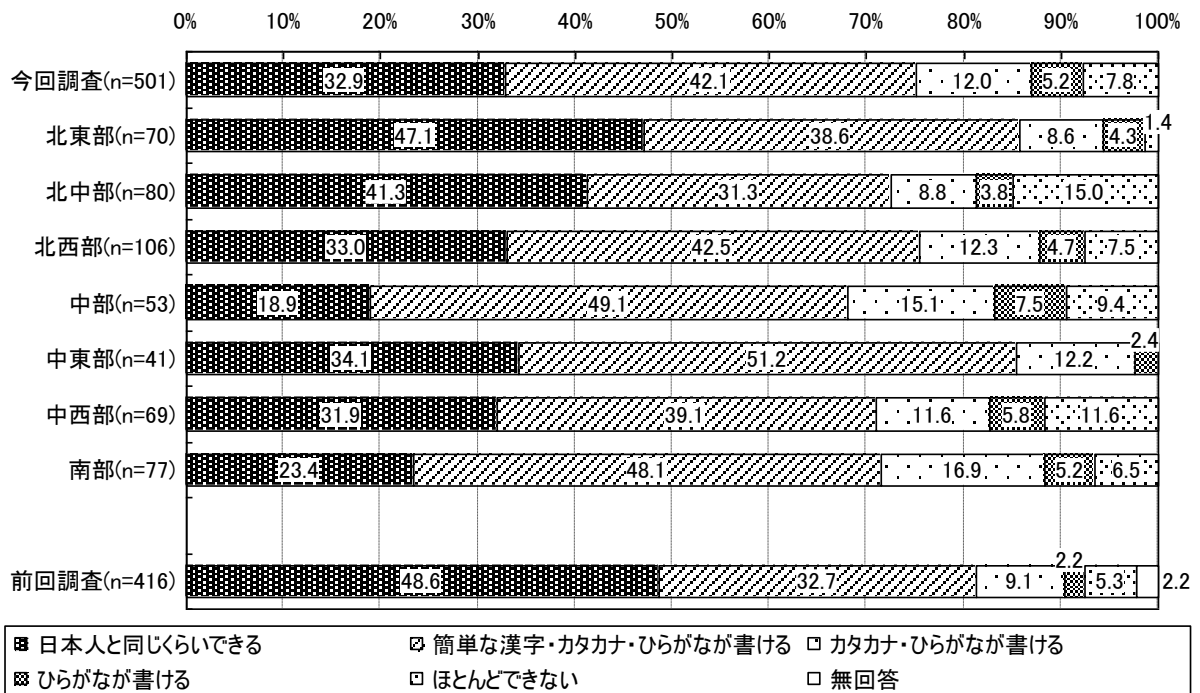
(1) 話す



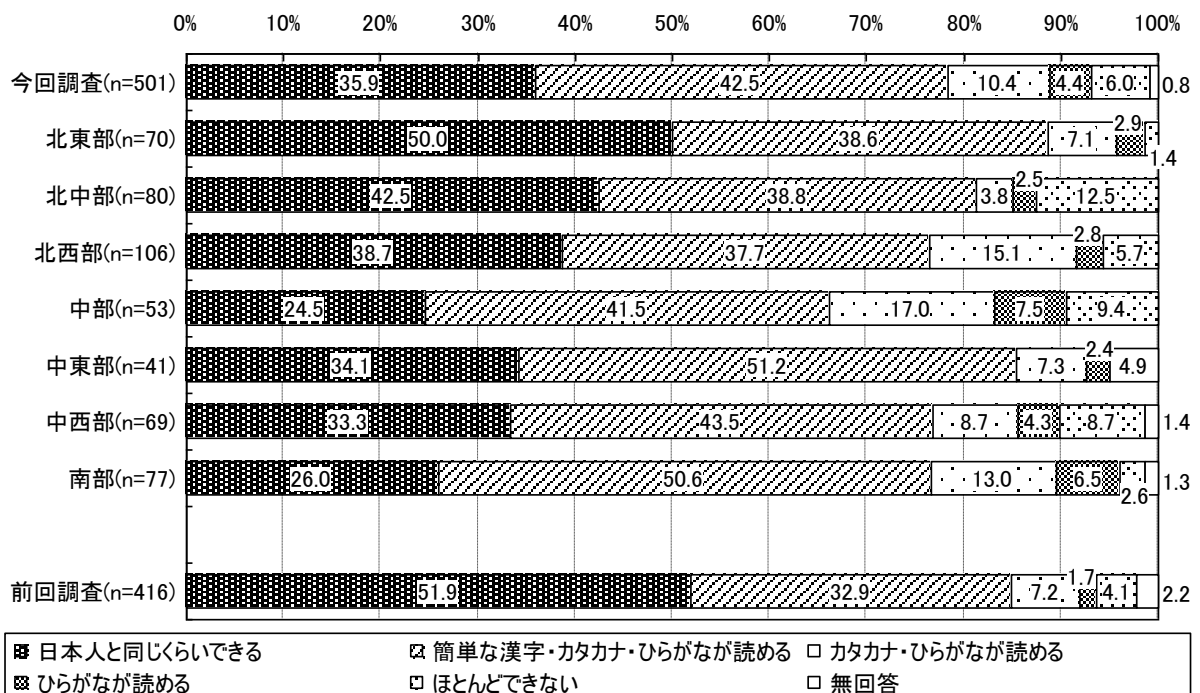
(2) 聞く



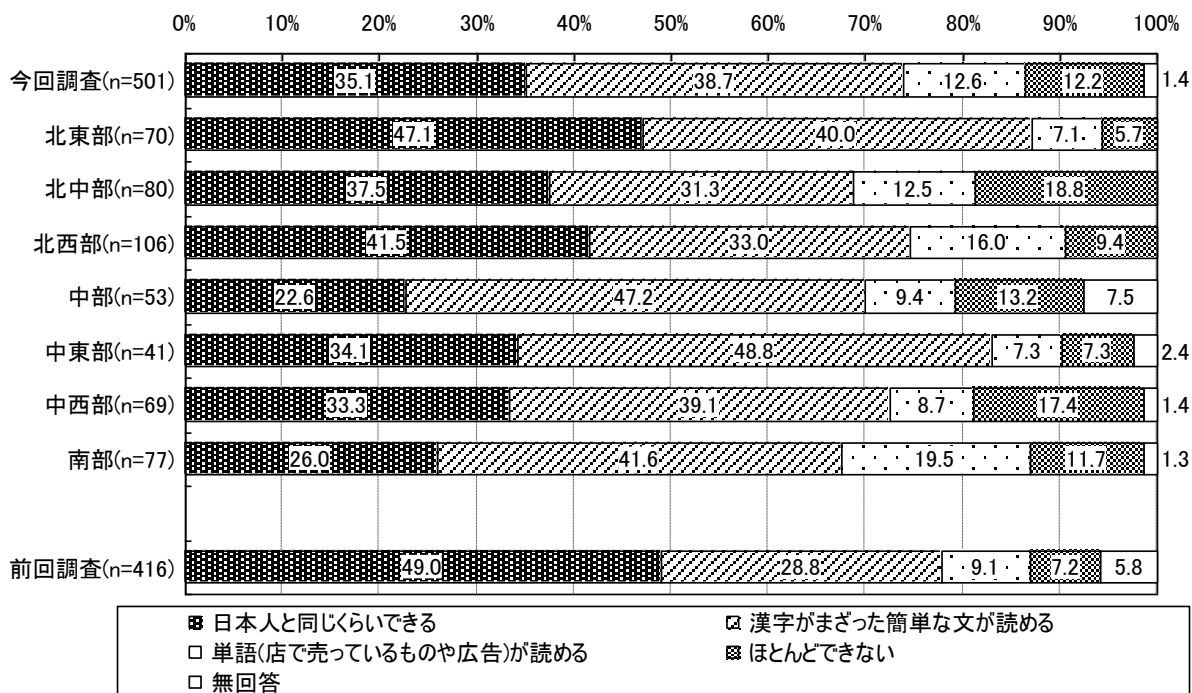
(3) 書く



(4) 文字を読む

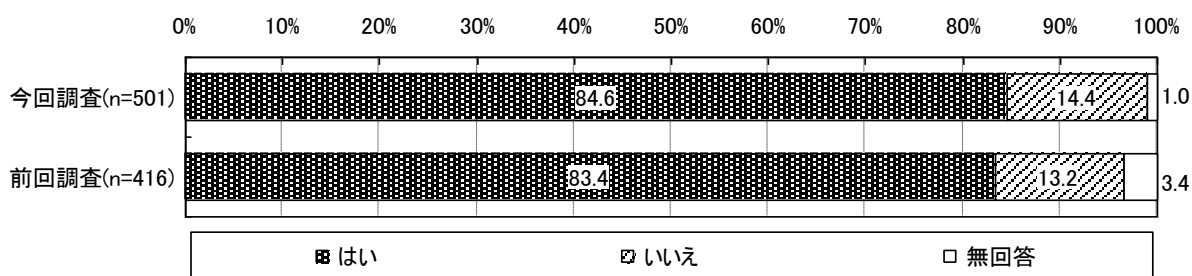


(5) 文章を読む



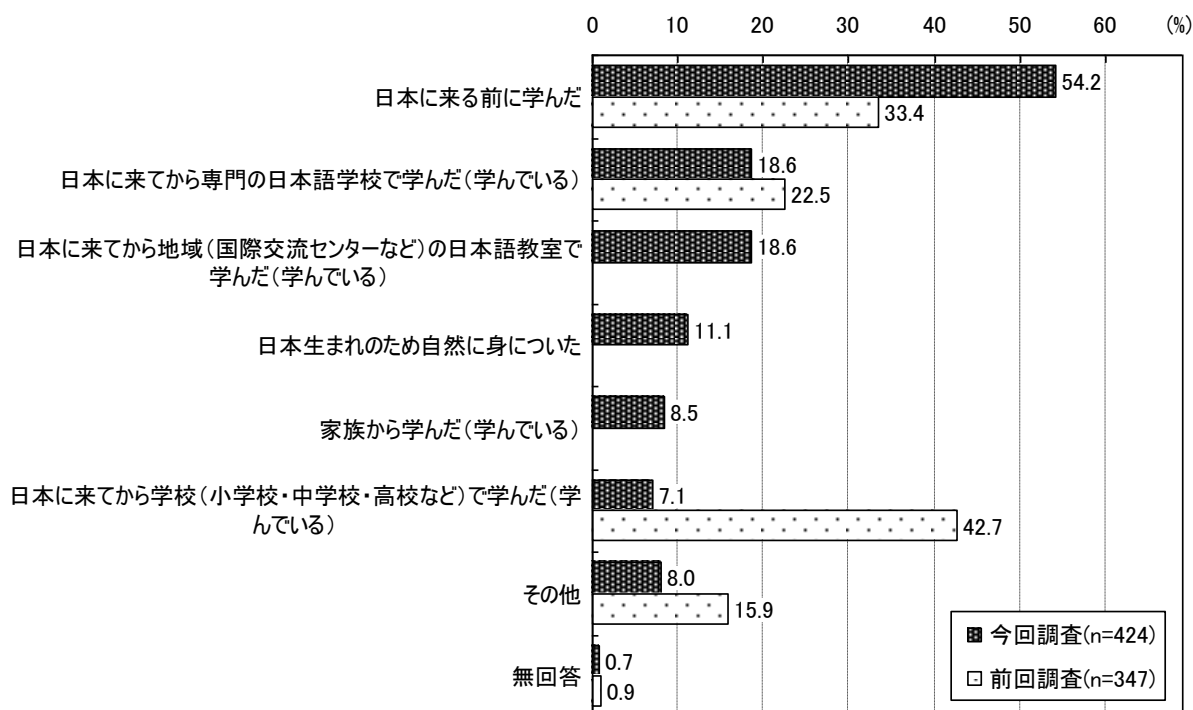
- 各項目とも、日本人と同じ程度や日常的なレベルでの会話や読み書きができるという人が7割前後を占めています。一方、(5)文章を読むことや(3)書くでは「ほとんどできない」と回答した人の割合が多くなっています。
- 居住地域別にみると、北東部で日本人と同じ程度にできるという人が多くみられます。
- 前回調査と比べると、日本人と同じ程度にできるという人が大きく減少する結果となっています。

F-Q14. あなたは日本語を勉強したことがありますか。(1つ選んでください)



- 「はい」が84.6%を占めています。

F-Q14-1. 日本語はどこで学びましたか。または今も学んでいますか。(いくつでも選んでください) [F-Q14 日本語を勉強したことがある人が回答]



○日本語を勉強したことがある人にどこで学んだか、今も学んでいるか尋ねたところ、「日本に来る前に学んだ」が54.2%と最も多く、次いで「日本に来てから専門の日本語学校で学んだ(学んでいる)」「日本に来てから地域(国際交流センターなど)の日本語教室で学んだ(学んでいる)」が18.6%、「日本生まれのため自然に身についた」が11.1%などと続いています。

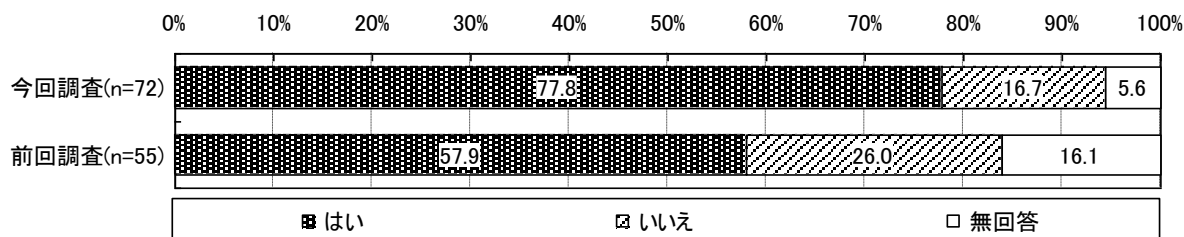
○前回調査と比べると、「日本に来てから学校(小学校・中学校・高校など)で学んだ(学んでいる)」が大きく減少し、「日本に来る前に学んだ」が増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・自分で勉強している。(5)
- ・日本に来てから大学で。(2)
- ・職場で。(2)
- ・留学先
- ・テレビを見て字幕を出して学ぶ。
- ・帰国前にインドネシアに半年間留学、現職に就く前に日本に半年間留学。
- ・友だちから。(2)
- ・家庭教師から。(2)
- ・友だちや研究室の仲間と。
- ・ソーシャルメディアで学びました。
- ・日本語能力試験の自習

F-Q14-2. あなたは日本語を勉強したいと思いますか。(1つ選んでください)

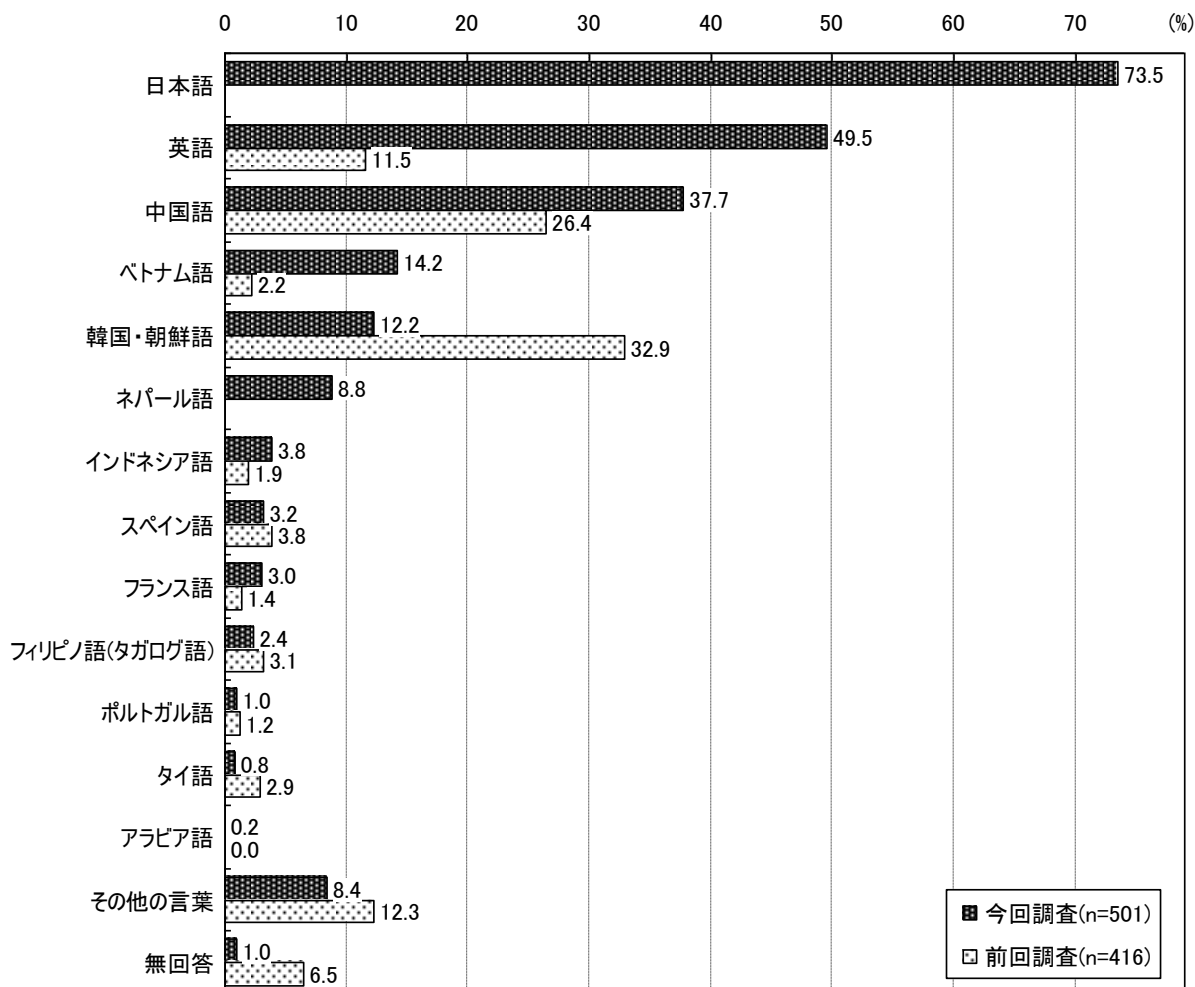
[F-Q14 日本語を勉強したことがない人が回答]



○日本語を勉強したことがない人に日本語を勉強したいと思うか尋ねたところ、「はい」が77.8%を占めています。

○前回調査と比べると、「はい」が大きく増加する結果となっています。

F-Q15. あなたが使える言葉は何ですか。(いくつでも選んでください)



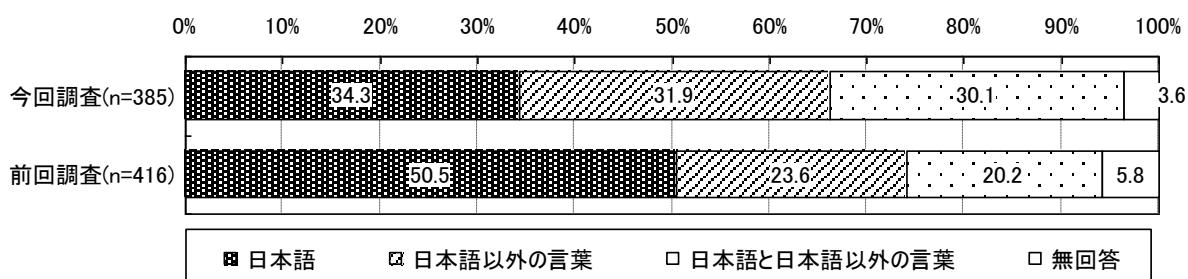
○「日本語」が73.5%と最も多く、次いで「英語」が49.5%、「中国語」が37.7%、「ベトナム語」が14.2%、「韓国・朝鮮語」が12.2%などと続いています。

○前回調査と比べると、「韓国・朝鮮語」が大きく減少し、「英語」「中国語」「ベトナム語」などが大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

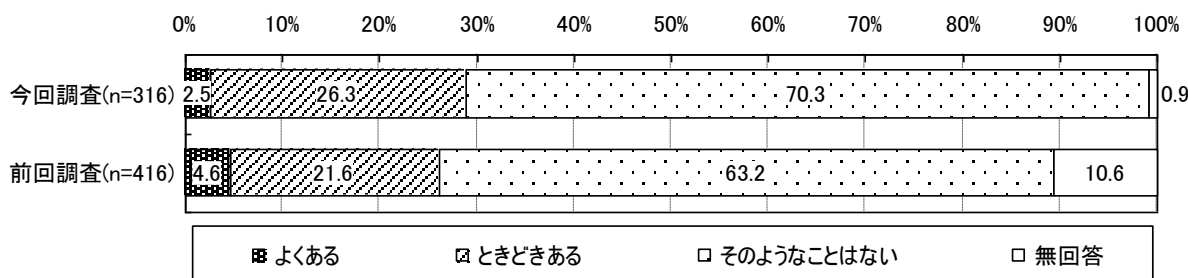
- ・ ヒンディー語(7) ・ ドイツ語(6) ・ マレーシア語(4) ・ 広東語(4)
- ・ タミル語(3) ・ イタリア語(2) ・ スウェーデン語(2) ・ 福建語(2)
- ・ ミャンマー語(2) ・ ノルウェー語 ・ ハンガリー語 ・ トルコ語
- ・ ペルシャ語 ・ 台湾語 ・ モンゴル語 ・ マレー語
- ・ ロシア語 ・ ウルドゥー語 ・ オディア語 ・ カタロニア語
- ・ ジャワ語 ・ パンジャブ語 ・ ビルマ語 ・ ヨルバ語

F-Q16. あなたは、ふだん、一緒に住んでいる人たちと、どの言葉で話すことが多いですか。(1つ選んでください)



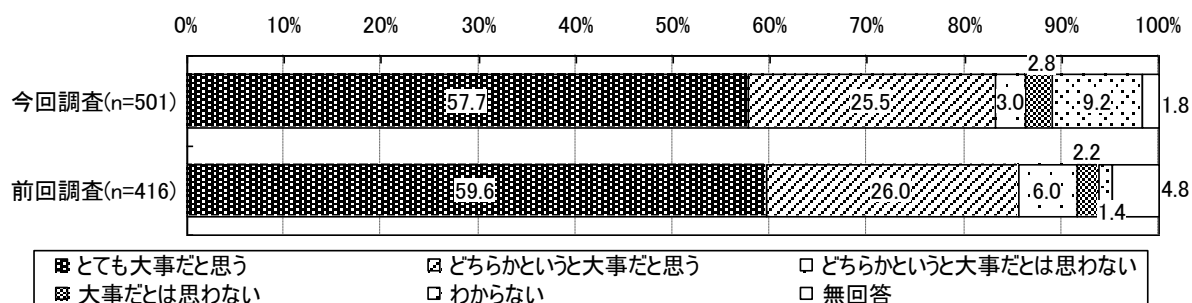
- 「日本語」が34.3%と最も多く、「日本語以外の言葉」が31.9%、「日本語と日本語以外の言葉」が30.1%となっています。
- 前回調査と比べると、「日本語」のみという人が大きく減少する結果となっています。

F-Q17. 一緒に住んでいる家族と使える言葉がちがうために、困ることがありますか。(例：「自分の考えを家族にうまく伝えられない」「家族が何を話しているかわからない」など)(1つ選んでください)



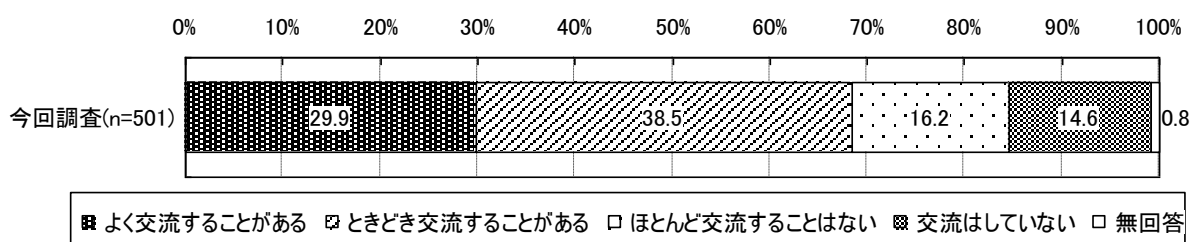
- 「そのようなことはない」が70.3%と最も多く、「ときどきある」が26.3%、「よくある」が2.5%となっています。
- 前回調査と比べると、「ときどきある」が増加する結果となっています。

F-Q18. 日本で生まれ育った、外国にルーツをもつ子どもたちが、おとうさん・おかあさんや、おじいさん・おばあさんの出身国・地域の言葉、文化などについて、学んだり体験したりすることを、どう思いますか。(1つ選んでください)



○「とても大事だと思う」が57.7%を占めています。また、「とても大事だと思う」と「どちらかという大事だと思う」を合計すると、83.2%の人が大事だと回答しています。

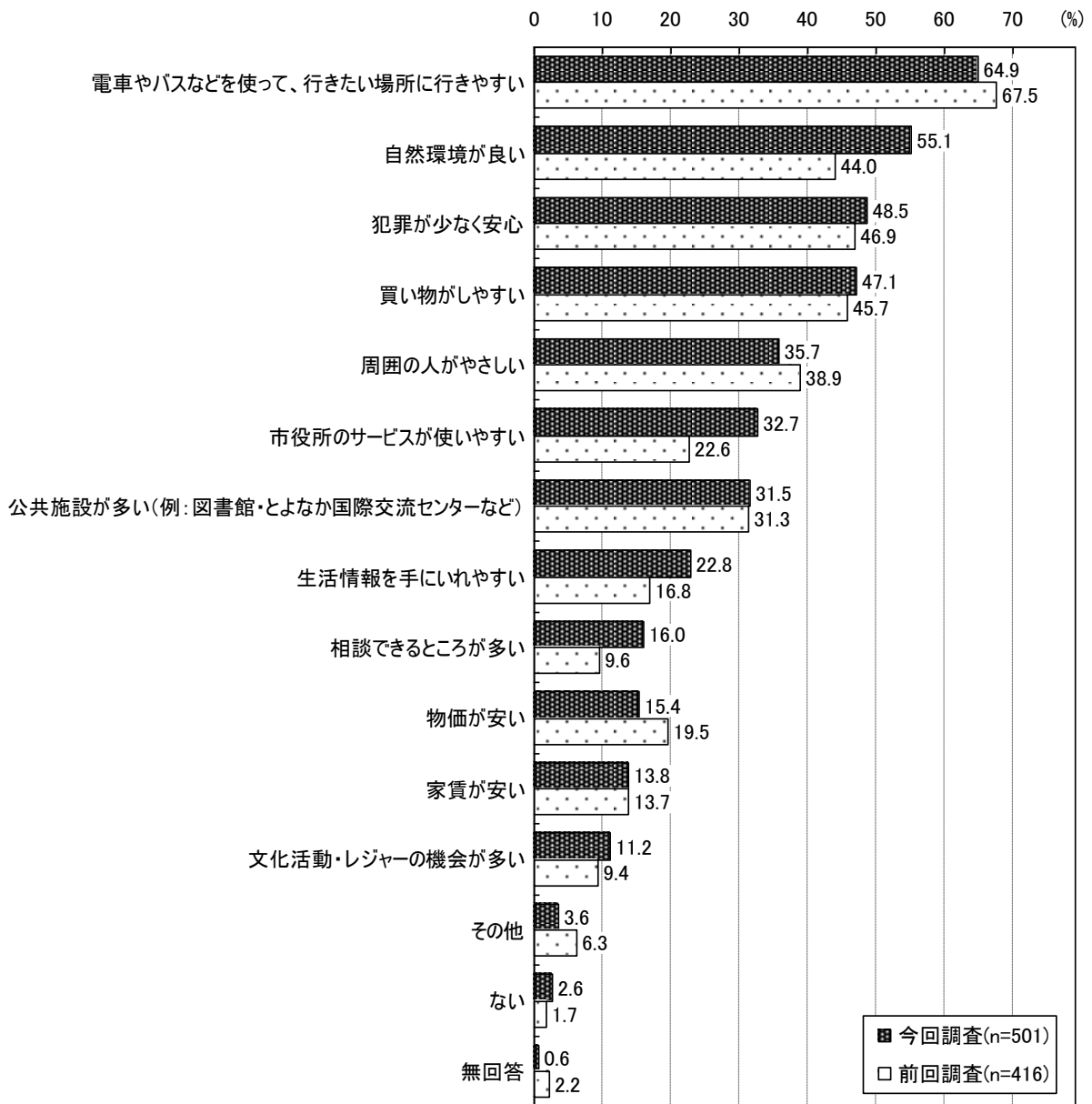
F-Q19. 自分の国や出身地域の人たちが集まったり、SNS上で交流することはありますか。(1つ選んでください)



○「ときどき交流することがある」が38.5%が最も多く、次いで「よく交流することがある」が29.9%となっており、合計すると68.4%の人が自分の国や出身地域の人たちと交流をしていると回答しています。

3 地域での暮らしについて

F-Q20. 豊中市に住んで、良いと感じることは何ですか。(いくつでも選んでください)



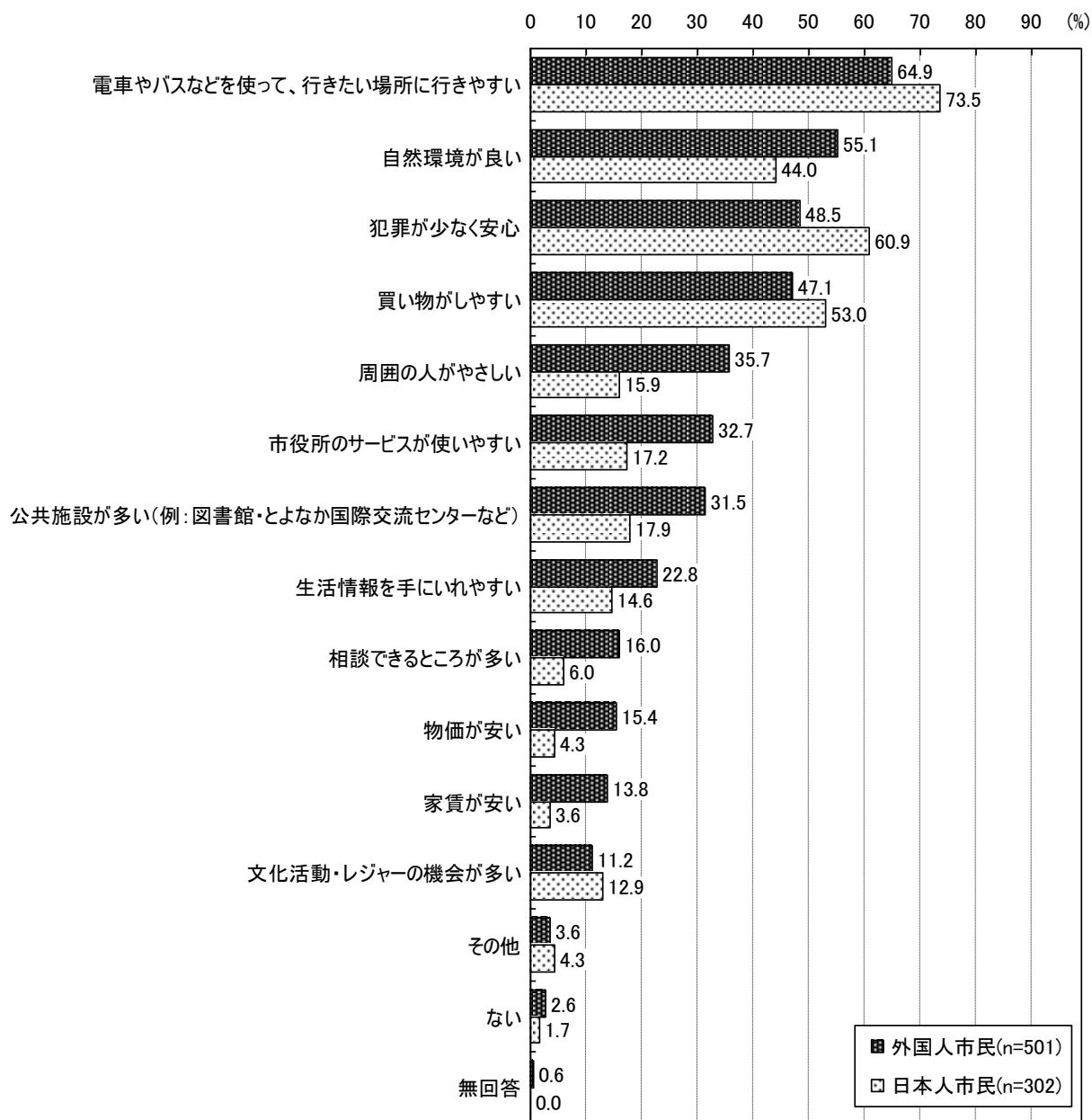
○「電車やバスなどを使って、行きたい場所に行きやすい」が64.9%と最も多く、次いで「自然環境が良い」が55.1%、「犯罪が少なく安心」が48.5%、「買い物がしやすい」が47.1%、「周囲の人がやさしい」が35.7%、「市役所のサービスが使いやすい」が32.7%、「公共施設が多い（例：図書館・とよなか国際交流センターなど）」が31.5%などと続いています。

○前回調査と比べると、「自然環境が良い」「市役所のサービスが使いやすい」「生活情報を手にいれやすい」「相談できるところが多い」などで増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

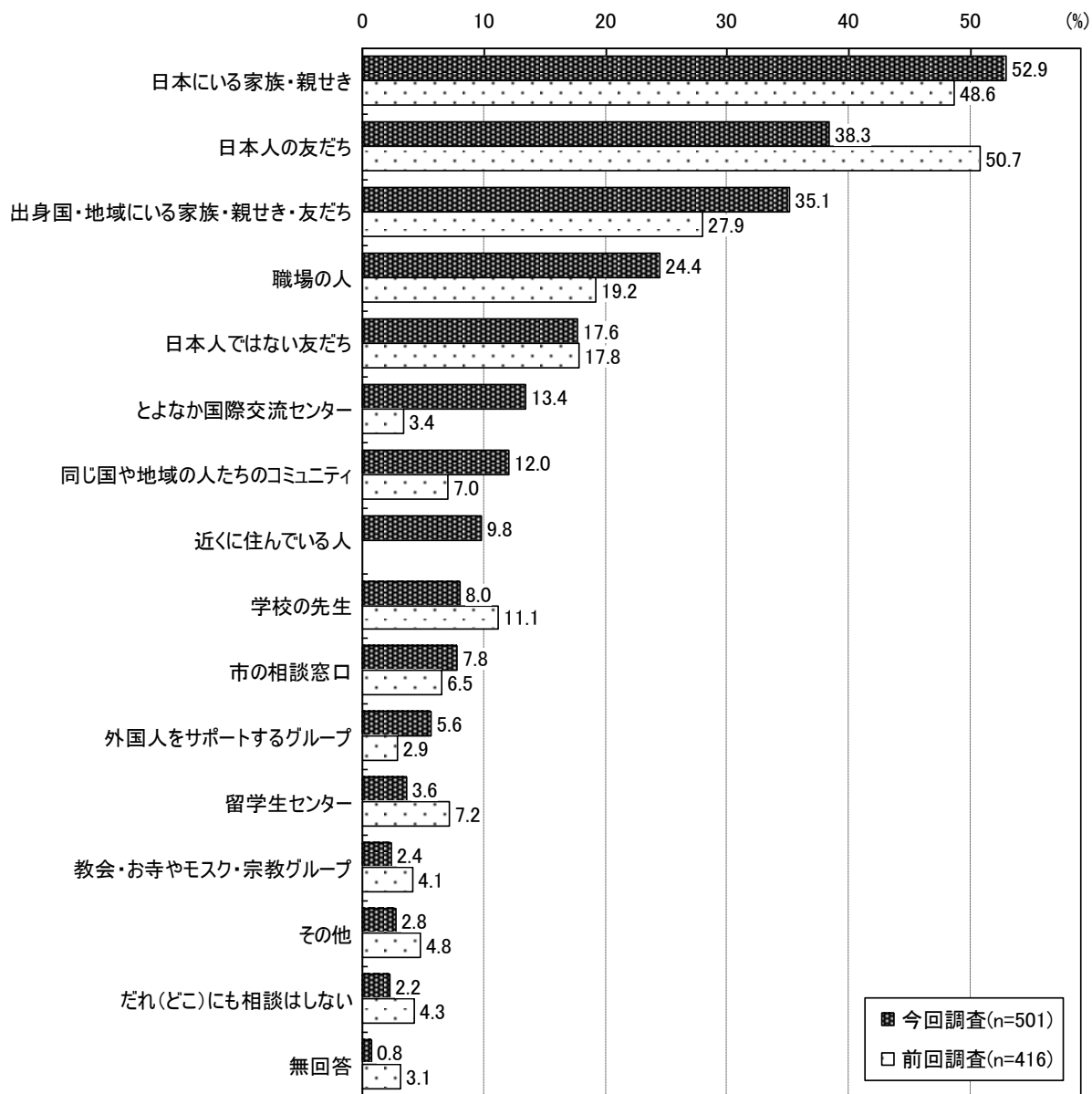
- ・公園やハイキングコースへのアクセス。
- ・きれいなまち、レンタサイクルへのアクセス。
- ・大阪市内に近く、北へ向かう自然も身近に感じられる。
- ・妻やその家族が住んでいる。
- ・家から徒歩3分の豊中市に妻の妹が住んでいます。
- ・職場まで徒歩10分
- ・大学周辺

◆豊中市に住んで、良いと感じること（外国人市民 F-Q20、日本人市民 J-Q7）



○外国人市民と日本人市民で比較すると、「周囲の人がやさしい」「市役所のサービスが使いやすい」「公共施設が多い（例：図書館・とよなか国際交流センターなど）」「相談できるところが多い」「物価が安い」「家賃が安い」などで外国人市民が多くなる結果となっています。また、日本人市民では「電車やバスなどを使って、行きたい場所に行きやすい」「犯罪が少なく安心」などで多くなっています。

F-Q21. 困ったことなどがあつたとき、あなたはだれ（どこ）に相談していますか。
 (いくつでも選んでください)



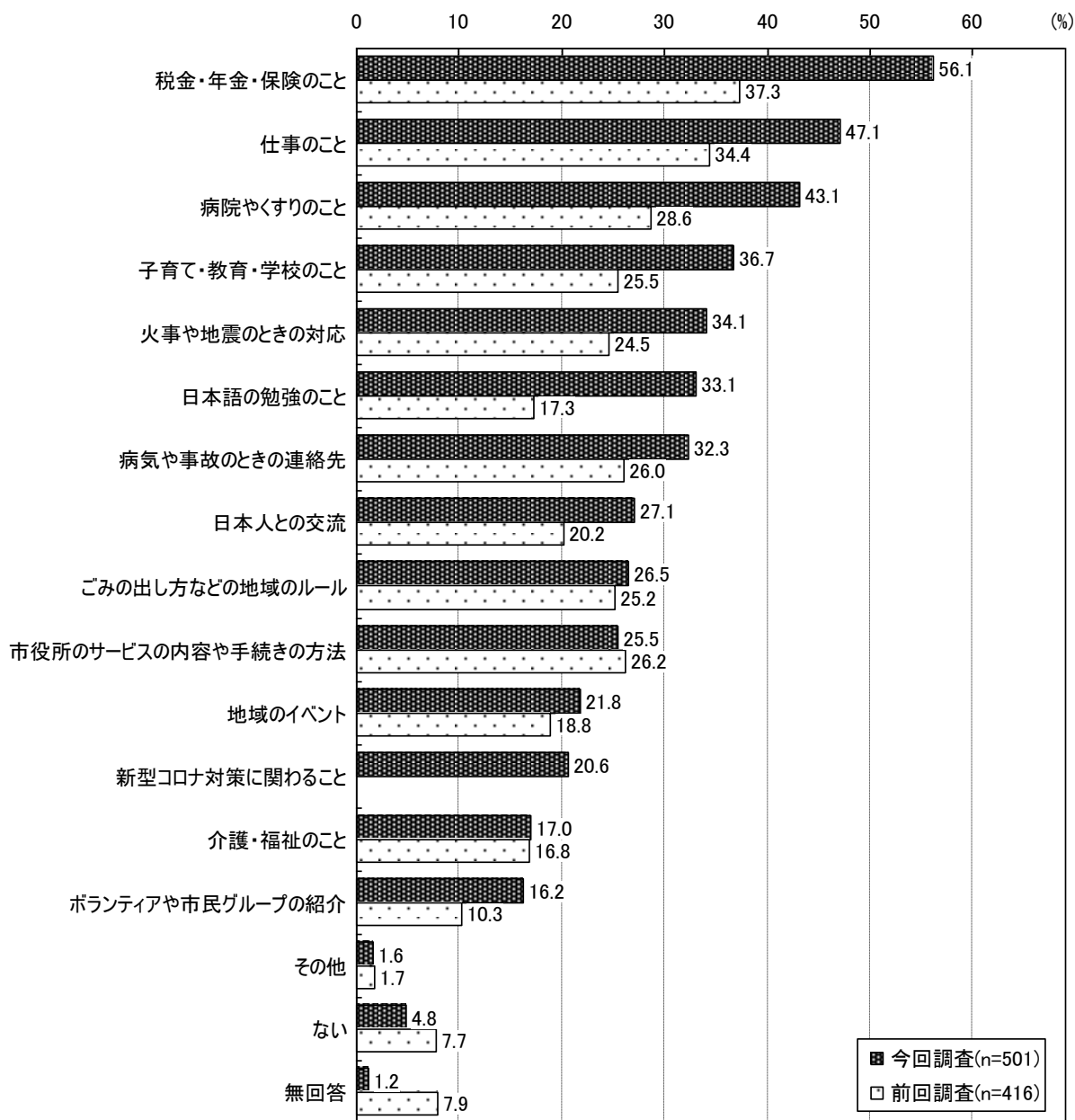
○「日本にいる家族・親せき」が52.9%と最も多く、次いで「日本人の友だち」が38.3%、「出身国・地域にいる家族・親せき・友だち」が35.1%、「職場の人」が24.4%などと続いています。

○前回調査と比べると、「日本人の友だち」が大きく減少し、「出身国・地域にいる家族・親せき・友だち」「とよなか国際交流センター」「同じ国や地域の人たちのコミュニティ」などで増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・インターネットを検索する。(3)
- ・インターネット・電話
- ・大学多文化共生センター
- ・家族
- ・子ども
- ・彼
- ・本当に困ったことは一度もない。

F-Q22. ふだんの生活で、どんな情報が必要ですか。(いくつでも選んでください)



○「税金・年金・保険のこと」が56.1%と最も多く、次いで「仕事のこと」が47.1%、「病院やくすりのこと」が43.1%、「子育て・教育・学校のこと」が36.7%、「火事や地震のときの対応」が34.1%、「日本語の勉強のこと」が33.1%、「病気や事故のときの連絡先」が32.3%などと続いています。

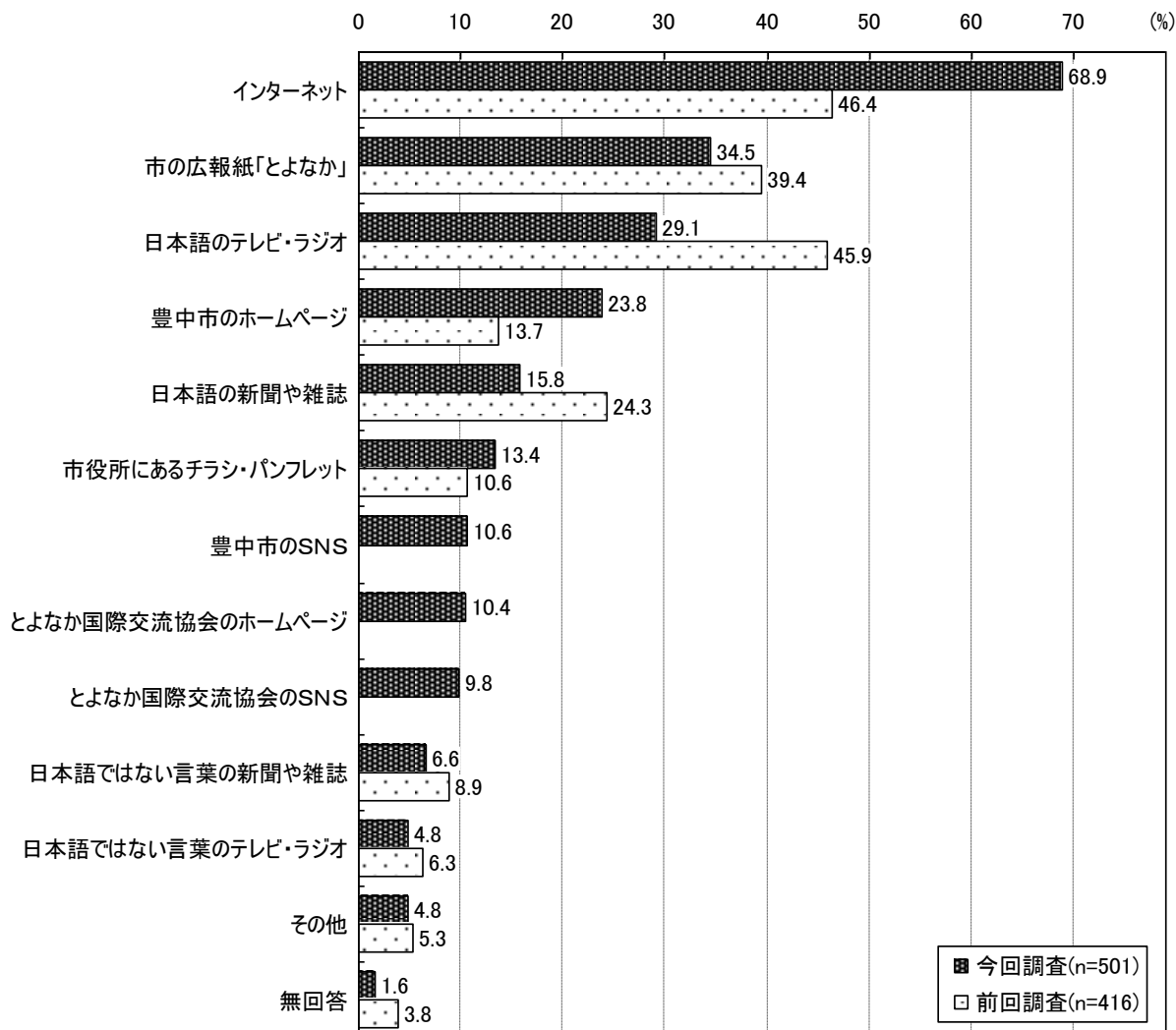
○前回調査と比べると、ほとんどの項目で増加する結果となっていますが、「日本語の勉強のこと」などは前回調査時から大きく増加するとともに順位も上昇する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ 歯科、職場の健康診断などの英語対応スタッフ。
- ・ 子どもの学校のこと。

F-Q23. どうやって、生活に必要な情報を手にしていますか。

(1) 何から？



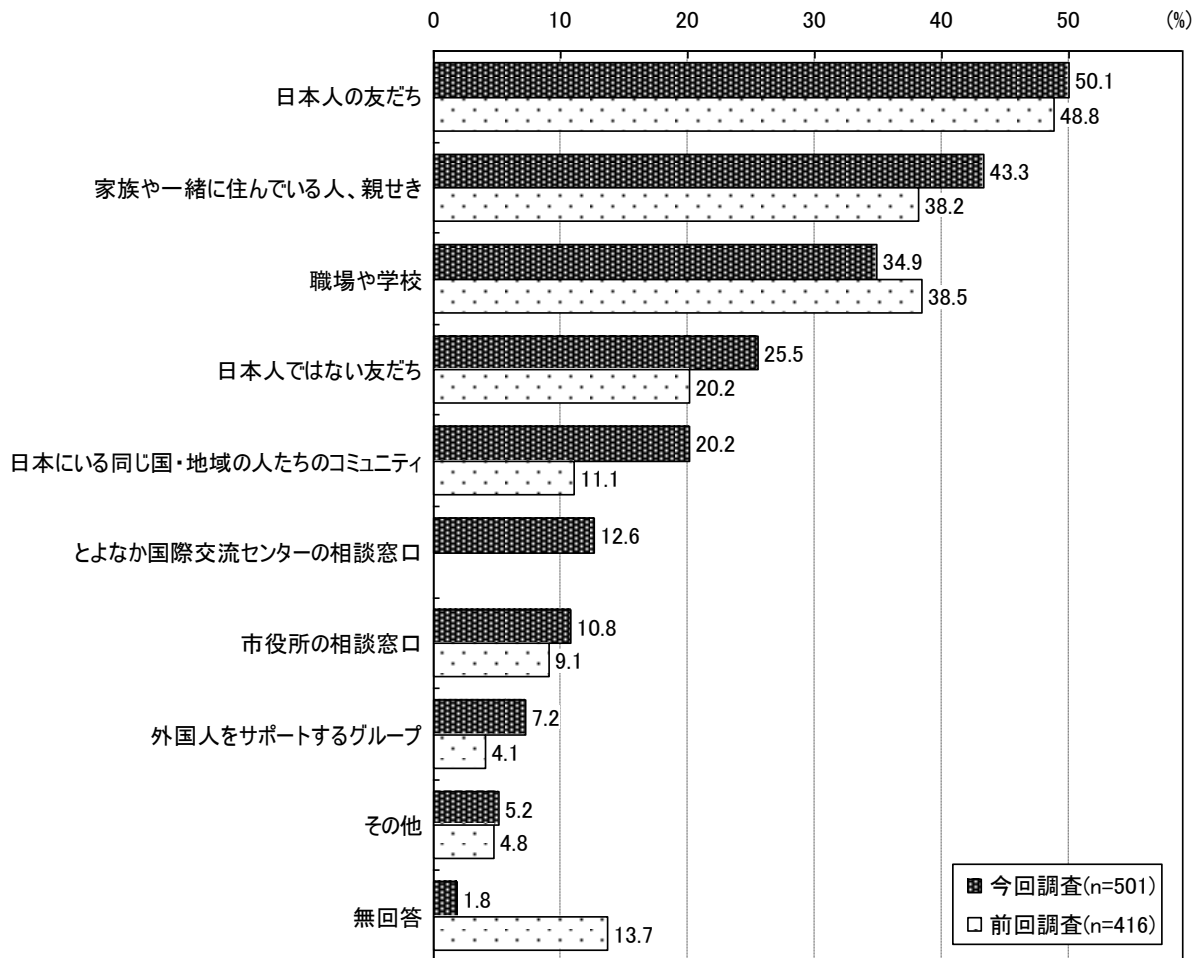
○「インターネット」が68.9%と最も多く、次いで「市の広報紙「とよなか」」が34.5%、「日本語のテレビ・ラジオ」が29.1%、「豊中市のホームページ」が23.8%などと続いています。

○前回調査と比べると、「日本語のテレビ・ラジオ」や「日本語の新聞や雑誌」が大きく減少し、「インターネット」や「豊中市のホームページ」が大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ 家族より (3)
- ・ 友人や同僚 (2)
- ・ 知り合い
- ・ 豊中在住の日本人家族より
- ・ 親友の口コミ
- ・ 近所の掲示板

(2) だれ・どこから？



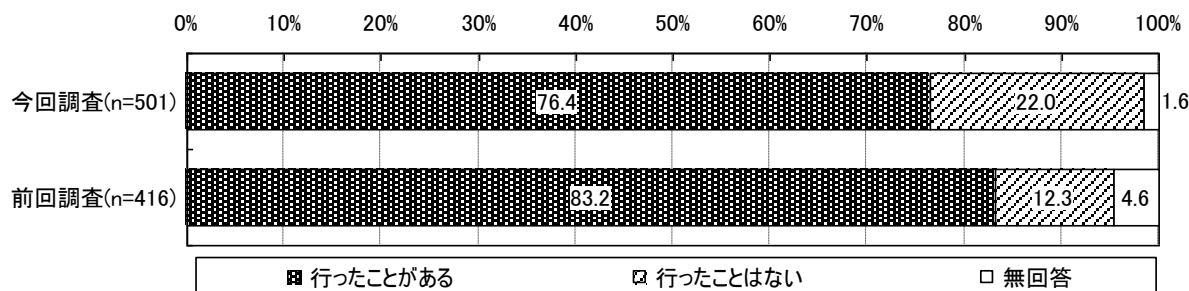
○「日本人の友だち」が50.1%と最も多く、次いで「家族や一緒に住んでいる人、親せき」が43.3%、「職場や学校」は34.9%などと続いています。

○前回調査と比べると、「日本にいる同じ国・地域の人たちのコミュニティ」「日本人ではない友だち」などが増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・インターネット(3)
- ・日本の医師から。
- ・配布してくれているチラシと地域紙。

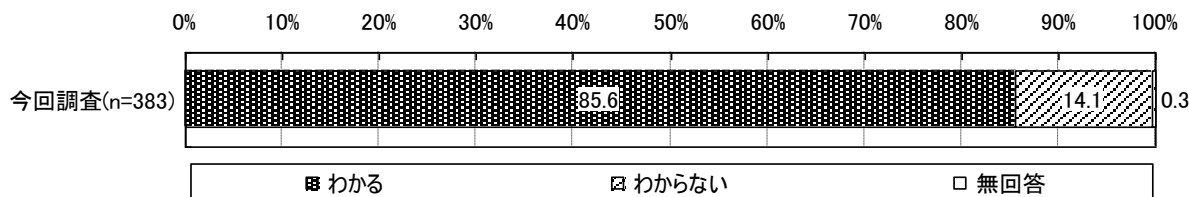
F-Q24. あなたや家族は、病気やけが、出産のとき、日本の病院に行ったことがありますか。(1つ選んでください)



○「行ったことがある」が76.4%を占めています。

○前回調査と比べると、「行ったことはない」が増加し2割を占める結果となっています。

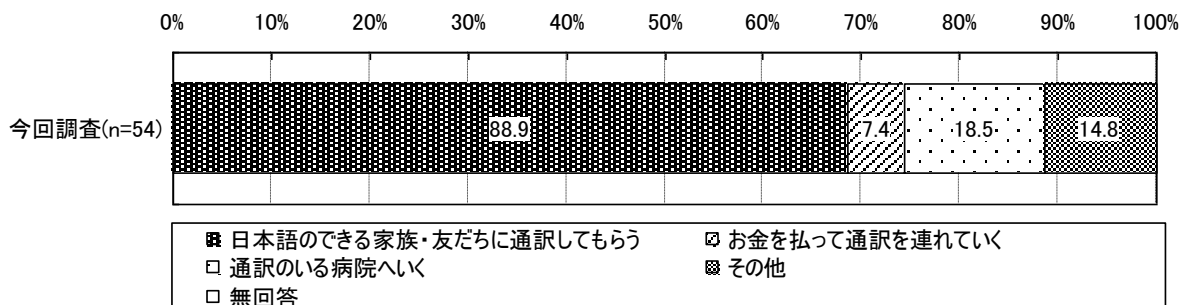
F-Q24-1. 病院の医者や看護師が説明するとき、言葉がわかりましたか。(1つ選んでください) [F-Q24 日本の病院に行ったことがある人が回答]



○日本の病院に行ったことがある人に病院の医者や看護師が説明するとき、言葉がわかったか尋ねたところ、「わかる」が85.6%を占めています。

Q24-1-1. わからないときどのようにしますか。(いくつでも選んでください)

[F-Q24-1 病院での説明がわからなかった人が回答]



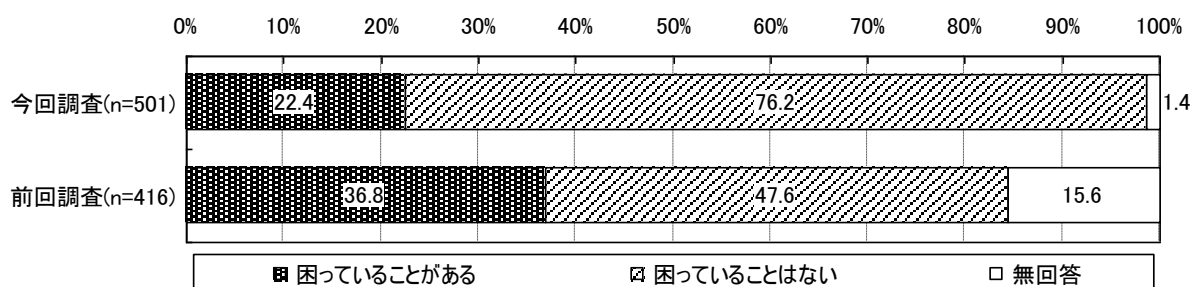
○病院での説明がわからなかった人にそのときにどのようにしたか尋ねたところ、「日本語のできる家族・友だちに通訳してもらう」が88.9%を占めており、次いで「通訳のいる病院へいく」が18.5%となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・グーグル翻訳
- ・インターネットを利用する。
- ・担当医2人とも英語の知識は十分。
- ・その人に意味を尋ねる。たいていは言い直されれば理解できる。
- ・家族がいないときは、わかったふりをするしかない。
- ・エイリアンズ・エクステンジには医療ボランティアがいて、病院に行きたいときに超助かった！」と感謝された。

F-Q25. 病院やくすりのことなどで困っていることがありますか。

(1つ選んでください)

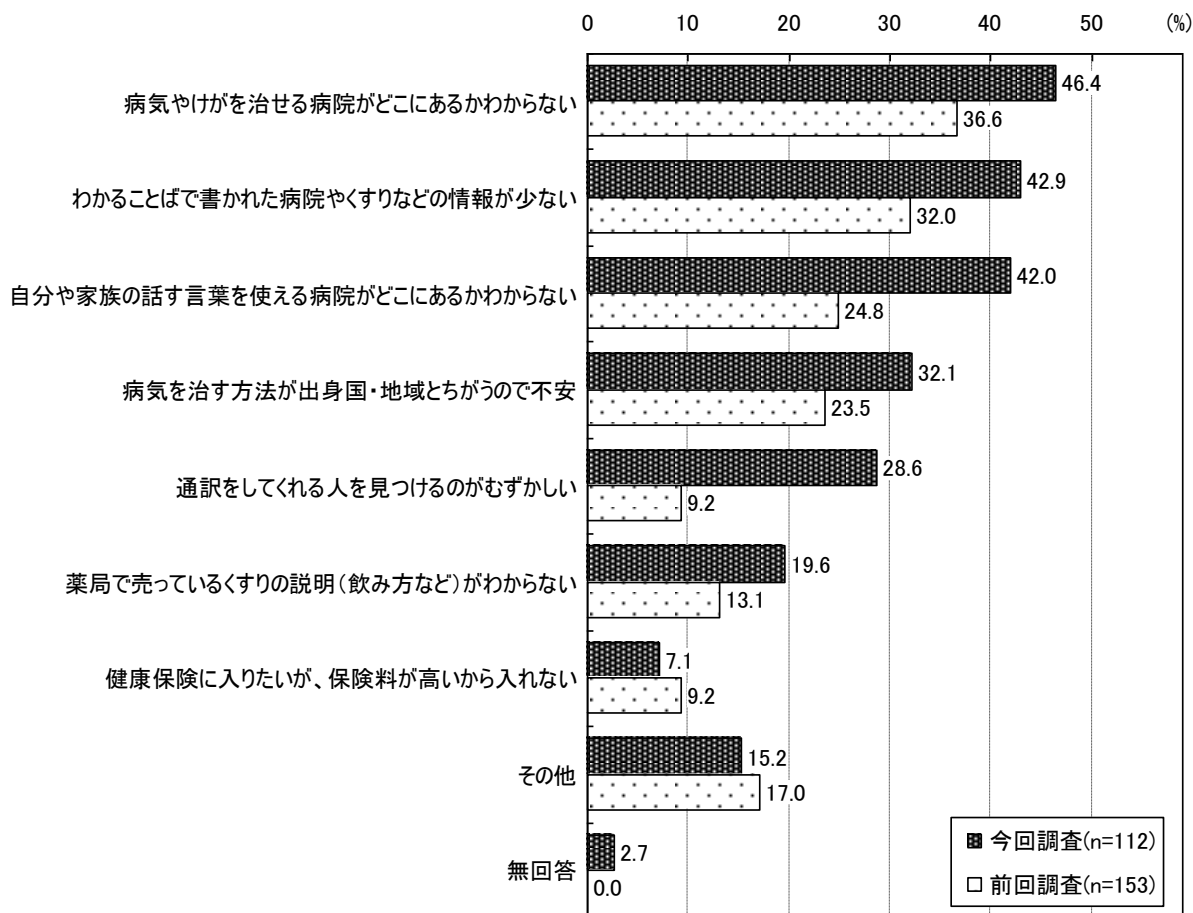


○22.4%の人が病院やくすりのことなどで「困っている」と回答しています。

○前回調査と比べると、「困っていることはない」が大きく増加する結果となっています。

F-Q25-1. 困っていることは何ですか。(いくつでも選んでください)

[F-Q25 病院やくすりのことで困っている人が回答]



○病院やくすりのことで困っている人に困っていることは何か尋ねたところ、「病気やけがを治せる病院がどこにあるかわからない」が46.4%と最も多く、次いで「わかることばで書かれた病院やくすりなどの情報が少ない」が42.9%、「自分や家族の話す言葉を使える病院がどこにあるかわからない」が42.0%などと続いています。

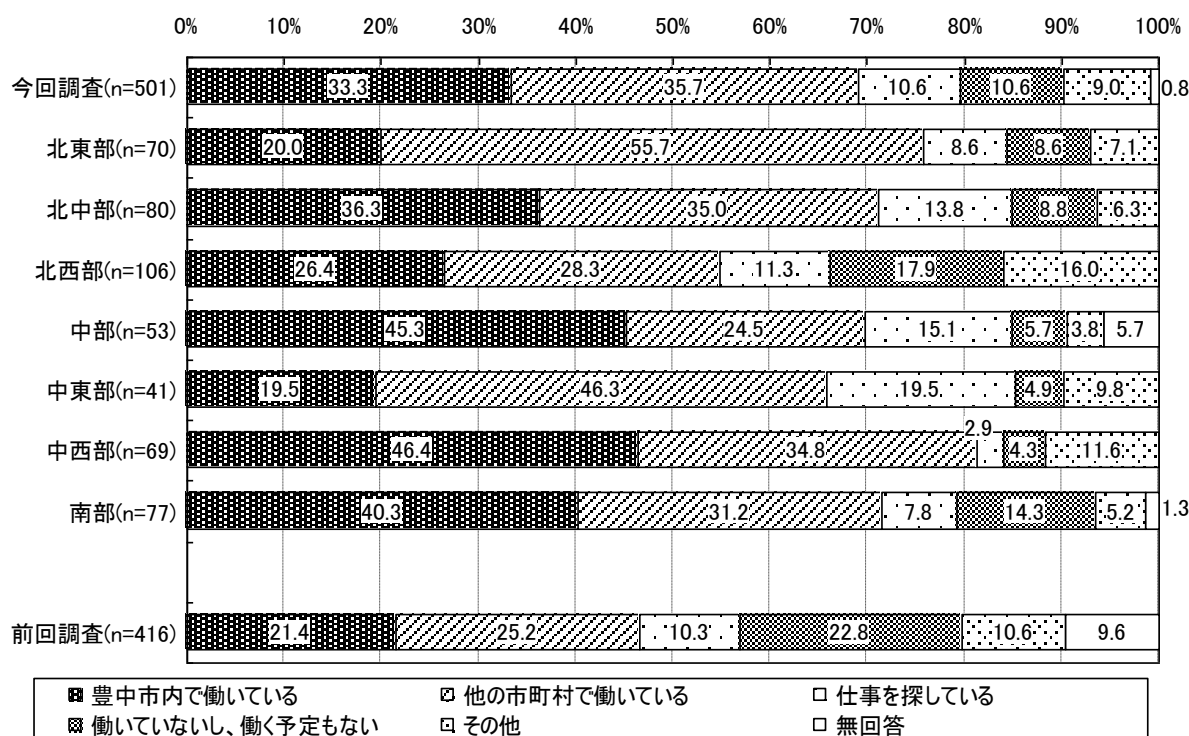
○前回調査と比べると、ほぼすべての項目で増加しており、特に「自分や家族の話す言葉を使える病院がどこにあるかわからない」や「通訳をしてくれる人を見つけるのがむずかしい」が大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ どの病院、クリニックに行けばよいのか。かかりつけ医がわからない。
- ・ 言葉の壁
- ・ ことばの配慮はなく、すべて口頭で専門的な情報を伝えてちゃんと理解しているかどうかを確認しない。
- ・ 通訳なしではみてもらえない。
- ・ コロナの関係で、普通の風邪を診てもらえないことが多い。
- ・ 日本の医療システムがあまり良くない（対応できる時間など）。
- ・ 予約しても待ち時間が長すぎる。

- ・文化の違いで普段ではないことを説明しても理解してもらえない。
- ・医師は基本的な質問をすると、しばしば攻撃的になり、また血液検査で異常がなければ私の心配をよそに、抗生物質を投与するだけで根本的な問題や今後の方針について議論することはない。
- ・高い。また、健康保険が高すぎて払えないので、病院に行くのが怖い。しかも、どの医者にかかればいいのかわからない。
- ・治療や検査をお願いする文化が違うので、無力感を感じることもある。
- ・語学！？日本語をもっと早く覚えたい。問題は私。病院の人はみんな親切で助かる。早く日本語を勉強したい。

F-Q26. あなたは仕事をしていますか。(1つ選んでください)



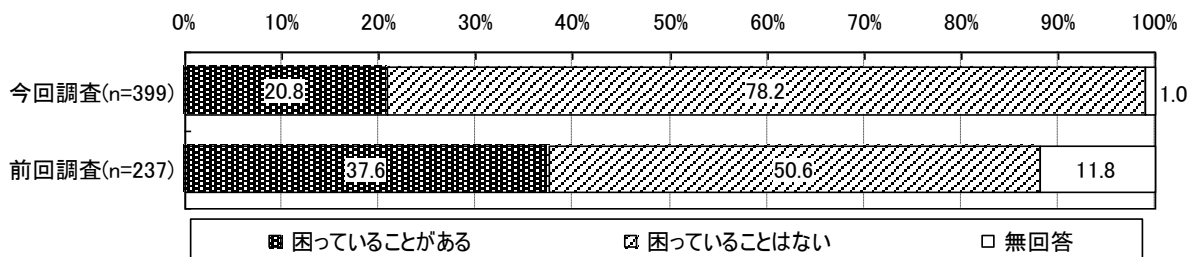
- 69.0%の人が就労しており、「豊中市内で働いている」という人は33.3%となっています。
- 居住地域別にみると、「豊中市内で働いている」は中西部や中部、南部で、「他の市町村で働いている」は北東部や中東部でそれぞれ多くみられます。
- 前回調査と比べると、就労している人が大きく増加しており、就労先も市内、市外共に増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ 留学(3)
- ・ アルバイト(3)
- ・ パートタイム(2)
- ・ 専業主婦(2)
- ・ 学生(2)
- ・ 働く予定がない。(2)
- ・ 高齢(2)
- ・ 外資系企業でのリモートワーク
- ・ 日本企業ではない会社で働いている。
- ・ オンラインでの仕事
- ・ 来年から働く予定。
- ・ 豊中市だけでなく、大阪や兵庫県にも勤務している。
- ・ 仕事がない、日本語が下手。
- ・ 育児休業中
- ・ 働いておらず、再就職先も探していないが、その後働く予定がある。
- ・ 子どもが小さく幼稚園に入れたいけど働けない。
- ・ 米国連邦政府を退職した。連邦政府の年金と米国の社会保障を受けており、バンガードへの投資からの収入がある。
- ・ 生活保護
- ・ 年金生活
- ・ 自宅
- ・ 養生中
- ・ たまに仕事

F-Q26-1. 仕事のことで困っていることがありますか。(1つ選んでください)

[F-Q26 働いている人や仕事を探している人が回答]

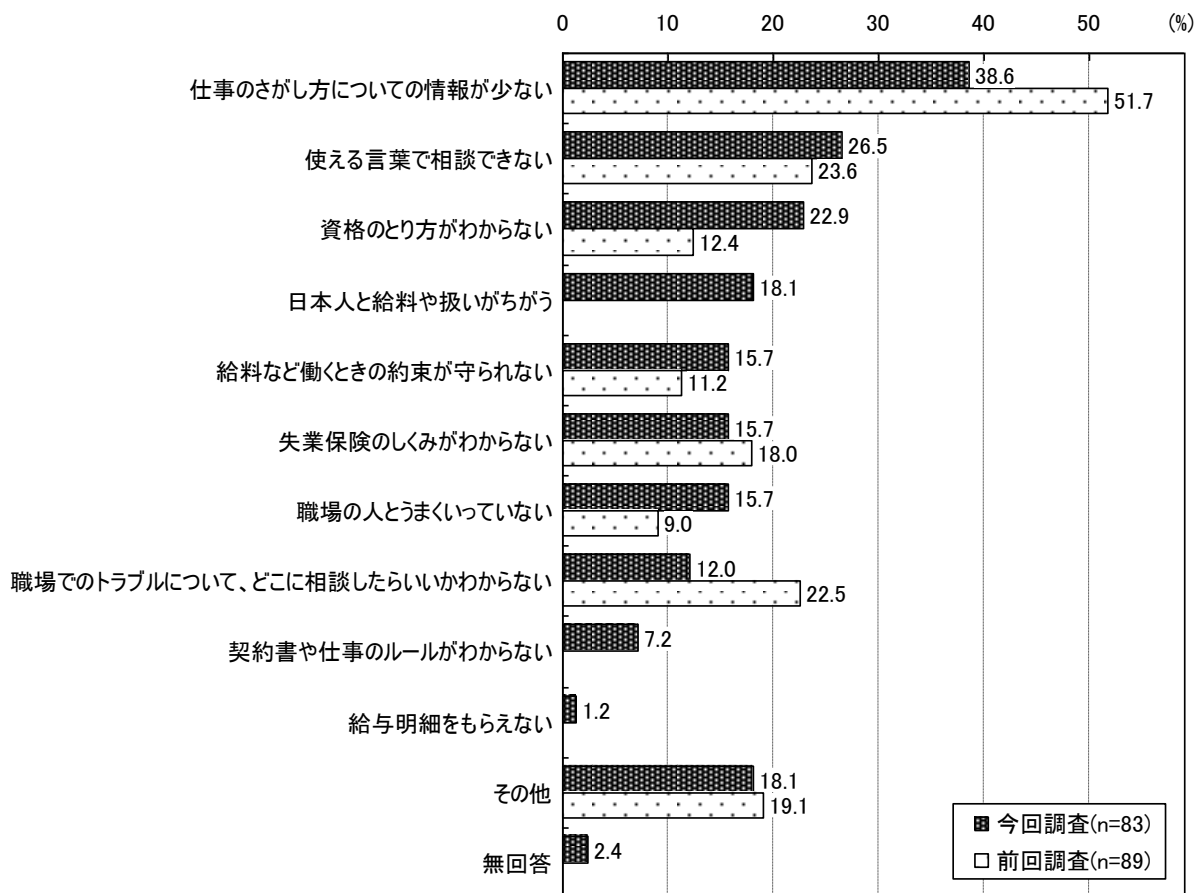


○働いている人や仕事を探している人に困っていることがあるか尋ねたところ、20.8%の人が仕事のことで「困っている」と回答しています。

○前回調査と比べると、「困っていることはない」が大きく増加する結果となっています。

F-Q26-1-1. 困っていることは何ですか。(いくつでも選んでください)

[F-Q26-1 仕事のことで困っていることがある人が回答]



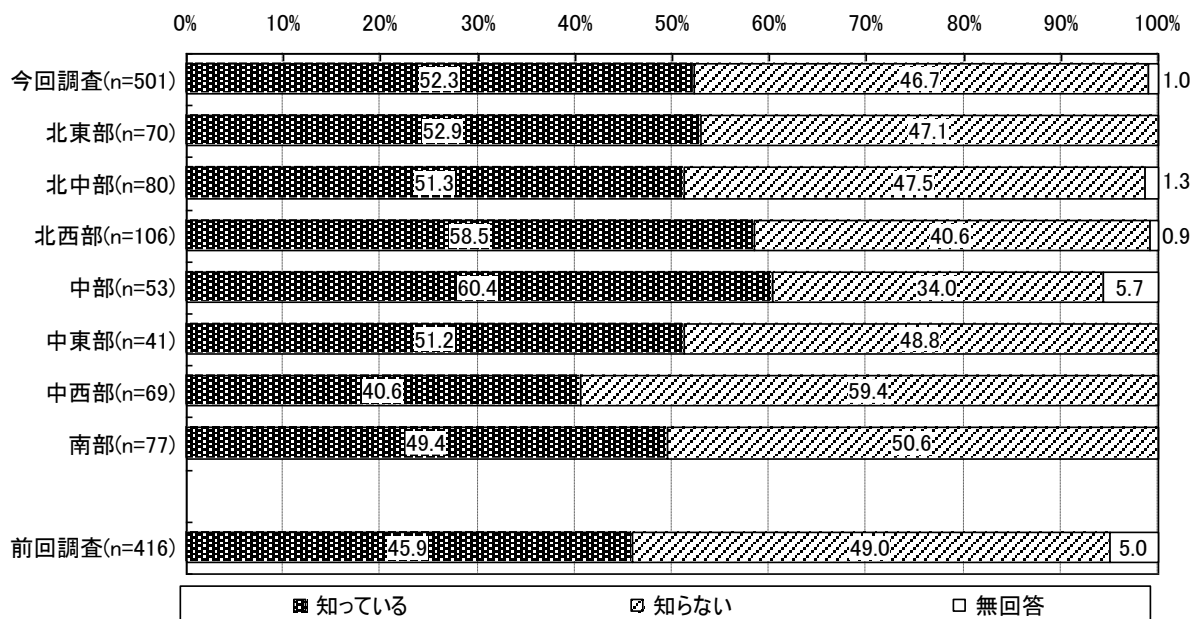
○仕事のことで困っていることがある人に困っていることは何か尋ねたところ、「仕事のさがし方についての情報が少ない」が38.6%と最も多く、次いで「使える言葉で相談できない」が26.5%、「資格のとり方がわからない」が22.9%などと続いています。

○前回調査と比べると、「仕事のさがし方についての情報が少ない」「職場でのトラブルについて、どこに相談したらいいかわからない」などで大きく減少する一方、「資格のとり方がわからない」などで増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

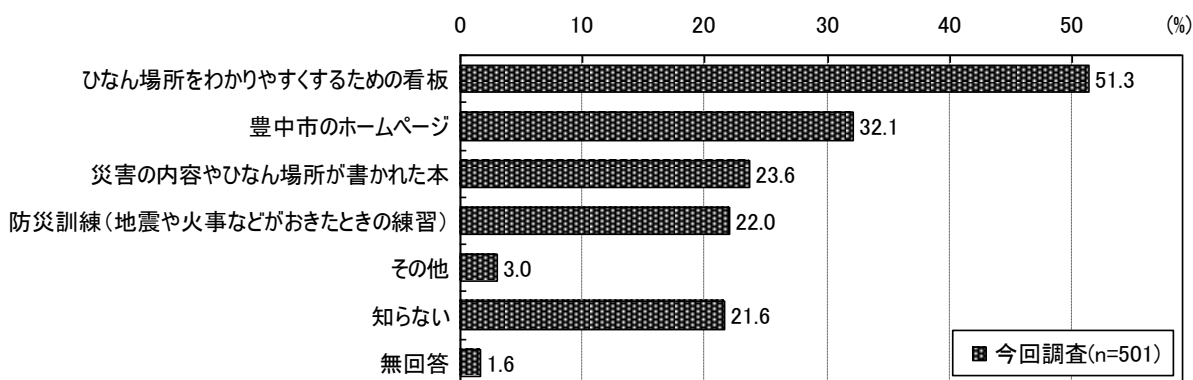
- ・言葉の問題がある。
- ・日本語レベル
- ・自営したい。
- ・聞き取れない時にパニックになりやすい。
- ・定年制度がある。
- ・同僚と有意義なつながりを築くのは難しい。
- ・前の会社は有給の使用を許可しなかった。

F-Q27. あなたは、地震や台風などの災害がおきたときに、どこに逃げたらいいか（＝ひなん場所）を知っていますか。（1つ選んでください）



- 災害時の避難場所を「知っている」という人は52.3%となっています。
- 居住地域別にみると、中部や北西部で「知っている」、中西部で「知らない」という人が多くみられます。
- 前回調査と比べると、「知っている」が増加する結果となっています。

F-Q28. あなたは、ひなん場所を知るための、次のような役立つものがあることを知っていますか。（いくつでも選んでください）

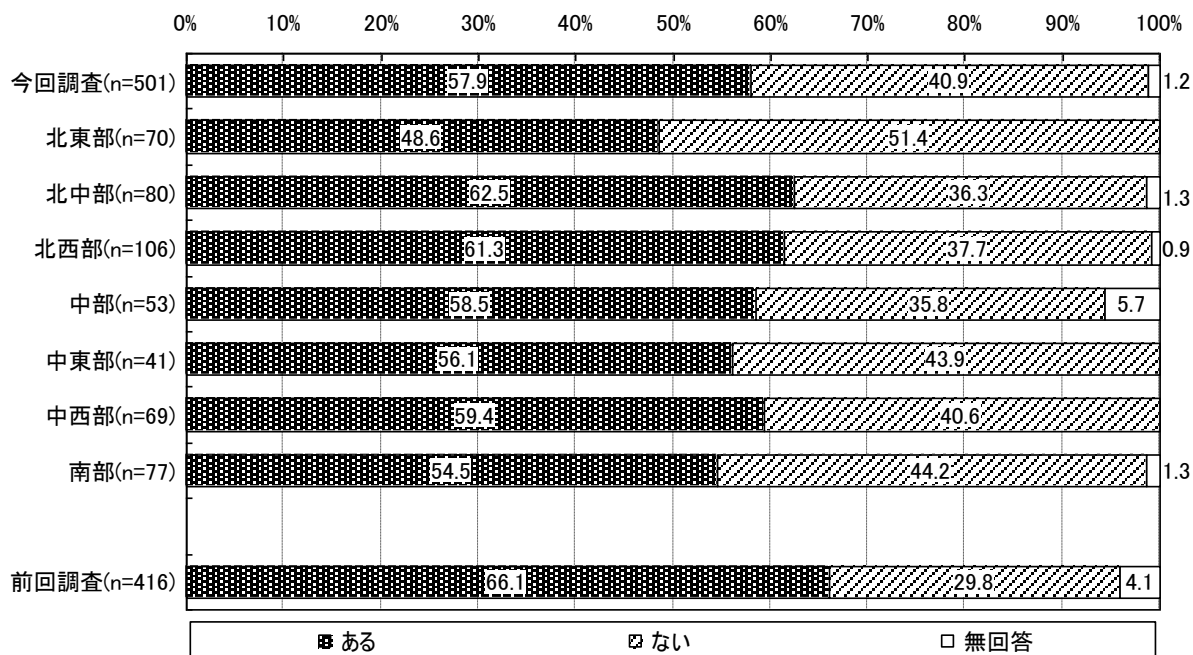


- 「ひなん場所をわかりやすくするための看板」が51.3%と最も多く、次いで「豊中市のホームページ」が32.1%、「災害の内容やひなん場所が書かれた本」が23.6%などと続いています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・スマートフォンで避難所を探す。地震が来たらアラームを鳴らす。

F-Q29. あなたは、あなたが住んでいるまちの人たちと、つきあいがありますか。
(1つ選んでください)

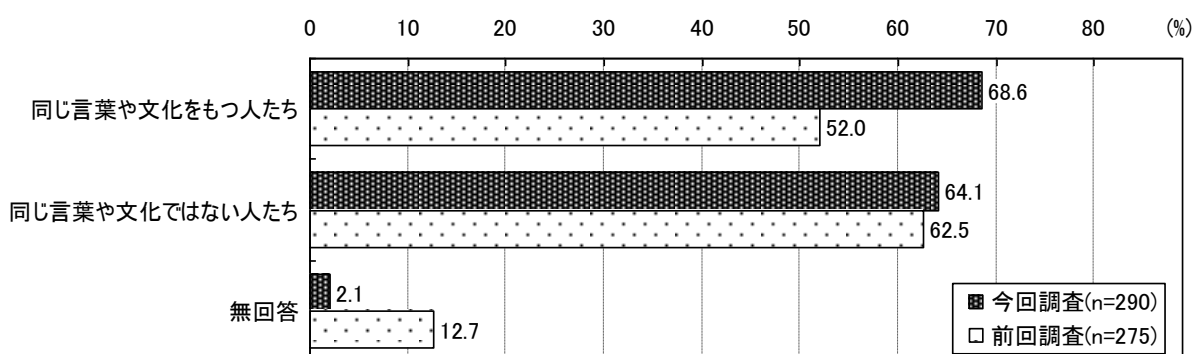


○つきあいが「ある」という人が57.9%を占めています。居住地域別にみると、北東部で「ない」という人が多くみられます。

○前回調査と比べると、「ある」という人が減少する結果となっています。

F-Q29-1. つきあいがあるのは、どんな人たちですか。(いくつでも選んでください)

[F-Q29 住んでいるまちの人とつきあいがある人が回答]

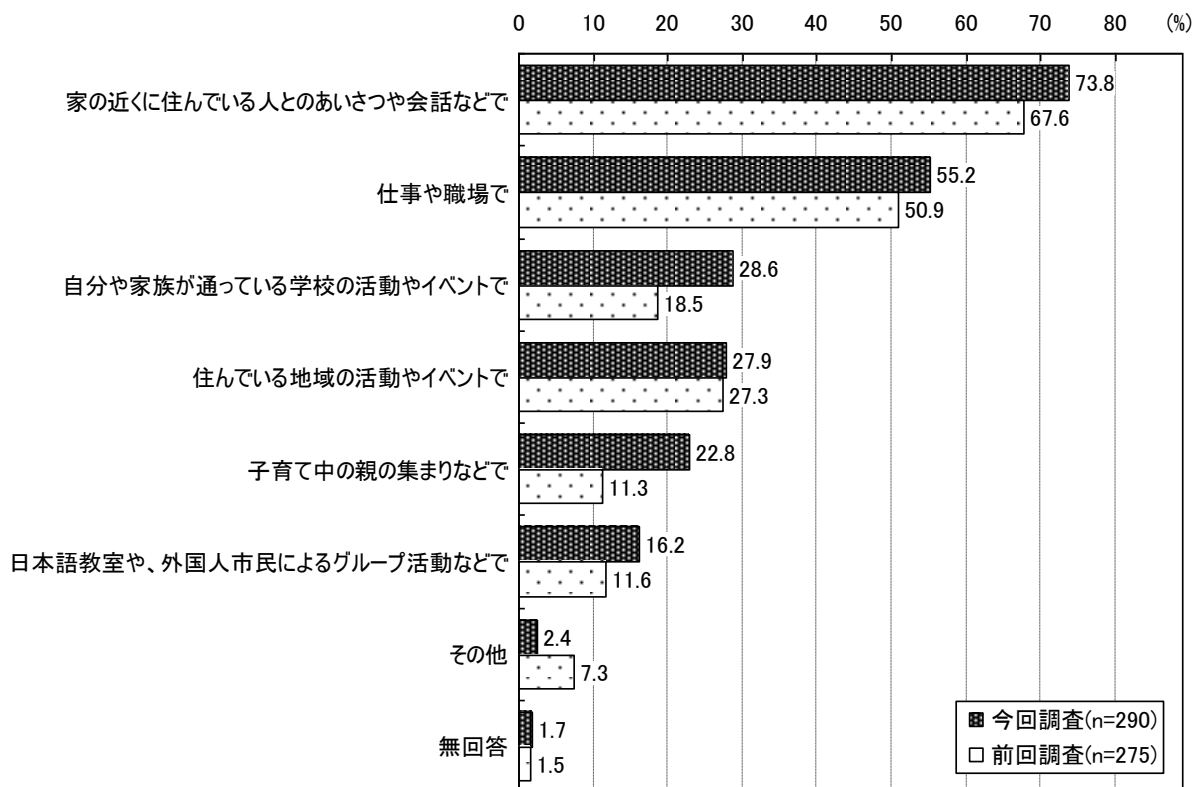


○住んでいるまちの人とつきあいがある人に、つきあいがあるのはどんな人たちが尋ねたところ、「同じ言葉や文化をもつ人たち」が68.6%、「同じ言葉や文化ではない人たち」が64.1%となっています。

○前回調査と比べると、「同じ言葉や文化をもつ人たち」が増加する結果となっています。

F-Q29-2. つきあいがあるのは、どういうときですか。(いくつでも選んでください)

[F-Q29 住んでいるまちの人とつきあいがある人が回答]



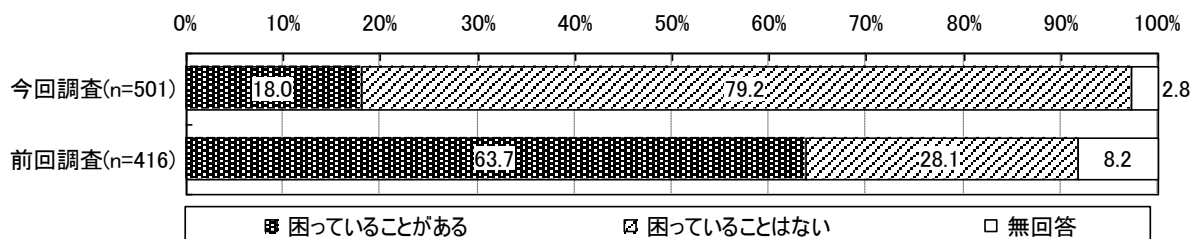
○住んでいるまちの人とつきあいがある人に、つきあいがあるのはどういうときか尋ねたところ、「家の近くに住んでいる人とのあいさつや会話などで」が73.8%と最も多く、次いで「仕事や職場で」が55.2%、「自分や家族が通っている学校の活動やイベントで」が28.6%などと続いています。

○前回調査と比べると、「自分や家族が通っている学校の活動やイベントで」や「子育て中の親の集まりなどで」などで大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ スーパーマーケットで。
- ・ レストラン
- ・ ママとも
- ・ 挨拶だけ。
- ・ 上記のどれでもない。
- ・ 誰とも接する機会がない。誰も私に挨拶してくれたことはない。誰も私をイベントや懇親会に招待してくれたことはない。

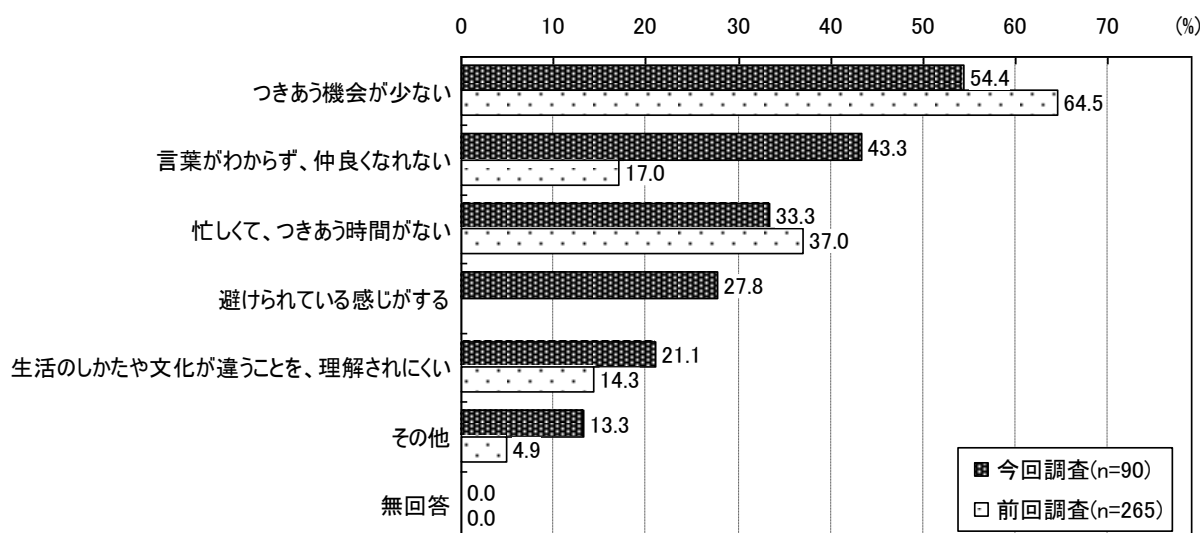
F-Q30. 住んでいるまちの人とのつきあいで困っていることがありますか。
(1つ選んでください)



- 地域での人づきあいで「困っていることがあります」という人は18.0%となっています。
- 前回調査と比べると、「困っていることがあります」という人は大きく減少する結果となっています。

F-Q30-1. 困っていることは何ですか。(いくつでも選んでください)

[F-Q30 住んでいるまちの人とのつきあいで困っていることがある人が回答]



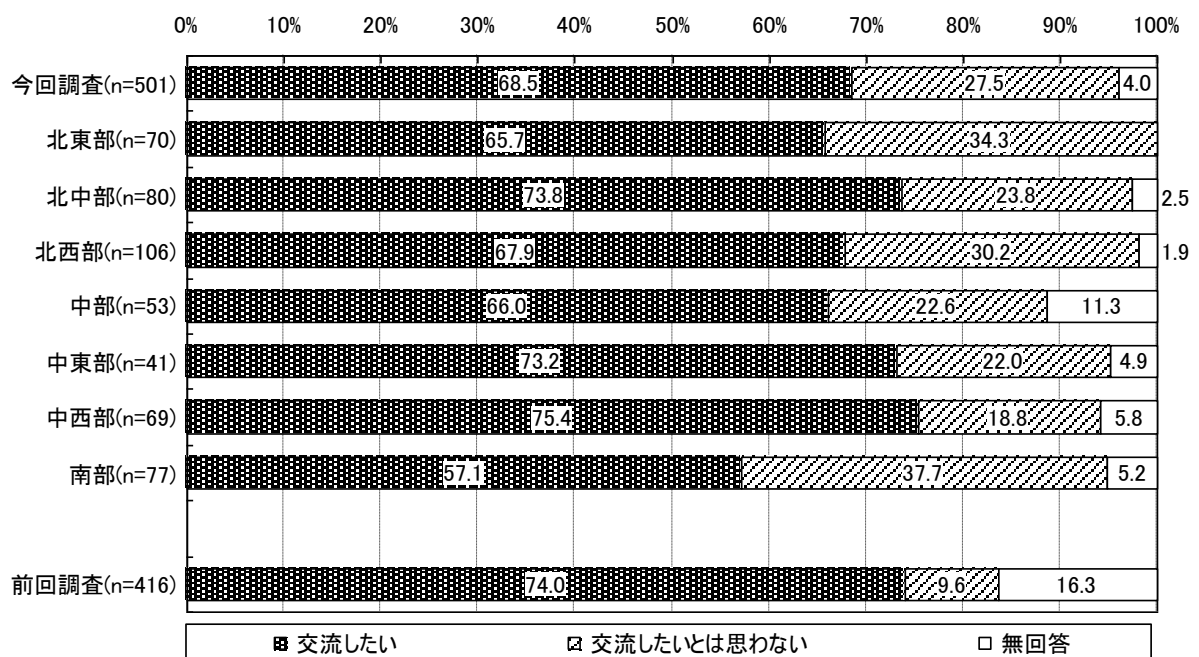
- 住んでいるまちの人とのつきあいで困っていることがある人に困っていることは何か尋ねたところ、「つきあう機会が少ない」が54.4%と最も多く、次いで「言葉がわからず、仲良くなれない」が43.3%、「忙しくて、つきあう時間がない」が33.3%などとなっています。
- 前回調査と比べると、「言葉がわからず、仲良くなれない」が大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ マナーを守らない人が多い。
- ・ 町内会に入りたいが、日本語が下手なので参加していない。
- ・ 日本国籍の保証人がいないと家が借りられない。家賃滞納時のための保険に無理やり加入されている。

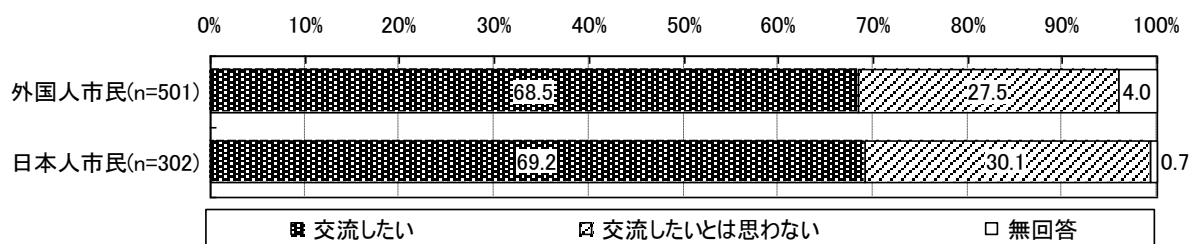
- ・職場ですでに何人かの友人がいる。しかし、日本語がわからない人と話すことを避ける傾向があるようだ。
- ・「国へ帰れ!」「ここは日本だよ!」「死ね!」など人種差別的なコメントを路上でオジチャンからたくさんもらう。何も言わないのに意地悪なコメントをされることもある。最近では少なくなったが、去年の冬はほぼ毎日。だから人と接するのも怖いし外で人を見るのも怖い。
- ・私が日本人に見えないからと、英語と日本語で怒鳴られる。私が流暢に話し、日本語ではっきりと答えているにもかかわらず、日本語の文法が崩れていたり、「英語が話せない」と言ったり、「私を心地よくさせる」ために間違った、あるいは崩れた英語を使ったりするのだそうです。また、「どこから来たのか」「髪や目の色は自然か」「いつ国を出るのか」「両親とその国籍」、そしてもちろん、多くの人が不適切な時間私を見つめ、指差したりもします。
- ・周りの男性が気持ち悪い。ストーカーされたことがある。
- ・多文化の方の食文化（スパイス、ニンニク等の匂い）。

**F-Q31. あなたは、住んでいるまちの人たちと積極的に交流したいと思いますか。
(1つ選んでください)**



- 「交流したい」が68.5%を占めています。居住地域別にみると、中西部や北中部、中東部で「交流したい」という人が多くみられます。
- 前回調査と比べると、「交流したいとは思わない」が大きく増加する結果となっています。

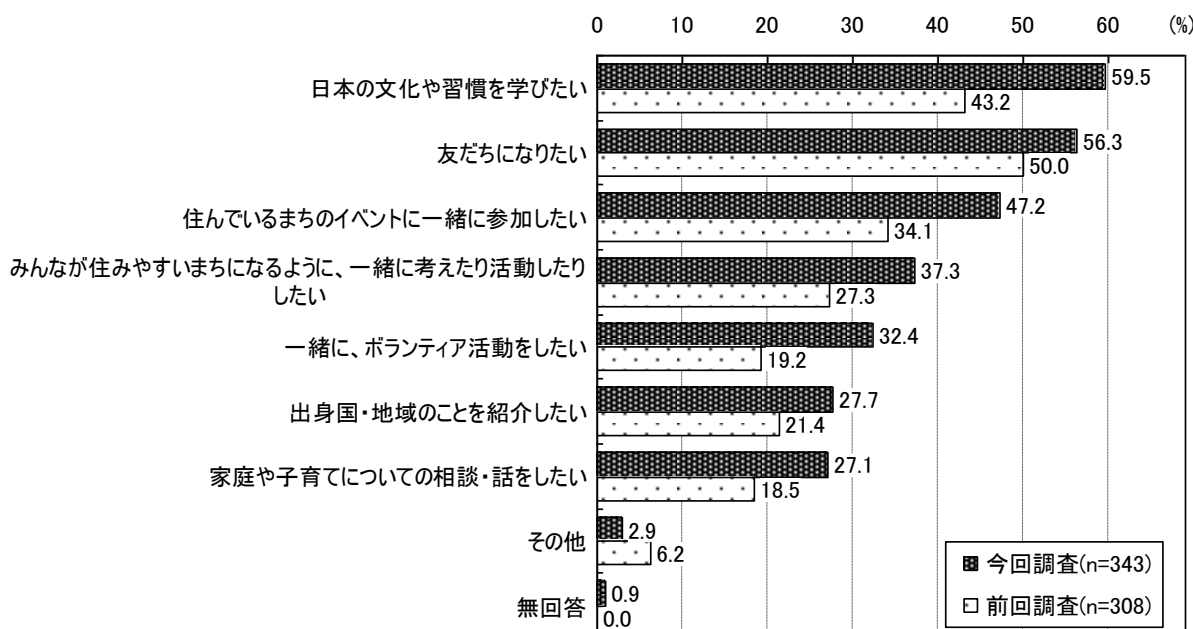
◆交流をしたいかどうか（外国人市民 F-Q31、日本人市民 J-Q16）



○外国人市民と日本人市民を比較すると、ともに「交流したい」が7割弱を占めていますが、日本人市民では「交流したいとは思わない」がやや多い結果となっています。

F-Q31-1. どのような交流をしたいと思いますか。（いくつでも選んでください）

〔F-Q31 住んでいるまちの人たちと交流したいという人が回答〕



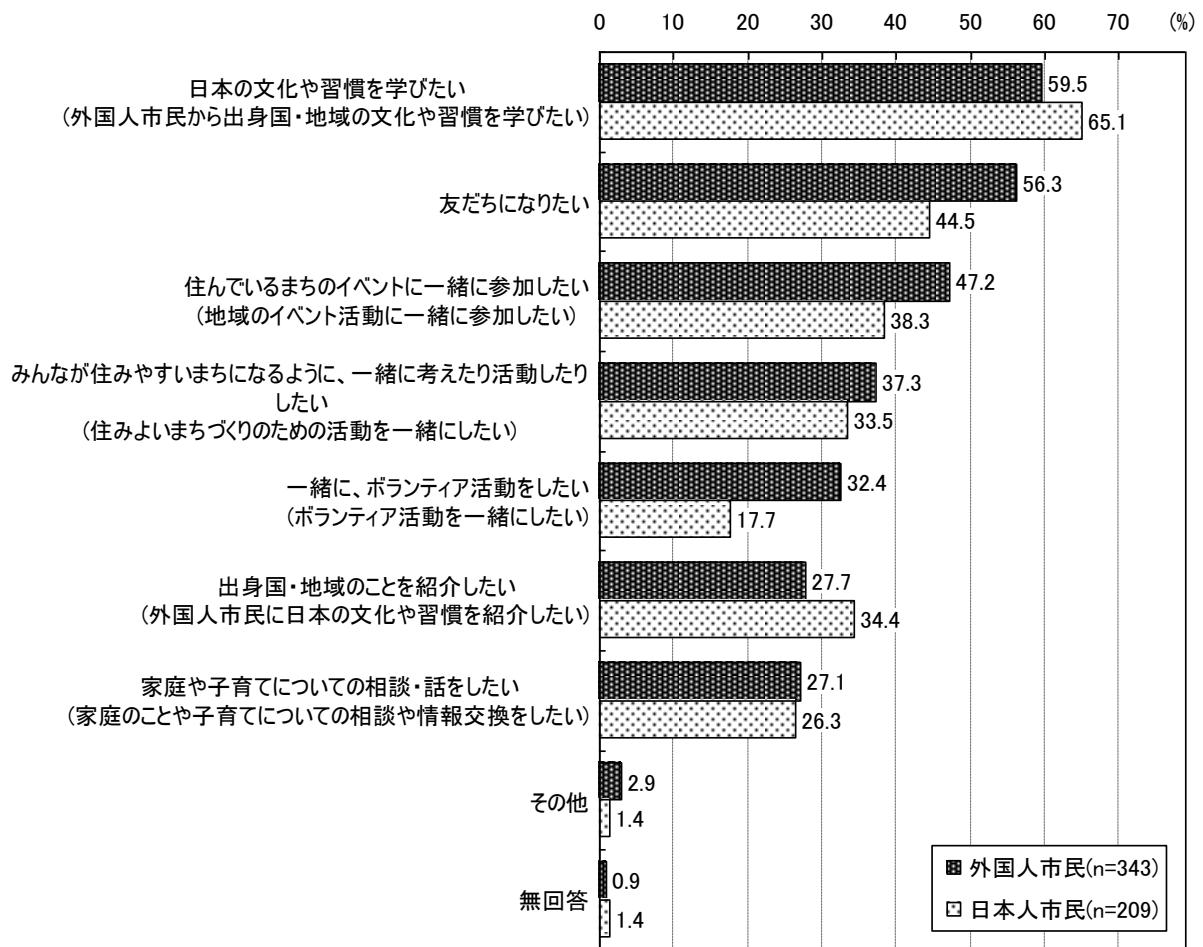
○住んでいるまちの人たちと交流したいという人にどのような交流をしたいと思うか尋ねたところ、「日本の文化や習慣を学びたい」が59.5%と最も多く、次いで「友だちになりたい」が56.3%、「住んでいるまちのイベントと一緒に参加したい」が47.2%などと続いています。

○前回調査と比べると、ほぼすべての項目で増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・私とコミュニケーションをとり、日本語の会話力を高めてくれる日本人の友だちを見つけたい。
- ・役に立つ、良き隣人になる。
- ・交際相手や結婚相手を見つけるため。

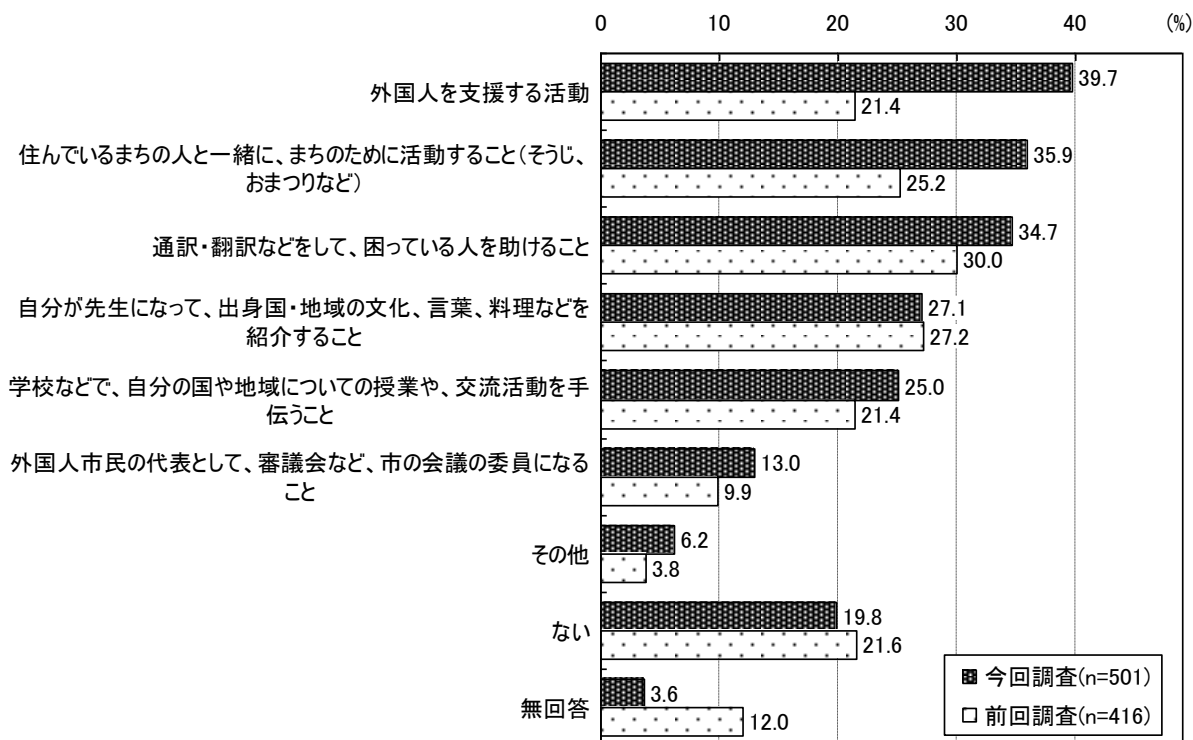
◆どのような交流をしたいか（外国人市民 F-Q31-1、日本人市民 J-Q16-1）



○外国人市民と日本人市民を比較すると、「友だちになりたい」や「ボランティア活動を一緒にしたい」などでは外国人市民が多くなっています。

○外国人市民の「日本の文化や習慣を学びたい」は59.5%であるのに対し、日本人市民の「外国人市民に日本の文化や習慣を紹介したい」は34.4%と少なく、また、日本人市民の「外国人市民から出身国・地域の文化や習慣を学びたい」が65.1%であるのに対し、外国人市民の「出身国・地域のことを紹介したい」は27.7%にとどまる結果となっています。

F-Q32. 次のうち、あなたがやってみたいものを選んでください。
(いくつでも選んでください)



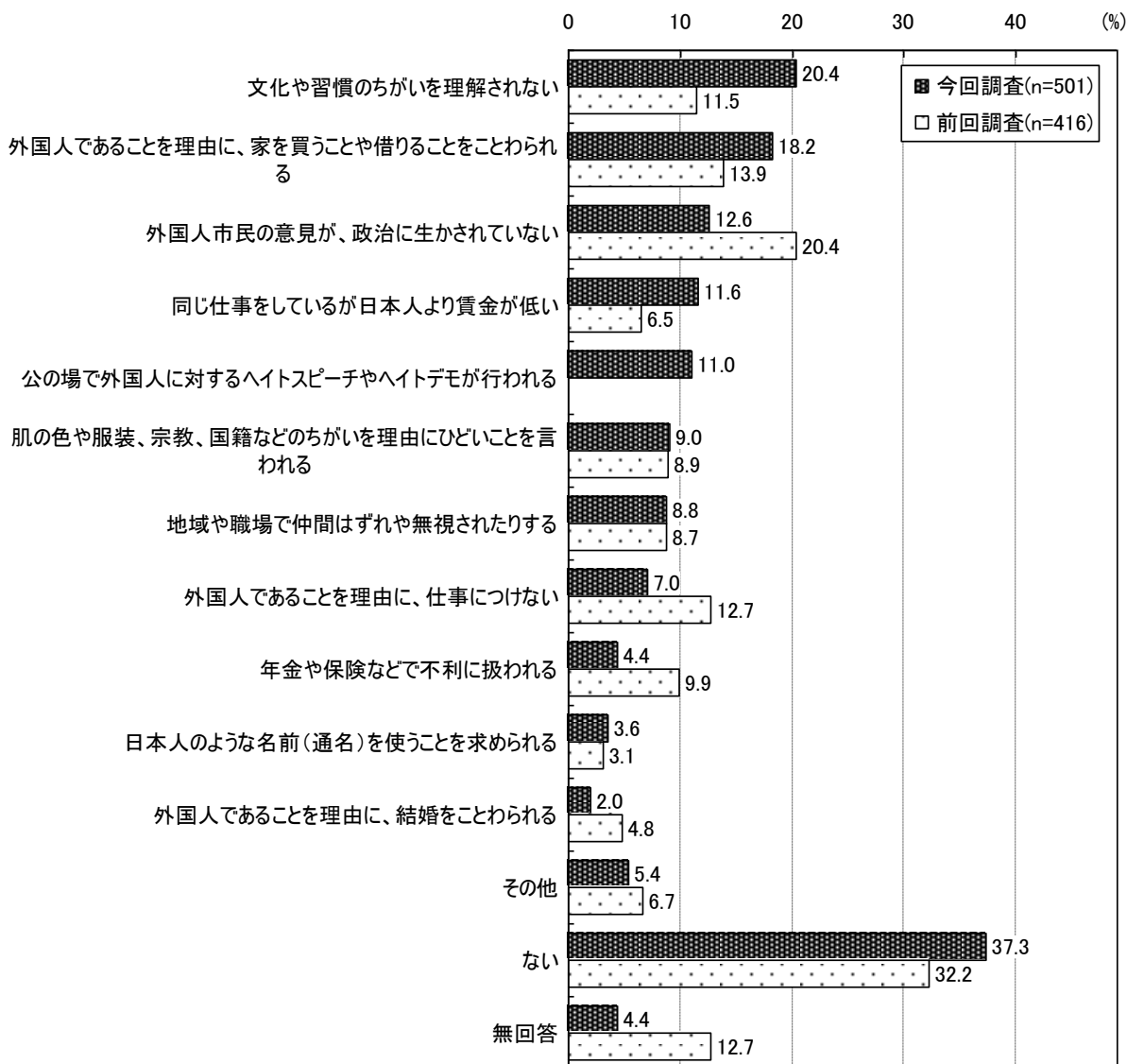
○「外国人を支援する活動」が39.7%と最も多く、次いで「住んでいるまちの人と一緒に、まちのために活動すること(そうじ、おまつりなど)」が35.9%、「通訳・翻訳などをして、困っている人を助けること」が34.7%などと続いています。

○前回調査と比べると、「外国人を支援する活動」や「住んでいるまちの人と一緒に、まちのために活動すること(そうじ、おまつりなど)」などで大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・大学などでの留学生の支援や交流の仕事。
- ・英語レッスンの提供(私は教育学士号を持つ教師です)
- ・商売
- ・夫が持病があるので人と関わらず家でできることを探しています。
- ・このようなアンケートを求められていること自体に違和感がある。

F-Q33. あなたは日本でのくらしで次のようなことがありますか。
(いくつでも選んでください)



○「ない」と無回答を除くと、回答者の58.3%が何らかのことがあったと答えており、内容別には「文化や習慣のちがいを理解されない」が20.4%と最も多く、次いで「外国人であることを理由に、家を買うことや借りることをことわられる」が18.2%、「外国人市民の意見が、政治に生かされていない」が12.6%などと続いています。

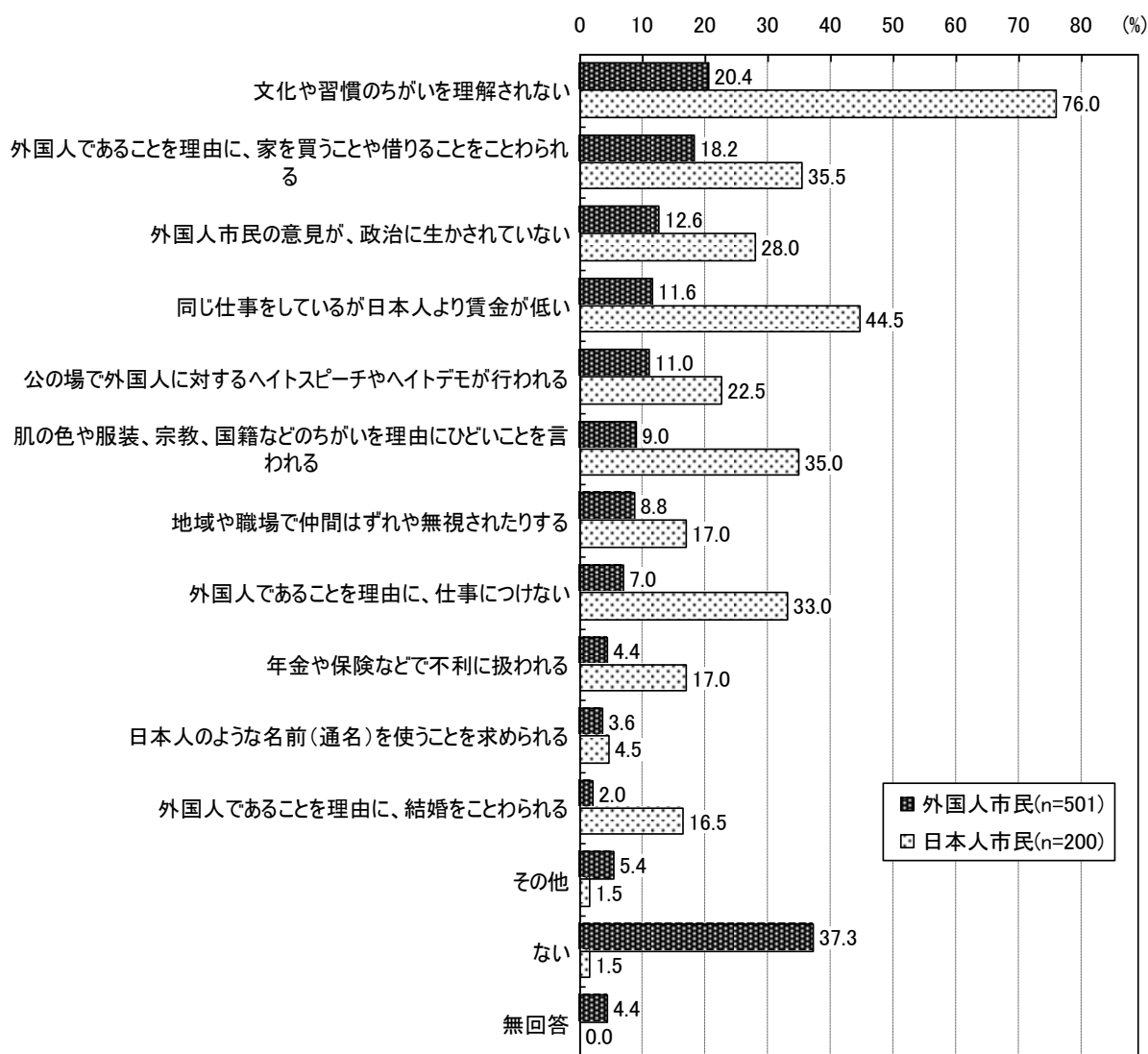
○前回調査と比べると、「外国人市民の意見が、政治に生かされていない」や「外国人であることを理由に、仕事につけない」などが減少する一方、「文化や習慣のちがいを理解されない」「外国人であることを理由に、家を買うことや借りることをことわられる」「同じ仕事をしているが日本人より賃金が低い」などで増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・クレジットカードを作れない。

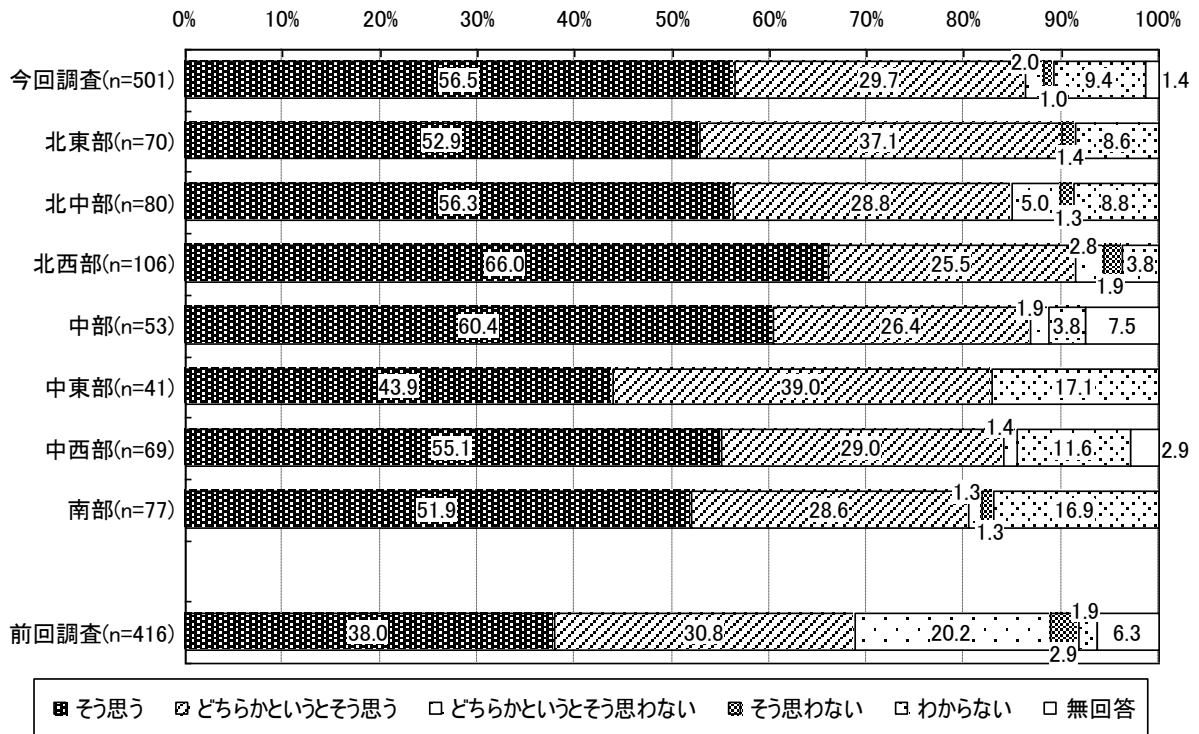
- ・外国人であるため、仕事がない。ビザの変更にお金を払うのは高すぎる。
- ・外国人向けアルバイトに関する情報がない。
- ・住宅契約時の差別や、生活中に発生した問題に対する管理会社の対応不備。
- ・選挙権がない。税金は払っているのに。
- ・手続き等…日本の方より手間が多い。
- ・外国人は身分が低い。
- ・若い場合か、お店とかでタメ口で話されることがあります。

◆日本社会での生活のしづらさ（外国人市民 F-Q33、日本人市民 J-Q21-1）



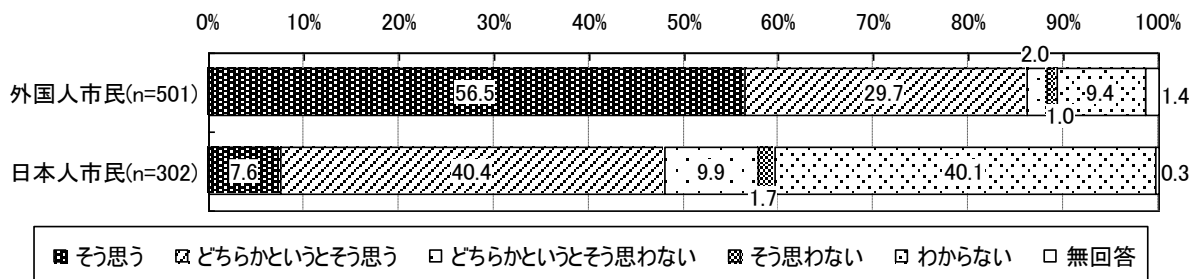
○外国人市民と日本人市民（日本人市民では前の設問で「外国人には、日本社会での生活のしづらさがあるか」を問い、あると思う人だけが回答）を比較すると、全体的に日本人市民の方が非常に多くなる結果となっていますが、「文化や習慣のちがいを理解されない」「同じ仕事をしているが日本人より賃金が低い」「肌の色や服装、宗教、国籍などのちがいを理由にひどいことを言われる」「外国人であることを理由に、仕事につけない」などで特に乖離が大きくなっています。

F-Q34. 豊中市は、外国人市民にとって住みよいまちだと思いますか。
 (1つ選んでください)



- 「そう思う」が56.5%を占めており、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合計すると、86.2%の人が住みよいまちだと回答しています。
- 居住地域別にみると、「そう思う」は北西部や中部で、「どちらかというと思う」は中東部や北東部でそれぞれ多くみられます。
- 前回調査と比べると、「そう思う」が大きく増加する結果となっています。

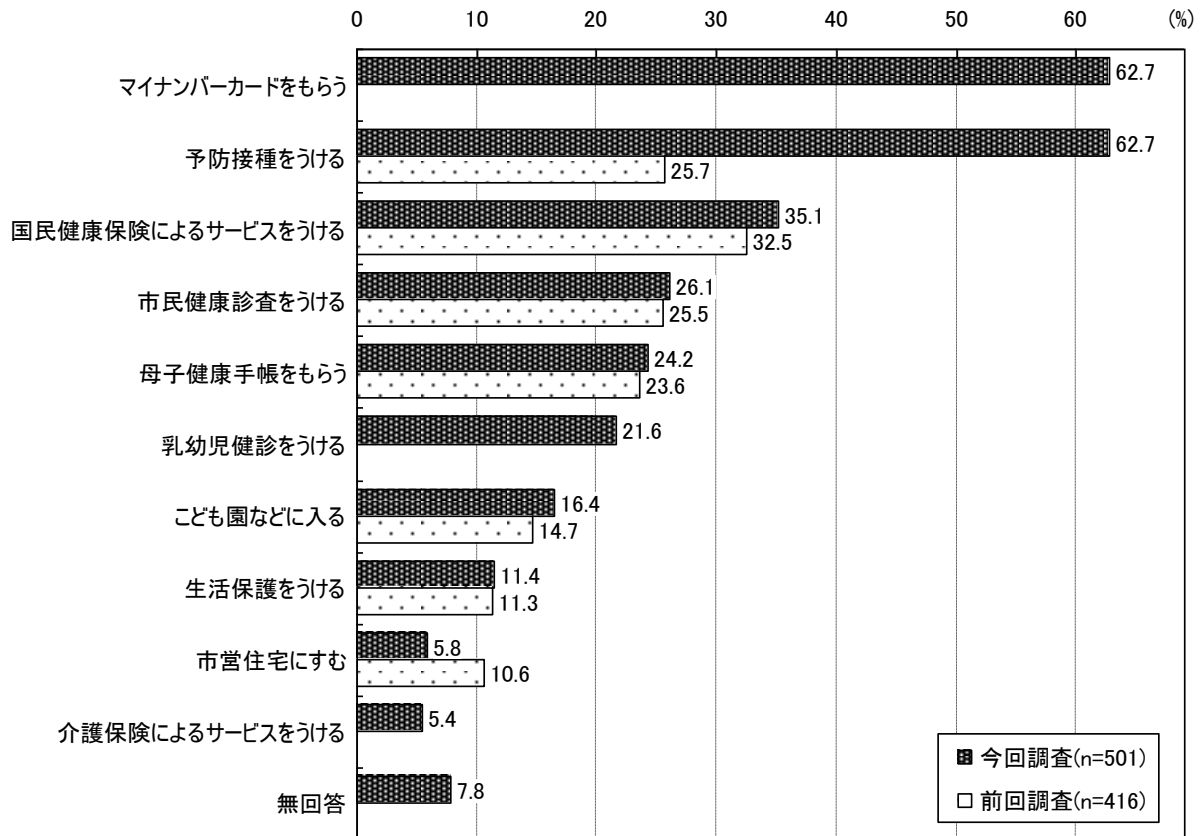
◆豊中市は、外国人市民にとって住みよいまちか
 (外国人市民 F-Q34、日本人市民 J-Q20)



- 外国人市民と日本人市民を比較すると、外国人市民では「そう思う」と「どちらかというと思う」が86.2%、日本人市民では「そう思う」と「どちらかというと思う」が48.0%という結果となっています。

4 市のサービスについて

F-Q35. 豊中市で、外国人市民が使えるサービスのなかで、あなたや家族が使ったことがあるものは何ですか。(いくつでも選んでください)



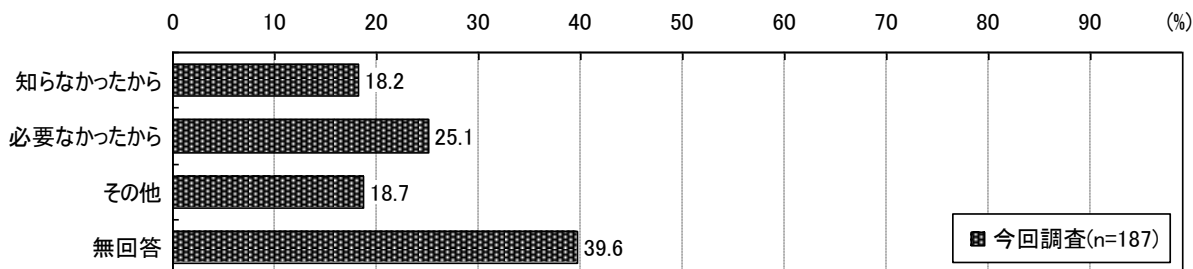
○「マイナンバーカードをもらう」「予防接種をうける」がともに62.7%と最も多く、「国民健康保険によるサービスをうける」が35.1%、「市民健康診査をうける」が26.1%、「母子健康手帳をもらう」が24.2%、「乳幼児健診をうける」が21.6%などと続いています。

○前回調査と比べると、「予防接種をうける」が大きく増加する結果となっています。

F-Q35-1. 外国人市民が使えるサービスを使ったことがない人はその理由を教えてください。(いくつでも選んでください)

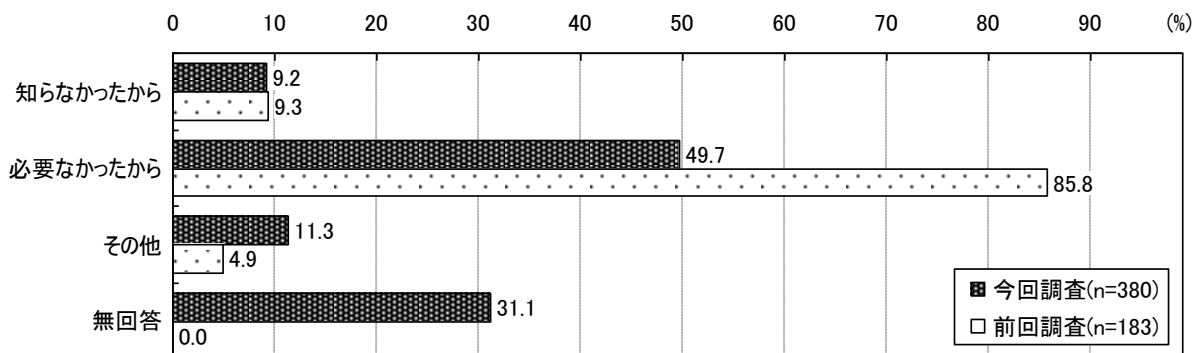
[F-Q35 いずれのサービスも利用経験のない人が回答]

(1) マイナンバーカードをもらう



○「必要なかったから」が25.1%、「知らなかったから」が18.2%となっています。

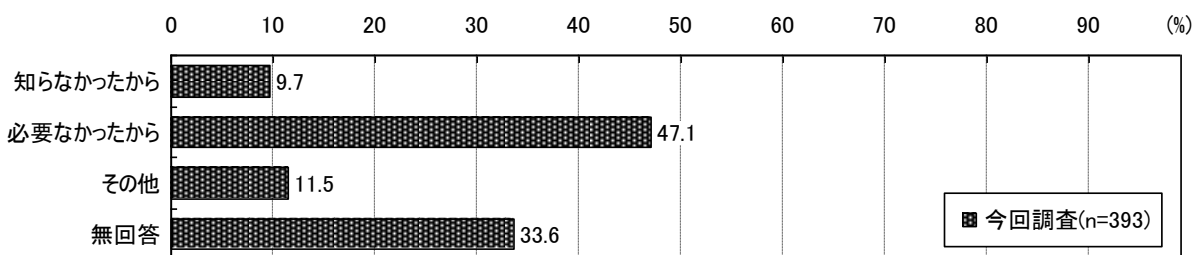
(2) 母子健康手帳をもらう



○「必要なかったから」が49.7%、「知らなかったから」が9.2%となっています。

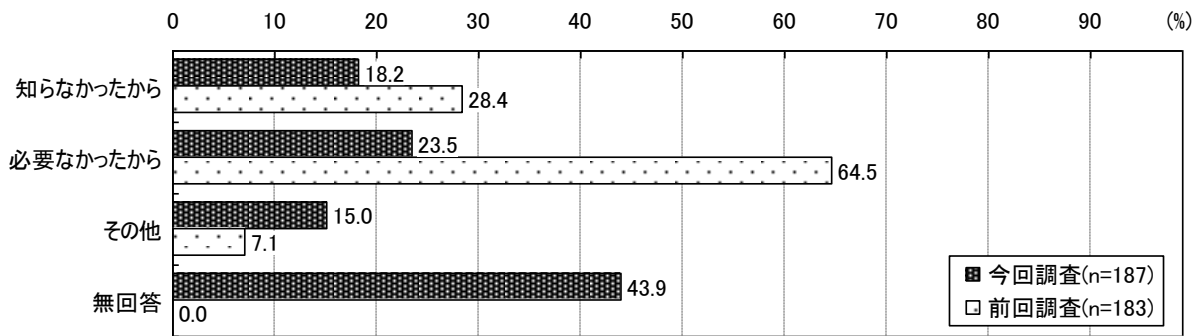
○前回調査と比べると、「必要なかったから」が大きく減少する結果となっています。

(3) 乳幼児健診をうける



○「必要なかったから」が47.1%、「知らなかったから」が9.7%となっています。

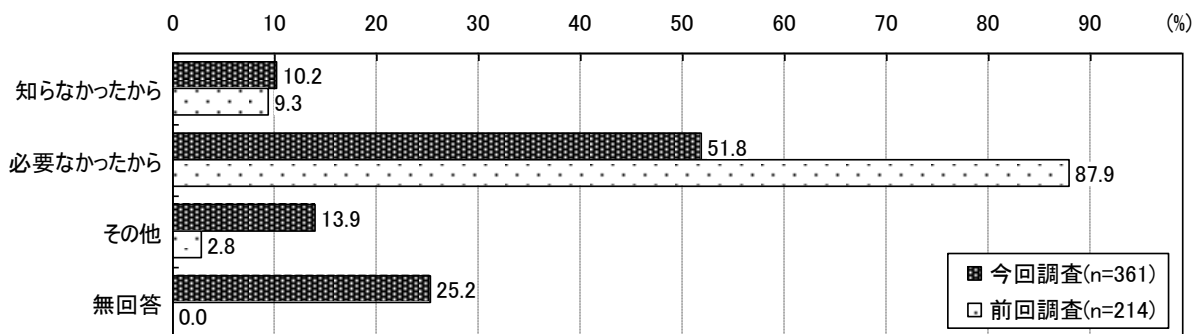
(4) 予防接種をうける



○「必要なかったから」が23.5%、「知らなかったから」が18.2%となっています。

○前回調査と比べると、「必要なかったから」「知らなかったから」とも大きく減少する結果となっています。

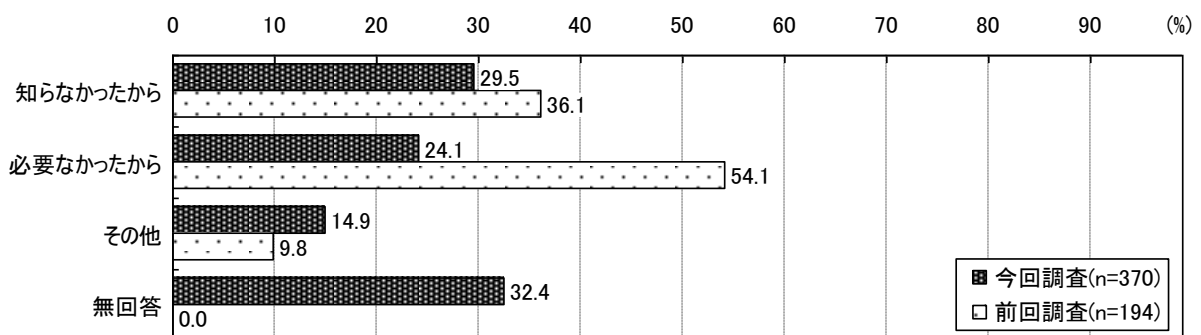
(5) こども園などに入る



○「必要なかったから」が51.8%、「知らなかったから」が10.2%となっています。

○前回調査と比べると、「必要なかったから」が大きく減少する結果となっています。

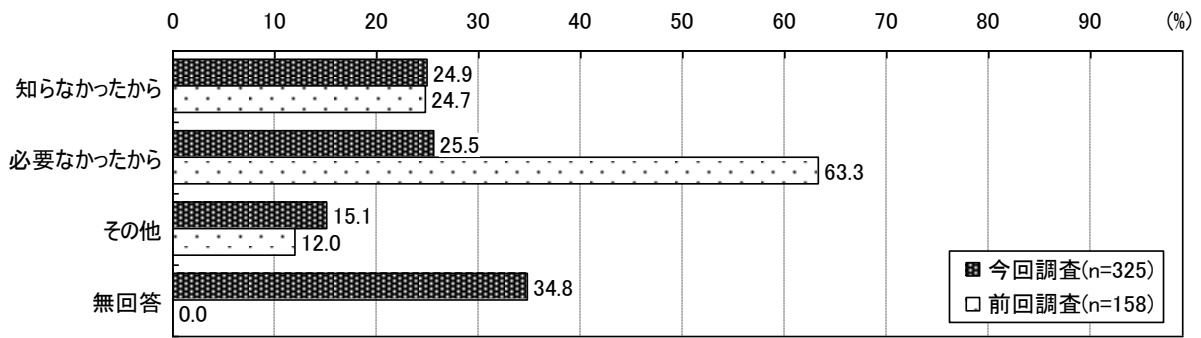
(6) 市民健康診査をうける



○「知らなかったから」が29.5%、「必要なかったから」が24.1%となっています。

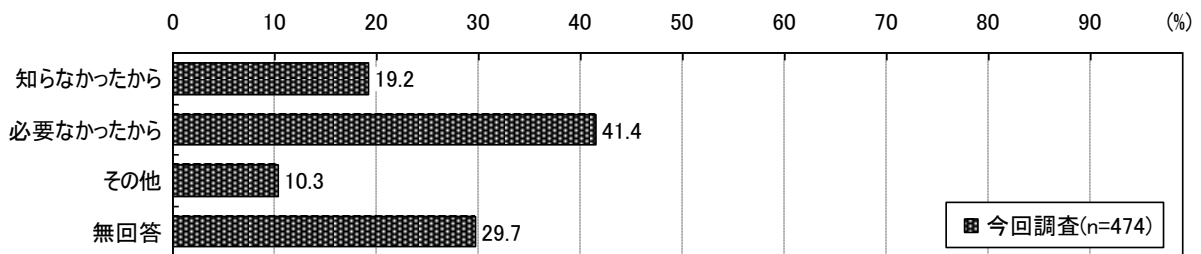
○前回調査と比べると、「必要なかったから」が大きく減少する結果となっています。

(7) 国民健康保険によるサービスをうける



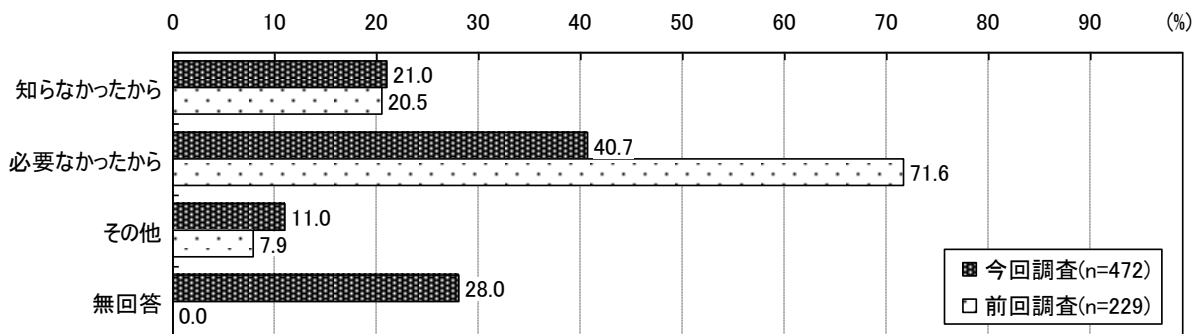
- 「必要なかったから」が25.5%、「知らなかったから」が24.9%となっています。
- 前回調査と比べると、「必要なかったから」が大きく減少する結果となっています。

(8) 介護保険によるサービスをうける



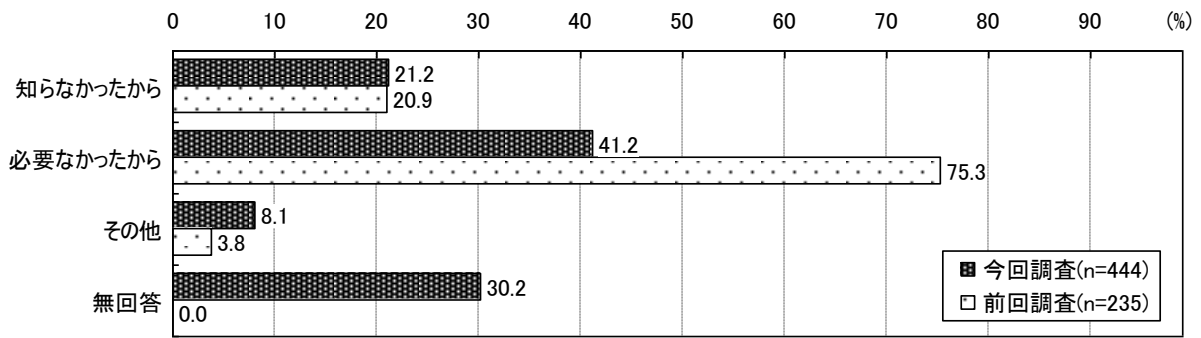
- 「必要なかったから」が41.4%、「知らなかったから」が19.2%となっています。

(9) 市営住宅にすむ



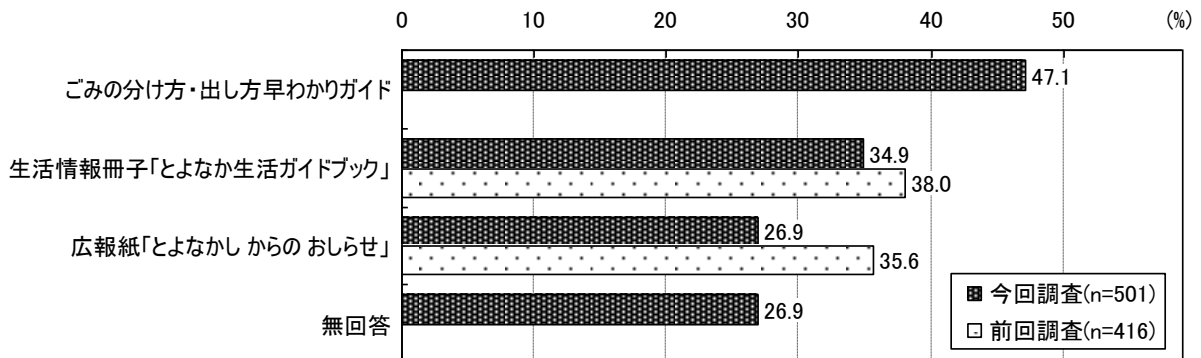
- 「必要なかったから」が40.7%、「知らなかったから」が21.0%となっています。
- 前回調査と比べると、「必要なかったから」が大きく減少する結果となっています。

(10)生活保護をうける



- 「必要なかったから」が41.2%、「知らなかったから」が21.2%となっています。
- 前回調査と比べると、「必要なかったから」が大きく減少する結果となっています。

F-Q36. あなたや家族は、豊中市が提供している日本語ではない言葉で書かれた資料（本やパンフレットなど）のうち、使ったことがあるものは何ですか。（いくつでも選んでください）

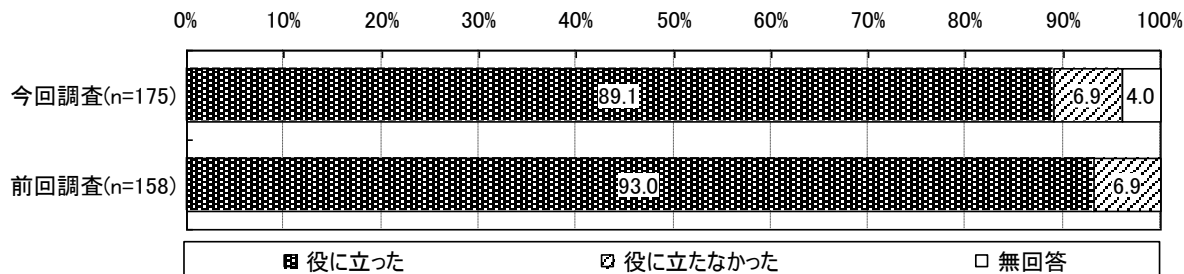


- 「ごみの分け方・出し方早わかりガイド」が47.1%と最も多く、次いで「生活情報冊子「とよなか生活ガイドブック」」が34.9%、「広報紙「とよなかしからののお知らせ」」が26.9%となっています。

F-Q36-1. 日本語ではない言葉で書かれた資料を使ったことがある人は、その情報は役に立ちましたか。(1つ選んでください)

[F-Q36 日本語ではない言葉で書かれた資料を使ったことがある人が回答]

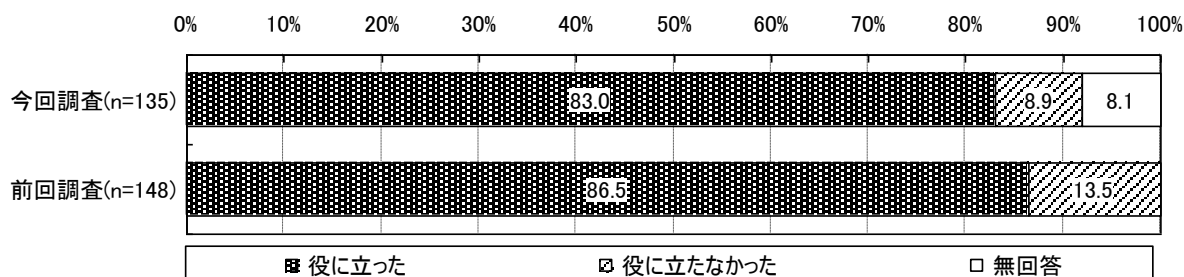
(1)生活情報冊子「とよなか生活ガイドブック」



○「役に立った」が89.1%を占めています。

○前回調査と比べると、「役に立った」がやや減少する結果となっています。

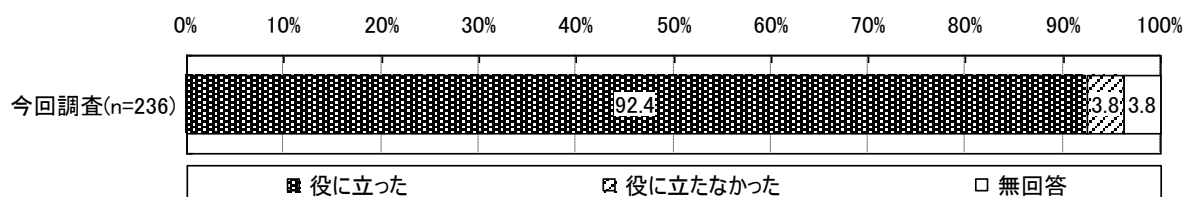
(2)広報紙「とよなかしからのおしらせ」



○「役に立った」が83.0%を占めています。

○前回調査と比べると、「役に立った」が減少する結果となっています。

(3)ごみの分け方・出し方早わかりガイド

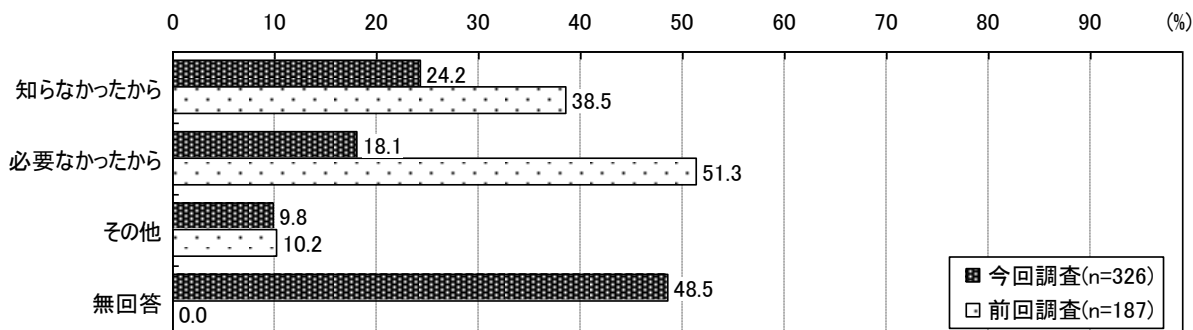


○「役に立った」が92.4%を占めています。

F-Q36-2. 日本語ではない言葉で書かれた資料を使ったことがない人は、なぜ使ったことがないのか、理由を教えてください。(いくつでも選んでください)

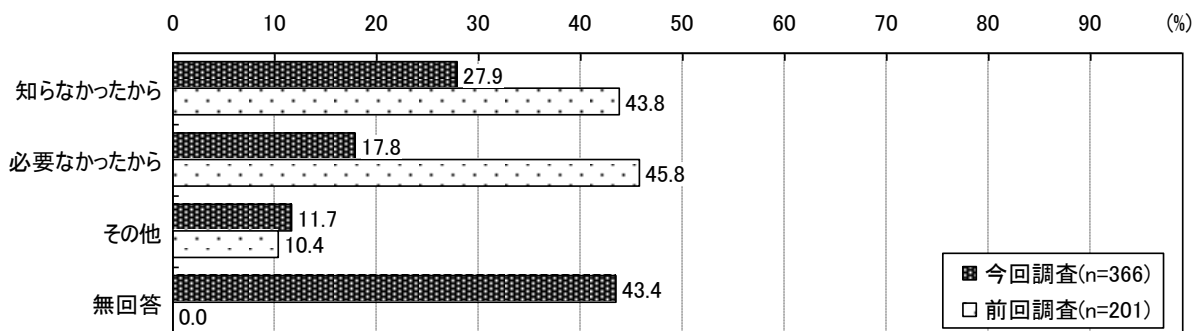
[F-Q36 日本語ではない言葉で書かれた資料を使ったことがない人が回答]

(1)生活情報冊子「とよなか生活ガイドブック」



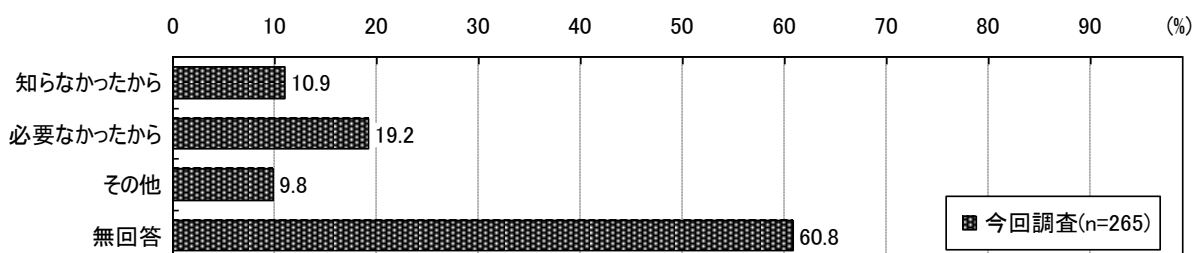
- 「知らなかったから」が24.2%、「必要なかったから」が18.1%となっています。
- 前回調査と比べると、「知らなかったから」「必要なかったから」ともに大きく減少する結果となっています。

(2)広報紙「とよなかしからのおしらせ」



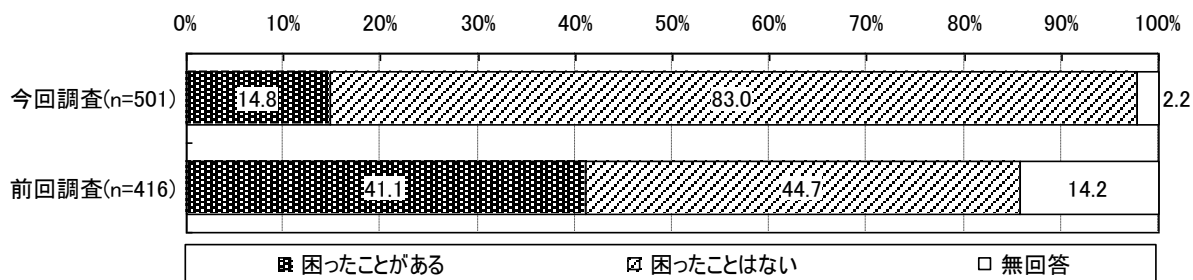
- 「知らなかったから」が27.9%、「必要なかったから」が17.8%となっています。
- 前回調査と比べると、「知らなかったから」「必要なかったから」ともに大きく減少する結果となっています。

(3)ごみの分け方・出し方早わかりガイド



- 「必要なかったから」が19.2%「知らなかったから」が10.9%となっています。

F-Q37. あなたが豊中市役所へ行ったときに、困ったことがありますか。
 (1つ選んでください)

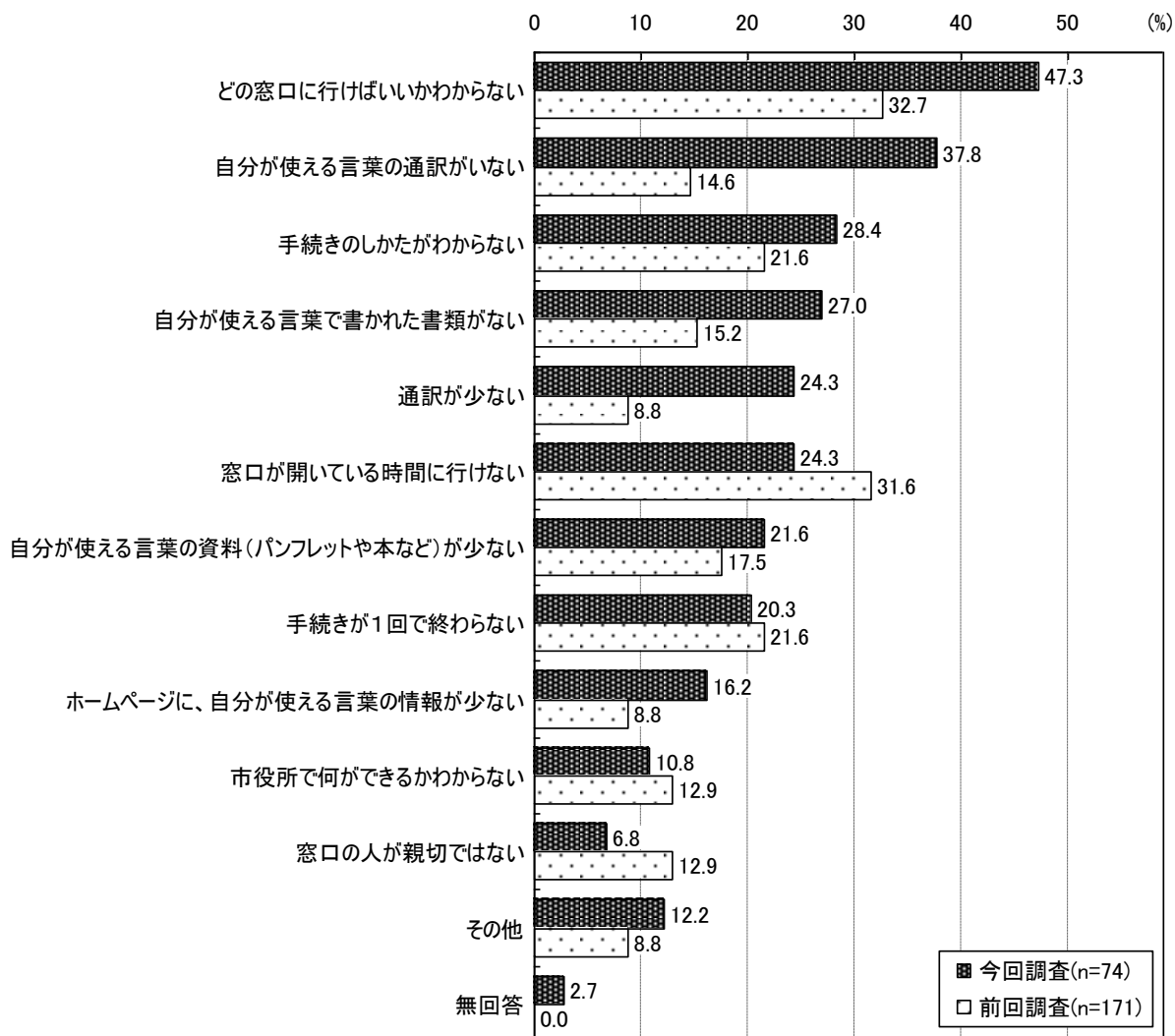


○「困ったことがある」という人が14.8%となっています。

○前回調査と比べると、「困ったことはない」という人が大きく増加する結果となっています。

F-Q37-1. 困ったことは何ですか。(いくつでも選んでください)

[F-Q37 市役所へ行って困ったことがある人が回答]



○市役所へ行って困ったことがある人に困ったことは何か尋ねたところ、「どの窓口に行けばいいかわからない」が47.3%、次いで「自分が使える言葉の通訳がない」が37.8%、「手続きのしかたがわからない」が28.4%、「自分が使える言葉で書かれた書類がない」が27.0%、「通訳が少ない」と「窓口が開いている時間に行けない」がともに24.3%などと続いています。

○前回調査と比べると、ほとんどの項目で増加していますが、「自分が使える言葉の通訳がない」「自分が使える言葉で書かれた書類がない」「通訳が少ない」などで大きく増加する結果となっています。一方、「窓口が開いている時間に行けない」「窓口の人が親切ではない」などで減少しています。

◆選択肢「その他」の記述内容

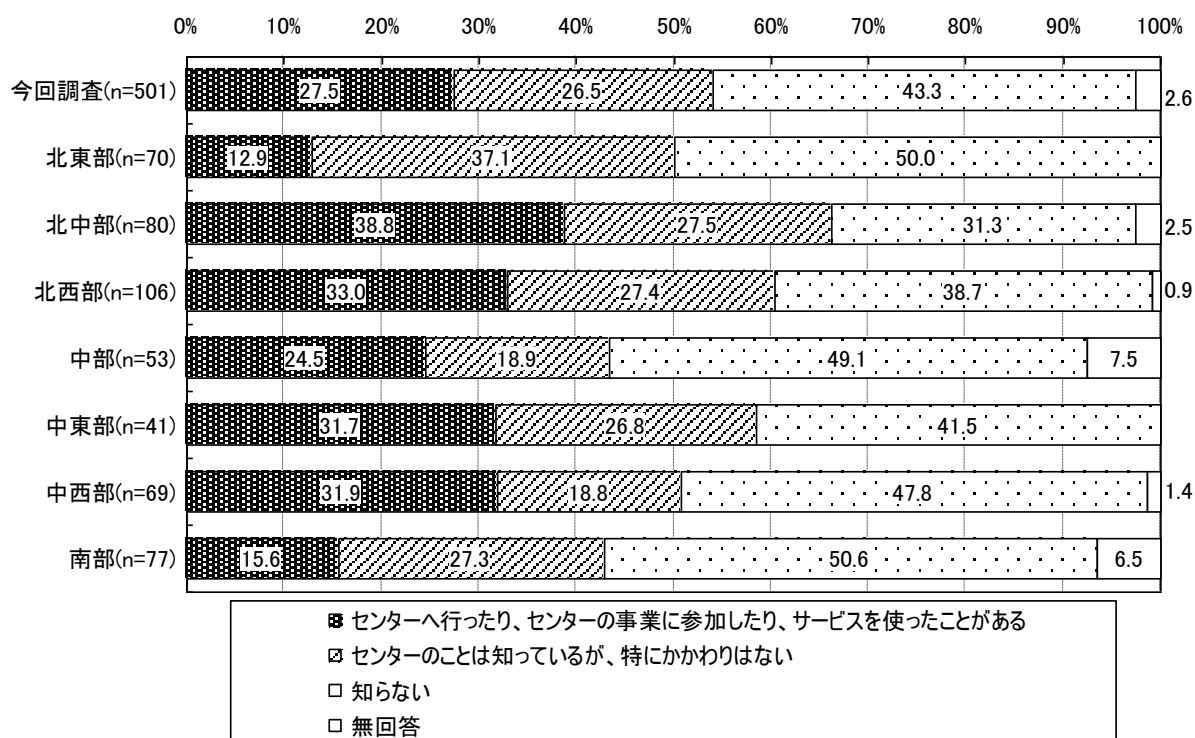
- ・待ち時間がとても長い。
- ・アクセスしにくい。
- ・あるとき、問題を解決するために30分ほど待ったが、解決できなかった（コンピューターの調子が悪かったのだろう）。長い時間待たされたあげく、「家に帰れば郵送

してくれる」と言われたのは悔しかった。また、書類には何が必要なのかが書かれていないことが多いのですが、誰かが必ず答えを教えてください。

- ・ 翻訳サービスもありません。少しでも日本語が話せると、書類を押しつけられ、サインする場所を指さされるだけです。私は日本語をたくさん話せますが、市役所での手続きは特殊な語彙を使うので、状況が違います。通訳がいればよかったのと思います。そういう選択肢もあるんですね。失業対策課では、ある職員が非常に無礼で、学術的な言葉ではなく、簡単な日本語を思い浮かべることができない。例えば、「採用通知への回答」。私は自分の端末でその言葉を翻訳したのですが、彼がもっと簡単な言葉を使うことができたことにショックを受けました。そこで、今後は“answer”や“did you say yes or no?”といった単語を使うことを提案しました。とても簡単なことなのに、彼はオープンマインドになれなかったのです。

※豊中市には失業対策課はありませんが、掲載させていただきました。

F-Q38. あなたは、豊中駅前にある「とよなか国際交流センター」に行ったり、サービスを使ったことがありますか。(1つ選んでください)

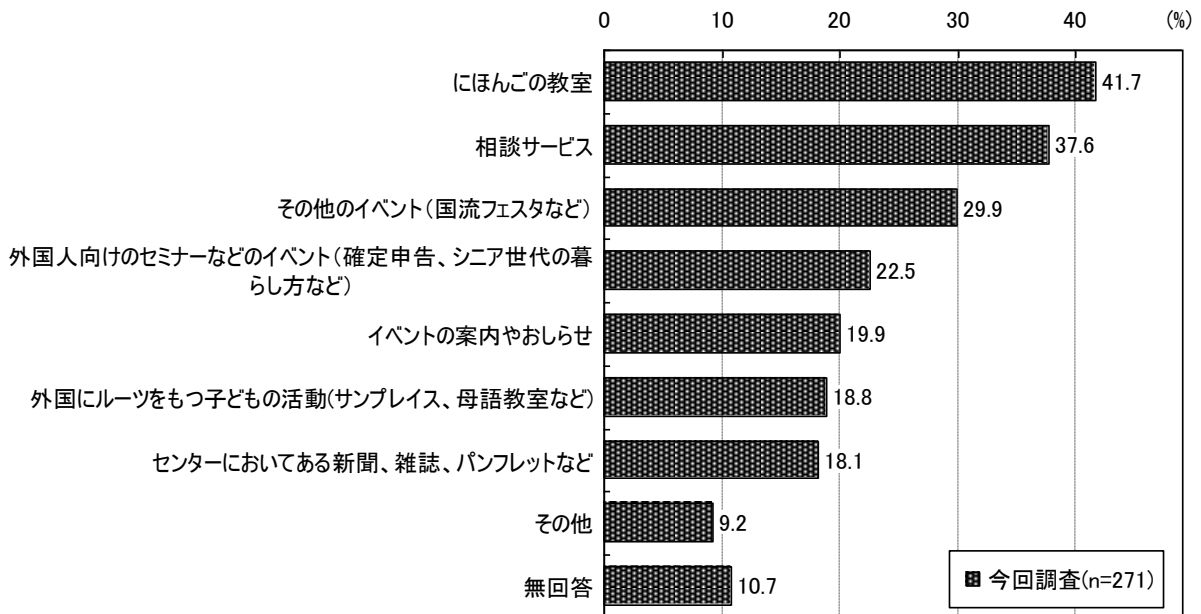


○「知らない」が43.3%と最も多く、次いで「センターへ行ったり、センターの事業に参加したり、サービスを使ったことがある」が27.5%、「センターのことは知っているが、特にかかわりはない」が26.5%となっています。

○居住地域別にみると、「センターへ行ったり、センターの事業に参加したり、サービスを使ったことがある」という人は北中部で、「センターのことは知っているが、特にかかわりはない」という人は北東部でそれぞれ多くみられます。

F-Q38-1. 「とよなか国際交流センター」のサービスで参加したり、使ったりしたいものは何ですか。(いくつでも選んでください)

[F-Q38 「とよなか国際交流センター」を知っている人が回答]



○「とよなか国際交流センター」を知っている人にセンターのサービスで参加したり、使ったりしたいものは何か尋ねたところ、「にほんごの教室」が41.7%と最も多く、次いで「相談サービス」が37.6%、「その他のイベント(国流フェスタなど)」が29.9%などと続いています。

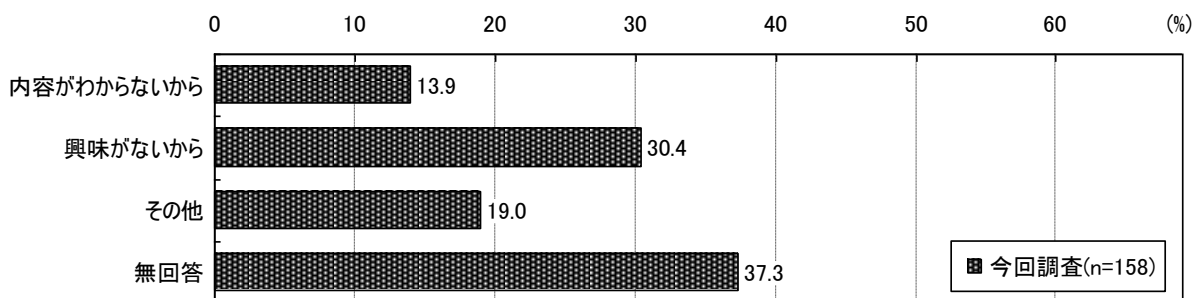
◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ 子どもの日本語教室
- ・ 夏季学校
- ・ COVIDワクチン接種

F-Q38-1-1. 「とよなか国際交流センター」のサービスで利用を希望しない理由を教えてください。(いくつでも選んでください)

[F-Q38-1 いずれのサービスも利用希望しない人が回答]

(1) にほんごの教室

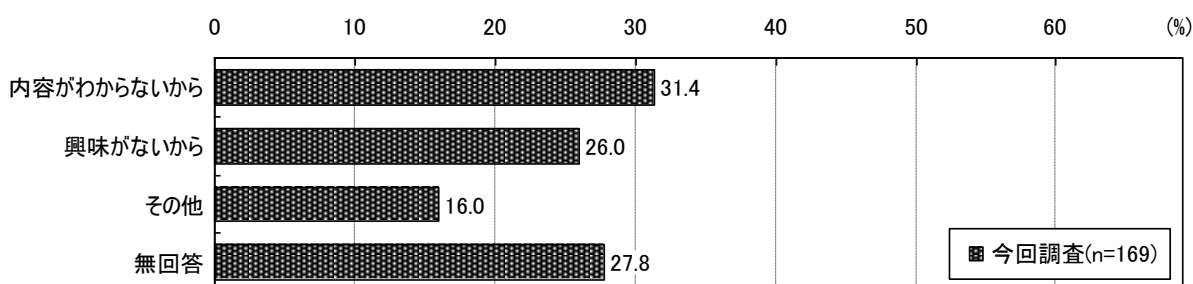


○「興味がないから」が30.4%、「内容がわからないから」が13.9%となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・参加する時間がないから。(8)
- ・必要がないから。(7)
- ・家から遠いから。(4)
- ・オンラインクラスに参加する。(2)
- ・すでに職場で授業を受けている。
- ・初級クラスはレベルが低すぎる。
- ・吹田市で日本語教室をしている。
- ・交流センターで何の活動があるのかわからない。
- ・日本語教室の情報がわからない。(7)
- ・日常生活に困っていない。(5)
- ・日本で生まれ育ったから。(4)
- ・自宅で勉強(2)
- ・Koraboで日本語を学ぶ。
- ・駐車場がないため。
- ・日本語が下手
- ・利用しない。

(2)相談サービス

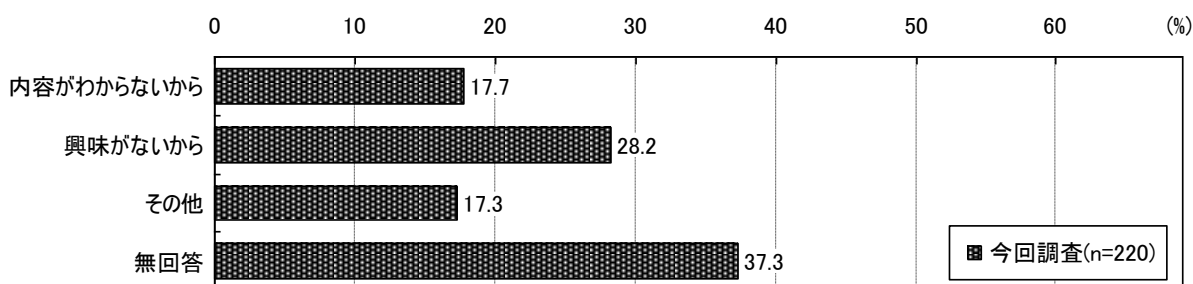


○「内容がわからないから」が31.4%、「興味がないから」が26.0%となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・必要ないから。(13)
- ・相談する相手がいる。(2)
- ・日本語が下手なので。
- ・自分で必要なサービスを探すことができる。
- ・家族は日本語が話せるので、特に不自由はない。
- ・忙しくてなかなか行けない。
- ・知らなかったから。(4)
- ・家から遠いから。(2)
- ・必要な時に相談する。

(3)外国にルーツをもつ子どもの活動

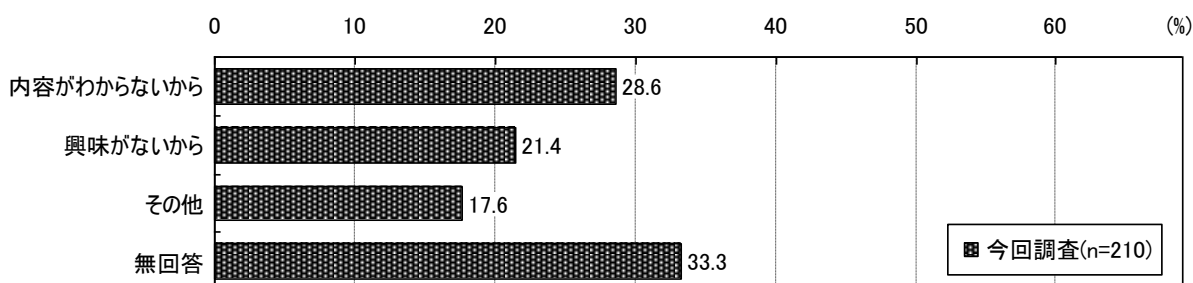


○「興味がないから」が28.2%、「内容がわからないから」が17.7%となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・子どもはいない。(9)
- ・知らなかったから。(6)
- ・必要がないから。(5)
- ・家から遠いから。(3)
- ・忙しくて時間がないから。(3)
- ・できるだけ普通の日本人の子どものように育てたい。(2)
- ・子どもが母国語でオンライン学習に参加できる年齢になったから。
- ・日本で生まれ育ったので、逆に自分の国籍の方に興味がない。
- ・子どもらがあまり興味がない。・妻が活動している。
- ・娘と妻は日本語を話したり書いたりする。
- ・孫が勉強を始めたり保育園に入ったら活動にも参加したい。
- ・カンビットゲームを行う。・チャットルーム
- ・市外に知り合いがいる。

(4)外国人向けのセミナーなどのイベント

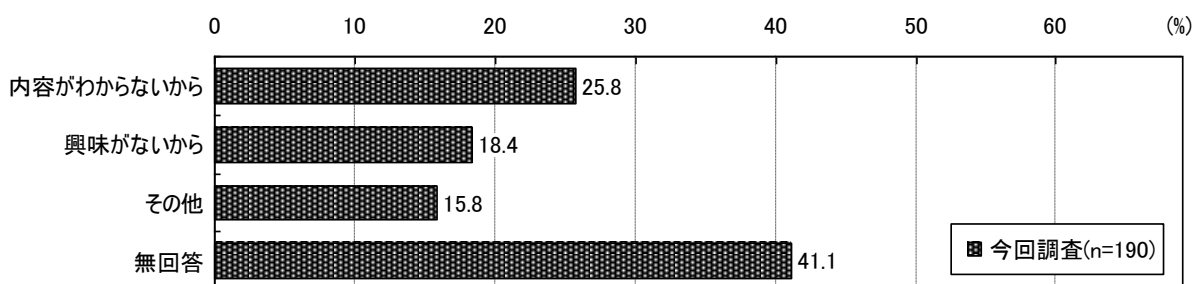


○「内容がわからないから」が28.6%、「興味がないから」が21.4%となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・忙しくて時間がないから。(8)
- ・必要がないから。(8)
- ・知らなかったから。(7)
- ・家から遠いから。(4)
- ・参加している。(2)
- ・いずれは必ず行くつもり。
- ・人見知り
- ・自分で調べるのが好き。
- ・必要な時だけ。
- ・あまり気にしない。
- ・COVID-19の影響でグループでの集まりは避けている。
- ・コラボセンターで提供するサービス。

(5)その他のイベント

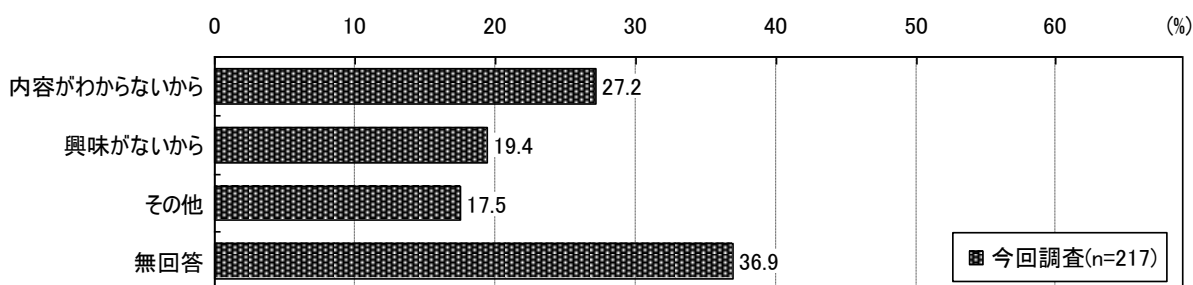


○「内容がわからないから」が25.8%、「興味がないから」が18.4%となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・忙しくて時間がないから。(9)
- ・知らなかったから。(6)
- ・必要がないから。(5)
- ・家から遠いから。(4)
- ・千里中央から遠い。
- ・機会はない。
- ・お祭りに参加できたら嬉しい。とても興味がある。

(6) イベントの案内やお知らせ

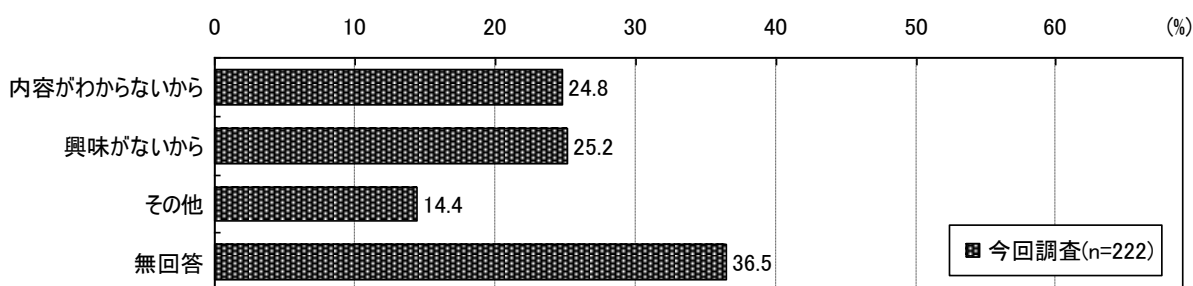


○「内容がわからないから」が27.2%、「興味がないから」が19.4%となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・忙しくて時間がないから。(7)
- ・知らなかったから。(5)
- ・必要がないから。(5)
- ・家から遠いから。(4)
- ・子どもの学校からもらうから。
- ・インターネットで見ることができるから。
- ・行かない。
- ・別にいらぬ。
- ・もらったことがない。
- ・外国人活動
- ・通り過ぎりの看板で常にイベントをチェック。

(7) センターにおいてある新聞、雑誌、パンフレットなど



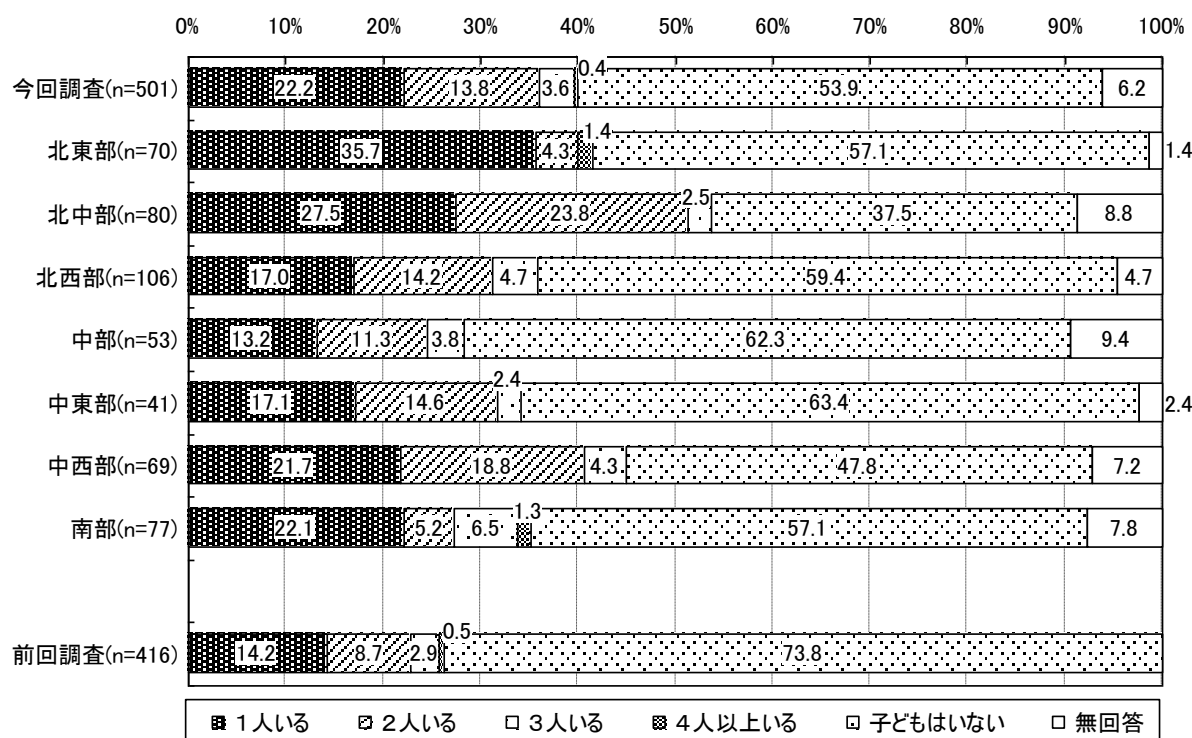
○「興味がないから」が25.2%、「内容がわからないから」が24.8%となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・知らなかったから。(6)
- ・必要がないから。(4)
- ・家から遠いから。(4)
- ・忙しくて時間がないから。(3)
- ・日本語が下手なので。(2)
- ・インターネットで見ることができるから。(2)
- ・他から日本語の情報を得られるから。
- ・豊中市の広報が自宅に届く。
- ・センターに行ったことがないから。
- ・ふだんは行かない。

5 子育て・教育・学校について

F-Q39. あなたは一緒に住んでいる家族に18歳までの子どもがいますか。
(1つ選んでください)



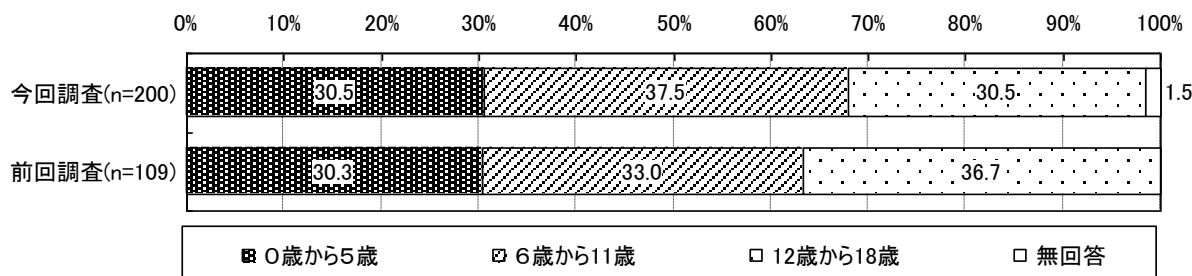
- 18歳までの子どもがいる人は40.0%で、「1人いる」が22.2%、「2人いる」が13.8%などとなっています。
- 居住地域別にみると、子どもがいる人が多い地域は、北中部（53.8%）や中西部（44.8%）、少ない地域は中部（28.3%）などとなっています。
- 前回調査と比べると、18歳までの「子どもはいない」が大きく減少し、子どものいる家庭が増加する結果となっています。

F-Q39-1. 子ども（2人以上いる場合は一番上の子ども）について、それぞれあてはまるものを1つ選んでください。

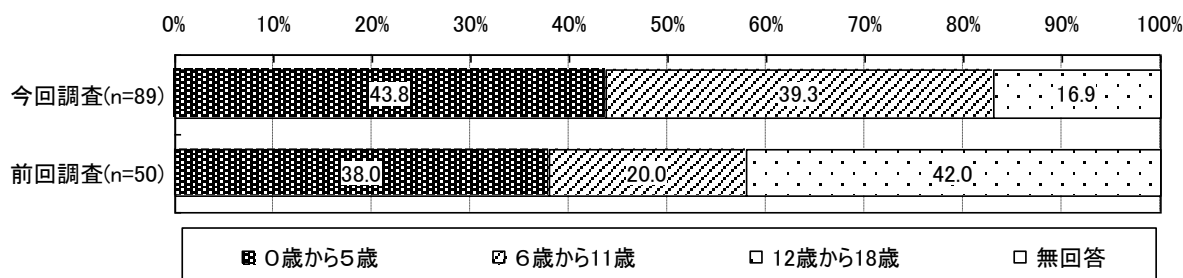
[F-Q39 一緒に住んでいる家族に18歳までの子どもがいる人が回答]

(1)何歳ですか

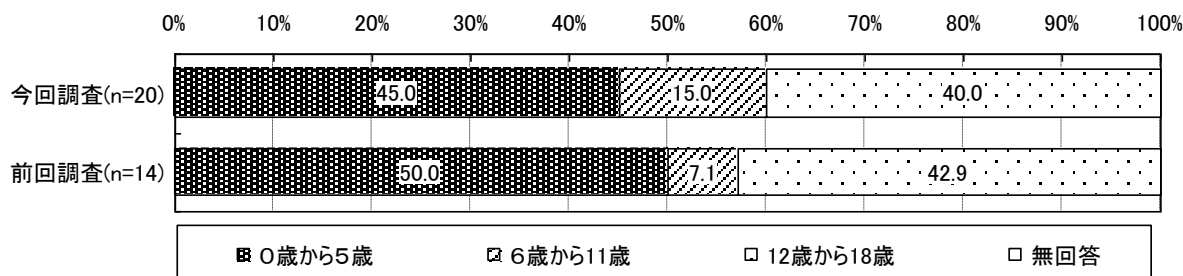
■ 1人目の子ども



■ 2人目の子ども



■ 3人目の子ども



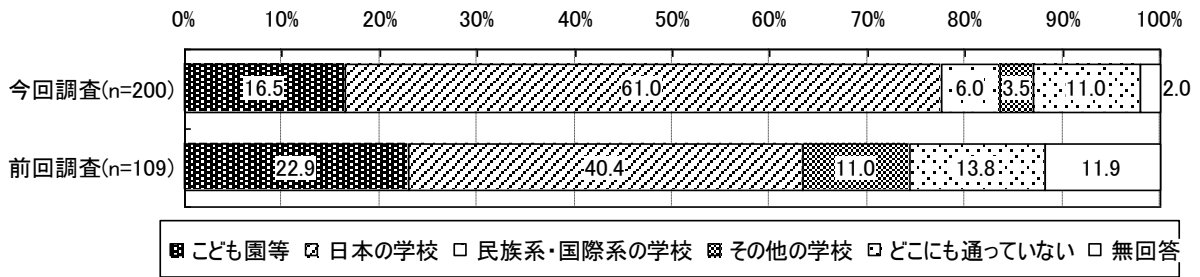
※ 4人目の子どもは2件のみのため割愛

○ 1番上の子どもの年齢については、各年代ほぼ均等になっています。2人以上子どもがいる家庭でも概ね11歳以下の年齢が7割ほどを占めています。

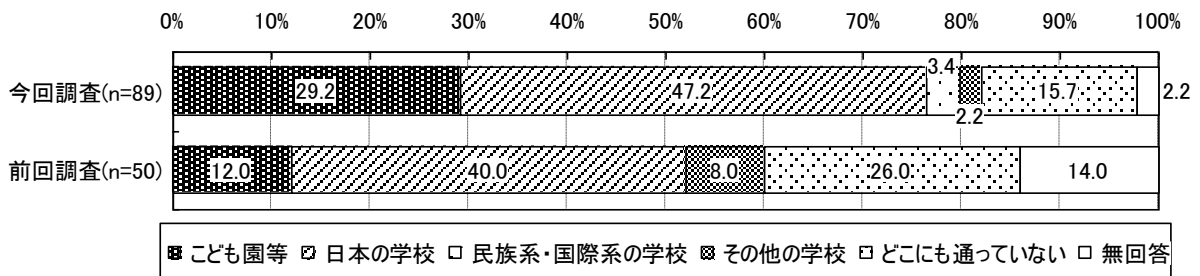
○ 前回調査と比べると、上から2番目の子どもで、「0歳から5歳」「6歳から11歳」の占める割合が増加し、若年化の傾向がうかがえます。

(2) 今どこへ通っていますか

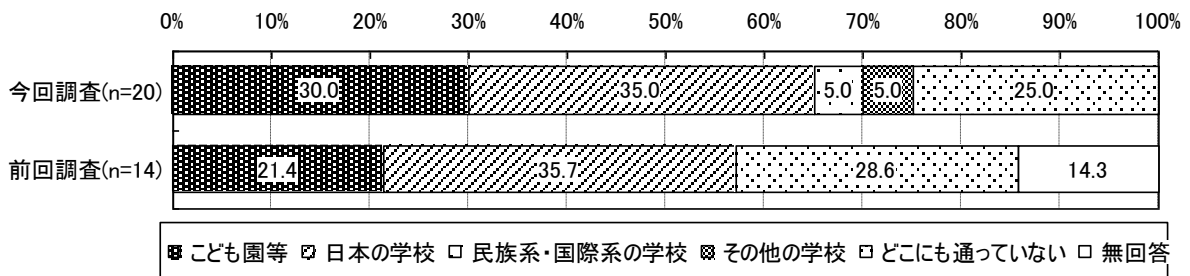
■ 1人目の子ども



■ 2人目の子ども



■ 3人目の子ども



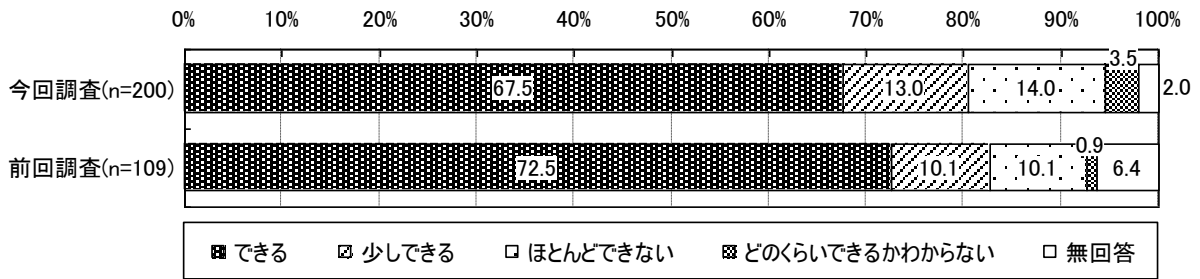
※ 4人目の子どもは2件のみのため割愛

○ 1番上の子どもの通い先については、「日本の学校」が61.0%と最も多く、次いで「子どもの園等」が16.5%、「どこにも通っていない」が11.0%などとなっています。上から2番目以降の子どもについても概ね傾向は変わりません。

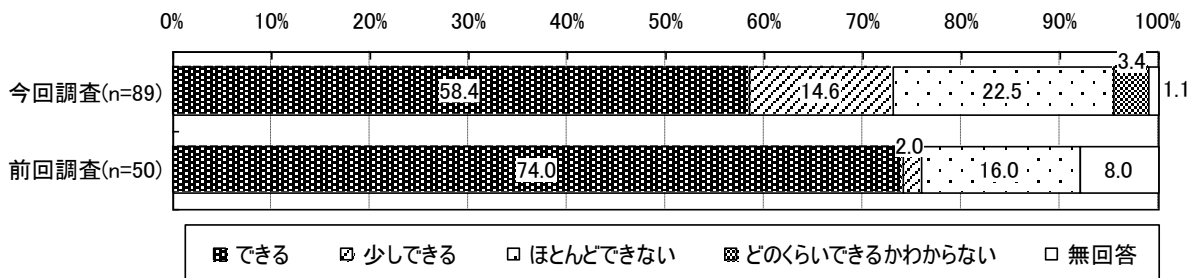
○ 前回調査と比べると、「日本の学校」の占める割合が増加しており、上から2番目の子どもでは「子どもの園等」が大きく増加する結果となっています。

(3) 子どもは日本語ができますか

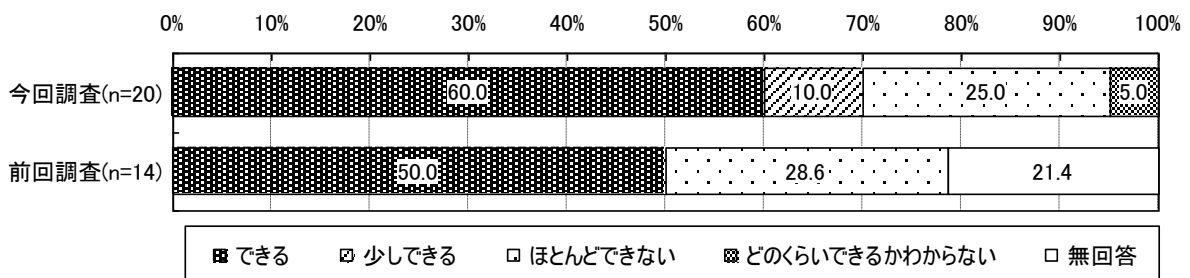
■ 1人目の子ども



■ 2人目の子ども



■ 3人目の子ども



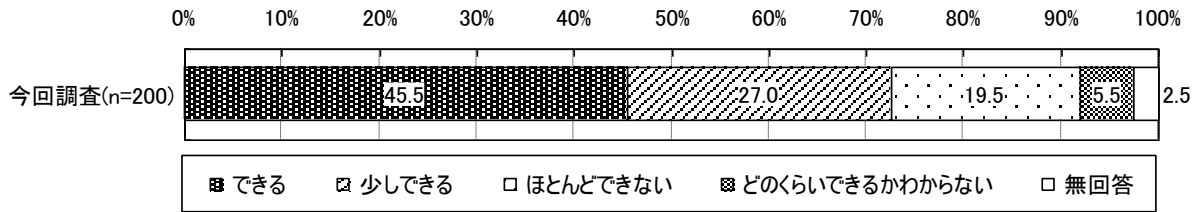
※ 4人目の子どもは2件のみのため割愛

○ 1番上の子どもが日本語ができるかについては、「できる」が67.5%と最も多く、次いで「ほとんどできない」が14.0%、「少しできる」が13.0%などとなっています。上から2番目以降の子どもについては「ほとんどできない」の占める割合が多くなっています。

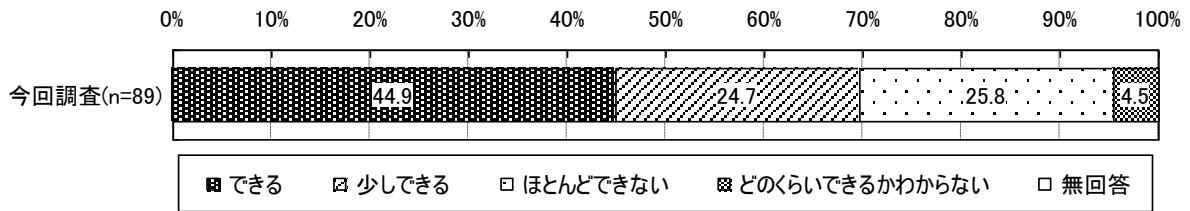
○ 前回調査と比べると、日本語ができる割合が減少しており、上から2番目の子どもでは「できる」が大きく減少する結果となっています。

(4) 子どもは母語ができますか

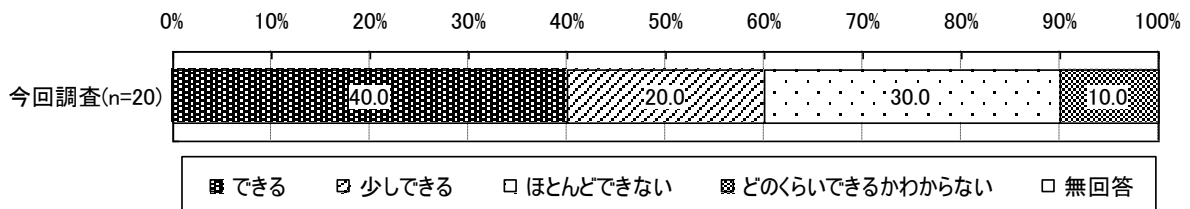
■ 1人目の子ども



■ 2人目の子ども



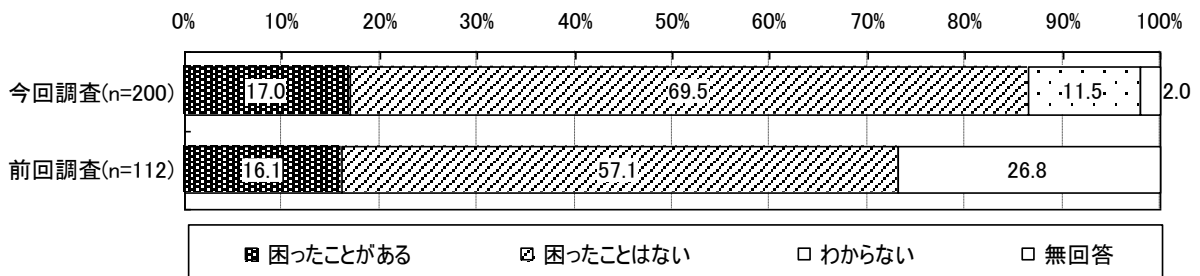
■ 3人目の子ども



※ 4人目の子どもは2件のみのため割愛

○ 1番上の子どもが母語ができるかについては、「できる」が45.5%と最も多く、次いで「少しできる」が27.0%、「ほとんどできない」が19.5%などとなっています。上から2番目以降の子どもについても概ね傾向は変わりません。

F-Q39-5. 子ども自身が学校のことで何か困っていることはありますか。(1つ選んでください) [F-Q39 一緒に住んでいる家族に18歳までの子どもがいる人が回答]

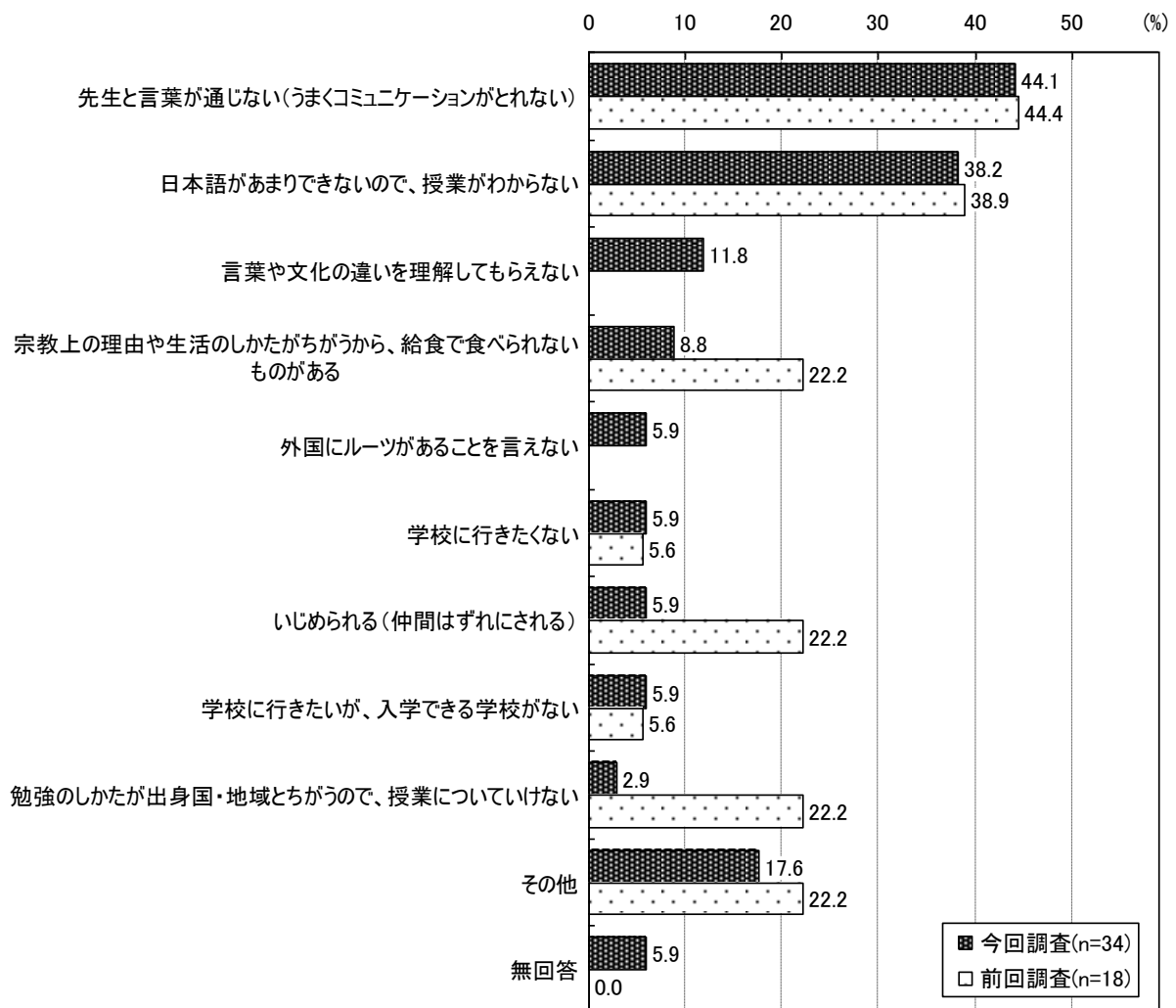


○ 家族に18歳までの子どもがいる人に尋ねたところ、17.0%の子どもが学校のことで「困ったことがある」と回答しています。

○ 前回調査と比べると、「困ったことはない」が増加する結果となっています。

F-Q39-5-1. 子ども自身が困っていることは何ですか。(いくつでも選んでください)

[F-Q39-5 子ども自身が学校のことで困っていることがある人が回答]



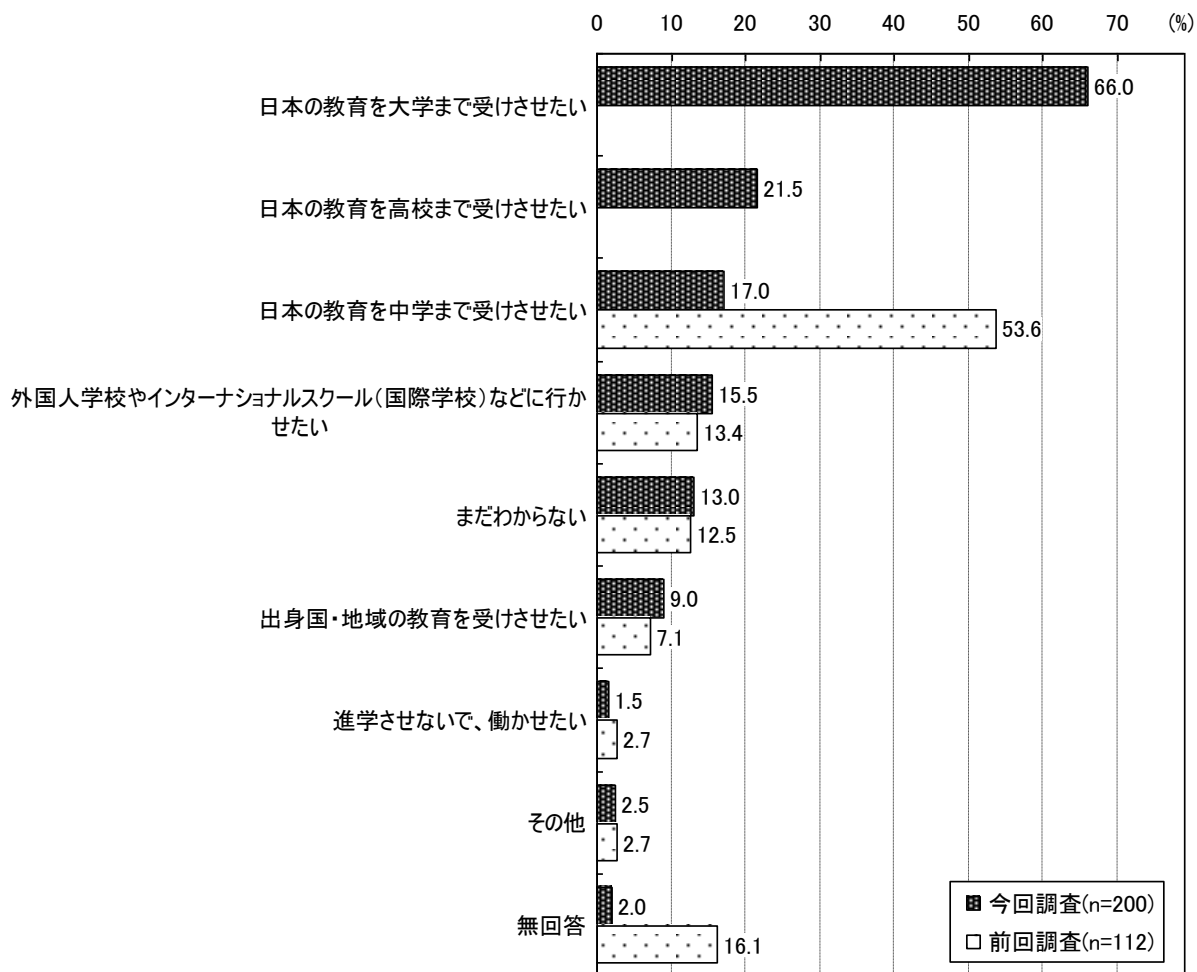
○子ども自身が学校のことで困っていることがある人に子ども自身が困っていることは何か尋ねたところ、「先生と言葉が通じない(うまくコミュニケーションがとれない)」が44.1%と最も多く、次いで「日本語があまりできないので、授業がわからない」が38.2%、「言葉や文化の違いを理解してもらえない」が11.8%などと続いています。

○前回調査と比べると、「宗教上の理由や生活のしかたがちがうから、給食で食べられないものがある」「いじめられる(仲間はずれにされる)」「勉強のしかたが出身国・地域とちがうので、授業についていけない」などで大きく減少する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・先生が特別視する。
- ・日本人と同じ宿題をやらないと成績表をもらえない。
- ・まだ子どもたちに慣れていないため少し難しい。
- ・自閉症の疑いあり。

F-Q40. あなたは、子どもの次の進路について、どのように考えていますか。
 (いくつでも選んでください)

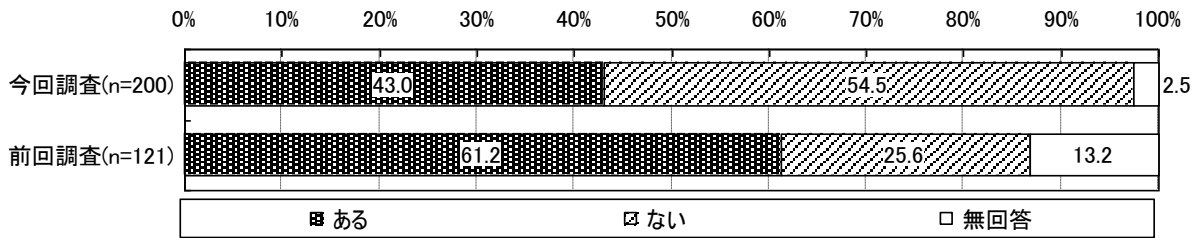


○「日本の教育を大学まで受けさせたい」が66.0%と最も多く、次いで「日本の教育を高校まで受けさせたい」が21.5%、「日本の教育を中学まで受けさせたい」が17.0%などと続いています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・自分(子ども)が決定

F-Q41. 子育てや教育・学校のことで、困る（困った）こと、心配する（心配した）ことがありますか。（1つ選んでください）

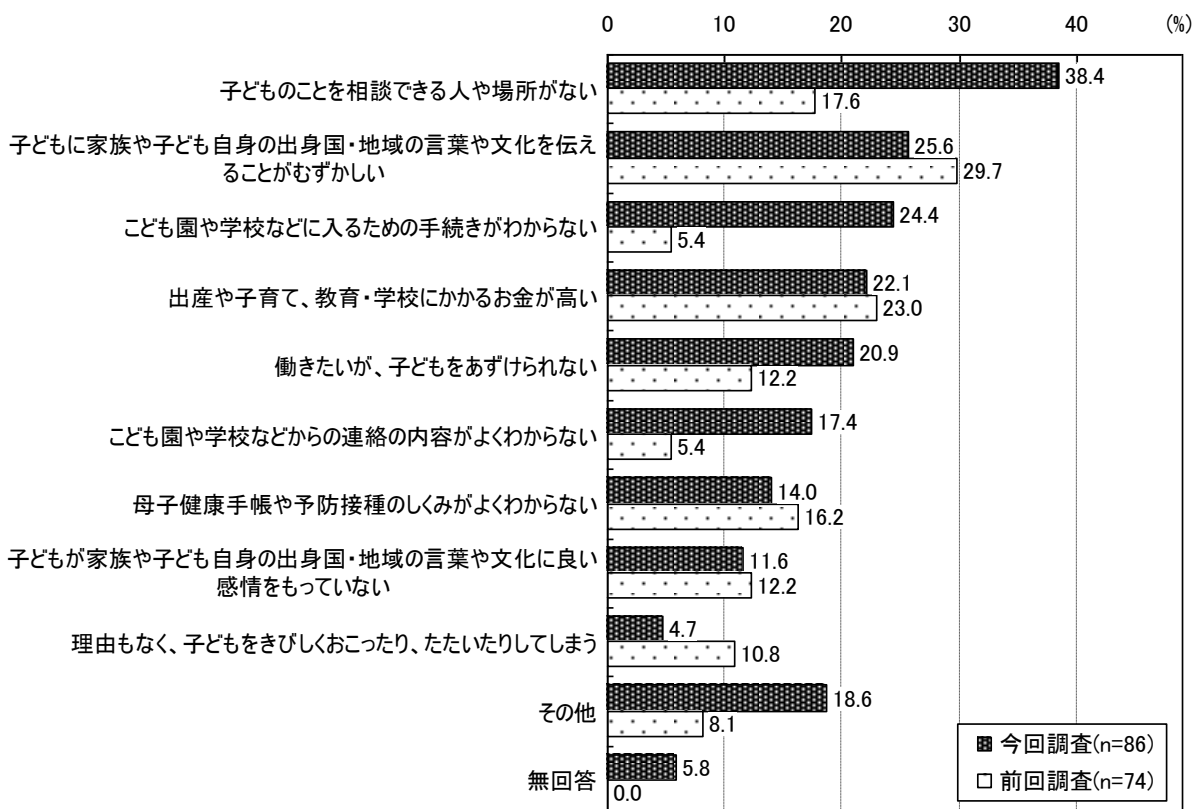


○43.0%の人が子育てや教育・学校のことで困りごとが「ある」と回答しています。

○前回調査と比べると、「ない」が大きく増加する結果となっています。

F-Q41-1. 困ったことや心配したことは何ですか。（いくつでも選んでください）

〔F-Q41 子育てや教育・学校のことで困りごとがある人が回答〕



○子育てや教育・学校のことで困りごとがある人に困ったことや心配したことは何か尋ねたところ、「子どものことを相談できる人や場所がない」が38.4%と最も多く、次いで「子どもに家族や子ども自身の出身国・地域の言葉や文化を伝えることがむずかしい」が25.6%、「こども園や学校などに入るための手続きがわからない」が24.4%、「働きたいが、子どもをあずけられない」が20.9%などと続いています。

○前回調査と比べると、「子どものことを相談できる人や場所がない」「こども園や学校などに入るための手続きがわからない」「働きたいが、子どもをあずけられない」「こども園や学校などからの連絡の内容がよくわからない」などが大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・進路に関する情報がない。(2)
- ・子どもの学校のことを相談しても何もしてもらえない。
- ・進学や教育のシステムが詳しくわからない。
- ・共働きだが一時でも預けられる相手がいない。
- ・徒歩40分の保育園に通っている。園も職員もとても気に入っているが、なぜもっと近い園に入れなかったのか。
- ・本名を使うことで北朝鮮の人に見られて名前でいじめられる。
- ・中学の時に一部の子に韓国人キモいなどと発言している人がいた。小学校に行く前の就学通知のようなものは届かず市役所に申請しに行ったのは寂しい気持ちになった。
- ・歴史の勉強で子どものことの配慮を頼むべきかいつも悩む。
- ・子どもが日本語についていけるか心配。
- ・日本語がうまく話せないので子どもの宿題を手伝うことができない。

6 自由記述意見

F-Q42. 豊中市に住む、いろいろな国籍・文化・生活習慣をもつすべての市民が、暮らしやすいまちをつくることについて、あなたがふだん考えていることを自由に書いてください。

○回答フォーム末尾の自由回答意見には179人の方から記述がありました。

【多文化共生への意識について】

- ・日本人も外国人も垣根なく自由に安心して暮らせるまちを望んでいます。
- ・日本の文化や伝統を尊敬しながら国籍関係なし、だれでも暮らしやすいまちをつくること。
- ・異文化間の理解は、直接影響を受ける人たちだけでなく、すべての人にとって重要だと思います。
- ・お互いの尊重
- ・自然を大切し、周りの人たちと仲良くして永遠に平和な生活を送りたい。
- ・耳を傾け、可能であれば妥協する。
- ・良き隣人、良き市民であること、日本文化のおもてなしの心を大切にすること。
- ・豊中は多くの外国人が住んでいる都市であるため、文化は非常に多様です。快適な生活環境を持つためには、各人が地元の規則と規制に従う必要があり、同時に他者の文化を尊重し、築き上げ、友好的 - 連帯 - 愛を築く必要があります。
- ・日本人と外国人がうまく共存していくことは、いくつかの要素で双方にメリットをもたらすのではないかと考えています。
- ・人の容姿を持てはやすのではなく、世界に存在する文化の違いを知ること。
- ・非常にありがたい考えです。機会があればぜひ協力したいと思います。
- ・私は引っ越ししてきたばかりで、まだまち街や背景をよく知らないのですが、日本語を第一言語としない友人たちが、どんな場面でもそれなりに助けられるようになればいいなと思います。
- ・このプロジェクトはいいアイデアだと思う。豊中に住んでいる外国人はみんなハッピーになるし、地域の良いサポーターになれると思う。
- ・自由に暮らしていく。

【偏見・差別について】

- ・オールドカマーの外国人の人権が脅かされることがあり、これに対して取組みをしてほしい。
- ・好きで日本に韓国人として生まれてきたわけではないのに、やはりいつまでも韓国という国籍で人柄や決めつけをする方が多いのが現状だと思います。生きづらいと私は思うので通称名で韓国人ということをして隠して生きてます。そんな方も多いと思うので、国籍や文化の違いで生きづらい世の中にならなくていいなと思います。

- ・差別をしないこと。どこの国とかの前に一人の人間です。一人の人間としてみんなが気持ちよく暮らせることは理想ですがいろんな考えの人がいます。考えの押し付けも良くないかなとも思う。
- ・外国人への偏見をなくしたい。
- ・いじめなかったらいいですね。仕事でもいじわるする人とやっているとつらいですね。
- ・どんどん国籍を超えてるように感じるが、自分から外国籍だというのはまだまだはばかれる、人によっては無意識に差別すると思うから、もっと時間が経つと良いと思う。
- ・差別をすることが自分を否定することだと思います。
- ・豊中市のすべての学校が、差別や学校いじめのない、すべての生徒を平等に扱うようになり、そのための行政の取組みが強化されることを期待します。
- ・差別がないといいのですが。
- ・外国人を差別することをやめてください。日本の国づくりや発展のために働きに来たから。
- ・私や外国人のみんなが日本人から差別されないように、偏見なしで尊重してほしい。
- ・いい人も悪い人もどこにでもいるし、最近悪い人が増えたけど外国人を差別しないでほしい。
- ・誰もが平等に扱われるべき。
- ・豊中市に限った問題ではないですが、非常識な外国人が多いです。私自身中国出身ですが、真面目に日本で働いていますし、頑張って日本に適應しようとしています。そのような方たちと同じ目で見られるのが非常に不愉快です。何かしらの措置を求めます。

【外国人向け情報提供について】

- ・国際交流や地域のイベントなどすぐ参加できる活動があれば、わかりやすい案内チラシがあれば、都合に合わせて参加できると思います。また、日本は地震や台風が多くて避難情報や防災情報について、もっと知らせていただければ助かると思います。
- ・日本の小中高校に通ったことがないので、日本の学校のことは詳しくわからないことが多いです。子どもが小学入学の時期、日本人の親にとって当たり前のことですが（例えば、子どもが授業で使う制作材料の準備（やり方）、入学用品の準備など）、外国人の親には、学校のお知らせははっきり説明や案内してくれないと、用意できません。または、間違えます。そうすると、子どもが恥ずかしくなります。子どもの進学や進路について、情報が少ないです（内申点などのことはあまりわかりません）。そういう情報を手に入れるのも苦労しました。
- ・豊中市は日本人や外国人への情報発信にとっても積極的です。豊中市は英語・外国語のガイドラインもあり、とても助かります。
- ・学生時代の子もたちにとって一番大切なのは、教育に関わるあらゆる情報です。しかし、その情報がほとんどない、あるいは入手方法がわからない。私自身は、雇用、税金、医療、年金について最も関心があるが、これらの情報はどこで知ることができるのだろうか。外向的な人間でなければ、情報にアクセスできないようです。

- ・ 日本文化と外国文化の架け橋となる試みは、とても良いことだと思います。私の母国では、外国の習慣や文化を受け入れることに多くの不安がありますが、私たちは皆、同じように心を開く必要があると思います。
- ・ まずは外国人を支援するグループのことを外国人に知らせる必要があると思う。ほとんどの人がそれを知らない状態だと思うので。
- ・ ご質問ありがとうございます。豊中には外国人が多く住んでいると聞いていますが、私の個人的な経験では、普段は外国人に会うことはありません。国際交流センターに興味はあるが、その機能や活動に関する情報を知らないで、まだ出会っていない。今後は、より多様で広範囲な活動が行われ、その情報が本当に外国人コミュニティに届くようになることを期待しています。
- ・ 豊中市は外国人のためのサービスがたくさんありますが、お知らせは日本語だけです。できれば英語でお知らせがあればよいと思います。無駄にはなりません。
- ・ 交流センターからお知らせをもらっています。
- ・ 国際交流センターからのお知らせが来るので便利です。
- ・ 交流センターのお知らせがもっとあればよい。

【多言語での対応について】

- ・ 市役所の英語対応、とても助かります。
- ・ 市役所で英語でコミュニケーションをとるのは素晴らしいことです。
- ・ 国際色豊かな環境で、市役所には毎日通訳がいます。
- ・ 全体的に良い。お祭りなどのイベントをもっと英語で案内してほしい。日本語が不自由なため、話しかけられない（話しかけようとしな）ことがあります。日本人との距離を感じることはよくありますが、全体的には問題ありません。
- ・ 市内に外国語の看板や案内板を増やすと良いと思う。
- ・ 外国人に開かれたまちであることは評価できる。街は安全です。英語の看板をもっと増やしてほしい。
- ・ 外国人向けの情報をもっとわかりやすく。
- ・ 英語でのガイドラインや英語版の書式（税金、健康保険、年金など）があると助かる。
- ・ 市役所などの公共サービスの場で、外国語を話せるスタッフを導入してほしい。スタッフは、日本語が話せる外国人であれば、外国人の雇用にもつながると思う。
- ・ 基本的な英語、韓国語、中国語とただでなく、もっといろんな国の言葉を増やしてほしい。
- ・ ポルトガル語で書かれたものを増やしてほしい。
- ・ 豊中市の情報などについてベトナム語の冊子をお願いしたいです。
- ・ 出入国管理局や市役所などでベトナム（語）専門の部署があったら助かります。私たちにとってありがたいことです。
- ・ 確定申告、保険、年金の計算が心配です。日本語以外の言語での情報が少ない。それが今の悩みです。
- ・ 広東語を話せるスタッフの通訳を増やす、繁体字の漢字を増やす、外国人向けのアク

ティビティを充実させるなどしてほしい。

- ・香港や台湾の人たちのために、もっと繁体字を増やしてほしいです。そして、香港と中国が同じではないことを明確にするために。
- ・通訳もつけてほしい。
- ・日本は素晴らしいところです。英語がもっと普及すれば、アジアで一番住みやすい国になると思います。リタイアメントビザを導入して富裕層を呼び込めば、日本の経済にも良い影響があるはずです。
- ・日本語で書かれているので、市役所からどのような書類が届くのかわからない。
- ・母国で見せてもわかるように、市役所などでも英文証明書を出してもらいたい。
- ・役所や公共施設、銀行などのパンフレットに多言語で翻訳してもらえると助かります。
- ・英語の学校、ヒンディー語（インド語）が必要。
- ・外国語図書をもっと充実させるべき。さらに、電子書籍や電子オーディオブックを提供することで、開館時間内に来館する時間がない外国人コミュニティを適切にサポートすることができる。すべての公務員に国際・異文化研修を義務付け、ハラスメント行為を行った者には、正当な不利益を与えるようにすべきです。また、英語は義務教育の必須言語であることから、公務員には英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの能力試験を義務づけるべきではないでしょうか。日本語が通じない相手には、語彙や文法が乏しくても、第二言語であることがわかるまで、日本語しか使いません。そのうえで、他の言語が好きかどうか聞いてください。英語と決めつけないでください。それは嫌な人種差別的な考えです。もし、その言語で手助けができないのであれば、日本語で、子供に話すように簡略化して、身振り手振りを交えて話し続けましょう。怒鳴ったり、声を荒げたりしない。もっとゆっくり話して、文法は崩さない。シンプルな文法で。違いがあります。アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダの非白人によって書かれたあらゆるものを読んでみてください。世界には人種差別と偏見の長い歴史があり、多くの人々が権力者である民族や言語集団の教育のために多くの仕事をしてきました。彼らから学んでください。
- ・以前は姫路市に住んでおりました。私の両親は日本語ができないので通訳として学校を休みがちになり、在日2世の子どもたちがそのようなことで学校を休まなくても良いように通訳の方がいらっしやれば良いなと思っておりました。現実問題なかなか難しいですが、今の時代ですと翻訳機能などを使用したりもできるので、市役所職員の方々にも柔軟に対応いただけたらと思います。

【日本語学習について】

- ・外国人が日本語を学ぶ方法がもっとあればいいと思います。
- ・学校で日本語がわからない生徒が毎日勉強できるように、簡単な日本語や英語でのクラスを作ってほしい。
- ・外国人が気軽に参加できる日本語教室・日本文化教室があれば、もっと良くなると思います。
- ・日本語を勉強できるクラスのことはどこへ連絡したらいいですか。

- ・外国人のための日本語教室を開く。
- ・子どもが来日して1年ほど経ちますが、日本語があまり上手ではないので、希望する高校に入れるかどうか心配です。
- ・日本語を話せるようになりたいので、とよなか国際交流センターの日本語教室に通いたいのですが、子どもがまだ6か月なのです。日本語の授業に参加することは可能ですか？
- ・長期で働ける適切な仕事を見つけたいです。より良い生活をするため、日本語をがんばります。
- ・日本語を知らない子どもたちにホームステイの機会を提供し、一日も早く言葉を習得してもらいたい。
- ・日本語を勉強したくても保育園に預けられない小さな幼児を持つ子育て中の親への支援は、もっとあっていいと思います。保育所に入る前の数年間を、日本語を本格的に学び、保育所に子どもを預けて良い仕事に就くために効率的に使うことができれば最高だと思います。読んでくださって、本当にありがとうございます。
- ・文化やライフスタイルの面で、さまざまな国籍の人たちが集まってくるという企画は、とても良いことだと感じています。資料が届くまでこの国際交流センターのことは知りませんでした。とても良いところなので、ぜひ参加したいと思います。早く先生の日本語教室に参加して、自分の能力を必要としている人たちのために役立てたいです。
- ・日本語でコミュニケーションが取れること。
- ・日本語でコミュニケーションをとるためのリラックスできる活動をしたい。
- ・日本語が必要です。(2)
- ・日本語に困っています。
- ・日本語で話したいです。
- ・日本語学校が必要

【交流活動について】

- ・国際交流センターは、とても思慮深く、よく運営されていると思います。
- ・国際交流センターの相談やサービスを長く受けています。ありがとうございます。
- ・日本には多くの文化や言語の交流活動があります。
- ・外国人同士が情報交換や学習体験をするためのグループや活動もある。
- ・皆が参加しやすいイベントの開催。
- ・交流会に参加してみたいです。
- ・現地の活動などに参加したい。たくさんの友だちができてほしいです。
- ・幅広い交流活動により、温かい地域をつくるのが何よりも大事。
- ・無料のものをたくさん増やしてほしいです。例えば、世界各地の文化のものです。
- ・豊中市にはたくさんの外国人が住んでるからこそ、その国の文化を理解し合い、助けあい、情報を共有し、みんながハッピーに楽に過ごせたらいいなと考えてます。
- ・もう少し多文化に触れる機会がもっと増えて異文化交流が盛んになるといいなと思っ

ています。他者理解は直接的な交流を通じてできることかなと思います。学校での多文化交流はこれからの子どもたちにとっても視野を広げる機会をつくってくれるので重要だと思います。コロナが落ち着いたら市民同士でふれあう機会がもっと増えるといいですね。

- ・仕事があるので、土曜日の活動があれば、嬉しいです。
- ・日本人の生活習慣やルールなどを紹介していただければ、外国人はもっと早く日本での生活に馴染むと思います。
- ・豊中市には、宗教的な意味でのモスクのようなコミュニティセンターがあるといいと思います。
- ・豊中に住む外国人の方で、私と同じような趣味を持つ方や、私と同じような新米ママに出会えばいいなと思います。子どもはまだ2歳ですが、豊中で子育てをする上で、地域のコミュニティはとても大切だと思います。ご近所さんや周りの方ともっとつながれたらいいなと思います。今はまだ言葉の壁もあり、なかなか難しいですが。
- ・地域のイベントやボランティアに参加することで、お互いに交流が生まれ、住みやすいまちになると思います。
- ・豊中市でも外国人と地元の人が交流し、お互いの文化を知ることができるような集まりを開催してほしい。
- ・今後、市役所や国際交流センターに登録されている方々と連携し、文化イベントを随時開催していきたいと考えています。
- ・日本人と外国人が自由に交流し、さまざまなトピックについて話することができるお祭りやイベントのような多文化的な活動をもっと増やしてほしい。外国人向けの豊中市のイベント情報をもっと発信してほしい。
- ・近隣住民と交流し、信頼しあい、支えあう。地域のイベントなど、人と人とのつながりを大切にする。
- ・交流のためのイベントがあればいいと思う。
- ・もっとイベントが増えれば、共通の人生を歩む人たちの交流の場、機会が増えるのになと思います。ありがとうございました。
- ・もっと多くの集まりを企画し、より多くの国の人たちと出会いたいと思います。異国の地で孤独にならないよう、もっと多くの集まりを持ち、より多くの国の人と出会いたいと考えています。
- ・もっと異文化との交流イベントを仕掛けていきたいですね。
- ・コロナが一段落したら、生活や教育、就職についてもっと話をしたり、交流したりすることを期待しています。
- ・外国人向けのグループ活動、一緒に料理を作ったり、外出したりすることがあるといいなと思います。
- ・若い日本の外国人が多くの活動をするのは良いことだと思います。
- ・日本人とたくさん交流したい。
- ・外国人に関係なく、または外国人を差別して、常に他の人を助けるために社交的に。
- ・みんなで地域活動に参加し、知りあい、交流し、支えあう。

- ・豊中市に住む外国人へのおもてなし。
- ・2017年3月から住んでいます。もうすぐ6年、人生の1割を占めます。これまで誰とも会う機会がありませんでした。近所に挨拶してくれる人がいない。私の住んでいるマンションでも誰も私とコミュニケーションを取ったことがありません。イベントや社会活動に誘われたことがない。2020年1月にCovid-19が始まって以来、家にいるか、会社に行くかしかしていません。Covid-19に感染するのが怖いので、レストランやバーにも行きません。私もひきこもりと同じなのか、豊中では誰も私に声をかけてくれません。豊中市は住むにも働くにもとても寂しい街です。デートや結婚の機会も、友達を作る機会さえもないのです。
- ・文化交流は国家間で行われるべきです。
- ・フレンドリーな先生のアクティブな生徒。
- ・ライブチャット

【行政からの通知や手続きについて】

- ・市からの郵便を本名で送ってほしいと言ったのにシステム上できないと言われ、通名で送ってくる。家族との関係もあるので通名を残している。本名で送ってほしくない人もたくさんいるだろうが、希望者には本名で郵便を出せるようにシステムや市の考えを変えてほしい。
- ・日本で生まれ育った永住者です。手続きに手間や時間がかかります。親切、丁寧だなと感じるのですが…家に届く市の案内は日本語のみ、ふりがななしで大丈夫です。読みづらく、外国語での案内も不要です。
- ・外国人扱いは仕方ないにしても、外国籍のせいで日本籍の人より小学校入学の通知案内が1か月以上遅れて届き、放課後学級の申し込みが後手に回って非常に迷惑だった。また、入学手続きのためにわざわざ市役所に出向かされる屈辱もあった。働いているから平日に時間を割きたくないのに、市役所に出向かざるを得ない。目的を聞くと、窓口の人は、日本語のわからない人を基準とした対応であり、外国籍で生きてる私たちは窓口に出頭する責任が生じるとの見解で、何十年もこのシステムだと言い放った。市役所の一辺倒の対応に付き合わされる現状は、いつになれば変わりますか。多文化共生アンケートに、永住権者の不自由も知ってもらいたい。入学手続きに日本語案内が不要な人については、不要で同意するなどの書類を作成し、市役所に出向かずとも良いシステムの構築を望む。窓口に出てきた、眼鏡の50代前後の女性の、共感する姿勢のない態度を一生、忘れない。
- ・24時間対応の緊急連絡窓口を設けてほしい。できれば大使館へのリンクがあるとよい。
- ・外国人が日本人と同じように給付金などをもらえるかどうかかわからず、しょっちゅう思案しています。
- ・豊中市からたくさん書類を送らないでください。

【参政権について】

- ・外国籍の市議会議員待遇の人材の登用。議会での質疑応答権を持ち議員と同様資格を持

つ人材の採用。

- ・選挙権を持つ権利。
- ・多文化共生をより豊かなものにするため、地方参政権の実現を願っています。

【国籍や帰化について】

- ・帰化の手続きの簡素化。
- ・在日で生まれ育ち、私自身ルーツを知りたい思いもありハギハッキョへの参加を中学までしてきました。同胞の友だちもでき、今もおつきあいがあります。生活していく中で、韓国人としての肩書きが重く感じることもあり、今は子どものために帰化も考えています。子どもは日本国籍の選択をしています。私が韓国籍なことも伝えていません。学校、社会人として韓国籍である負担は持たせたくないし、選挙権がないこと、本名で記入させられる書類を見るたびに憂鬱になるからです。学生時代とその後の今の感覚では韓国籍に対して想いが変わりました。韓国語も話せないのも、メリットもなく、なんとなく親から受けた文化を否定してしまいます。日本で生まれ育ちこれからも生きていきます。私には韓国籍はメリットもなく不要です。

【医療や保険について】

- ・もっと遅い時間まで受診できるクリニックや病院があれば、休みを取らずに子どもの医療対応ができるじゃないかと思っています。
- ・セキュリティシステムや医療制度をよりよく整備してほしい。
- ・covid-19の2回目の助成が受けられなかったのはなぜですか。

【経済的な支援について】

- ・豊中地区に住む外国人が生活しやすいように、少しでも経済的な支援をする。新社会人として新生活を始めるには少しのお金が必要だからです。ありがとうございました。
- ・すべての外国人が経済的な支援を受けることはできないのでしょうか？
- ・私たちのビジネスの成長を助けてください。
- ・日本円の価値を上げてほしい。円安で貯金もできていないし、毎日の生活も困っています。
- ・日本がインフレを克服し、税金を削減し、円の価値を高めることができることを願っています。
- ・政府には技能実習生の税金や保険料を減らしてほしい。
- ・仕事がみつからない。
- ・物価が高い。
- ・外国のレストランにも来てほしい。

【豊中市の住みやすさについて】

- ・住みやすい街だと思う。
- ・住みやすい都市でよかったです。

- ・豊中市は住みやすいまちだと思う。
- ・豊中暮らしは住みやすいと思う。都会ではないけれど、田舎でもない。交通の便も良い。
- ・豊中市はとても住みやすく、多文化交流されていることは本当に困っている方々にとっては救いの手であると感じています。皆様の活動を応援しています。豊中市民で良かったです。これからもよろしく願い致します。
- ・豊中市はとても住みやすいところです。引っ越した後も、皆さんとても親切に対応してくださいました。家族も私もとても楽しく暮らしているので、親しみやすく利用しやすい場所になるよう、いろいろと工夫してくださってありがとうございました。
- ・豊中はとても親しみやすく、住みやすいまちで、まだ来て間もないですが、多くのことを感じています。私たちはここが好きだし、子どもたちもここが好きです。私たちの目標は、しっかり働いて、ここで生活し、勉強しようとするものであり、これから先もずっとここにいたいということなのです。
- ・私にとって豊中は住みやすいまちだと思います。周囲も優しい日本人の方が多くて、静かで治安がいいです。
- ・私はまだ半年しか住んでいませんが、豊中の人たちは東京の人たちよりもずっと話しやすく、親しみやすいと思います。ですから、豊中は外国人にとっても住みやすいまちなのではないでしょうか。
- ・豊中市はとてもいいところです。
- ・今のところ豊中市の暮らしに満足しています。
- ・豊中は完璧です。
- ・豊中市は好きです。
- ・非常に良い。
- ・とても良い。(3)
- ・みんなフレンドリー
- ・私はほとんどすべてとここの人々がとても良いと思います。
- ・すでにすべてがかなり良いと思います。
- ・とても便利で、何の問題もありません。
- ・清潔で快適
- ・快適な生活
- ・豊中市は治安が良く、公共施設も充実しており、住みやすい街です。役所のサービスも非常に充実しています。
- ・大丈夫
- ・現在、外国人として豊中で快適に暮らしています。
- ・以前は大阪市内に住んでいましたが、豊中市の方が市役所などのサービスが充実していると感じているので、大方満足しています。
- ・周りの人が優しくて生活が便利だから。
- ・外国人に対する理解や関心が多いことで、過ごしやすい。
- ・多国籍の人々と生活してとても国際化のイメージがある。これはとても大切だと思います。

- ・豊中市には大変お世話になりました。みんなとても親切でフレンドリーでした。私たちは新しい家に本当に歓迎されています！皆様お疲れ様でした！
- ・豊中市は日本で一番安心して暮らせるまちだと思います。市役所の職員、医者、商店など、みんなとても親切です。豊中市は他の都市に比べて、すでに多くの外国人を助けていると思うので、ここに住んでいて本当によかったと思います。他の外国人を助けたり、市の活動にボランティアで参加できるなんて知りませんでした。これからは積極的に参加したいと思います。いろいろとありがとうございました。そして何より、私たちのことを思ってくれてありがとうございました。
- ・日本人の妻と一緒に住んでいますが、とても快適です。
- ・豊中市は安全な街です。しかし、唯一、ヒンズー教の寺院がないのが残念です。
- ・1987年に来日して以来、35年が経ちました。私の家族は全員日本におり、人生の半分を日本で過ごしてきました。日本は私の故郷であり、中国以上に大切な国です。日本が私に与えてくれた快適な生活にとっても感謝しています。
- ・豊中市は静かで美しく、とても気に入っています。また、交流センターの便利さと心遣いにとっても助けられています。
- ・豊中に住んで1年になりますが、豊中のまちや人、自然が大好きで、市役所や交流センター、学校など、周りの多くの人にお世話になり、本当に感謝しています。私は豊中が大好きで、日本が大好きです。
- ・わりと平和で生活できると思われる。
- ・住民のみなさんと仲良く暮らしていますので、何も言うことはないです。(3)
- ・これからもっと発展的な場所になると思います。
- ・みんなが住みやすい地域社会を目指すことは、とても大切なことだと思います。私は南カリフォルニア出身ですが、南カリフォルニアにはいろいろな人がいて、その人たち同士がうまくいっているわけではありません。豊中市は、そして日本全体が、今のアメリカよりもずっと平和な社会を実現していると思います。私は1980年から10回ほど日本を訪れましたが、いつも人々を楽しませてくれました。日本の人々がいるからこそ、日本は住みやすい国になっているのです。もちろん、私は外国人なので、日本の多くの問題は見えませんが、私が見て知っている限りでは、母国アメリカを含むこれまで訪れた40か国のどの国よりも、日本が快適だと感じています。
- ・文明都市
- ・良くなることを祈っています。
- ・福岡県から引っ越してきてまだ1年も経っておらず、わからないことが多いので言えません。道をわからないとかのことではなく住んでみないとわからないことですね。あ！少し馴れ馴れしいしゃべり方が多くて、少し無礼に感じ違和感があります。でも、これも住んでみて判断することなのかなと思っています。それ以外は静かで犯罪もなく良いのかなと思って過ごしています。
- ・皆さんが暮らしやすいまちにしたいと思います。
- ・もっと自然がほしい。
- ・豊中市内にインターナショナルスクールがあればいいです。

- ・豊中市民のレベルは思ったより低くてびっくりです。
- ・子どもが生まれてからは、子どもにとって快適な環境を提供することが難しくなりました。子どものために遊んでくれる人がいないので、いつも場違いに感じます。

【日常生活や困りごとについて】

- ・私が一番願っていることは、日本人のように楽に生活できることです。私自身が外国人なので、適切な家を見つけるのは難しいです（家賃高すぎる、または住みたい場所から遠すぎる）。
- ・家の価格は、私が住んでいた多くの場所に比べてかなり高いです。外国人向けの格安住宅の情報をもっと知りたい。
- ・公園などに大人でも自由に体を鍛える機械を（吊り輪、雲梯など）設置していただければと思います。
- ・豊中駅前に大型複合商業施設があれば、もっと生活が便利になると思います。
- ・まとめて買い物できる場所がない。
- ・大きな公園や遊ぶところがあるショッピングモールを増やしてほしい。
- ・バスの便が少ない。
- ・年齢的に車は持っていませんが日々の買い物、梅田に行くのはとても便利で快適に過ごし感謝しております。でも住んでいる庄内から豊中方面へのバスの本数が減り市役所へ行くのも1時間1本と往復するのに不便になりました。
- ・道が狭すぎて車道を自転車で走るのは危険だと思います。
- ・自転車専用道路を整備してほしい、交通量の多い道路で遊ぶことの危険性をもっと教えてほしい。豊中市は、電話やインターネット詐欺を避ける方法や、一般的なサイバーセキュリティの意識を高めるなど、セキュリティ意識の向上にもっと力を入れるべき。
- ・引っ越してきて最初の週に、車が荒らされ、中身を盗まれた。治安はあまりよくありません。
- ・可燃ゴミを週2回しか捨てられないのは、ちょっと少ない気がします。
- ・ゴミ分別なしにしてほしい。
- ・ゴミの分類方法をもっと詳しく説明してほしい。
- ・私の故郷にある「学園都市」のような地域がほしいです。若者がたくさんいて、おいしいレストランがあって、ライブなどのイベントがあって、夜道を歩いている人たちがいて、楽しい。日本は断片的で、あっちへ行ったりこっちへ行ったりするのに時間がかかる。石橋界限もそうなのですが、学生は関西を離れてバラバラに暮らしているので、24時間365日活気のあるコミュニティという感じではありません。豊中駅周辺もそうですが、歩道が狭くてぶらぶらしにくい。地上は車と通行人のための荒れ地という感じで、コミュニティという実感が無い。もっと自然があればと思う。小さな緑地がどんどんなくなっている。今は春日にホタルの生息地がありますが、徒歩圏内にはそこしかありません。そうでなければ、箕面まで行かないと本当の自然は見られません。川は、ロマンチック街道から171号線、コーナンまでが良いのですが、それ以外の

方向は、徒歩や自転車での移動が不便なのと、水辺に行く手段がないのが残念です。ありがとうございました。また、他の豊中市民がどのような感想を持つか、レポートを楽しみにしています。

- ・ビザが難しい。困っています。(2)

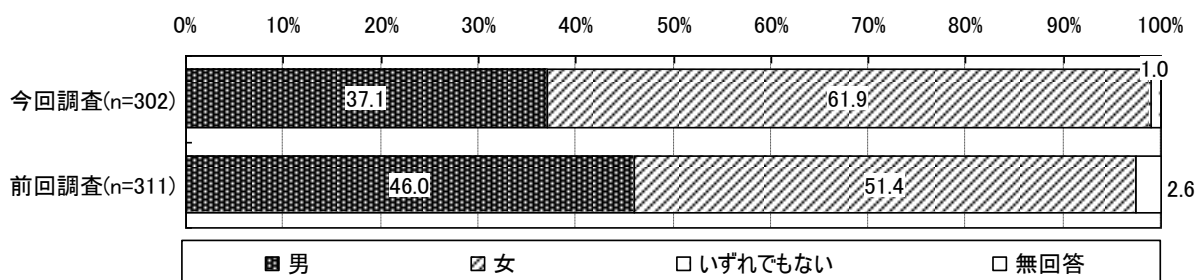
【アンケートについて、その他】

- ・市民の声を聞く絶好の機会です。
- ・永住権のある人は、こういうアンケートを除外してほしい。質問内容が、日本で生まれ育った永住権の人に不適切、かつ、回答したところで豊中市が得たいデータの濃度が薄くなると考える。
- ・このアンケートについて、日本で生まれ育ち日本人の妻を持ち、この地域に住む子どもたちの同級生の親たちと交流したりする私には選択肢に回答のないものがいくつもあった。このアンケートを作った方たちの中には一生懸命やってくれている方もたくさんいるだろうが、適当にやっている方もおられるのではないだろうか。また、自分たちの意図や思い込みなどで選択肢が偏っているものがあるのではないだろうか。外国人のことを考えてくださっている多くの日本人の方にはありがたいと思えるが、もっと広い視野やニュートラルな視点を持って貰いたいと思ってしまったのも現実です。
- ・このような調査は国籍や出身に関係なく、すべての住民を対象に平等に行うべきではないかと思う。外国人の声だけ聞くだけでは単に困っている人たちという前提で扱われている気分になり、快適ではない。
- ・ふりがなをもっと入れる。
- ・アンケートについて、漢字の後ろに振り仮名をしてあり非常に読みにくい、普通の文章より読む時間が倍以上かかります。また、回答に当てにはまらない選択肢がない質問が多いです。
- ・質問の横のかっこでふりがながついて読みにくい。
- ・このアンケートの質問11は問題です。配偶者はいるが、日本人であり、日本で知り合った。そのような選択肢はない。
- ・ありがとうございました。
- ・頑張れ。

IV 日本人市民アンケート調査の結果

1 基本項目

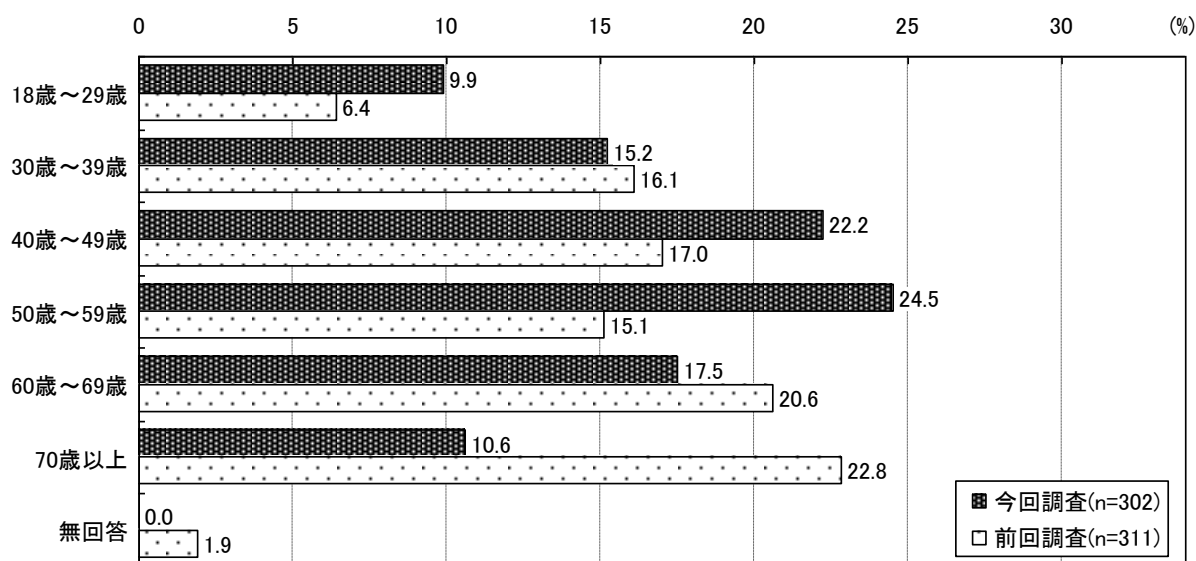
J-Q1. あなたの性別を教えてください。(1つ選んでください)



○「女性」が61.9%、「男性」が37.1%となっています。

○前回調査と比べると、女性の回答が増加しています。

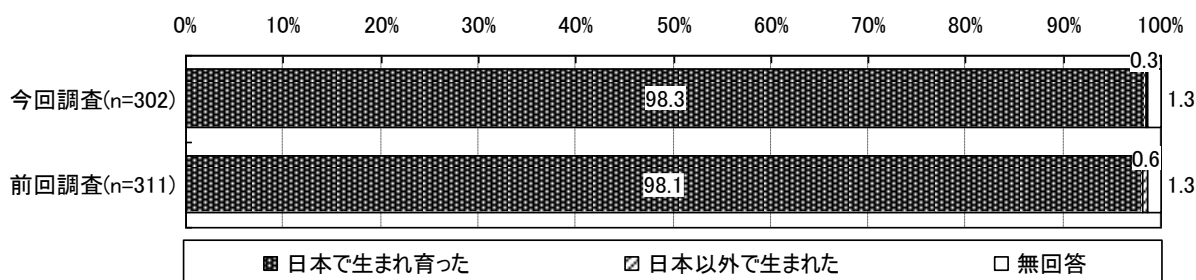
J-Q2. あなたの年齢を教えてください。(1つ選んでください)



○「50歳～59歳」が24.5%と最も多く、次いで「40歳～49歳」が22.2%、「60歳～69歳」が17.5%となっています。

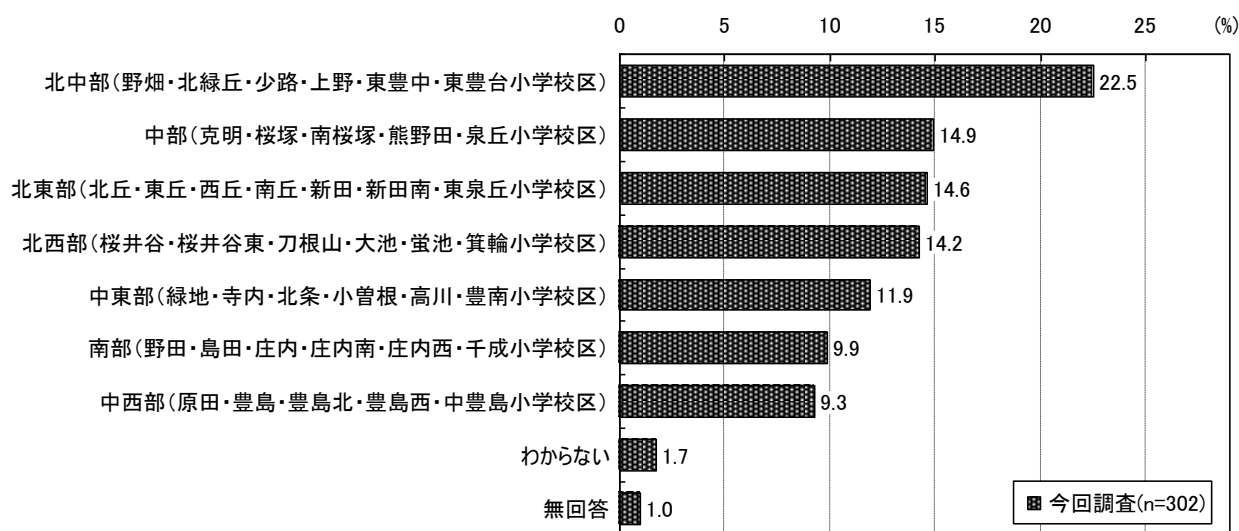
○前回調査と比べると、「70歳以上」が大きく減少し、「50歳～59歳」「40歳～49歳」が増加する結果となっています。

J-Q3. 生まれたところはどこですか。(1つ選んでください)



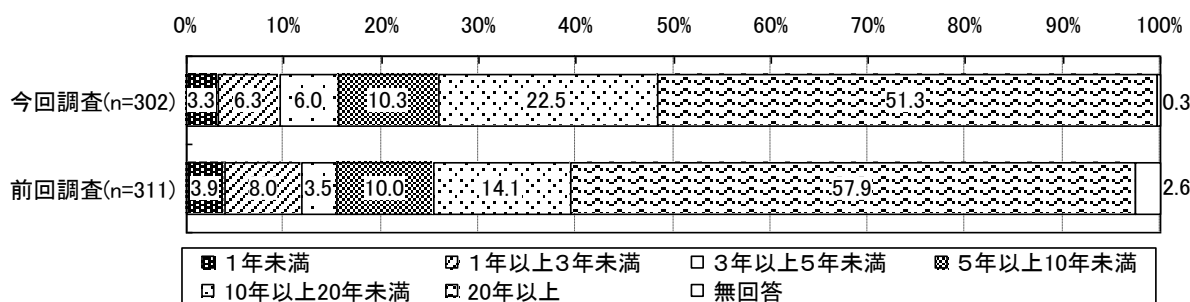
○「日本で生まれ育った」が98.3%となっています。

J-Q4. 現在、お住まいの地域はどこですか。(1つ選んでください)



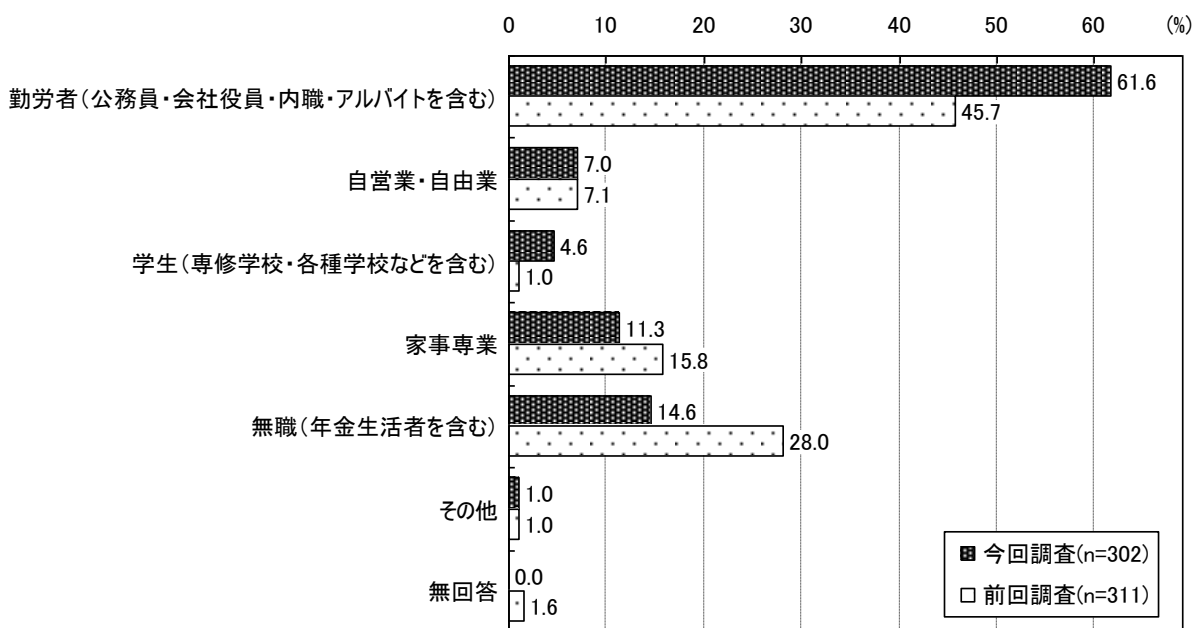
○「北中部」が22.5%と最も多く、次いで「中部」が14.9%、「北東部」が14.6%、「北西部」が14.2%となっています。

J-Q5. 豊中市に何年住んでいますか。(1つ選んでください)



- 「20年以上」が51.3%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」が22.5%、「5年以上10年未満」が10.3%などと続いています。
- 前回調査と比べると、「20年以上」が減少し、「10年以上20年未満」が増加する結果となっています。

J-Q6. 職業は何ですか。(1つ選んでください)



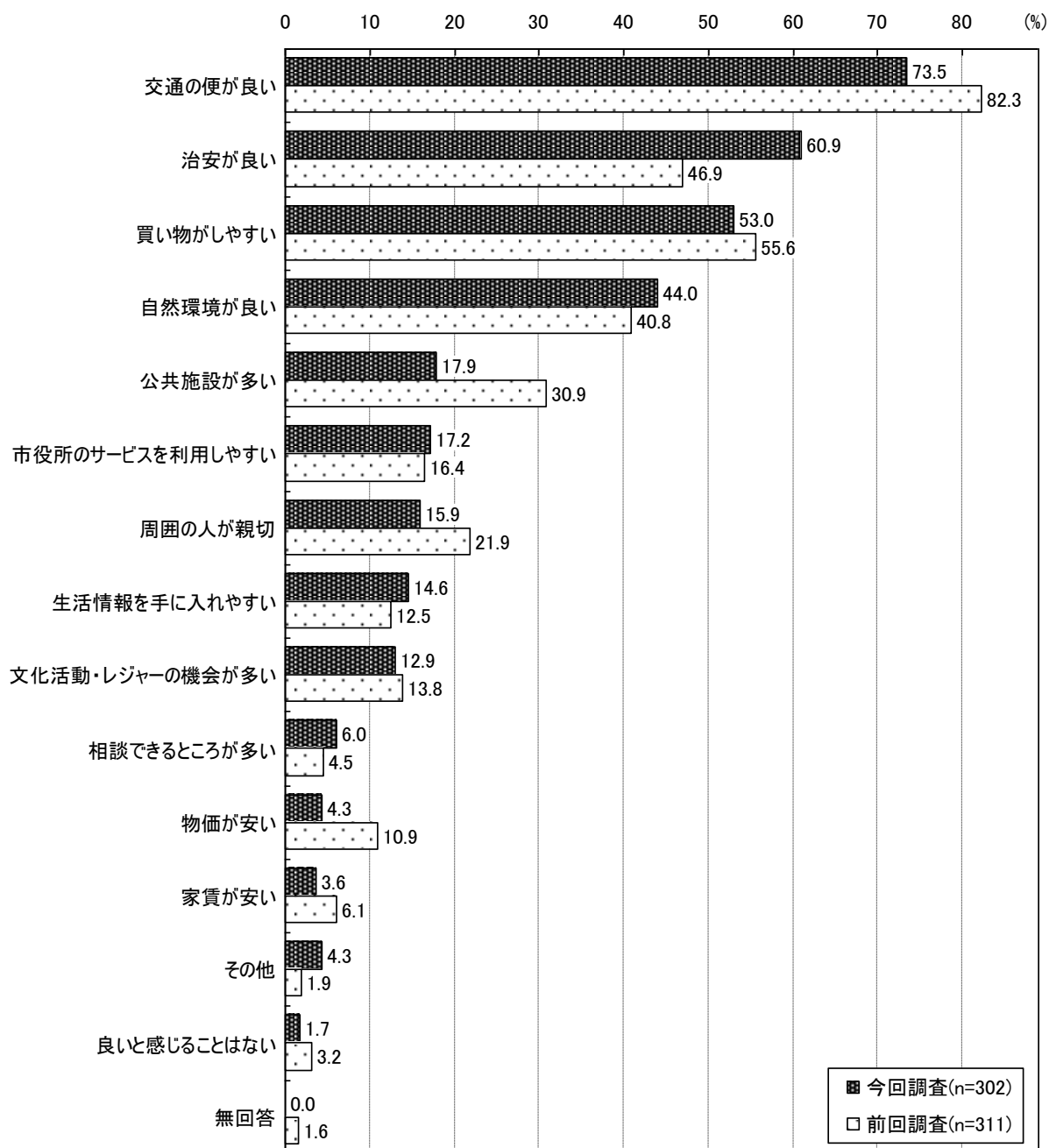
- 「勤労者（公務員・会社役員・内職・アルバイトを含む）」が61.6%と最も多く、男性では67.0%となっています。これに次いで「無職（年金生活者を含む）」が14.6%、「家事専業」が11.3%となっています。
- 前回調査と比べると、「無職（年金生活者を含む）」「家事専業」などが減少し、「勤労者（公務員・会社役員・内職・アルバイトを含む）」が増加しています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ 歯科医師
- ・ 育児休暇中

2 あなたのことについて

J-Q7. 豊中市に住んで、良いと感じることは何ですか。(いくつでも選んでください)



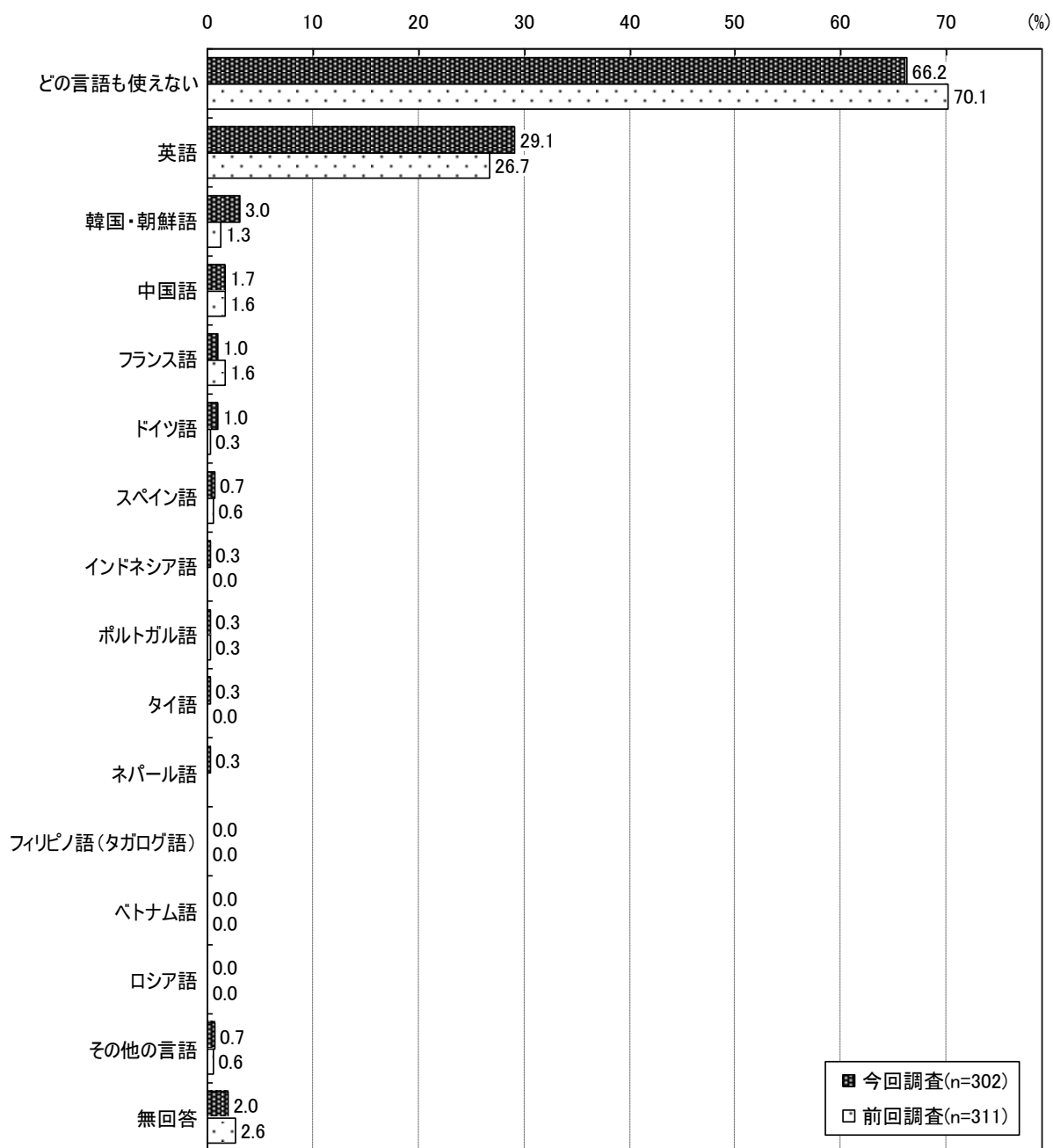
○「交通の便が良い」が73.5%と最も多く、次いで「治安が良い」が60.9%、「買い物がしやすい」が53.0%、「自然環境が良い」が44.0%などとなっています。

○前回調査と比べると、「治安が良い」が増加している一方で、「交通の便が良い」「公共施設が多い」などで減少しています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ 医療施設
- ・ 学習環境(塾等)が充実している。
- ・ 医療施設が多い。
- ・ 教育環境が良い。
- ・ 生活環境がよい。
- ・ 行政サービスがまあまあ良い。
- ・ 広報の情報などがわかりやすい。
- ・ レベルの高い飲食店が多い。
- ・ 大阪なので人情味はある。
- ・ 生まれた場所だから。
- ・ 産まれてからずっと。
- ・ 風の通りが良い。
- ・ 蛍池というと聞こえがいい。
- ・ 移動図書館

J-Q8. あなたは、日本語以外の言語を使う（理解する、話すなど）ことができますか。
 (いくつでも選んでください)

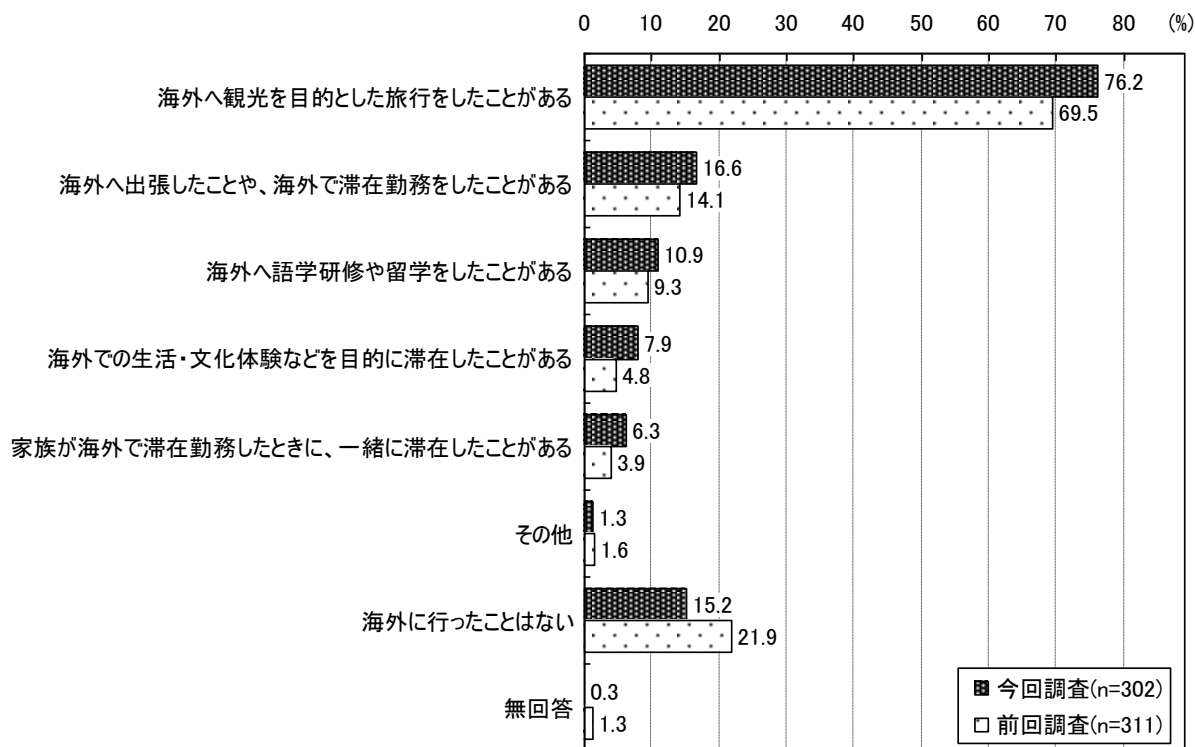


○「どの言語も使えない」が66.2%と最も多く、次いで「英語」が29.1%となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ 広東語を少し。

J-Q9. 仕事や旅行で海外（国外）に行ったことや、海外で生活をしたことがありますか。（いくつでも選んでください）



○海外への渡航経験について、「海外へ観光を目的とした旅行をしたことがある」が76.2%と最も多く、次いで「海外へ出張したことや、海外で滞在勤務をしたことがある」が16.6%、「海外へ語学研修や留学をしたことがある」が10.9%などとなっています。一方、「海外に行ったことはない」が15.2%となっています。

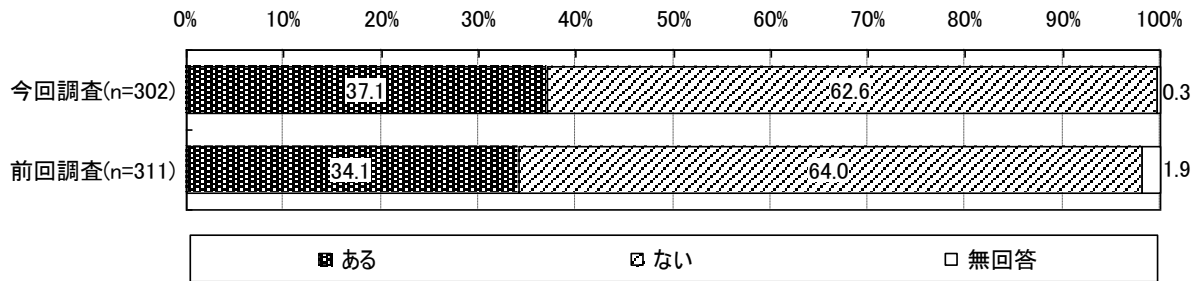
○前回調査と比べると、「海外に行ったことはない」が減少し、何らかの渡航経験のある人が増加しています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ 親戚が海外在住で遊びに行った。
- ・ 慰安旅行

3 外国人とのかかわりについて

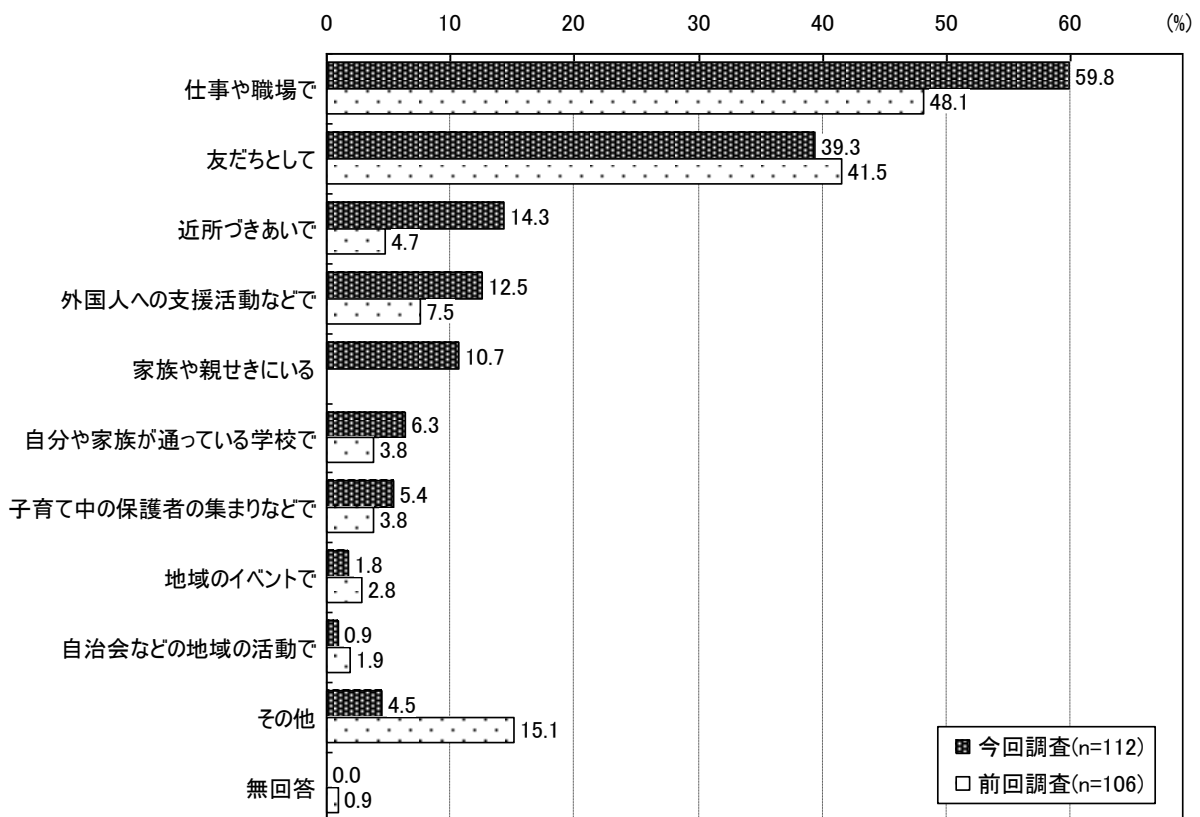
J-Q10. 外国人とのつきあいがありますか。(1つ選んでください)



○「ない」と答えた人が62.6%を占めています。

J-Q10-1. つきあいがあるのはどういうときですか。(いくつでも選んでください)

[J-Q10 外国人とつきあいがある人が回答]



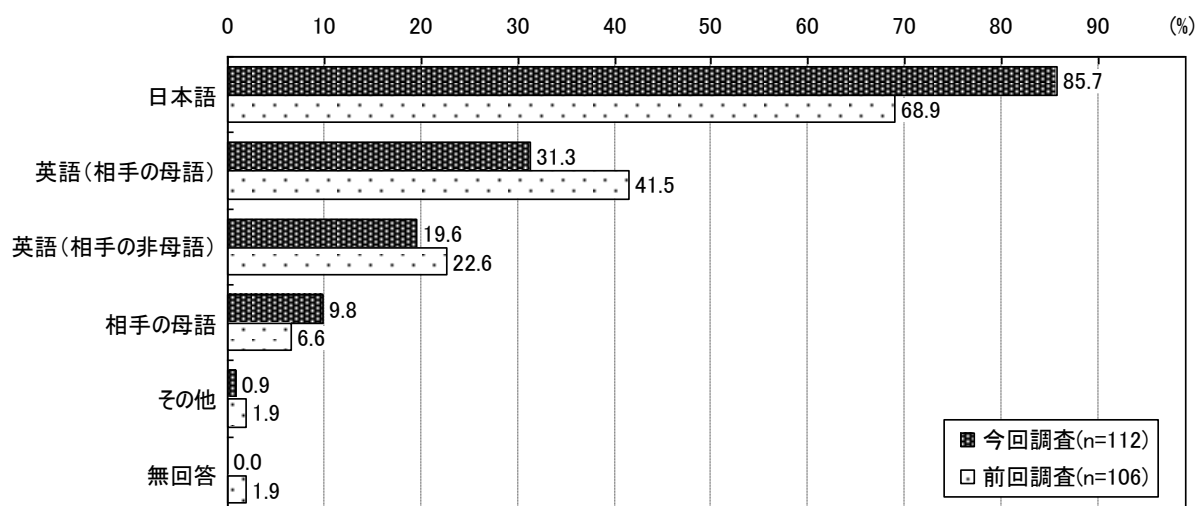
○外国人とつきあいがある人につきあいがあるのはどういうときか尋ねたところ、「仕事や職場で」が59.8%と最も多く、次いで「友だちとして」が39.3%、「近所づきあいで」が14.3%などとなっています。

○前回調査と比べると、「仕事や職場で」「近所づきあいで」などで大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・短期留学児のホスト
- ・カトリック教徒としてミサなどで神父様やしんじやさんとのかかわりがある。
- ・仕事上同じマンションに暮らしており、子どものような存在（学生）。

J-Q10-2. 外国人とのつきあいでは、どの言葉を使っていますか。（いくつでも選んでください）【Q10 外国人とつきあいがある人が回答】



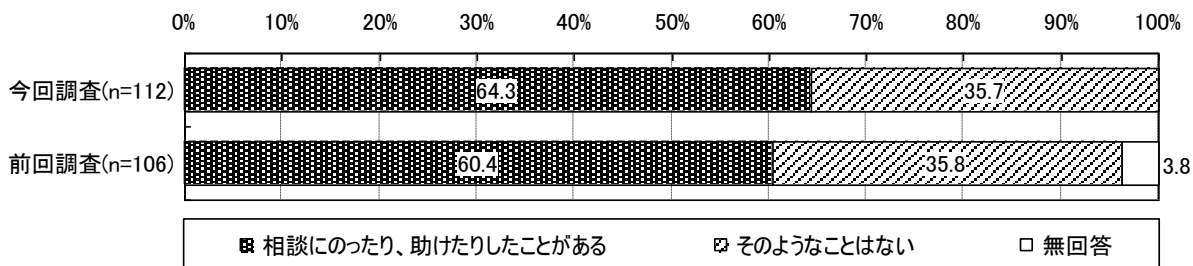
○外国人とつきあいがある人に外国人とのつきあいでどの言葉を使っているか尋ねたところ、「日本語」が85.7%と最も多く、次いで「英語（相手の母語）」が31.3%、「英語（相手の非母語）」が19.6%などと続いています。

○前回調査と比べると、「英語（相手の母語）」が減少し、「日本語」が大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・韓国語

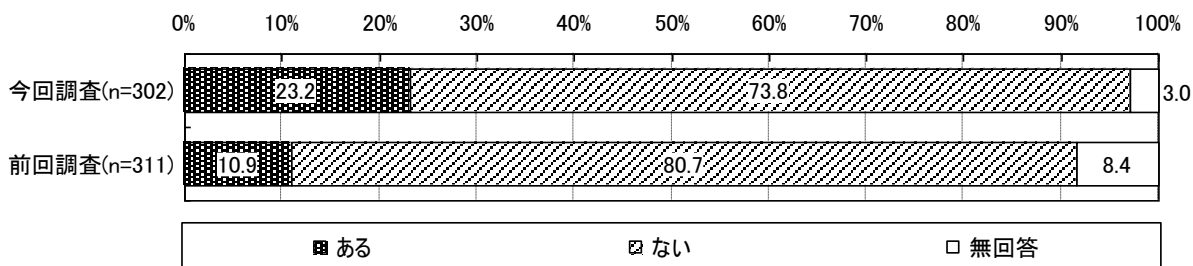
J-Q10-3. 外国人が困っているときに、相談にのったり、助けたりしたことがありますか。(1つ選んでください) [Q10 外国人とつきあいがある人が回答]



○外国人とつきあいがある人に外国人が困っているときに、相談にのったり、助けたりしたことがあるか尋ねたところ、「相談にのったり、助けたりしたことがある」が64.3%を占めています。

○前回調査と比べると、「相談にのったり、助けたりしたことがある」が増加する結果となっています。

J-Q11. あなたの地域や職場などでの外国人とのかかわりで、困った経験などがありますか。(1つ選んでください)



○「ない」という人が73.8%を占めています。

○前回調査と比べると、「ある」という人が大きく増加する結果となっています。

Q11-1. どのようなことでしたか。差し支えなければ書いてください。

【Q11 外国人とのかかわりで、困った経験がある人が回答】

【言葉の問題】

- ・ コミュニケーションが取れない。(2)
- ・ 言葉の壁(2)
- ・ 言葉がうまく通じない。(2)
- ・ 言葉が伝わりにくかったり、伝えてもニュアンスが伝わらなかつたりした。
- ・ ニュアンスが伝わりにくかった。
- ・ 微妙なニュアンスが通じない。政治や思想の話がしにくい。
- ・ 詳細をなかなか伝えられない。
- ・ 伝えたいことが的確に伝えれない。
- ・ コミュニケーションに壁があった。
- ・ 言葉によるコミュニケーション
- ・ 言葉が通じないため、意思疎通が難しい。
- ・ 仕事内容で専門的なことに対する意志疎通が難しい。
- ・ 難しい日本語が通じない。
- ・ 言葉がわからない。
- ・ 英語がしゃべれなくて、話が上手く伝わらなかつた。
- ・ 言っていることが理解できないことがある。
- ・ お話をするのに言語が通じず、苦労した。
- ・ 相手の言葉がわからなくてもどかしい思いをした。
- ・ 言葉が伝わらない。伝わっているのかがわからない。
- ・ 完全な意思が伝わらない。
- ・ その人が言っていることが、きちんと理解できない。こんなことを言っているんだらうなあ〜くらいしかわからなかつた。コミュニケーションを深く取れなかつた。
- ・ 英語での会話ができなくて説明ができなかつた。
- ・ 店出しの仕事をしていて外国人のお客様が商品をお探して英語で話されたことはある。
- ・ インド人との会話に困った。
- ・ 販売の仕事をしていますが、欲しいものとか質問とかのコミュニケーションがとりにくいです。
- ・ アルバイト中、英語でしか話せない外国人の方が来店した。言葉が通じず苦労した。
- ・ 飲食店のメニューの説明。
- ・ 患者さんで日本語、英語でコミュニケーションが取れないことがあつた。
- ・ 伝えたいことがすぐに伝わらずどのような表現で話せば良いか考えることがあつた。
- ・ 日本語が話せない方が職場に来られて英語以外の言語が母国語の方だったのでまったく理解できず困った。
- ・ 調剤薬局勤務中に英語圏の患者が来局された際、英語の医薬用語がわからず、説明するのに困った。
- ・ 外国人が困っているのに、うまく解決策を出せない時。例えば、仕事を探している、

病院でコミュニケーションができない、子どもが母語を忘れてしまう、親子でコミュニケーションをするときに共通の言葉がない、学校とのやり取りで通訳を入れてもらえないときがある、ご近所さんが仲良くしてくれないなど。

- ・私あまり英語やフランス語が話したり理解したりできないことで。ただ、翻訳機能を使って、手紙やメールで伝えています。
- ・職場に韓国人の女性がいたが、仕事中は翻訳機などを使えないので、上司は日本語で指示を出すだけで、彼女は理解できていなかった。私が単語くらいならわかるので、教えることはできましたが、雇うなら会社自体がきちんと彼女の面倒をみるべきだ。外国人の受け入れだけして、後はほったらかし…というような会社は受け入れるべきではない。
- ・ボランティアで学生の日本語の書類を翻訳、会話を通訳した。

【文化・生活習慣などの違い】

- ・文化性の違い。仕事に対する想い。
- ・文化の違い。時間感覚が異なる。
- ・文化の違いが理解してもらえない。
- ・文化の違いで約束の時間に少し遅れる。手洗いうがいなどの衛生管理が雑。
- ・文化の違いがありそれぞれ「常識」が違うこと。
- ・文化の違いで、喧嘩になった。
- ・職場で食事を提供する時に、イスラム教徒の方の食事に困った。豊中市にはハラールの店があるのか。
- ・日本人よりはマナーがよくない。食べた後のゴミなど、そのままにしてある。
- ・日常生活で、習慣が違う。物の考え方が違う。
- ・生活環境。国ごとに違うから。
- ・香水がきつい。集団でいて恐怖を感じる。コロナ禍の中、マスクをつけていない。
- ・深夜、寝ている時間に大きな声を上げたり、大音量で音楽を流すことがあり、起こされてしまう。
- ・どうしても日本語がカタコトの子もおり、会話が成り立たない時がある。文化の違いか日本人では普通のこと違う場合がある。(常識がないなど)
- ・宗教

【ものの考え方の違い】

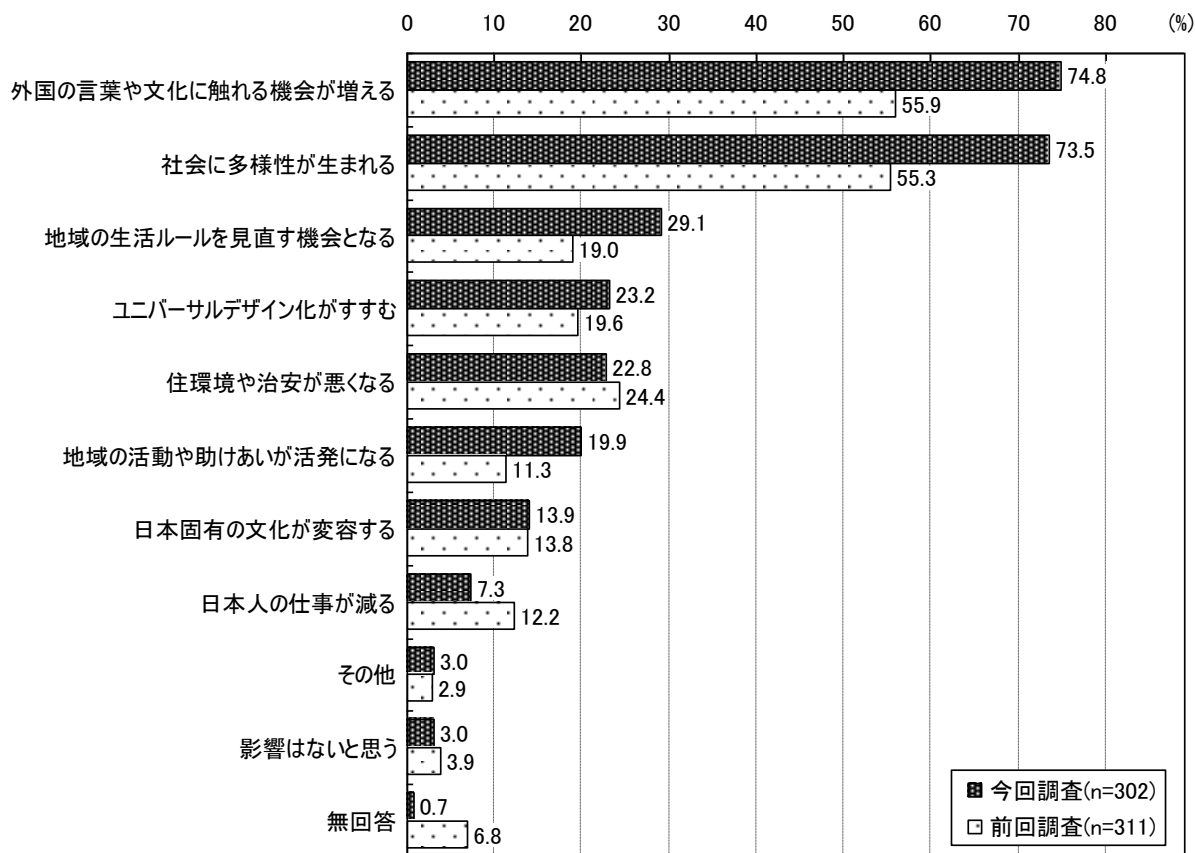
- ・我が強い。
- ・我を通そうとする 自己主張が強すぎる。
- ・中国人は（世界が中国を中心に回っている）と思っているフシがある人種であることがよくわかった。①何時であろうと外で、大きな声で人と話をしてウルサイ。②皆の道であるにもかかわらず、平然と他人の家の前に車を駐車してる。③迷惑をかけても、謝ることがない。④挨拶をしない 上げたらきりがいい。
- ・時間を守らない マイペース。

- ・ 職場で日本の働き方が通じない。
- ・ 価値観の違いで困った。インド人との育ち方の違いで幼稚だと言われたことがある。作業を確認するのに質問しただけなんだけど、自力で解決しないと、そう受け取られた。インド人は自分で考えて行動することを美德としている。日本人は、仕事が終わらない時は、勝手なことをしてはいけないと言われて育つので。
- ・ 中国人の方でしたが、厚かましさを感じました。
- ・ 未払い（診療所）会計前にトイレに行くふりで帰ってこなかった。体調不良で来ているので疑いもしなかった。

【その他】

- ・ 子どもの勉強のことなど。
- ・ 息子は年中から小学2年まで米国で育ち、行儀作法から言語の基礎も米国で習得したために、ほぼアメリカ人だった。けれど国籍が日本で両親も日本人だったためになんのサポートも得られず、英語を日本人が使うことはおかしいことだと学校で教えられ、2年目には、学習障害呼ばわりされた。
- ・ 子どもの学校の役員のシステムのこと。子どもの学校で配布されるお便りがわからない。文化や価値観の違いによるしんどさ。見た目等による排除差別。

J-Q12. あなたは、地域や職場などに外国人が増えることで、地域社会にどのような影響があると思いますか。（あなたの考えに近いものを5つまで選んでください）



○「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」が74.8%と最も多く、次いで「社会に多様性が生まれる」が73.5%、「地域の生活ルールを見直す機会となる」が29.1%などと続いています。

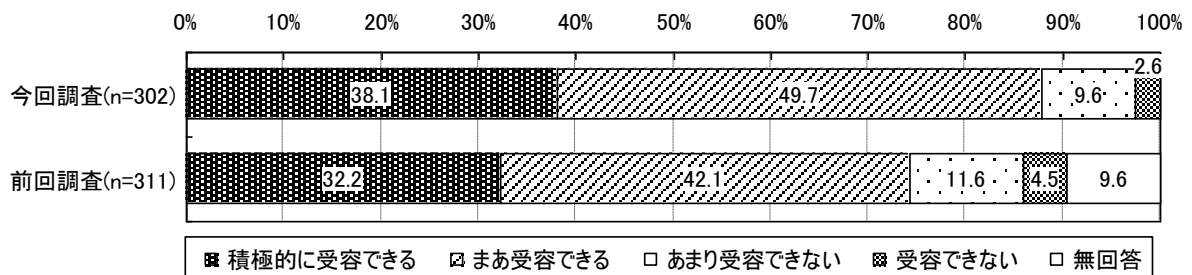
○前回調査と比べると、「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」「社会に多様性が生まれる」「地域の生活ルールを見直す機会となる」「地域の活動や助けあい活発になる」などで大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

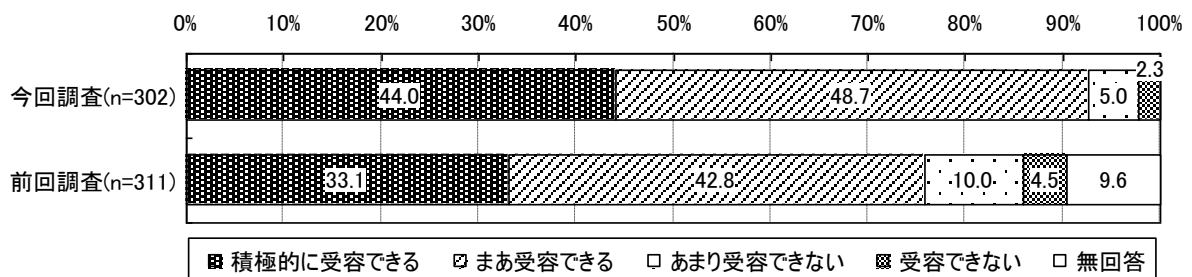
- ・外国人に対する差別が増えると思う。
- ・海外の人も日本人と同じで、その人による。日本人より日本人らしい方もいれば逆もいる。
- ・難民や移民を家族ぐるみで受け入れたら、少子化や地方の活性化が期待できると思う。
- ・研究職は外国人が多い。日本人を増やすべき。
- ・治安が悪くなる。
- ・分裂が激しくなると思う。
- ・住む外国人の目的によって住環境は変わるというイメージがある。
- ・世界基準は言いすぎですが、成人までに育った環境により基礎的な判断材料を持つので、日本だからといった考え方では交流できない。

J-Q13. 次のようなかたちでの外国人とのかかわりに対して、(1)から(6)のそれぞれについて、もっともあてはまるものを1つ選んでください。

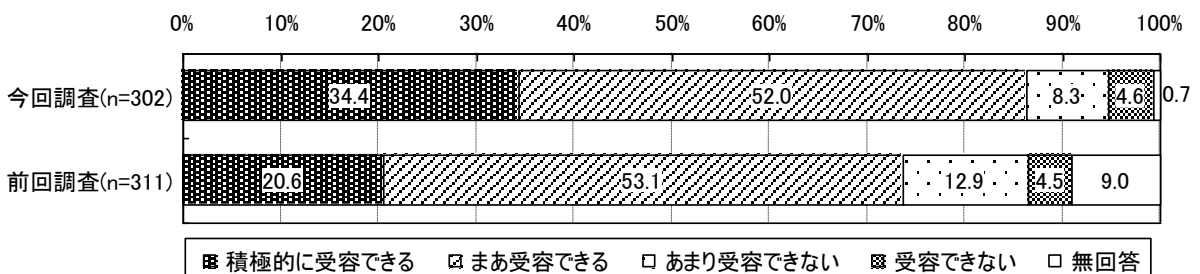
(1)外国人と友だちづきあいをする



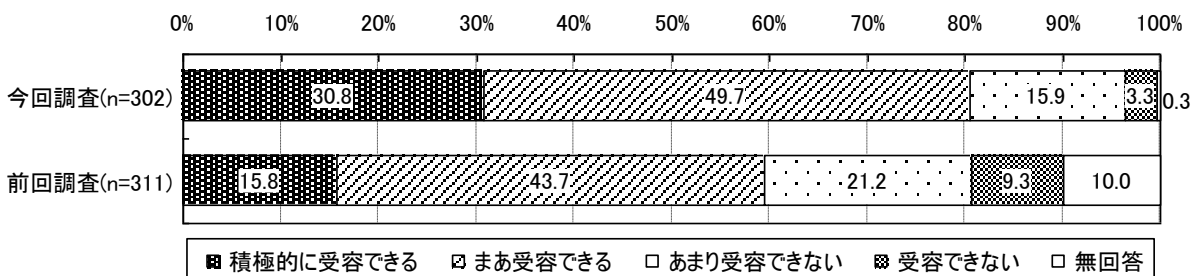
(2)外国人と一緒に学ぶ、働く



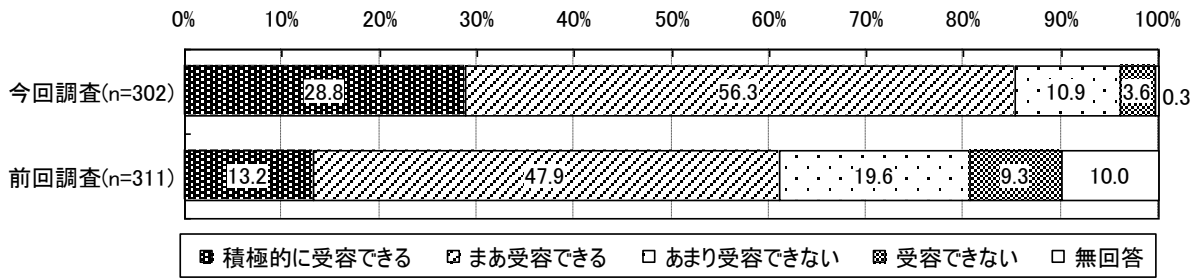
(3)外国人が隣近所に住む



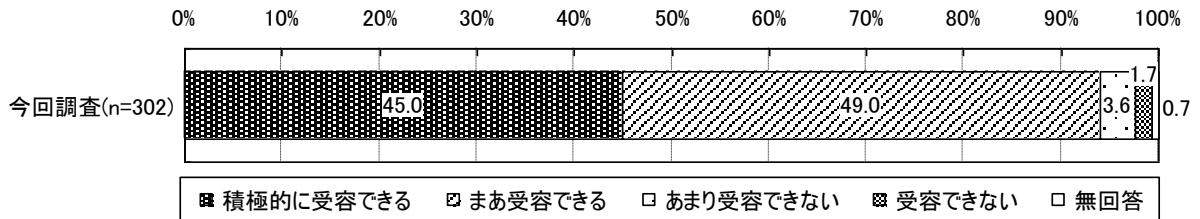
(4)家族の誰かが外国人と結婚する



(5)外国人から医療や介護を受ける

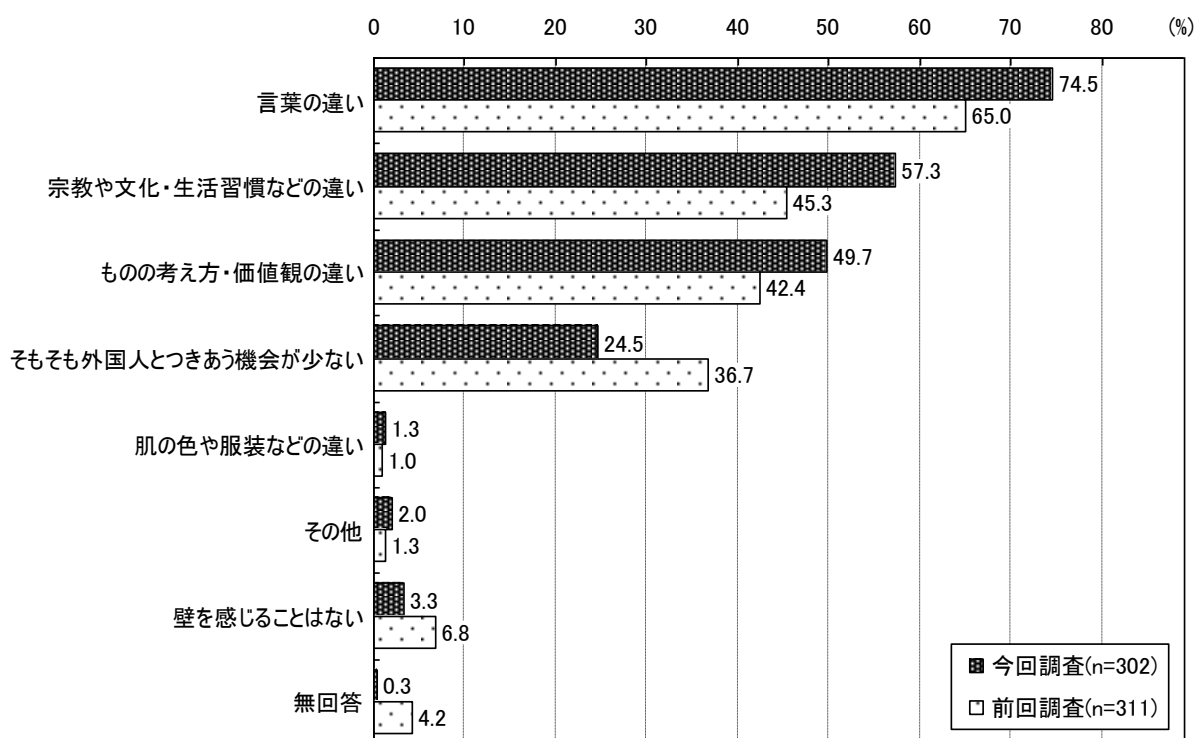


(6)外国人と一緒に自治会活動や地域のイベントに参加する



- 「積極的に受容できる」と「まあ受容できる」を合計すると、各項目とも8割以上の人が受容できると回答しています。個別にみると、(4)家族の誰かが外国人と結婚することや(5)外国人から医療や介護を受けるなどでは「あまり受容できない」の割合が多くなっています。
- 前回調査と比べると、各項目とも「積極的に受容できる」が大きく増加する結果となっています。

J-Q14. あなたが、外国人とつきあうにあたり、壁になっていると感じるものがありますか。(いくつでも選んでください)

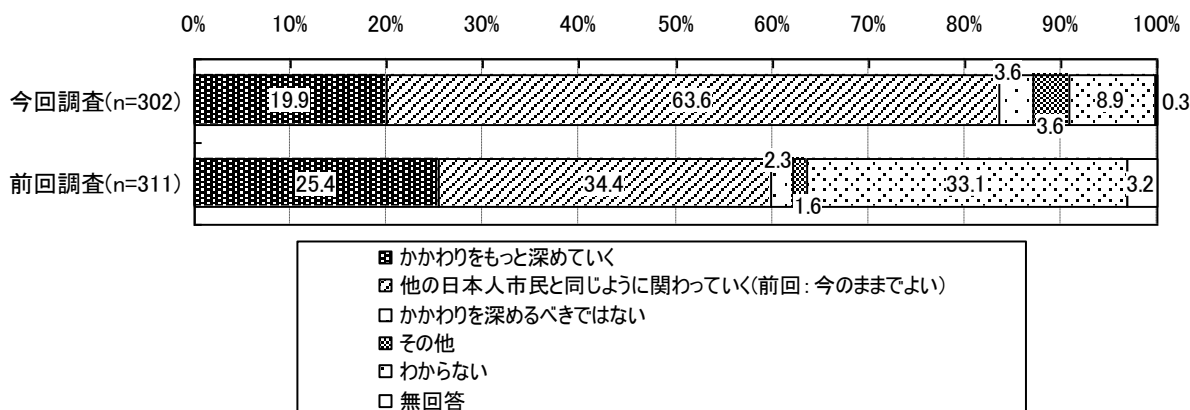


- 「言葉の違い」が74.5%と最も多く、次いで「宗教や文化・生活習慣などの違い」が57.3%、「ものの考え方・価値観の違い」が49.7%などと続いています。
- 前回調査と比べると、「そもそも外国人とつきあう機会が少ない」が減少し、上位3項目が増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・国籍により適用される法も変わるため、それに伴うリスクも日本人とは異なる。よって上記のほとんどが該当し、その目的が自分の価値観と違った場合のみ障壁となる。
- ・自分は何とでもなると思っているが、友だちや知り合いは、結構壁を感じている人が多いと思っている。そもそもわかろうとしないこと、わかりあえると思っていないこと。言葉が話せないとコミュニケーションができないと思っていること。日本は外国人がいないと回らない分野がたくさんあるのに外国人が日本に合わせるべきだと思っていない人が多くいること。アジアの人が多いため、近くにいるのに気づいていないこと。
- ・人種に関わらずパーソナリティによる。
- ・日本人が宗教そのものや異文化への理解に壁を作っているように感じる。
- ・日本人同士でも地域差や年齢、価値観などの差異によるトラブルがあるので外国人とのコミュニケーションはさらに難しいことも多くなるのでは。
- ・犯罪に対する抵抗感。

J-Q15. あなたが住んでいる地域では、今後、外国人市民とのかかわりをどのようにしたらよいと思いますか。(1つ選んでください)



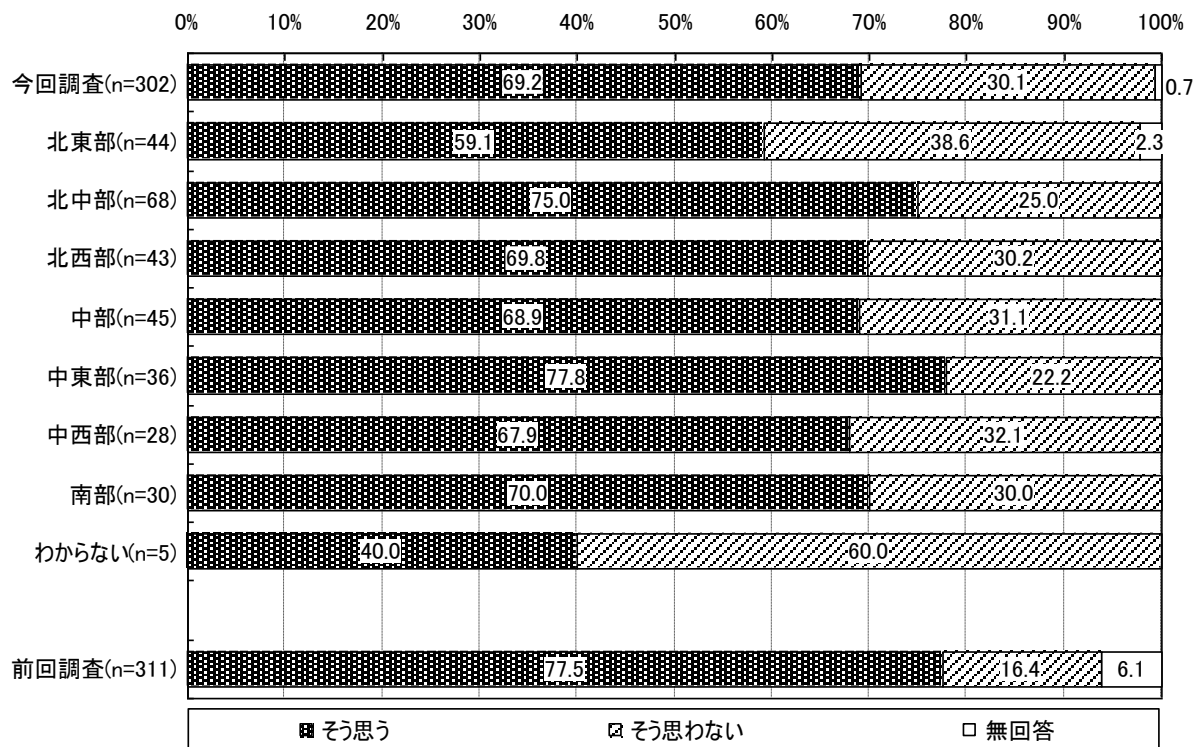
○「他の日本人市民と同じように関わっていく」が63.6%を占めています。

○前回調査と比べると、「わからない」「かかわりをもっと深めていく」が減少し、「他の日本人市民と同じように関わっていく」が大きく増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

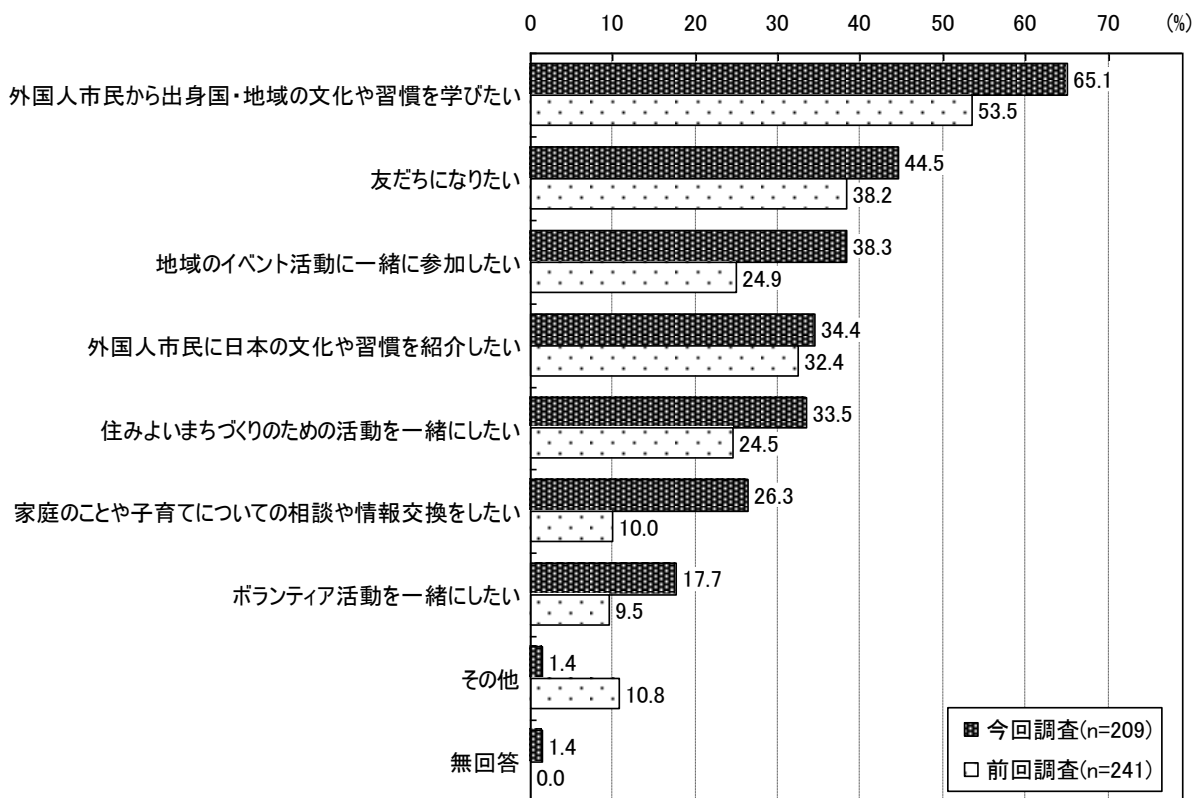
- ・お互いが文化の違い等を理解しようと歩み寄る何か機会が必要。
- ・お互い寛容に。
- ・日本人とまったく同じという感覚は少し難しいが適度な距離感を維持しつつ交流を深められればよいと思う。
- ・外国人に対してポジティブもしくは経験者（帰国子女）などが先頭に活動すると気持ちが変わり、相手も相談しやすい環境が作られると思う。
- ・特別扱いする必要はない（海外で日本人が特別扱いされないのと同じ）。
- ・今まで通り。
- ・特に変わらず過ごしていくべきだと思う。
- ・国籍によりけり。
- ・英語が話せないと関わりあいを持つことができない。
- ・知るだけなのか、認めるのか、受容するのかわ変わってくるが、この設問の関わりとは何を指すのかわからない。単に顧客として見るということも関わることになるかと思っています。

J-Q16. あなたは、地域の外国人市民と交流したいと思いますか。(1つ選んでください)



- 「そう思う」が69.2%を占めています。
- 居住地域別にみると、「そう思う」は中東部で77.8%、北中部で75.0%と多くなっています。「そう思わない」は70歳以上で43.8%と多くなっています。
- 前回調査と比べると、「そう思わない」が大きく増加する結果となっています。

J-Q16-1. 地域の外国人市民と今後どのような交流をしたいと思いますか。(いくつでも選んでください) [Q16 地域の外国人市民と交流したいと思う人が回答]



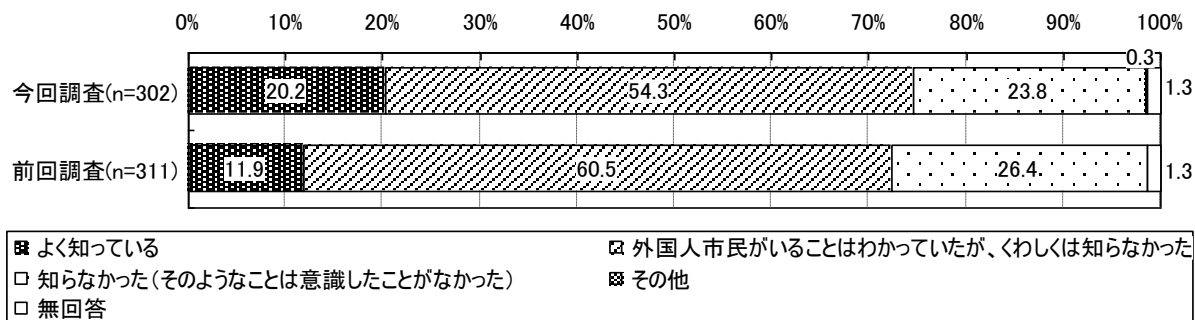
○地域の外国人市民と交流したいと思う人に今後どのような交流をしたいと思うか尋ねたところ、「外国人市民から出身国・地域の文化や習慣を学びたい」が65.1%と最も多く、次いで「友だちになりたい」が44.5%、「地域のイベント活動と一緒に参加したい」が38.3%などと続いています。

○前回調査と比べると、ほぼすべての項目で増加する結果となっていますが、「家庭のことや子育てについての相談や情報交換をしたい」や「地域のイベント活動と一緒に参加したい」などは特に大きく増加しています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・困ったことがあった時に助けたり助けられたりしたい。
- ・今後、ワールドワイドになるなかで、彼らが何を考えているのかは知っておかなくてはならないので。
- ・地域の防災訓練と一緒に参加したい。外国人市民のお祭りを地域でやってみる。外国人市民が中心になって企画、実施を行うフェスティバル、国際交流キャラバンを作って地域の自治会をあちこち回って交流する機会を増やす。地域住民だけでなく行政の中でも国際交流、理解が深まるように外国人の職員を増やす。

J-Q17. あなたは、豊中市内に多くの外国人市民が暮らしていることを知っていましたか。（1つ選んでください）



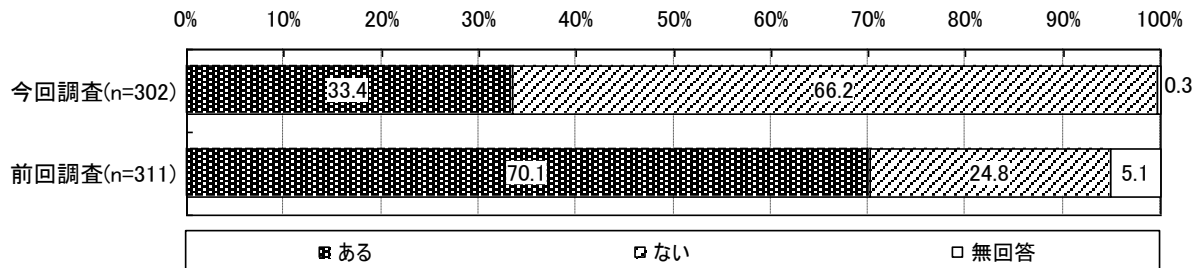
- 「外国人市民がいることはわかっていましたが、くわしくは知らなかった」が54.3%と最も多く、次いで「知らなかった(そのようなことは意識したことがなかった)」が23.8%、「よく知っている」が20.2%となっています。
- 前回調査と比べると、「よく知っている」が増加しています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ マナーの悪いアジアの女性の人たちが一部いて目立つ。

4 多文化共生のまちづくりについて

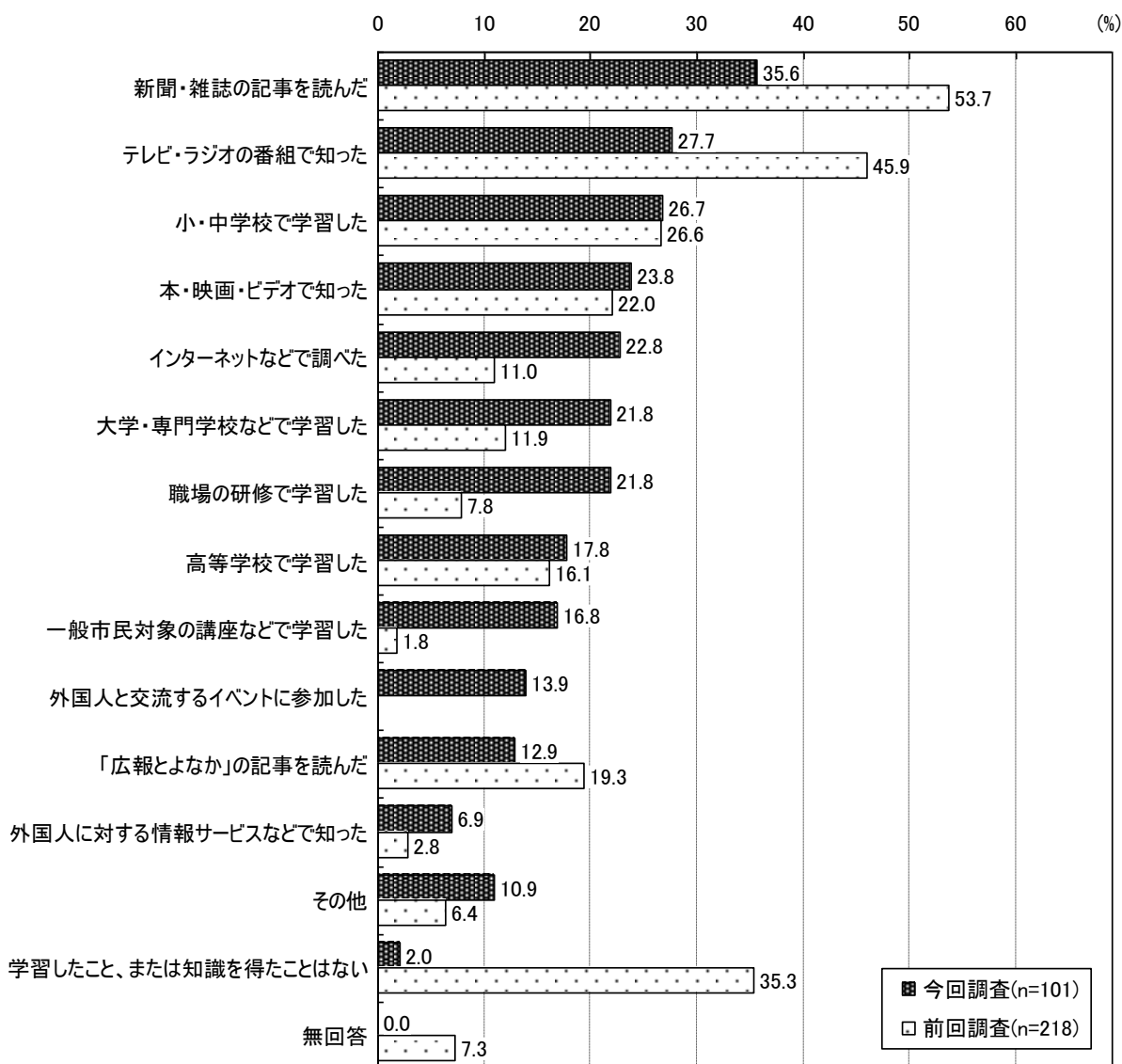
J-Q18. あなたは、日本に住む外国人にかかわる内容について、これまでに学習したり知識を得たりしたことがありますか。(1つ選んでください)



- 「ない」という人が66.2%を占めています。
- 前回調査と比べると、前は過半数を占めていた「ある」という人が大きく減少し逆転する結果となっています。

J-Q18-1. どのような学習したり知識を得たりしたことがありますか。
 (いくつでも選んでください)

[Q16 日本に住む外国人について学習したり知識を得たことがある人が回答]



○日本に住む外国人について学習したり知識を得たことがある人にどのような学習したり知識を得たりしたことがあるか尋ねたところ、「新聞・雑誌の記事を読んだ」が35.6%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオの番組で知った」が27.7%、「小・中学校で学習した」が26.7%などと続いています。

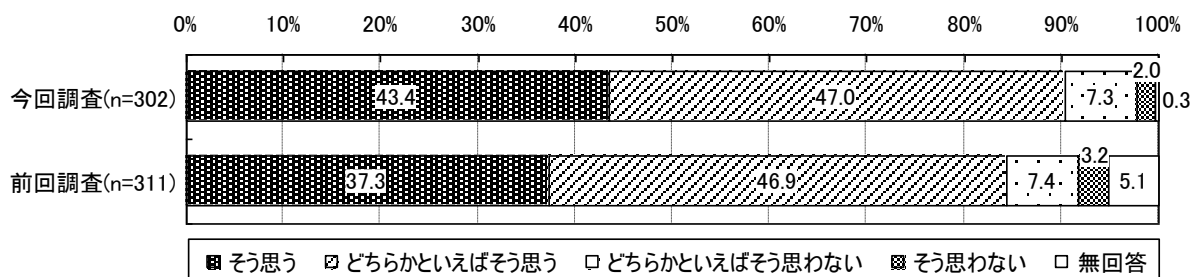
○前回調査と比べると、「新聞・雑誌の記事を読んだ」や「テレビ・ラジオの番組で知った」が減少し、「インターネットなどで調べた」「大学・専門学校などで学習した」「職場の研修で学習した」「一般市民対象の講座などで学習した」などで増加する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・ 帰国子女で経験者でもある。
- ・ 外資系会社で働いていた。
- ・ 仕事で。
- ・ 職場での交流
- ・ 職場の上司だった。
- ・ 実際に関わって体験から学んだ。
- ・ 学生マンションなので複数人の海外留学生がいる。
- ・ 小学校が生野区で韓国人が多く、日頃から交流の中で学んだ。
- ・ 身内に外国人と婚姻関係にあった人物がいた。
- ・ SMSで流れてくる情報の中に面白いものがあると見る。
- ・ 日頃のお付き合いで。
- ・ 友人を通じて。
- ・ 自ら

J-Q19. 日本に住む外国人に関する次の意見について、あなたはどのように思いますか。
 ((1)から(7)のそれぞれについて、1つ選んでください)

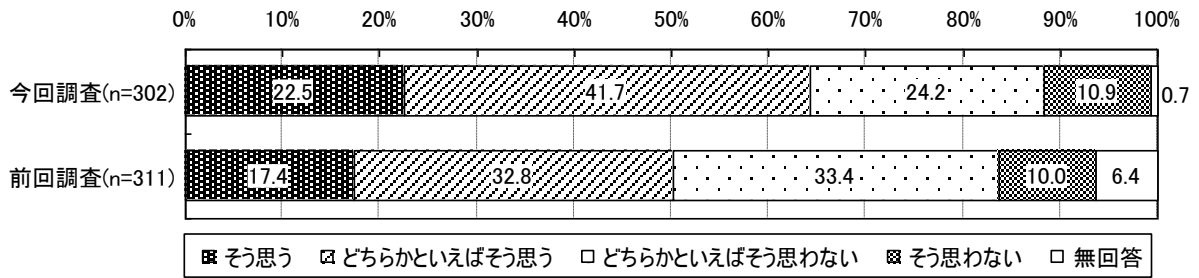
(1)日本人は、外国の言語や文化を学び、外国人の背景を理解するほうがよい



○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計すると、90.4%の人が理解するほうがよいと回答しています。

○前回調査と比べると、「そう思う」が増加する結果となっています。

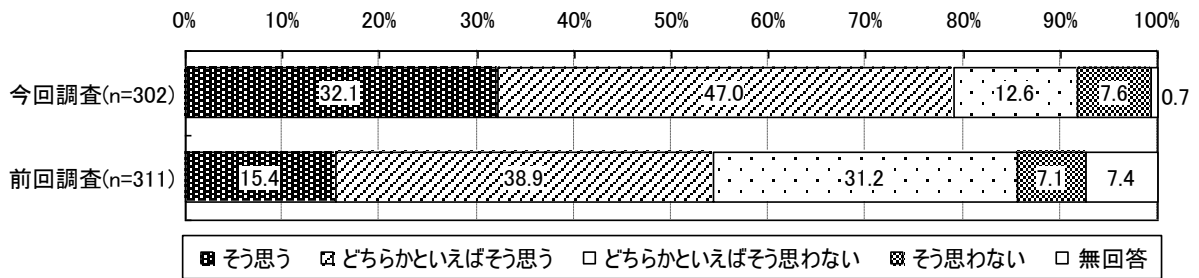
(2) 日本社会は、外国人に日本の習慣やルールを押し付けないほうがよい



○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計すると、64.2%の人が押し付けないほうがよいと回答しています。

○前回調査と比べると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」ともに増加する結果となっています。

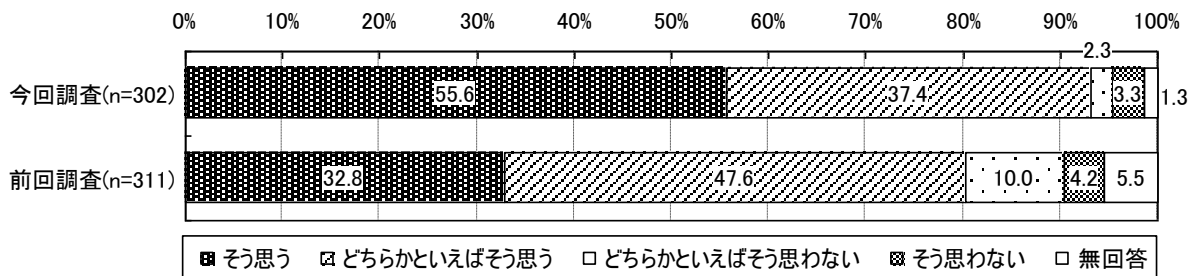
(3) 行政は、外国人が出身国・地域の言語や文化を守れるよう援助するほうがよい



○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計すると、79.1%の人が援助するほうがよいと回答しています。

○前回調査と比べると、「そう思う」が大きく増加する結果となっています。

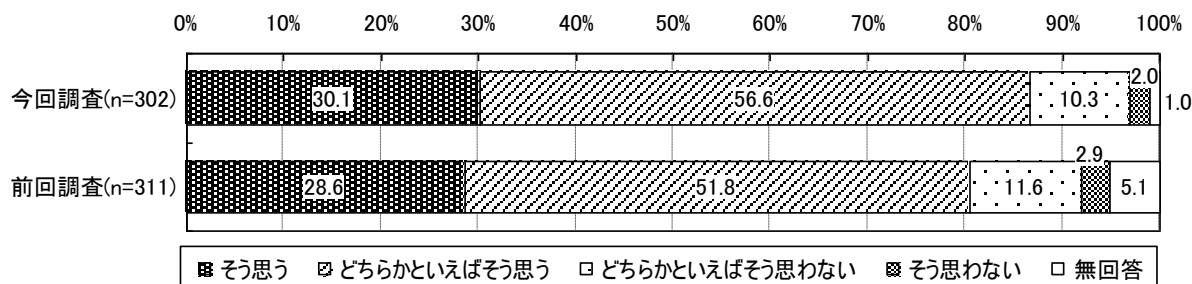
(4) 行政は、外国人が日本の言語や文化を学べるよう援助するほうがよい



○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計すると、93.0%の人が援助するほうがよいと回答しています。

○前回調査と比べると、「そう思う」が大きく増加する結果となっています。

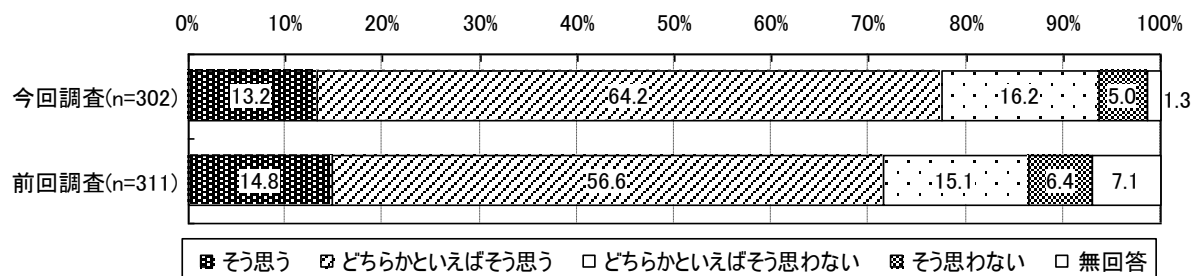
(5) 外国人は、日本の言語や文化を身につけるために努力したほうがよい



○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計すると、86.7%の人が努力したほうがよいと回答しています。

○前回調査と比べると、「どちらかといえばそう思う」が増加する結果となっています。

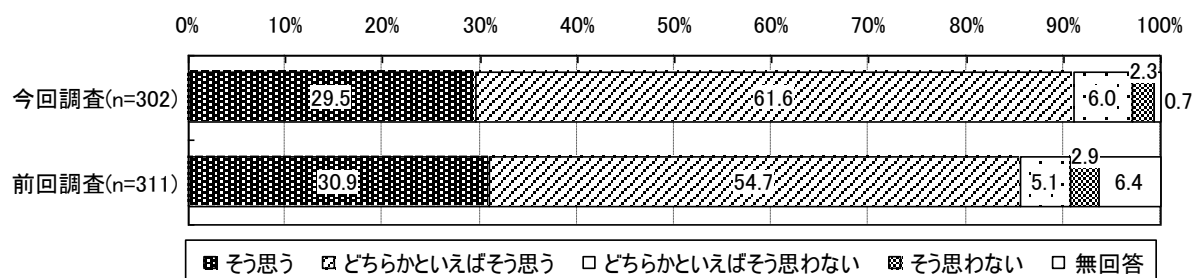
(6) 外国人は、地域の活動に積極的に参加するほうがよい



○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計すると、77.4%の人が参加するほうがよいと回答しています。

○前回調査と比べると、「どちらかといえばそう思う」が増加する結果となっています。

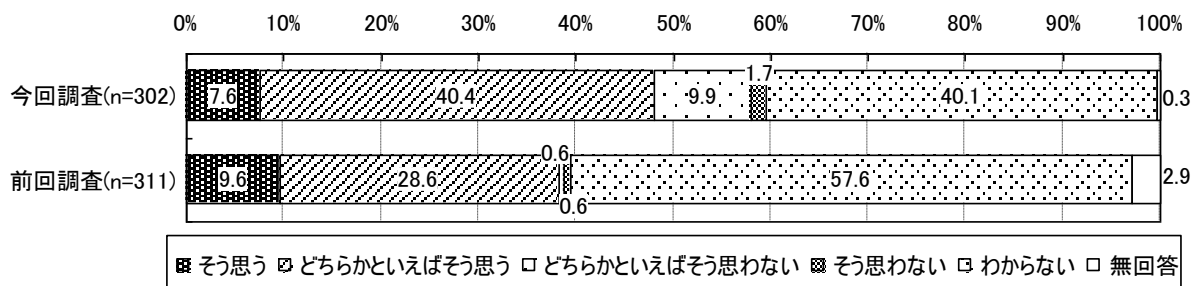
(7) 外国人は、日本社会にとけこむよう日本の習慣やルールを学ぶほうがよい



○「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計すると、91.1%の人が学ぶほうがよいと回答しています。

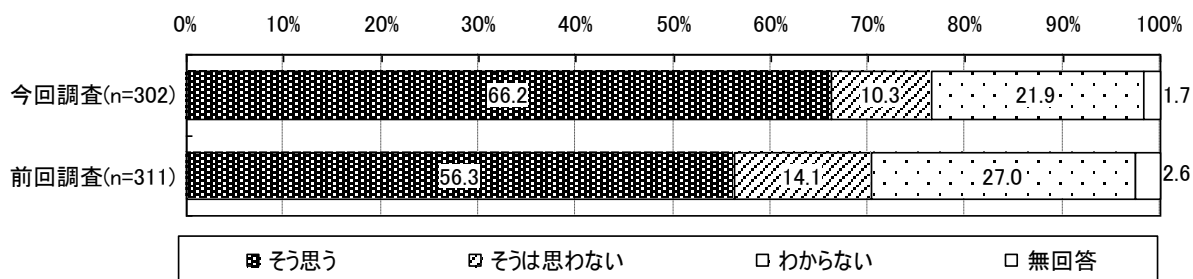
○前回調査と比べると、「どちらかといえばそう思う」が増加する結果となっています。

J-Q20. 豊中市は、外国人市民にとって住みよいまちだと思いますか。
 (1つ選んでください)



- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計すると、48.0%の人が住みよいまちだと回答しています。
- 前回調査と比べると、「わからない」が大きく減少し、「どちらかといえばそう思う」が増加する結果となっています。

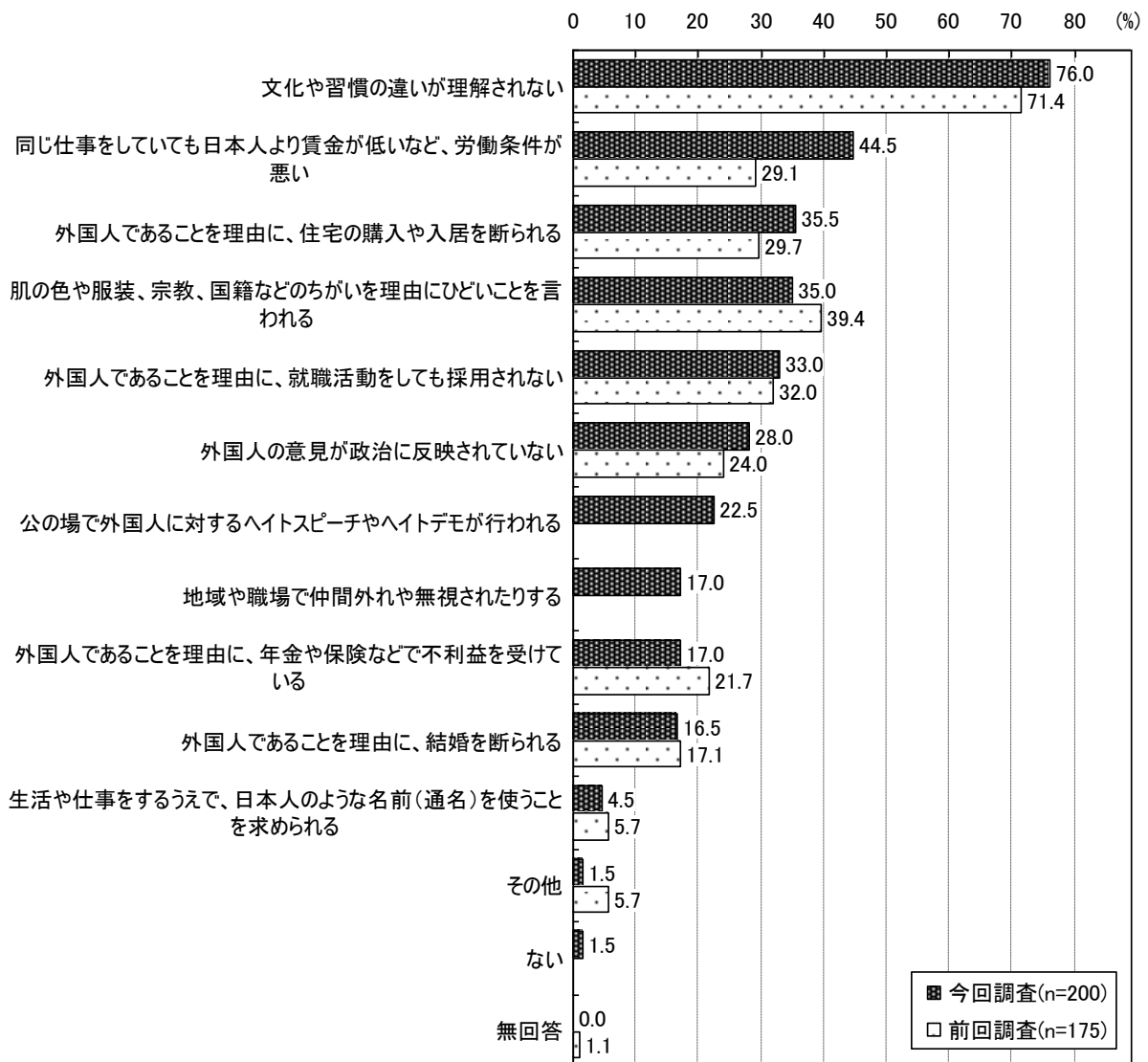
J-Q21. あなたは、外国人には、日本社会での生活のしづらさがあると思いますか。
 (1つ選んでください)



- 「そう思う」という人が66.2%を占めています。
- 前回調査と比べると、「そう思う」が増加する結果となっています。

J-Q21-1. あなたは、外国人が日本でのからして次のようなことがあると思いますか。
 (お考えに近いものを5つまで選んでください)

[Q21 外国人には日本社会での生活のしづらさがあると思う人が回答]



○外国人には日本社会での生活のしづらさがあると思う人にどのようなことがあると思うか尋ねたところ、「文化や習慣の違いが理解されない」が76.0%と最も多く、次いで「同じ仕事をしていても日本人より賃金が低いなど、労働条件が悪い」が44.5%、「外国人であることを理由に、住宅の購入や入居を断られる」が35.5%などと続いています。

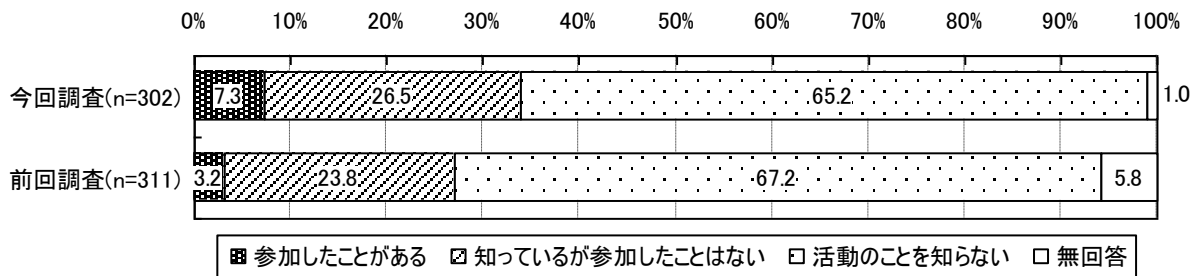
○前回調査と比べると、「同じ仕事をしていても日本人より賃金が低いなど、労働条件が悪い」が大きく増加しています。一方、「肌の色や服装、宗教、国籍などのちがいを理由にひどいことを言われる」や「外国人であることを理由に、年金や保険などで不利益を受けている」などでは減少する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

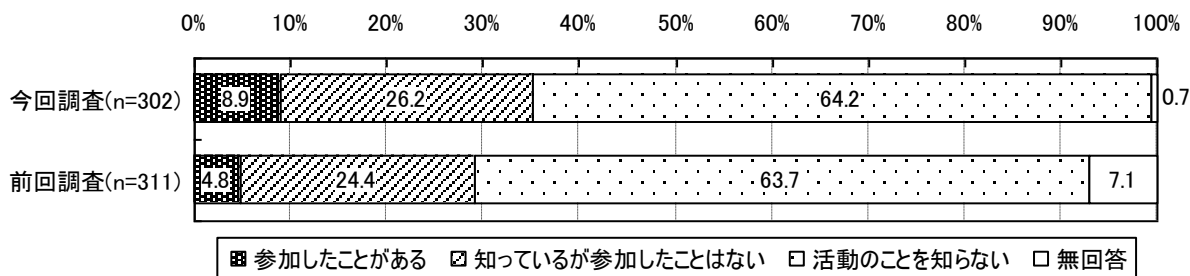
- ・海外というよりはその人自身によるところが大きい。
- ・日本に住むなら日本のルールに従うべき。

J-Q22. 豊中市では、行政や市民活動団体が、外国人市民と日本人市民の交流活動や、外国人市民への支援活動を実施しています。あなたは、次にあげる活動に参加したことがありますか。(1)～(6)についてそれぞれ1つ選んでください)

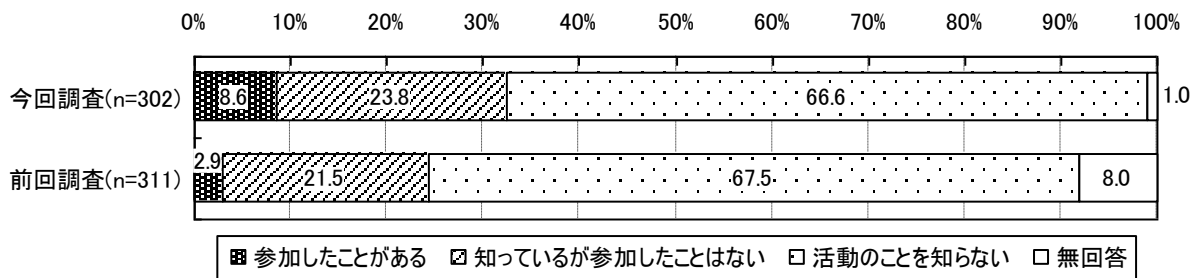
(1) 多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする講座・学習会・セミナー



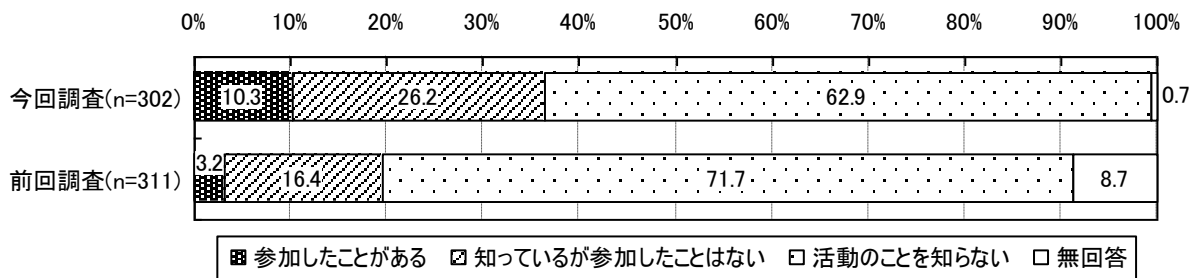
(2) 外国人との交流を目的としたイベントやお祭り・交流会



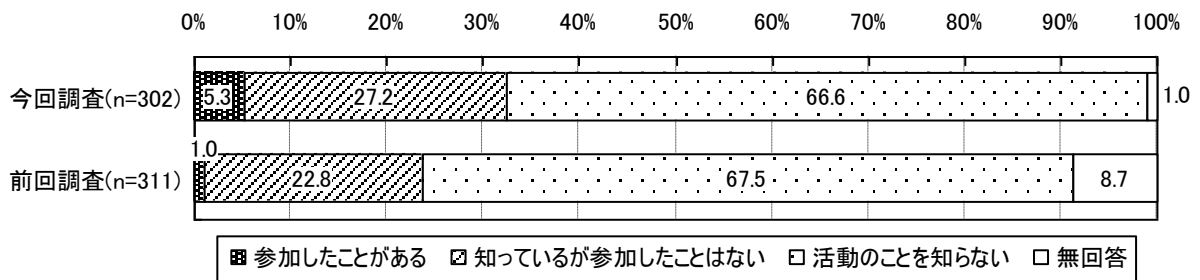
(3) 外国の文化や風俗・風習などの体験（芸能、衣服、食事など）



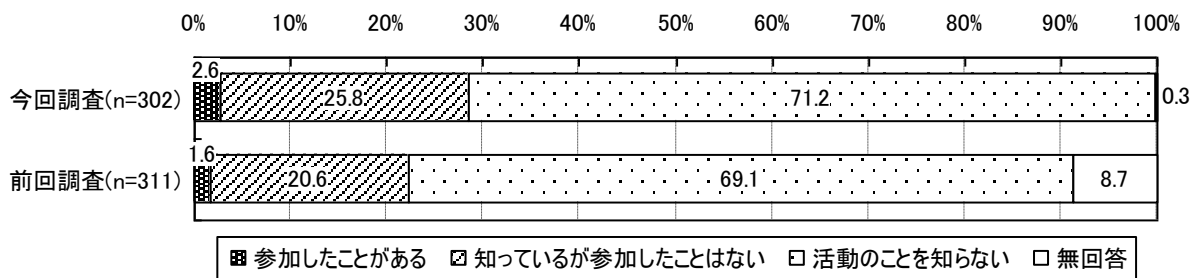
(4) 学校教育での多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする授業



(5) 日本語ボランティアや通訳など外国人の言葉のサポート

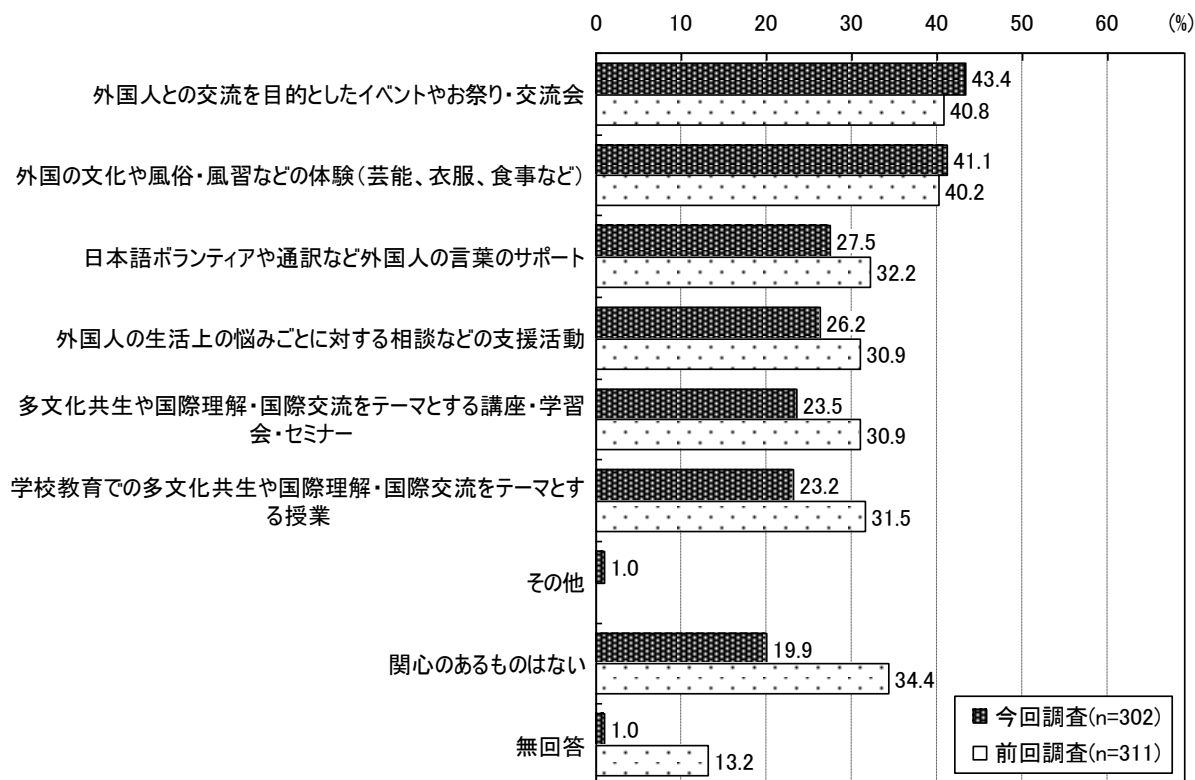


(6) 外国人の生活上の悩みごとに対する相談などの支援活動



- 各項目とも「参加したことがある」と回答した人は概ね1割以下にとどまっており、「参加したことがある」と「知っているが参加したことはない」を合計した周知度も、3割前後という結果となっています。(6)外国人の生活上の悩みごとに対する相談などの支援活動では、「参加したことがある」は2.6%、周知度も28.4%にとどまっています。
- 前回調査と比べると、「参加したことがある」「知っているが参加したことはない」ともに増加し、参加経験も周知度も増加する結果となっています。

J-Q23. 外国人市民と日本人市民の交流活動や、外国人市民への支援活動で、あなたが今後、関心のあるものはありますか。(いくつでも選んでください)

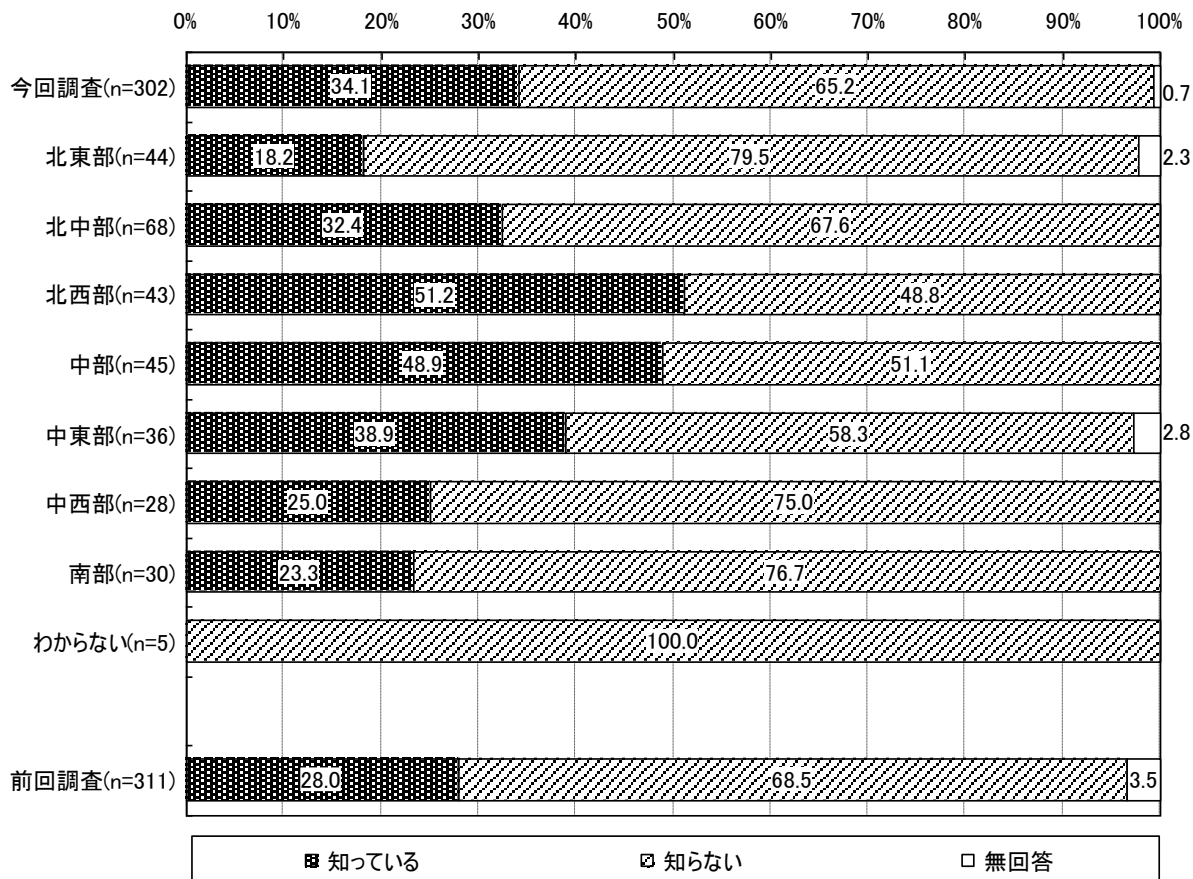


- 「外国人との交流を目的としたイベントやお祭り・交流会」が43.3%と最も多く、次いで「外国の文化や風俗・風習などの体験（芸能、衣服、食事など）」が41.1%、「日本語ボランティアや通訳など外国人の言葉のサポート」が27.5%などと続いています。
- 前回調査と比べると、「関心のあるものはない」は大きく減少していますが、同時に「日本語ボランティアや通訳など外国人の言葉のサポート」「外国人の生活上の悩みごとに対する相談などの支援活動」「多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする講座・学習会・セミナー」「学校教育での多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする授業」などへの関心も減少する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・子どもたちの学習サポート

J-Q24. 豊中市では、世界の多様な文化や人々との相互理解を深め、人権尊重を基調とした住民主体の国際交流活動をすすめるため、「とよなか国際交流センター」（豊中駅前）を設置していますが、あなたはこの施設を知っていますか。（1つ選んでください）



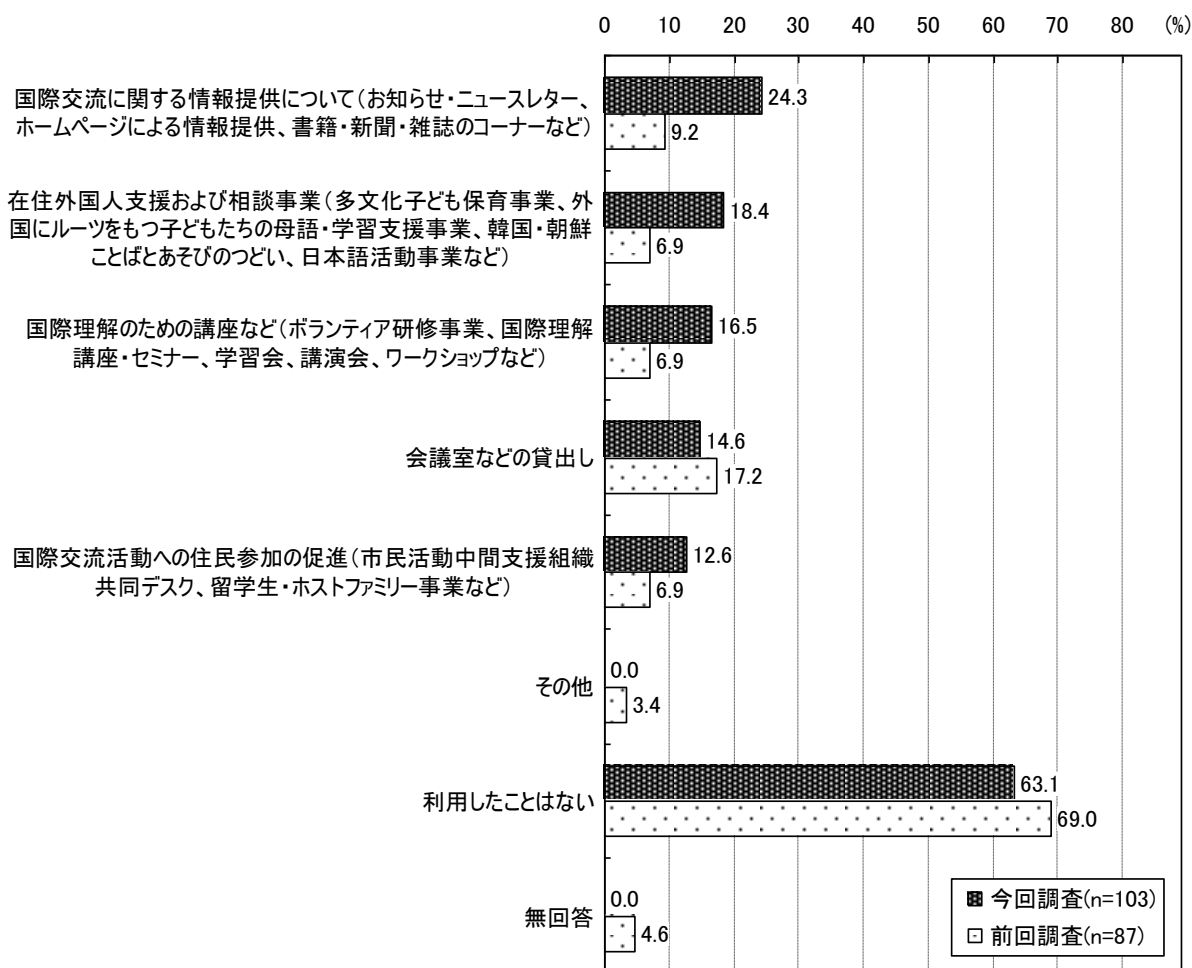
○「知らない」が65.2%を占め、認知度は34.1%となっています。

○居住地域別にみると、「知っている」人は女性で43.3%、北西部で51.2%、中部で48.9%、外国人とのつきあいのある人で44.6%と多くなっています。また、「知らない」人は男性で79.5%と多くみられます。

○前回調査と比べると、「知っている」が増加しています。

J-Q24-1. 「とよなか国際交流センター」が行っている交流イベントや講座などへ参加したり、貸し館の利用をしたことがありますか。(いくつでも選んでください)

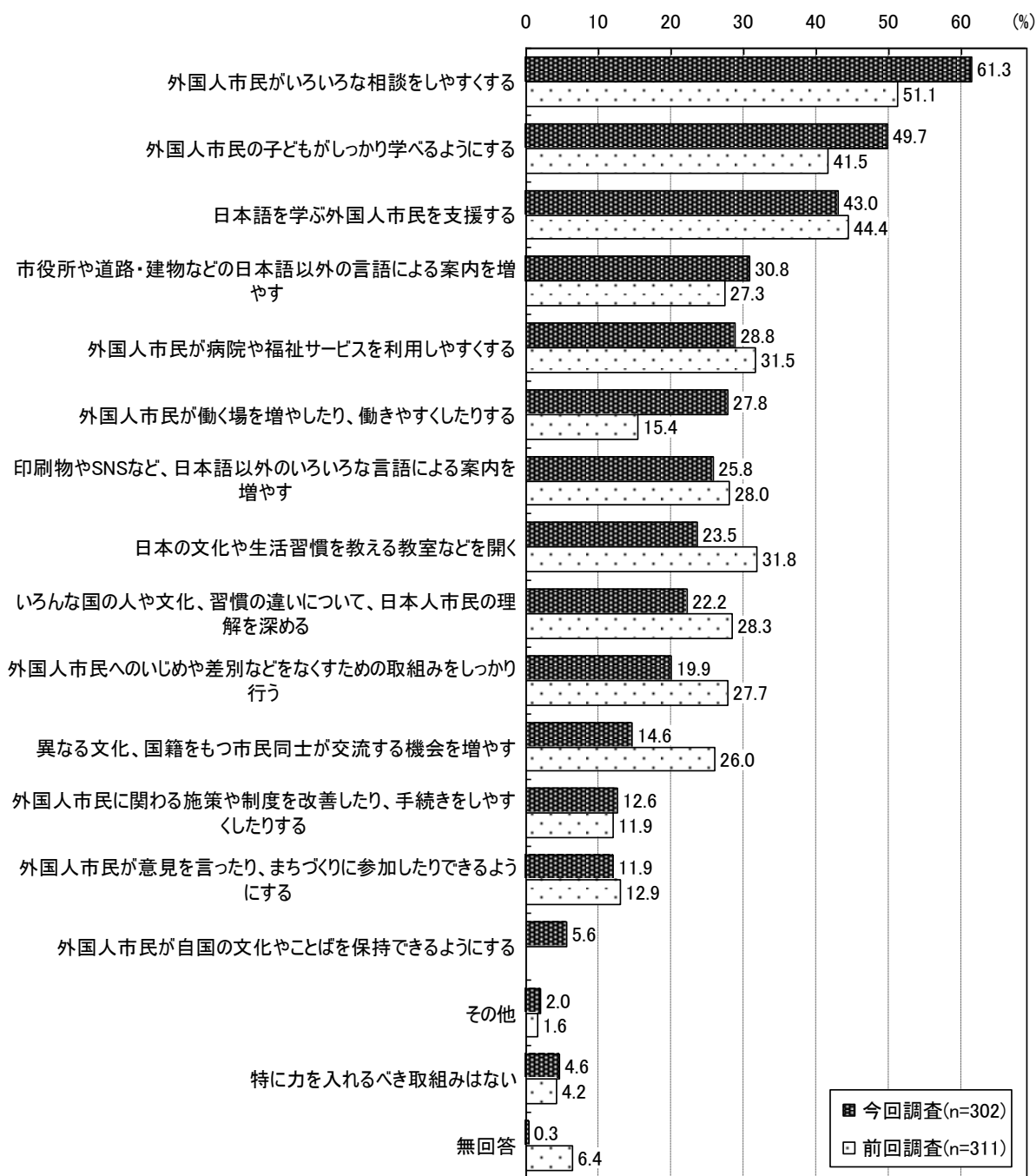
〔Q24 「とよなか国際交流センター」を知っている人が回答〕



○「とよなか国際交流センター」を知っている人に交流イベントや講座などへ参加したり、貸し館の利用をしたことがあるか尋ねたところ、「利用したことはない」が63.1%を占める結果となっています。利用経験としては、「国際交流に関する情報提供について」が24.3%と最も多く、次いで「在住外国人支援および相談事業」が18.4%、「国際理解のための講座など」が16.5%などと続いています。

○前回調査と比べると、上位の3項目とも大きく増加する結果となっています。

J-Q25. 異なる文化や価値観を認めあい、支えあって、ともに地域で暮らす「多文化共生のまちづくり」に向けて、豊中市は、今後どのような取組み（施策・事業）に力を入れたらよいと思いますか。（お考えに近いものを5つまで選んでください）



○「外国人市民がいろいろな相談をしやすくする」が61.3%と最も多く、次いで「外国人市民の子どもがしっかり学べるようにする」が49.7%、「日本語を学ぶ外国人市民を支援する」が43.0%などと続いています。

○前回調査と比べると、「外国人市民がいろいろな相談をしやすくする」「外国人市民の子どもがしっかり学べるようにする」「外国人市民が働く場を増やしたり、働きやすくしたりする」などで増加している一方、「日本の文化や生活習慣を教える教室などを開く」「いろんな国の人や文化、習慣の違いについて、日本人市民の理解を深める」「外

国人市民へのいじめや差別などをなくすための取組みをしっかりと行う」「異なる文化、国籍をもつ市民同士が交流する機会を増やす」などといった項目では大きく減少する結果となっています。

◆選択肢「その他」の記述内容

- ・日本人も外国人も共に相談しやすい環境を作る必要がある。
- ・コミュニケーションの手段としての英会話教育を全世代に対して行う。
- ・海外の方で日本に来たい方は自ずと渡航するだろうが、来たくても来れないウクライナなどの女性や子どもを受け入れる体制や姿勢がまったく見えない。
- ・外国籍の方の本国での日本人の扱いと同様が良い。日本人が海外での医療費が高い国は日本でも高く、国家間で差があるのであれば、そのまま適用すれば良い。よって国籍ごとに規則を決めるべき。
- ・他国はそのような取組みしているのか。
- ・共に暮らす必要はない。

5 自由記述意見

J-Q26. 「多文化共生のまちづくり」に向けて、あなたが日ごろ感じていること、取り組む必要があると思うことを自由に書いてください。(外国人市民に取り組んでほしいこと、日本人市民や企業などが取り組むべきだと思われることなど)

○回答フォーム末尾の自由回答意見には111人の方から記述がありました。

【多文化共生への意識について】

- ・日本の文化や習慣、考え方をよく知ってもらい、また日本人側も外国の方の国や文化のことを理解し、お互いを尊重しながらもそれぞれが守るべき自尊心を保てるよう、どちらかに偏らないようバランスよく共生できる環境を整えられることを望みます。
- ・外国の方へだけでなく、日本人同士にも言えることですが、お互いに相手を思いやる気持ちを持って接することが大切ではないかなと思います。
- ・大人も子どももいろいろな国の文化を理解して、尊重できる意識をかんようする取り組みが必要。
- ・お互いの言語、文化、風習などを学びあう場を設けて、市民と外国の方々に参加を促す。早いうちに知識を得るために学校で授業を行う。
- ・お互いの文化の違いの理解を深める場へ気軽に参加できればよいと思う。それでわかりあえることが増えるとお互いにとって良いことだと思う。
- ・まずは事実を知ることから始める。一方だけでなく相互理解を深める。
- ・互いのリスペクト
- ・子どもたちが幼少期から多様な文化や価値観に触れることは大切だと思います。学校教育の中でもっと多文化共生教育の取り組みを進めていただきたいです。その中でも最近の状況だけでなく、在日コリアンに関する学習もしっかり進めていくべきだと感じています。せっかく国際交流協会があるので、学校や地域のさまざまな団体とつながってより良い活動を展開し、多文化共生のまちづくりを進めてほしいと感じています。
- ・自分のすぐ近所に外国人が住んでいることを地域に住む皆が知る必要がある。『見えない者』として扱わず、共に市民活動を行う仲間として協力できるつながり（システム）を作っていかなければならない。「多様な考え方や価値観があるのが当たり前」ということや、「メディアリテラシー」など…を、将来を担う子どもたちにはしっかりと学校で体系的に学べるようにしてほしい。
- ・共生は仲良くすることではなく矛盾や対立、相違があるままに共存することだと思います。
- ・多文化共生と日本文化の良さを、共存させることが重要。安易に取り入れることにはリスクを感じる。
- ・外国人や日本人とか大げさに考えず人間対人間で困っている人がいれば助けようとするだろうし、また助けてもらおうだろうし、わからないことは教えあえばいいだけで国籍は関係ない。

- ・みんな仲良く
- ・最近外国人の姿を見ることが、多くなってきました。ご近所さんとしてのおつきあいができるようにサポートを積極的に行うこと、学校でも見落とされがちな子どもたちの学習サポートや居場所づくりを地域の中で行っていきたいです。市民の力のみに頼るのではなく、行政との協働が必要だと思っています。
- ・日本人の思考をもっとインターナショナル化する教育や活動を広める。
- ・日本人も外国人も互いの文化や習慣を理解しあうことが大切である。日本の人口減の問題に対しては外国人を受け入れていくしかないと思う。
- ・日本人同士でも違うことをまず受け入れた方がいい。

【偏見・差別について】

- ・国籍によっても、偏見が生まれがちなところがあると思う。そういう考え方がなくなればよいと思う。
- ・日本にすんでいる外国人が不当な扱いを受けないよう社会制度を整える。医療保険や労働において。
- ・学校は外国人に対する差別にしっかりと取り組む。学校は外国人に対する差別について、子ども同士の言い争いといった感じでうやむやにするのではなく、何がいけないのか、子どもたちが理解できるようにしっかりと取り組む。学校の先生に対して、外国人に対する差別をスルーしないための研修をしっかりと行う。行政が中心となって、多様性を大事にできるようになってはじめて、日本人も含めて一人ひとりの違いを大切にできること、自己肯定感を大事にできることを広く地域社会に伝えていく。
- ・外国人もどうぞ平等に扱ってください。
- ・ヘイトスピーチの取り締まりや異文化理解の深め方の周知。
- ・日本企業、社会。家族は、差別をなくすこと。
- ・私自身帰国子女で中学から日本に住み始め、最初は日本語も喋れませんでした。文化の違いもあり電車や公の場でジロジロと白い目で見られたりするものがたまらなく嫌で、他にもいろいろと苦しかった。今は外国人も増えてたまに電車で外国語を話している人がいると嬉しくなります。私は溶け込もうと必死で外国語も喋らなくなり本当にもったいないことしたな〜と後悔しています。今から住む人には嫌な思いせず暮らしてほしいなと思います。

【日本の文化や習慣を尊重すべき】

- ・日本の文化、習慣を理解してほしい。
- ・日本の文化やルールを理解してほしい。
- ・日本で生きていくなら、日本の文化や生活習慣を知り、合わせる努力も必要。一方、日本人は、外国人を理解し、生活しやすいような社会の仕組みをつくる。日本のマナーをきちんと伝える。日本人は外国人に遠慮しがちなので、やっていいこと、悪いことはきちんと伝えるべき。マナーのない外国人とはつきあいたくない。
- ・外国人市民は日本の文化を学び、尊重すべきです。自国の文化ばかりを押し付けるの

はだめだと思います。日本人市民は外国人市民の困っていることや解決策と一緒に考えてあげることが大事だと思います。

- ・日本に住む外国人も、郷に入れば郷に従え、英語のことわざにもあることからこのことは万国共通だと思う。お互いが住みやすい生活を送るには、日本の習慣、ルールを教える機会が必要だと思う。
- ・外国人でも日本に住むからには日本のルール（法律も含む）を知って、それを尊重するべき。
- ・間違った文化を当たり前と思わない、日本の文化、ルールを受け入れてもらうこと。
- ・外国人は日本文化、言語に慣れること。
- ・外国人は日本に住む以上、日本の文化を学ぶべき。
- ・日本語で過ごす以上、勉強しようと思う気持ちを持ってほしい。そのような支援があると役に立つ。
- ・各自治会には強制加入とし、定期的に新規転入者に対して説明会などを開くことで地域に慣れてもらう。

【多言語での対応について】

- ・お互いに尊重する姿勢でお互いを受け入れる環境、災害など緊急時に安心してもらえる多言語での対応や施策をわかりやすく発信したら良いと思います、賃金や生活水準を最低限守ってあげてほしい。
- ・言語の壁をもっとなくするためのシステムを広く導入すべき。
- ・英語圏の人でなくても英語を理解できる人は多いと思うので、英語表示だけでも多く、いろいろな案内・アナウンスのを増やすと良いと思います。
- ・病院、健診、予防接種などのサポートがまだまだ手薄で困ってる方を見受けるが自分は喋れないので歯痒さがある。通訳やボランティアを活用できるようにしてほしい。
- ・食料の禁忌を見分けられるような表記の案内。

【日本語学習について】

- ・言葉の壁をなくす取組みが先決では。外国人市民は日本社会や日本の風習に早く溶け込むことが先決ではと思う。
- ・外国ルーツの子どものための日本語学習の保障、母語保持の保障。
- ・外国人の日本語クラスだけでなく、日本人が外国語を学ぶ場所が多くなると、自然と共生のまちづくりになるのではないか。
- ・まだ日本語が不得意な子どもに対して、日本語の習得や勉強の支援、ならびにヤングケアラー（小さい妹弟の面倒を見ていたり、子ども以上に日本語が不得意な親のケアをしていたりする）への支援をお願いしたいです。

【日本人の外国語習得について】

- ・日本人はもっと外国語を話せるように教育すべきです。
- ・やはり言葉の壁が1番の問題だと思うので、お互いが言葉を学べる環境がほしい。

- ・困っている時に、言葉が話せないため、声をかけることを躊躇ってしまう
- ・ボランティア活動でいっしょに活動したことがあるが、コミュニケーションに苦労した。子育てで苦労している方へのフォローは自分ではできなかった。
- ・英語の授業は会話できるようになることを最優先すべきだ。

【交流活動について】

- ・日本人と外国人が、お互いの文化を認めあえるようにコミュニケーションがとれる場所や機会を作る。
- ・お互いを理解する機会があればいいのかなと思いますが、イベントなどあっても参加するのにハードルが高いように感じてしまうので、気楽にできるものがあるといいです。
- ・多文化の人と接する機会の入口を行政を通して広げてほしい。
- ・日本人、外国人関係なく人として交流できることに取り組んでほしい。
- ・外国人も日本人も、互いに理解しあえるように、様々な交流の機会を増やす（特に子ども同士）。
- ・交流する機会が必要。
- ・いまはスマートフォンもあるので…SNSを利用して、情報を発信し海外の方との気軽な交流ができるようになればいいと思う。とくに若い世代にどんどん取り組んでほしい。
- ・大々的な国際交流のお祭りなどをして、日本人が外国の文化に触れ、より身近な存在と感ずることができればいいと思います。
- ・各国の料理を用意した会場などに、日本人も外国人も呼んで一緒にご飯を食べる食事会をする。交流を深める。
- ・お互いの垣根を低くするため、お祭りやイベントを通して、直接会話する機会を増やす努力！
- ・カジュアルな交流
- ・外国人市民も日本人市民も互いに言葉が通じないだろうとまず敬遠してしまうのをやめ、些細なことでも協力できるような環境になることが好ましいと思います。海外出張の経験から、自分の要求などを満足に外国語で表現することの難しさや不安を実感しました。日本に住む外国の方も同じような感覚をお持ちではないかと考えます。海外出張の折、その国の方々が何とか私のつたない言葉を理解しようとしてくれたお陰で助かった場面が多くあったので外国人市民に対しても日本語話者である我々がしっかりとその言葉を受け理解しようとする姿勢で接することで互いの理解も深めていけるのではないかと思います。
- ・私自身は海外留学経験もあり、外国人に対してあまり壁を感じることはありません。日常では、今のところ外国人と接する機会はほぼないですが、あれば交流したいです。外国人も住みやすいまちだと感じてほしいし、子どもたちも自然に外国人を受け入れられるように育ててほしいです。日本はまだ外国人と接する機会が少ないので、そのような機会が増えればよいと思います。
- ・交流センターなどの施設が1か所だけでは、使用しにくい。（特に北部からは遠い）海

外の方の料理教室などあれば、面白いと思います。

- ・街中や乗り物の中などで、外国人に積極的に話しかける。
- ・初めて取り組んでいる、内容がわかり社会全体があれこれ取り組むことが多いと思います。日本人は、コミュニケーション能力がどちらかというと苦手な人が多いと思います。上手な交流を、日本人が知らない文化を、興味を引くやり方があればと思います。
- ・外国人でも日本人でも老若男女あいさつする習慣や、助けあえる環境の輪を広げたいと考えます。あいさつは近所でしかしないのが少し寂しい。近所の方以外は余所者感があるので、外国人ならなおさらだと思う。
- ・コロナもあり学校、職場、近所の人とのつきあいなどが余計に少なくなっているため、外国籍の方たちは余計に住みづらくなっていると想像します。取組みや出会いの場があっても興味のある人しか探さないと思うので、誰もが気軽に取り組める仕組みができればいいなと思います(何か思いつくわけでもないですが…)。

【情報提供について】

- ・情報が少なく届いていないと感じます。
- ・豊中市のホームページは外国人にとってとても見づらいつ感じます。トップページから外国人向けの情報をすぐに見つけることができず、知人の外国人が情報を得るのにとても苦労していました。とよなか国際交流協会はいろいろな取組みをしていて頑張っていると思います。もっと市の方もバックアップをしたり、とよなか国際交流協会の宣伝を積極的にしてもいいのではないのでしょうか。
- ・行政の窓口で外国人に対してしっかりと情報提供をする。千里や庄内の出張所でも外国人に対してしっかりと情報提供をする。
- ・ある特定の施設や窓口などに問い合わせで初めて知りたい情報を得ることができるのではなく、行政のWeb上で知りたい情報にアクセスでき、相談予約や意見を伝えることが可能なシステム(多言語に対応)があれば、より日本人との交流機会が増え、相互理解が深まると考えます。そのようなシステム開発に取り組むべきではないのでしょうか。

【相談窓口について】

- ・外国人市民が気軽に相談できるような窓口を作る。
- ・人種に分け隔てなくて共生するためお互いに認めあえたらと思っています。困った時に相談できる場所をもっと、アピールする必要があるのかなと思います。
- ・知らない国で生活するのは大変なことだと思うので、きちんと支援してくれる場所、連絡できる窓口などを増やすなどいいと思います。まだまだ外国人に偏見を持たれる方が多いと思うので残念です。
- ・以前、子どもの友人が外国人の子どもと誤解が生じ、いじめたみたい受け取られて傷ついたことがありました。先生も入って話しあっても、なかなか外国人保護者に理解してもらえず、大変だったようでした。個人的にも相談できる場所等を周知したりして、お互いの理解が進んで行くと良いと思います。

【日常生活の困りごとについて】

- ・治安の良さを維持することが重要と感じます（日本人、外国人問わず）。
- ・犯罪の抑止、仕事外での行動の規制。
- ・外国人専用の施設を増やす。
- ・個人のアイデンティティとして母国の文化、ルールは大事だと思いますが住んでいる所のルール（交通やゴミ捨てなど）は守ってほしい。

【労働環境について】

- ・外国人労働者の賃金を上げた方が良くと思う。
- ・外国人市民が仕事をしやすい環境を作るべき。
- ・賃金の改善、差別の改善。
- ・単に労働力不足を補うために外国の人たちを利用するのは反対です。
- ・外国人を雇用している企業がちゃんと支援をする。外国人を雇用している企業がちゃんと支援ができるように行政がサポート・情報提供をする。外国人だけが頑張るのではなく、学校全体で多文化理解・国際理解の取組みを進める。

【市の取組みについて】

- ・外国市民が、日本人同様生活できるよう取り組むべき。
- ・市が外国の方々へのどのような活動、支援を行っているか知らなかった。自分にも手伝えることがあれば参加させていただきたいが、そのような募集など目にもなかつた。市も外国の方々へのボランティア支援など、もっとアピールすべきだと思う。日本は島国であるため、外国人を受け入れづらいところがまだまだあると思うが、私たちが関わる姿勢を見せていけば、特別視する人たちの考え方も変わっていくのではないかと思う。
- ・「多文化共生のまちづくり」というスローガンを行政が本質から理解し、政策に取り込んでほしい（豊中市は相対的に頑張ってくれてると思うが）。
- ・行政が行っている支援や取組みが、広く市民に知られるようにすることや、一緒に何かに取り組む機会の創出をお願いしたいです。
- ・外国人市民の意見をより反映しやすい市政づくり。
- ・大勢の豊中市民が多文化共生のまちづくりについて知らないと思うので、やるならどの地域もわかるように取り組んでほしい。
- ・外国人も日本人も、差別なく楽しく暮らせる豊中市に期待します。周りに、外国人の知り合いはないですが、頑張ってください。
- ・外国人の子どもが楽しく安心して学校に通えるように、親に対する支援を充実させてほしい。
- ・海外の方はその人自身の資質によるところが大きく、日本人より日本人らしい素晴らしい人も多く（逆も然り）、共存を望む人は必然と周りとの協調して生活しているので問題がないように思う（当マンションでは）それよりも日本に来たくても来れない人（ウクライナの方）などの受け入れ支援を厚くするなどの方が、まちが明るくなるよ

うに思います。また日本文化のアニメがきっかけで留学する方も多いので、その分野で何か企画やイベントで交流した方が言語の壁を越えられると感じます。

- ・行政がすべきことはその根底である人権保障を整え推進することです。その法整備と予算を付けること。交流と人権保障の観点が混同する質問項目が散見されます。今一度根本を整理されてはいかがでしょう。
- ・まず、難民や移民をもっと受け入れてほしいと思います。申請が通る前でも、働くことができるようにしてあげてほしい。日本が好きで来てるのだから。暮らせるようにしてあげるのは日本人として、当たり前のことです。優しくしてあげてほしいです。
- ・豊中市に外国人の方がお一人で住む印象がありませんでした。日本人と国際結婚して住んでる人の方が多いというイメージです。北摂エリア豊中市というブランドがありますが、やはり生活や子育てがしやすいからだと思います。国際結婚ではなく外国人ファミリーにも豊中市は住みやすいと思ってもらいたいです。ただ、なぜ多文化共生が必要なのか。良いと思えば住んでるだろうし、わざわざ呼びこまなくても良いと思う。必要な人に必要なことをサポートできる行政であってほしいし、そういう人でありたい。
- ・自然と交流できれば仕事で来日、小学生だけでなく家族のサポートも必要だが。
- ・いろんな人々がある中で豊中市は頑張っていると思う。
- ・医療関係、学校関係の充実
- ・日本国籍を取得しなくて選挙権が持てること！
- ・移民受け入れ拡充や外国人参政権につながるような動きはまったく歓迎しない。外国人の生活向上のために税金を投じる余裕があるのなら、自国内で生活に苦しんでる日本人のために使うことを優先すべき。多文化共生とか、個人的にはどうでもいい。
- ・市役所から遠いところにも手を出して。

【その他】

- ・豊中市が取り組んでいることで自分自身が知らないことが多いので、もっと関心を持つことが必要だと感じました。
- ・普段の生活で外国人市民に接することがあまりなくよくわからない。
- ・多文化共生のまちづくりに関しては特にはない。ただ、豊中市民（日本人）に関して取り組んでほしい。
- ・外国人が必要とすることを手助けすることは必要だと思いますが、合う、合わないはどの国にもあると思います。無理やり、押し付けは良くないと思います。
- ・あまり近所で海外の人を見かけたことがない。
- ・日頃、豊中市では特に外国人市民と出会うことがないため、何も感じていません。
- ・外国の人と接しないので特に多文化共生に関心がありません。
- ・無理に多文化共生のまちづくりに取り組まなくても良い。私が納めた税金を無駄に使わないでほしい。
- ・日本人の雇用をしっかり守る。その上でないと、他国は受け入れられない。外国語は話さないと身につかないから、交流は増やせばいいが、働かない外国人は国へ帰って

もらう方がいい。福祉や雇用を外国人のために分配するのは間違っている。

- ・日本人同士でもそうですが、互いに迷惑をかけないようにすれば、共生のまちづくりは可能だと思います。仲が悪くなるようなことをしないのが肝要で、仲良くする必要はあるとは思いません。
- ・日本が外国人ではなく、外国籍の方を受け入れるのが、国益なのであれば受け入れるべき。外国籍の方が日本での利益だけを求めるので有ればWINWINではないので、何もしなくてもいい。結論、日本の利益が外国籍の方を受け入れるリスクと等々か上回らなければ、受け入れる必要はない。共生なので、どちらかだけが得するのは共生ではないので。
- ・日本をもっとわかろうとする人以外は来るべきではない。
- ・外国人と一括りにしないでください。このアンケートがナンセンス。ロシア、中国、北朝鮮。
- ・歴史的に100年4世代で文化の乗っ取りが可能である。長期的な視点からのどのようなリスクが想定されているのか。慎重すぎるぐらいでよいと思っています。
- ・snsやYouTube等で実際に活動、活躍している外国人のことを知る。

V 調査結果の分析及び考察

回答者の属性、日本で^の在住期間・形態、 日本語能力などについて

関西大学 名誉教授 ^{いしもと きよひで} 石元 清英

調査方法

2022年に実施した「多文化共生に関する市民アンケート調査」（以下、「今回調査」という）は、Web調査（インターネットを利用したアンケート調査）を基本として行われた。2012年に実施された前回調査は、調査対象者に調査票を郵送し、調査対象者が記入した調査票を返信用封筒で返送してもらうという郵送法で行われたが、今回調査では調査対象者にQRコードとホームページのアドレスを印刷した「豊中市多文化共生に関するアンケートへの協力をお願い」という依頼文（日本語を含め、8か国語）を郵送し、Web調査への協力をお願いした。ただ、Web調査に不慣れな調査対象者がいると考えられるので、スマートフォンやコンピューターなどでの回答を手伝ってほしい場合や、紙の調査票に記入して回答したい場合は、公益財団法人とよなか国際交流協会に問い合わせしてほしい旨、依頼文に明記し、問い合わせ先の電話番号とメールアドレスを示した。また、アンケート（調査票）で用いた言語は、前回調査が日本語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、英語の5か国語であったが、今回調査では、それに加えてベトナム語、ネパール語、インドネシア語の8か国語とした。

回答者の属性

こうした調査方法の変更は、前回調査に比べて回答者の属性に大きな変化をもたらしたといえる。

まず第1に、年齢構成である。前回調査では、回答者に占める50歳未満の割合は62.2%、50歳以上の割合は30.6%であったが、今回調査では順に81.6%、18.2%と、50歳未満が増加し、50歳以上が減少した（12ページのF-Q2の図）。今回調査では、問い合わせがあった場合に調査票を郵送するという対応をとったとはいえ、Web調査に不慣れではあるが、紙の調査票を取り寄せることまではしなかったという50歳以上の調査対象者が多くいたものと考えられる。

今回調査の有効回収率は25.7%であったが、これを年齢別にみると、18～29歳26.4%、30～39歳33.0%、40～49歳32.4%、50～59歳21.3%、60～69歳16.6%、70歳以上6.8%であり、50歳未満の有効回収率が高くなっている。郵送法による調査の場合、有効回収率は60～69歳が最も高く、年齢が若くなるほど低下するという傾向が一般にみられるが、今回調査がWeb調査を主としたものであったため、50歳以上で年齢が高くなるにつれ有効回収率が低下しているのであろう。

第2に、国籍・地域の構成の変化である。使用言語を増やしたことにより、「ベトナム」が前回調査の1.7%から今回調査では14.8%に増加した。同様に「インドネシア」も1.7%から3.6%に増加し、前回調査では該当なしであった「ネパール」が9.2%となった。一方、「韓国・朝鮮」の割合は半減しているが、韓国・朝鮮籍の人たちは、ニューカマーの外国人市民とは異なり、高齢者が多い（日本人市民の年齢構成に近い）ために、調査方法の変更により、「韓国・朝鮮」の大幅な減少につながったと考えられる。

また、「中国」の割合が上昇しているが、これは中国籍市民の増加によるものとみられる。そして、前回、該当なしであった「台湾」と「インド」がそれぞれ2.6%、1.8%となっているのは、調査方法をWeb調査としたことによるのかもしれない。

調査方法の変更と使用言語の増加は、調査への回答言語の変化にもつながった。今回調査では、新たに使用言語としたベトナム語、ネパール語、インドネシア語で回答した人が合わせて25%を占める。そして、前回調査では61.8%であった日本語が今回調査では32.3%と、半減している。前回、日本語で回答した人の多くは韓国・朝鮮籍の人たちであると考えられるが、今回、Web調査となったために回答しなかった韓国・朝鮮籍の人たち（主として50歳以上の人たち）が多かったのであろう。

また、日本語による回答の減少については、前回調査で使用言語にベトナム語、ネパール語、インドネシア語がなかったため、日本語で回答したという人たちのなかで、今回調査ではベトナム語、ネパール語、インドネシア語で回答したというケースがあるものと考えられる。同様のことは、英語の減少についても指摘できる。

前回調査では各設問で「無回答」が多くあがったが（たとえば、F-Q6の豊中市での居住年数では16.1%、F-Q10の一緒に住んでいる人に日本語を話せる人がいるかという問いでは18.5%など）、今回調査で「無回答」が非常に少なくなっているのは、母語で回答する人が増えたことと関係していると考えられる。

以上のように、今回調査では前回調査に比べて回答者の属性に大きな変化があった。そのため、前回調査との比較にあたっては、こうした変化を踏まえた考察を行う必要があるといえる。

日本での居住期間

つぎに、F-Q19までの設問に関して、調査結果にみられる特徴について、みていくことにする。

日本での居住年数についてみると（13ページのF-Q5の図）、前回調査に比べて「20年以上」が36.3%から21.6%へと減少し、「5年から9年」（10.6%から24.4%）と「1年未満」（4.6%から13.2%）が増加している。調査方法の変更により、居住年数の長い韓国・朝鮮籍の高齢者からの回答が減少し、使用言語を増やしたことにより、居住年数の短い外国人市民からの回答が増加したといえる。なお、今回調査でも韓国・朝鮮籍市民の、日本での居住年数「20年

以上」の割合は67.1%であった。

居住年数の短い外国人市民からの回答が増えたことは、生まれたところはどこかを問うたF-Q3で、「日本で生まれ育った」の割合が前回調査の29.3%から今回調査では10.8%へと大幅に減少していることにもあらわれている。

在留資格

在留資格についてみると（17ページのF-Q8の図）、「永住者」と「特別永住者」が減少し、「技術・人文知識・国際業務」や「研修・技能実習」「家族滞在」などが増加している。これについても、調査方法の変更により、「永住者」と「特別永住者」の高齢者からの回答が減り、使用言語の追加によって就労などで来日した滞在年数の短い外国人市民からの回答が増えたものと考えられる。また、「留学」が減少しているのは、新型コロナウイルス感染が影響しているのであろう。なお、「特定技能」「技能」「定住者」「特定活動」については、在留資格の制度変更により、今回調査で新たに加えられた資格である。

誰と住んでいるのか

F-Q9の「誰と一緒に住んでいますか」という問いで、「家族」と回答したのは63.1%（316人）、「ひとりで住んでいる」と回答したのは22.6%（113人）であった。家族と一緒に住んでいる人（以下、「家族」という）と、ひとりで住んでいる人（以下、「ひとり」という）を比べると、F-Q27の「あなたは、地震や台風などの災害がおきたときに、どこに逃げたらいいのかわかりますか」に対して、「知っている」と回答したのは「家族」58.5%、「ひとり」40.7%、F-Q29の「あなたは、あなたが住んでいるまちの人たちと、つきあいがありますか」に対し、「ある」と回答したのは「家族」64.9%、「ひとり」43.4%、F-Q38の「あなたは、豊中駅前にある『とよなか国際交流センター』に行ったり、センターの事業に参加したり、サービスを使ったことがありますか」に対し、「センターに行ったり、センターの事業に参加したり、サービスを使ったことがある」と回答したのは「家族」34.5%、「ひとり」15.0%であった。

このように、家族と一緒に住んでいる人に比べて、ひとりで住んでいる外国人市民は、自分の住んでいるまちの人とのつきあいがあるという人が少なく、災害時の避難場所を知っている人や「とよなか国際交流センター」へ行ったり、サービスを使ったことのある人が少ないのである。また、自分が住んでいるまちの人たちとのつきあいの有無と、「とよなか国際交流センター」の利用の程度には相関関係がみられ、「とよなか国際交流センターへ行ったり、センターの事業に参加したり、サービスを使ったことがある」と回答した割合は、自分が住んでいるまちの人たちとつきあいがある人で33.4%であるのに対し、つきあいがいない人では19.0%であった。ひとりで住んでいる外国人市民に対しては、さまざまな情報提供をしていくと同時に、地域の人たちとの交流を進めていく取組が重要であるといえる。

家族について

パートナーや子どもと一緒に来日したかどうかを問うたF-Q11によると、「一緒に来た」は44.1%で、「残してきた」は9.2%と少なかった（「パートナーや子どもはいない」は41.1%）。そして、パートナーや子どもを残してきたと回答した外国人市民にパートナーや子どもを日本に呼び寄せる予定はあるかと問うと（F-Q11-1）、69.6%が「呼び寄せる予定がある」と回答している。このように、短期の出稼ぎ型ではなく、比較的長期間の予定で来日している外国人市民が多いといえる。このことは、日本での生活を終え、出身国・地域に帰国する予定があるかと問うたF-Q12で、「予定がない」が46.5%と、「予定がある」（19.6%）を大きく上回っていることにもうかがわれる。

日本語能力について

日本語についての設問（F-Q13）では、日本語が日本人と同じくらいできると回答したのは、「話す」「聞く」「書く」「文字を読む」「文章を読む」それぞれについて3割台であった。そして、日常会話なら話せたり、聞くことができるのが3割台、簡単な漢字・カタカナ・ひらがなが書けたり、読めたりするのが4割台、「漢字がまざった簡単な文が読める」が4割弱であった（21～23ページのF-Q13の図）。このように、日本語の会話や読み書きに関して、日常生活を送るうえで特に大きな支障がないと考えられる外国人市民は、約7割ほどであるといえる。なお、会話や読み書きが「日本人と同じくらいできる」と回答した割合が前回調査に比べて大きく減少しているが、これは韓国・朝鮮籍の外国人市民からの回答が今回調査で少なかったためである。

あなたは日本語を勉強したことがあるかを問うたF-Q14では、「はい」が84.6%、「いいえ」が14.4%であったが、これを国籍・地域別にみると、ネパール以外の国籍・地域では構成比に大きな違いがないが、ネパールだけが「はい」47.8%、「いいえ」43.5%と、日本語を勉強したことがないという回答の多さが目立っている。

日本で生まれ育った、外国にルーツをもつ子どもたちが父母や祖父母の出身国・地域の言葉・文化などを学んだり、体験することについて、どう思うのかを問うたF-Q18では、「とても大事だと思う」が57.7%と、最も多かった。これを国籍・地域別にみると、「とても大事だと思う」の割合は、韓国・朝鮮56.1%、中国50.9%、ベトナム58.1%、ネパール52.2%と、いずれも50%台で、大きな違いはみられなかった。

自分の国や出身地域の人たちとの交流

自分の国や出身地域の人たちが集まったり、SNS上で交流することはあるかと問うたF-Q19では、「よく交流することがある」29.9%、「ときどき交流することがある」38.5%で、7割近くの外国人市民が自分の国や出身地域の人たちと交流していると回答している。そして、

「交流はしていない」は14.6%であった。国籍・地域別にみると、「よく交流することがある」の割合が高いのは、中国45.3%、その他のアジア（韓国・朝鮮、中国、ベトナム、ネパール以外のアジア）42.9%で、「交流はしていない」の割合が高かったのは韓国・朝鮮（40.2%）であった。

そして、「ほとんど交流することはない」「交流はしていない」と回答した人たちのなかで、F-Q29の「あなたは、あなたが住んでいるまちの人たちと、つきあいがありますか」という問いに「ない」と答えたのは81人（16.2%）であった。自分の国や出身地域の人たちだけではなく、自分が住んでいるまちの人たちとも、つきあがないという外国人市民が2割弱いるのである。この81人についてみると、国籍・地域では、韓国・朝鮮が最も多く（29.6%）、中国（18.5%）、ベトナム（13.6%）、ネパール（7.4%）がつづく。また、年齢別では、30～39歳（29.6%）と18～29歳（24.7%）が多くなっている。

日本人市民アンケートについて

今回調査の外国人市民アンケートでは、Web調査を主とする方法をとったため、郵送法で実施した前回調査に比べて、有効回収率は50歳未満で高くなり、50歳以上で低くなったことは、前述したとおりであるが、この点は日本人市民アンケートでも同様である。回答者の年齢別構成は、前回調査に比べて18～29歳、40～49歳、50～59歳で大幅に増加しているのに対し、60～69歳と70歳以上では、大幅な減少となっている（87ページのJ-Q2の図）。このように、50歳未満の構成比が増加したため、職業については、前回調査と比べて、「勤労者（公務員・会社役員・内職・アルバイトを含む）」が15.9ポイント増加し、「無職（年金生活者を含む）」が13.4ポイント減少している。

外国人市民アンケートと同様に、日本人市民アンケートの結果においても、回答者の属性に大きな変化がみられるので、前回調査との比較にあたっては、こうした変化を踏まえた考察を行う必要がある。

外国人市民の地域での暮らしと行政サービス

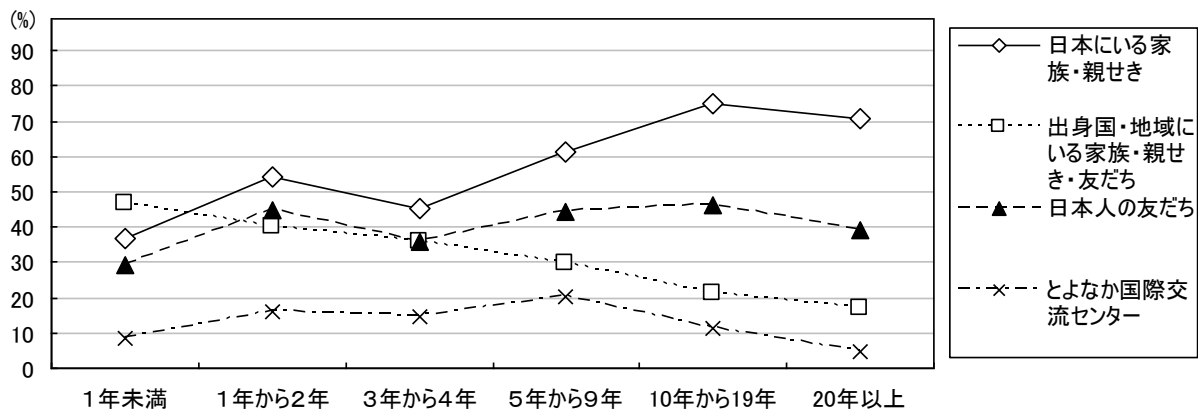
関西外国語大学 広報部 こまき のりこ 小牧 規子

今回の調査は、2020年から始まったコロナ禍のなか、国境が一時閉ざされた状態にあった時期を経た2022年秋に実施された。そのことが、アンケート調査の結果にどのように反映されているのかは、さらに詳細な考察が必要であるが、外国人市民向けのアンケートで「F-Q6. 豊中市にこれまで合わせて何年住んでいますか？」という問いに対して「1年未満」が25.9%と最も多いことに着目したい。わが国がコロナ禍で閉ざした国境を開いて、外国人の入国を認めて以後に入国してきた人が比較的多いことを意味している。また、今回の調査では、10年以上居住している人が減少していることもわかった。これらのことに留意して、外国人市民の地域での暮らしや豊中市の行政サービスについて、見てみたい。

【外国人市民の地域での暮らし】

「F-Q21. 困ったことがあったとき、あなたはだれ（どこ）に相談していますか」の問いで、最も多い答えは、「日本にいる家族・親せき」で、「日本人の友だち」「出身国・地域にいる家族・親せき・友だち」と続く。10年前の前回調査と比べると、日本人の友だちが大きく減少している。中でも、市内での居住年数が1年未満の人の最も多い回答が「出身国・地域にいる家族・親せき・友だち」だが、居住年数を重ねるにつれ、「日本人の友だち」の割合が増えている。また、「とよなか国際交流センター」と答えた人は13.4%に上り、前回（3.4%）から大幅にアップした。居住年数が5年から9年の人では20.5%を占めていた。一方で、「市の相談窓口」と答えた人は7.8%で10年前の（6.5%）とそれほど変わらず利用が少ない。

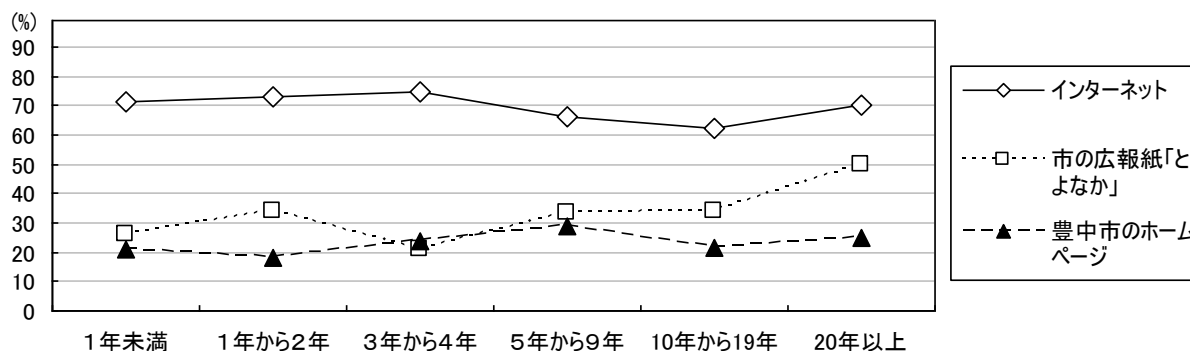
F-Q21. 困ったことなどがあったとき、あなたはだれ（どこ）に相談していますか。



F-Q22. ふだんの生活で、どんな情報が必要ですか？」の問いには、「税金・年金・保険のこと」が56.1%、「仕事のこと」47.1%、「病院やくすりのこと」43.1%が上位3位で、いずれも前回調査より増加している。

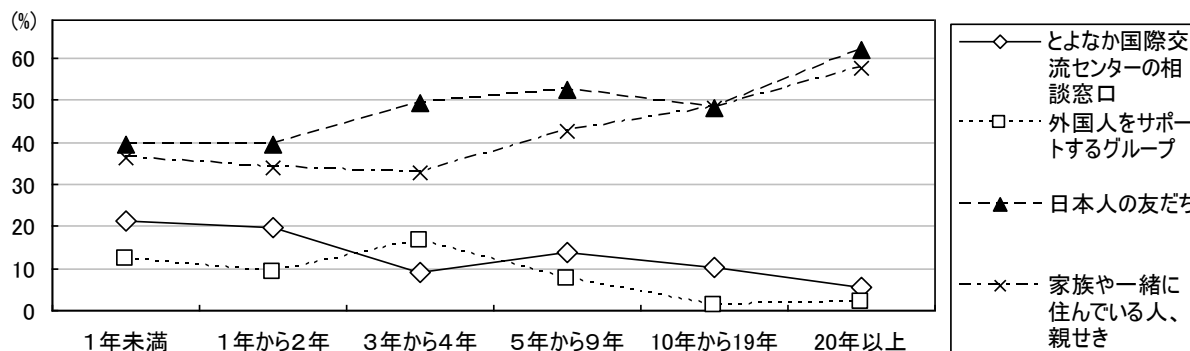
それらの情報をどうやって手に入れているのかというF-Q23の問いで、最も多い回答が「インターネット」68.9%で前回より22.5ポイントもアップした。「豊中市のホームページ」23.8%も前回より10.1ポイント上昇した一方で、市の広報紙「とよなか」や「日本語のテレビ・ラジオ」「日本語の新聞や雑誌」は前回調査より減少している。居住年数の短い人ほど、インターネットに頼る割合が高く、居住年数の長い人ほど「市の広報紙」を挙げる割合が高く、とりわけ20年以上の人は50.0%が市の広報紙を挙げていた。

F-Q23. どうやって、生活に必要な情報を手にいれていますか。(1) 何から？



また、「だれ、どこから」という問いには、「日本人の友だち」「家族や一緒に住んでいる人・親せき」「職場や学校」の順となっていた。居住年数の短い人では、「とよなか国際センターの相談窓口」や「外国人をサポートするグループ」を挙げる人が多く、1年未満は「とよなか国際交流センター」21.2%、「外国人をサポートするグループ」12.1%、1年から2年では「とよなか国際交流センター」19.6%だった。国籍別ではネパールの人の60.9%が「国際交流センターの相談窓口」を挙げていたのが目を引いた。

F-Q23. どうやって、生活に必要な情報を手にいれていますか。(2) だれ・どこから？



「F-Q25. 病院やくすりで困っていることがありますか」の問いに「ある」と答えた人は22.4%で前回(36.8%)より減っているが、その内容を聞くと「病気やけがを治せる病院がどこにあるのかわからない」46.4%、「わかることばで書かれた病院やくすりの情報が少ない」42.9%となっている。「通訳をしてくれる人を見つけるのがむずかしい」が28.6%で前回(9.2%)より19.4ポイントも上昇。とりわけベトナム国籍の人の50%が通訳を見つけるのがむずかしいを挙げていた。

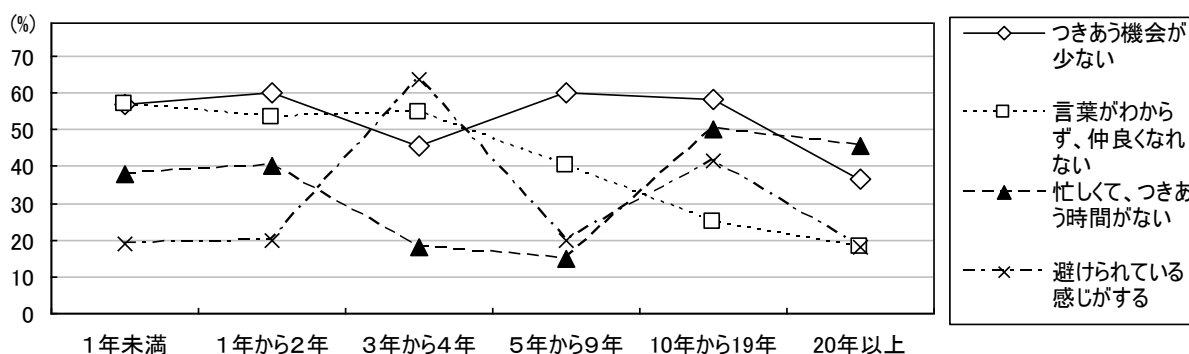
仕事に関することで困っていることを聞いたF-Q26-1-1では、「資格のとり方がわからない」22.0%が前回(12.4%)より9.6ポイント上昇。「日本人と給料や扱いがちがう」を挙げた人が18.1%いた。

地震や台風などの災害時に、避難場所を知っているかと問うたF-Q27では、知っている人が52.3%で、前回(45.9%)より増加した。

住んでいるまちの人たちとのつきあいについては(F-Q29)、「ある」とした人は57.9%で、前回(66.1%)より減っている。「F-Q30. 住んでいるまちの人とのつきあいで困っていることがありますか」で、「ある」という人は18.0%で、前回(63.7%)より大きく減少している。

ただ、その内容を問うと(F-Q30-1)、「つきあう機会が少ない」54.4%、「言葉がわからず仲良くなれなれない」43.3%となり、外国人市民が地域でのつきあいが薄いことがうかがえる。居住年数が短い人ほど「言葉がわからず仲良くなれない」を挙げている人が多いが、居住3年から4年の人で最も多かったのは「避けられている感じがする」63.6%だったのが注目される。

F-Q30-1. 困っていることは何ですか。

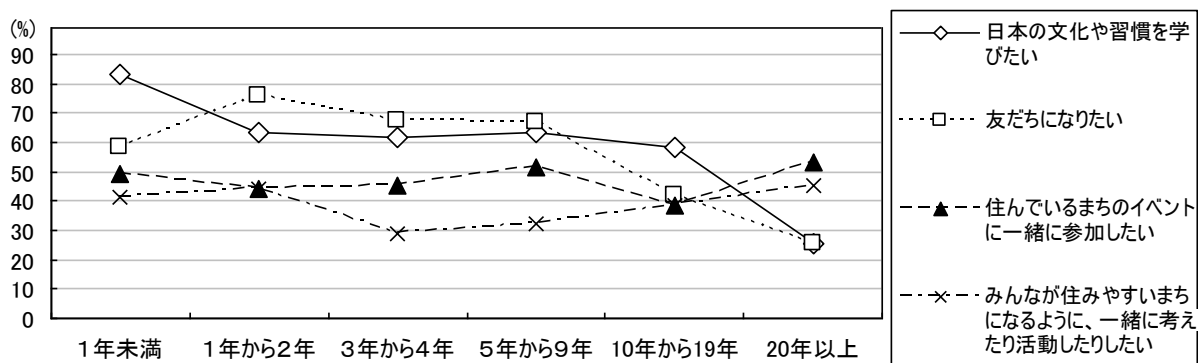


住んでいるまちの人たちと積極的に交流したいかという問い(F-Q31)では、「交流したい」68.5%、一方で「交流したいとは思わない」と答えた人が27.5%で、前回(9.6%)より17.9ポイントも増えている。日本人市民への同様の問い(J-Q16)には、「交流したいと思

う」と答えた人が69.2%で、「交流したいと思わない」の回答が30.1%と、前回（16.4%）より増えていた。外国人、日本人市民双方とも「交流したいと思わない」との回答が増加しているのが気がかりだ。

どのような交流をしたいかという外国人市民への問い（F-Q31-1）には、「日本の文化や習慣を学びたい」59.5%、「友だちになりたい」56.3%、「住んでいるまちのイベントと一緒に参加したい」47.2%、「みんなが住みやすいまちになるように、一緒に考えたり活動したりしたい」37.3%などとなり、いずれの回答も前回より増えている。特に「日本の文化や習慣を学びたい」は16.3ポイント、「住んでいるまちのイベントと一緒に参加したい」は13.1ポイント、「みんなが住みやすいまちになるよう、一緒に考えたり活動したりしたい」は10.0ポイント前回より増えていた。「日本の文化や習慣を学びたい」は、居住年数が10年未満の人で割合が高く、「みんな住みよいまちになるように、一緒に考えたり活動したりしたい」は、比較的安定した在留資格を持つ人が賛同する割合が高かった。

F-Q31-1. どのような交流をしたいと思いますか。



一方、日本人市民への同様の問い（J-Q16-1）には、「外国人市民から出身国・地域の文化や習慣を学びたい」が最も多く65.1%、「友だちになりたい」44.5%、「地域のイベント活動と一緒に参加したい」38.3%、「外国人市民に日本の文化や習慣を紹介したい」34.4%、「住みよいまちづくりのための活動を一緒にしたい」33.5%などで、特に「地域のイベント活動と一緒に参加したい」は前回より13.4ポイント、「住みよいまちづくりのための活動を一緒にしたい」は前回より9.0ポイント増えていた。

これらの結果から、外国人市民、日本人市民ともに交流の内容が、地域での協調を望んでいる割合が増えていることが明らかになった。

「F-Q32. あなたがやってみたいものを選んでください」の問いでは、「外国人を支援する活動」が最も多く39.7%、「住んでいるまちの人と一緒に、まちのために活動すること（そうじ、おまつりなど）」35.9%、「通訳・翻訳などをして、困っている人を助ける」34.7%と続く。

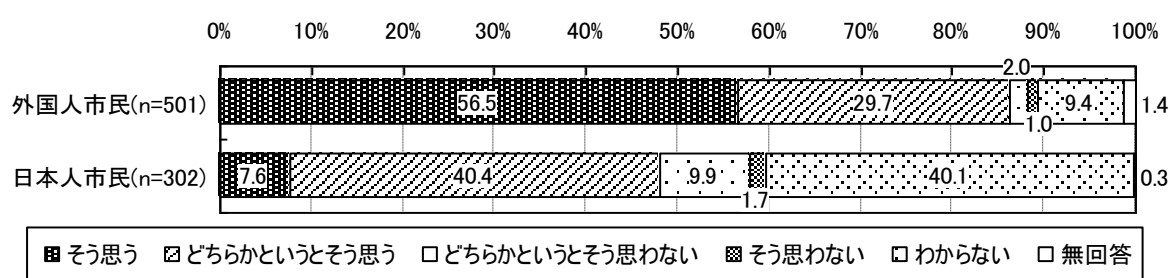
外国人市民のための活動やまちのための活動への意欲が、前回より大きく増加しており、外国人市民のまちづくりへの積極的な姿勢がうかがえる。

しかし、上記のような意欲に水を差すような状況にも直面している。日本でのくらしで会うことを聞いた質問（F-Q33）では、「文化や習慣のちがいが理解されない」20.4%、「外国人であることを理由に、家を買うことや借りることをことわられる」18.2%を挙げている。

同様の質問を日本人市民に聞いた問い（J-Q21-1）には、「文化や習慣のちがいが理解されない」76.0%、「同じ仕事をしていても日本人より賃金が低いなど、労働条件が悪い」44.5%、「外国人であることを理由に、住宅の購入や入居を断られる」35.5%、「肌の色や服装、宗教、国籍などのちがいを理由にひどいことを言われる」35.0%などとなっており、外国人市民に比べて日本人市民の方が「あると思う」の回答が多くなっている。この問いの前に「外国人には、日本社会での生活のしづらさがあると思いますか」の設問があり、「ある」と答えた人のみの回答のためと思われる。

豊中市は外国人市民にとって住みよいまちかどうかを問う質問（F-Q34）で、「そう思う」とした人は56.5%で、前回（38.0%）より20ポイント近く増加した。日本人市民への同様の問い（J-Q20）には、「そう思う」とした人は7.6%、「どちらかといえばそう思う」が40.4%で、合計48.0%が豊中市は外国人市民にとって住みよいまちだと回答していた。日本人市民より外国人市民の方が、住みよいまちだと評価していた。

F-Q34. J-Q20. 豊中市は、外国人市民にとって住みよいまちだと思いますか。



また、豊中市に住んで、良いと感じることに（F-Q20）については、「電車やバスなど、行きたい場所に行きやすい」64.9%、「自然環境が良い」55.1%、「犯罪が少なく安心」48.5%、「買い物がしやすい」47.1%など、外国人市民は概ね豊中市での生活に満足していることがうかがえた。

豊中市に住んで良いと感じる点は、日本人市民へのアンケート（J-Q7）でも「交通の便が良い」73.5%、「治安が良い」60.9%、「買い物がしやすい」53.0%、「自然環境が良い」44.0%と外国人市民と同様の項目を上位に挙げていた。

【外国人市民と行政サービス】

外国人市民が使った行政サービス（F-Q35）では、「マイナンバーカードをもらう」と「予防接種をうける」がともに62.7%でトップを占めた。特に「予防接種をうける」が前回（25.7%）の倍以上となっていた。これは新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が外国人市民の間でも進んだことが背景にあると推察される。

行政サービスについて、知らなかった人の割合が多いのが、「市民健康診査をうける」29.5%、「国民健康保険によるサービスをうける」24.9%、「生活保護」21.2%などで、居住年数の短い人ほどその割合が高かった。

豊中市が提供している日本語ではない言葉で書かれた資料で使ったことがあるものを聞いた問い（F-Q36）では、「ごみの分け方、出し方早わかりガイド」が最も多く47.1%、次いで「生活情報冊子『とよなかガイドブック』」34.9%だった。これらの資料について、居住年数が短い人ほど「役に立った」と答えており、特に2年以下の人は90%を超えていた。こうした資料を使わなかった理由として、「知らなかった」を挙げている人が一定数おり、広報紙「とよなかしからのおしらせ」についての認知度が低かった（27.9%）。

外国人市民が豊中市役所に行って困ったことがあるという問い（F-Q37）には、14.8%が「ある」と答えている。その内容としては、「どの窓口に行けばよいのかわからない」47.3%が最も多かったが、そのほかでは「自分の使える言葉の通訳がない」37.8%、「自分の使える言葉で書かれた書類がない」27.0%、「通訳が少ない」24.3%と、言葉の問題を挙げる声が目立った。とりわけ、居住年数が1年未満の人ではそうした声の割合が高かった。

「とよなか国際交流センター」に関する問い（F-Q38）では、「知らない」と答えた人が半数近くの43.3%に上っている。在住年数が2年以下の人では「知らない」と答えた人が50%を超えており、その存在の周知が課題と言えよう。国籍別の利用率では、「タイ」75.0%、「ネパール」63.0%と、際立っていた。

センターを利用したことのある人（27.5%）に、どのサービスを利用したかを聞いた問い（F-Q38-1）に対して、「にほんごの教室」41.7%、「相談サービス」37.6%、「その他のイベント」29.9%の順だった。

【まとめ】

今回の外国人市民へのアンケート結果を見ると、豊中市に住んで1年未満の回答者が増えており、そうした居住年数の短い市民へのサービスや情報が届いていない実態がうかがえた。また、言葉の壁の問題も山積している。外国人市民のアンケートで、豊中市役所の窓口や病院などで、言葉の問題を挙げる人が多かったことから推察できる。

その解消策として多言語情報サービスの提供や機械翻訳装置の配備をさらに進めるとともに、より細やかな意思疎通が可能になるような体制の整備が必要だ。

外国人市民が困ったとき、頼るのが身近な家族や友人たちを挙げる傾向が強く、公的機関（市役所やとよなか国際交流センター）を利用する人は少ない。とよなか国際交流センターの相談窓口と回答した率は前回調査より上がったものの、それでも家族・友人・親せきより低い。一方で、必要とする情報では「税金・年金・保険のこと」や「仕事のこと」「病院やくすりのこと」「子育て・教育・学校のこと」「火事や地震のときの対応」を挙げており、公的機関に求められるニーズは高い。市役所に対しては、「どの窓口に行ったらよいかかわからない」の回答が多かったことから、公的機関の認知度をいかに上げるのかを早急に検討する必要がある。また、市役所の窓口では、転入・入学などの段階でワンストップ対応できる体制整備が必要だと言えよう。

外国人市民の地域へのかかわりに関する意識のなかで、「住みやすいまちになるよう、一緒に考えたり活動したりしたい」と答えた人が多かったことに着目したい。また、交流に関してやってみたいことでは「外国人支援」や「住んでいるまちの人と一緒にまちのための活動」を挙げている人も多かった。日本人市民への同様の問いに対する回答にも、外国人市民を地域の一員としてともに活動したいという回答が増えていた。こうしたことから、外国人市民を支援の対象としてだけでなく、ともに地域社会を構成している一員であるという意識の醸成と協働の機会のいっそうの提供が必要である。

外国人市民の子育て・教育、 日本人市民の外国人とのかかわり・多文化共生の考え

甲南女子大学 国際学部 教授 ^{のざき}野崎 ^{しほ}志帆

調査結果についての詳細は別途記載されているため、ここではそれらを網羅的に繰り返すことはせず、中でも結果を読む際に注意が必要な点、結果を分析することで見えてきたこと、また今後に向けて検討すべきことに絞り、言及することにした。

【外国人市民アンケート】子育て・教育・学校について

「子どもの困りごと」に関する認識

F-Q39-5で「子ども自身が学校で困っていることがある」と回答したのは17.0%、「困ったことはない」は前回の57.1%から69.5%に増加した。ただし、前回調査では「無回答」が26.8%あった。

F-Q39-5-1にあるように、「困っていること」としては「先生と言葉が通じない（うまくコミュニケーションがとれない）」（44.1%）が最も多く、次いで「日本語があまりできないので、授業がわからない」（38.2%）となっているのは、前回調査と変わらない傾向である。同時に、「宗教上の理由や生活のしかたがちがうから、給食で食べられないものがある」「いじめられる（仲間はずれにされる）」「勉強のしかたが出身国・地域とちがうので、授業についていけない」の割合が、前回調査から大幅に減少している。

これらは、あくまでも回答者（親）が把握している「子ども自身が学校で困っていること」である。日本語にハンディのある親が増加していることを踏まえ、回答者が子どもの学校での困りごとをどの程度正確に把握できているかという点には、注意が必要である。

「子どもの進路」についての考え

F-Q40にあるように、子どもの進路（複数回答）については、「出身国・地域の教育を受けさせたい」（9.0%）、「外国人学校やインターナショナルスクール（国際学校）などに行かせたい」（15.5%）や、「まだわからない」（13.0%）との回答がある一方、「日本の教育を大学まで受けさせたい」（66.0%）、「日本の教育を高校まで受けさせたい」（21.5%）、「日本の教育を中学まで受けさせたい」（17.0%）というように、多くの回答に日本で進学し日本の教育を受けさせようという親の展望が垣間見える。

日本では高校は義務教育ではないものの、一般的にはほぼ全員が高校進学するようになっており、実態としては、日本で安定した収入を得て生活していくために、高校卒業資格が最低ラインの条件になってきていると言えよう。近年文部科学省においても、外国籍児童生徒等のキャリア支援の観点から高等学校への進学支援の必要性、そして一般生徒に比べて外国籍生徒等の高校中退率が明らかに高いことから、進学後の支援の重要性が言及さ

れるようにもなっている。これらのことを踏まえ、豊中市でも対応を検討していく必要があるだろう。

親の困りごと

親である回答者自身が感じている「困りごと」はどうだろうか。F-Q41の結果の通り、43.0%の人が子育てや教育・学校のことでの困りごとが「ある」と回答しているが、前回調査と比べると「ない」が増加している（ただし「無回答」が、前回調査では13.2%、今回調査では2.5%）。一方、F-Q41-1「困ったことや心配したこと」の中では、「子どものことを相談できる人や場所がない」「こども園や学校などに入るための手続きがわからない」「働きたいが、子どもをあずけられない」「こども園や学校などからの連絡の内容がよくわからない」などの割合が、前回調査から大きく増加している。自由記述においても次のような回答があった。

「日本の小中高校に通ったことがないので、日本の学校のこと詳しくわからないことが多い。子どもが小学入学の時期、日本人の親にとって当たり前のことですが（例えば、子どもが授業で使う制作材料の準備（やり方）、入学用品の準備など）、外国人の親には、学校のお知らせははっきり説明や案内してくれないと、用意できません、または、間違えます。そうすると、子どもが恥ずかしくなります。子どもの進学や進路について、情報が少ないです（内申点などのことはあまりわかりません）。そういう情報を手に入れるのも苦労しました（原文ママ）」

日本語にハンディのある子育て世帯の外国人市民の割合が増加しているものの、支援が追いついていない状況があることが推測される。

また同じ設問で、「子どもに家族や子ども自身の出身国・地域の言葉や文化を伝えることがむずかしい」（25.6%）という回答が、前回調査と同じく2番目に高い割合を示している。一般に、受け入れ社会側の対応として後回しになりがちなニーズであるが、豊中市の豊かな多様性の資源を大切にするという観点からも、検討の余地があるのではないか。

【日本人市民アンケート】外国人とのかかわりについて

現在の「外国人とのつきあい」

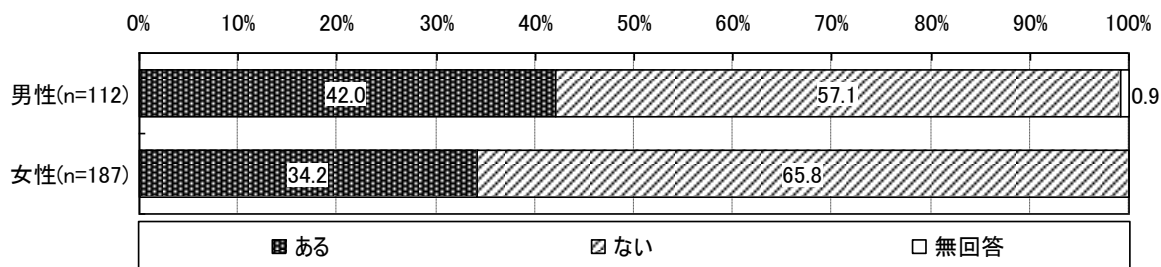
J-Q10で「外国人とのつきあいがある」と回答している人は、前回と同程度であったが、J-Q10-1を見ると「つきあいがあるとき」として、「仕事や職場」「近所付き合い」が大幅に増加し、「外国人への支援活動などで」も5ポイント増加している。J-Q10-3では、外国人が困っているときに「相談にのったり、助けたりしたことがある」は前回調査と比べて約4ポ

イント増え、J-Q11「あなたの地域や職場などでの外国人とのかかわりで、困った経験がある」とする回答は、12ポイント増加する結果となっている。また、J-Q14「外国人とつきあうにあたり、壁になっていると感じるものがありますか（複数回答）」の問いに対して、「そもそも外国人とつきあう機会が少ない」と回答する割合が、前回の36.7%から24.5%に大幅に減少し、言語・文化などの異なりを壁と感じる回答者の割合が増えている。

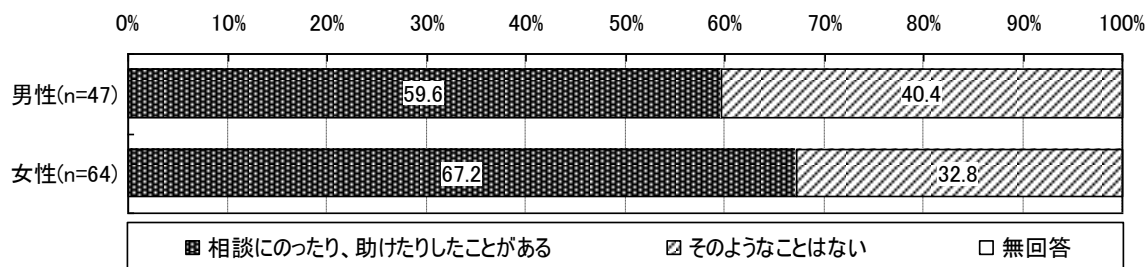
これらから推測されるのは、第一に外国人市民がいわゆる在日コリアンなど数世代に渡って日本で暮らすオールドカマーから、ニューカマーに入れ替わりつつあり、外国人市民とつきあう上で壁になっていると感じるもの自体が変化しているということである。第二に、外国人との「つきあいの質」が、前回調査に比べて職場や地域など身近で日常的なものとなり、関わりの中で相談に乗ったり助けたり、困ったりする程度に、「よりコミットした関わり」へと変化している可能性があるということである。

また下記のグラフにある通り、外国人とのつきあいが「ある」と回答している人は「男性」の方が42%（「女性」34.2%）と割合は多いが、外国人が困っているときに「相談にのったり、助けたりしたことがある」のは「女性」67.2%（「男性」59.6%）、「地域や職場などで外国人との関わりで困った経験がある」のも「女性」26.2%（「男性」17.9%）と、「女性」の割合の方がより外国人とコミットしたつきあいをしている可能性がある。

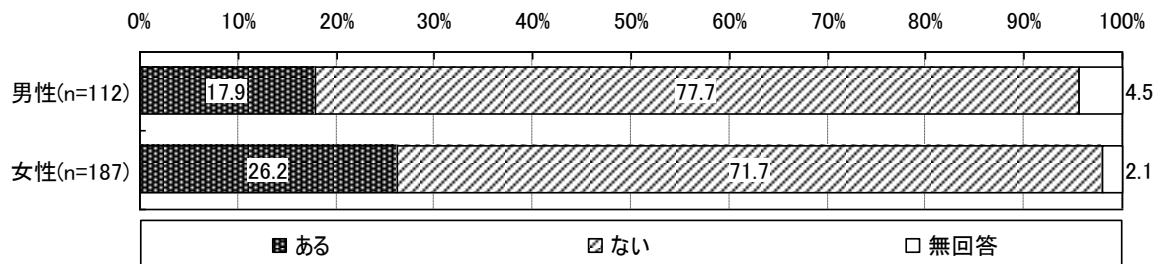
J-Q10. 外国人とのつきあいがありますか。



J-Q10-3. 外国人が困っているときに、相談にのったり、助けたりしたことがありますか。



J-Q11. あなたの地域や職場などでの外国人とのかかわりで、困った経験などがありますか。

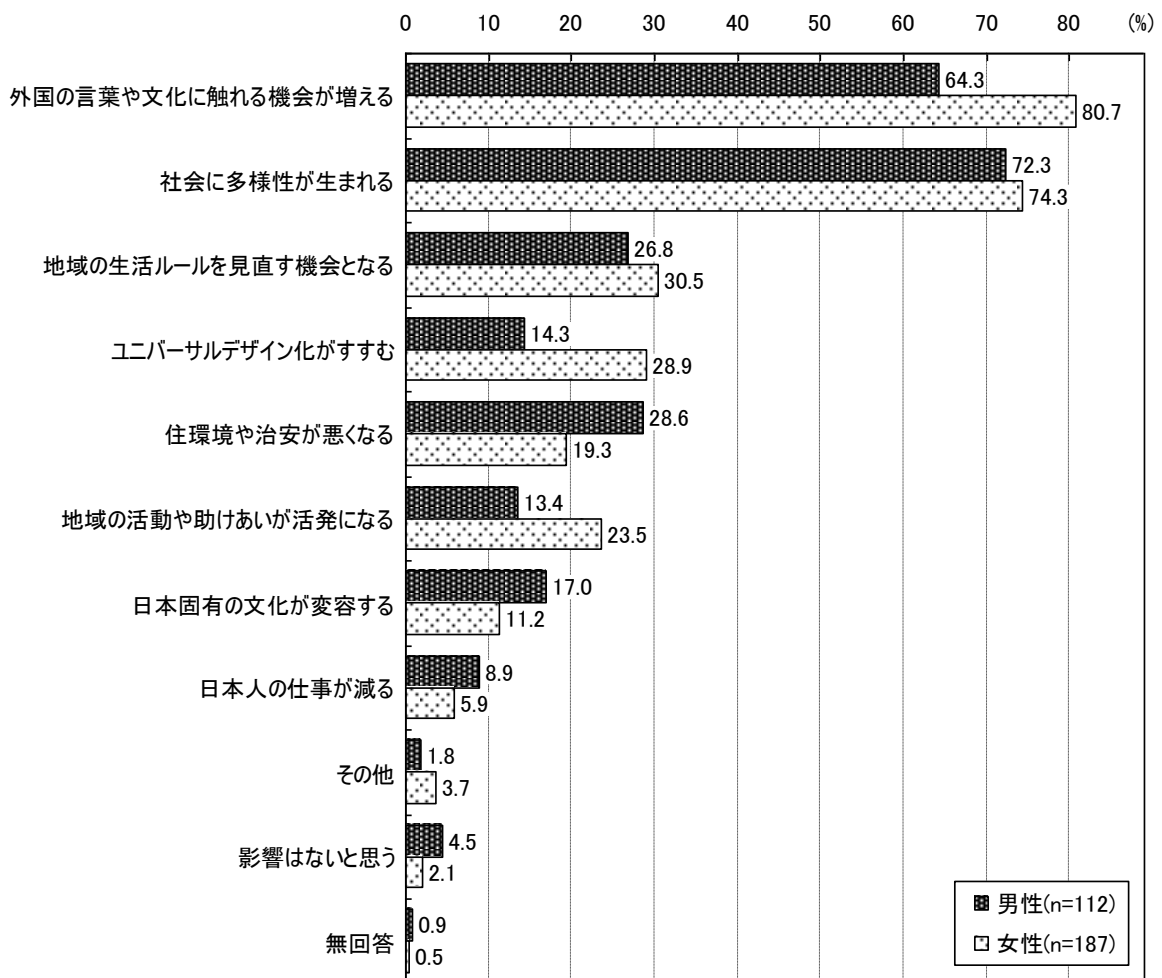


「外国人」についての考え

J-Q12「あなたは、地域や職場などに外国人が増えることで、地域社会にどのような影響があると思うか（5つまで）」については、「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」「社会に多様性が生まれる」「地域の生活ルールを見直す機会となる」「地域の活動や助けあいが活発になる」など、比較的ポジティブな回答が前回調査よりも大きく増加し、「住環境や治安が悪くなる」「日本人の仕事が減る」といったネガティブな回答は減少する結果となっている。外国人の受け入れを前向きに受け止めようとする日本人市民が増えているように見える。

また、下記のグラフの通り、「社会に多様性が生まれる」と回答した割合は「性別」で差はほとんどなかったが、特に「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」「地域の活動や助けあいが活発になる」「ユニバーサルデザイン化がすすむ」については、女性の方が10～16ポイントの差をつけて男性よりも割合が高い。一方で、「日本固有の文化が変容する」「住環境や治安が悪くなる」「日本人の仕事が減る」は、男性の方が3～9ポイント高く、男性の方がややネガティブに受け止める傾向が見られる。

J-Q12. あなたは、地域や職場などに外国人が増えることで、地域社会にどのような影響があると思いますか。



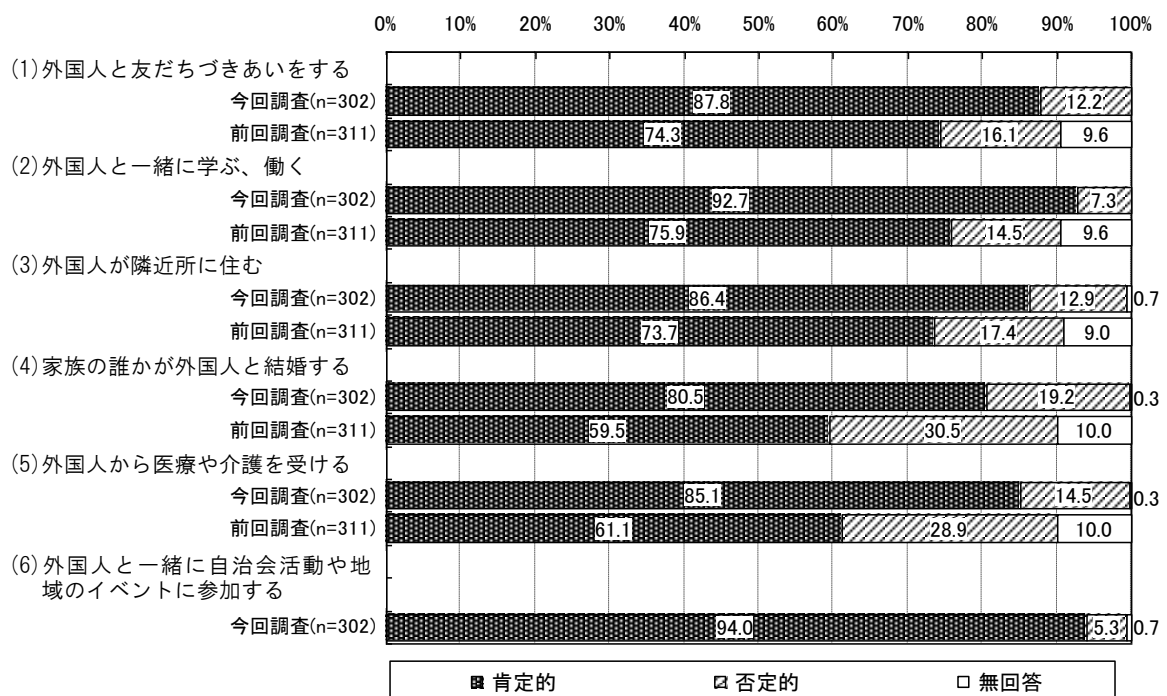
「外国人とのかかわり」についての受容度

下記のグラフは、J-Q13で6つの項目について、「積極的に受容できる」「まあ受容できる」を「受容に肯定的な回答」とし、「あまり受容できない」「受容できない」を「受容に否定的な回答」とし、前回調査と今回調査を比較して表したものである。今回調査ではいずれの項目でも「受容に肯定的」な回答が8割以上を占めており、受容度は上がっていることがわかる（前回調査では「無回答」が1割程度の割合を占めていることに注意が必要）。

(2)「外国人と一緒に学ぶ、働く」（肯定的：92.7%）や、(6)「外国人と一緒に自治会活動や地域のイベントに参加する」（肯定的：94.0%）では、受容に肯定的な回答の割合が極めて高い。「受容に否定的」な回答の割合が最も高かったのは、(4)「家族の誰かが外国人と結婚する」（否定的：19.2%）で、次に(5)「外国人から医療や介護を受ける」（否定的：14.5%）と続く。職場や学校、地域といった公共圏での外国人との関わりについてはより受容度が高く、関わりが私的な生活圏におよぶほど、受容度は抑制される傾向が見出せる。

また「性別」で言うと、「男性」の方が「受容に否定的」な回答が高く、(4)では11ポイント、(5)では9ポイント「女性」よりも高かった。

J-Q13. 次のようなかたちでの外国人とのかかわりに対して、(1)から(6)のそれぞれについて、もっともあてはまるものを1つ選んでください。



「地域における外国人市民との今後のかかわり」についての考え

J-Q15「あなたが住んでいる地域では、今後、外国人市民とのかかわりをどのようにしたらよいと思いますか」という問いに対しては、「他の日本人市民と同じように関わっていく」が最も多く63.6%を占めた。前回調査と比べると、「わからない」「かかわりをもっと深めていく」が減少し、「他の日本人市民と同じように関わっていく」（ただし前回は「今

のままよい」と記載)が大きく増加する結果となった。一方で、J-Q16「あなたは、地域の外国人市民と交流したいと思いますか」では、69.2%が「そう思う」と回答するも、前回調査と比べて「そう思わない」が大幅に増加した。

回答者が「交流」をどのようにイメージしているのかにもよるが、今回の回答者は「無職(年金生活者)」が減少し、「勤労者」の割合が増えていることもあり、単純に多忙のために「交流する」時間的・精神的余裕がないということとも推測できる。一方で、前述したように外国人とのつきあいが以前に比べて身近で日常的なものとなり、多くの日本人市民にとっては、外国人市民がもはや「交流する」対象ではなく、自分と同じ“普通の地域住民”と見なされるようになってきている可能性がある。

最後のJ-Q26『多文化共生のまちづくり』に向けて、あなたが日ごろ感じていること、取り組む必要があると思うこと(外国人市民に取り組んでほしいこと、日本人市民や企業などが取り組むべきだと思うことなど)についての自由記述する欄がある。それらの回答の中には、外国人市民と一緒に何かに取り組む機会を望む声、交流する肩肘張らない気軽な交流を求める声があると同時に、「外国人や日本人とか大げさに考えず人間対人間で困っている人がいれば助けようとする。国籍は関係ない」「仲が悪くなるようなことをしないのが肝要で、仲良くする必要はないと思います」という声がある。

外国人市民との関わりや距離感は日本人市民によってさまざまであり、必ずしも市民全員に一律に外国人市民と「仲良く交流する」ことを求める必要はないというのは、その通りであろう。一方で、地域に国籍や民族による分断や対立が生まれてしまうようなことは避けねばならない。そのためにも、豊中市民の中に外国人市民と積極的に関わろうとする一定数の日本人市民の存在は、地域の多文化共生にとっては極めて重要になる。J-Q16-1「地域の外国人市民と今後どのような交流をしたいと思うか」に対し、ほぼすべての項目で前回調査よりも増加し、「家庭のことや子育てについての相談や情報交換をしたい」や「地域のイベント活動と一緒に参加したい」などで大幅な増加が見られた。外国人市民と日本人市民をうまくマッチングし、市民同士の関わりを提供していくことで、今後も地域の中に多文化共生のつながりを築いていく努力を地道に続けていく必要がある。

回答者の「性別」「年齢」から見た「外国人についての考え」の傾向

すでに見てきた結果では、「外国人との現在の関わり」について、男性の方が「関わりがある」と回答している割合が高いが、女性の方が外国人と距離感の近い関わりをしていることが伺えた。一方で、「外国人が増えること」や「外国人との関わり」の受容度は、男性の方が低い傾向が見られた。

ここでは「性別」による傾向の違いについて詳細な分析は控えるが、「性別」に伴う役割意識が「外国人とのかかわり」にも影響を与えている可能性がある。一般に、人は意識するかしないかに関わらず、その性別に割り当てられた文化的社会的な役割意識(ジェンダー)に基づき行動していると言われる。例えば女性は、どちらかという「私的領域/生活圏(地域含む)」で「ケア役割」(例えば、育児、家事、看病、介護、地域でのボラン

ティア活動など）を担うことを期待される傾向があるため、外国人市民とも生活圏において距離感の近い接触の機会が多くなっていることが推測できる。一方で、そのような関わりが少なくなりがちな男性は、外国人との関わりにおいても距離があり、結果として、外国人市民への不安や先入観が先立ってしまうことがあるかもしれない。また、そもそも「豊中市内に多くの外国人市民が暮らしていること」を「知らなかった（そのようなことは意識したことがなかった）」と回答する割合は、男性（32.1%）の方が女性（18.7%）よりもかなり高く（J-Q17）、男性が地域の外国人市民の存在を知ったり実感したりする機会があまりもてていない可能性がある。

近年、男女共同参画社会の実現のために従来のような長時間労働を是とする働き方を変えること、人びとが固定的な「男らしさ／女らしさ」から自由になり、人間が生きる上で不可欠なケアの役割を男性も女性とともに担っていく必要性が謳われる。それは、地域の多文化共生の実現にとっても、求められていることかもしれない。女性と同様に男性もまた地域社会のことを知り、外国人市民と身近に関わる機会をもてるようにすることなど、今後の多文化共生を考える上では重要な鍵の一つとなると思われる。

多文化共生のまちづくりについて

「外国人との共生」についての考え

J-Q19では、(1)「日本人は、外国の言語や文化を学び、外国人の背景を理解するほうがよい」、(2)「日本社会は、外国人に日本の習慣やルールを押し付けないほうがよい」、(3)「行政は、外国人が出身国・地域の言語や文化を守れるよう援助するほうがよい」など、総じて外国人市民の文化的背景を尊重する方向の意見について、「そう思う」とする回答の割合が前回よりも大幅に増加している。

同時に、(4)「行政は、外国人が日本の言語や文化を学べるよう援助するほうがよい」という意見に「そう思う」とする割合は大幅に増加し、(5)「外国人は、日本の言語や文化を身につけるために努力したほうがよい」、(6)「外国人は、地域の活動に積極的に参加するほうがよい」、(7)「外国人は、日本社会にとけこむよう日本の習慣やルールを学ぶほうがよい」という意見について、「どちらかというそう思う」とする回答も増えている。これらは、どちらかという外国人市民の側に日本社会に合わせるよう変化を求める方向の意見である。

大まかに言えば、(4)(5)(7)は「文化的同化」（言語、習慣、価値観などが主流社会のそれと同じになること）を支持する意見であり、(6)は「構造的同化」（主流社会に個人や市民として参入できるようになること）を支持する意見である。多様性を尊重する考えが広まると同時に、社会の統合を求める市民の意識が垣間見える。

交流活動・支援活動への参加・認知度と今後の参加への意向

J-Q22の豊中市の活動への参加経験も、J-Q24の「とよなか国際交流センター」の認知度も、前回調査と比べて増加している。一方で、活動の中で関心のあるものについて問うJ-Q23では、前回調査と比べて「関心のあるものはない」が大きく減少しているものの、「日本語ボランティアや通訳など外国人の言葉のサポート」「外国人の生活上の悩みごとに対する相談などの支援活動」「多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする講座・学習会・セミナー」「学校教育での多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする授業」などへの関心が減少していることは気になる点である。

「豊中市の多文化共生」のために力を入れるべきこと

J-Q25の結果からは、「外国人市民がいろいろな相談をしやすくする」(61.3%)、「外国人市民の子どもがしっかり学べるようにする」(49.7%)、「日本語を学ぶ外国人市民を支援する」(43.0%)などの市の施策が多く日本人市民に支持されていることがわかる。

前回調査と比べると、「外国人市民がいろいろな相談をしやすくする」「外国人市民の子どもがしっかり学べるようにする」「外国人市民が働く場を増やしたり、働きやすくしたりする」などにおいて増加する一方、「日本の文化や生活習慣を教える教室などを開く」「いろんな国の人や文化、習慣の違いについて、日本人市民の理解を深める」「外国人市民へのいじめや差別などをなくすための取組みをしっかりと行う」「異なる文化、国籍をもつ市民同士が交流する機会を増やす」などにおいては、大きく減少する結果となった。

前述のとおり、地域の中に多文化共生のつながりを築き、国籍や民族による対立や分断を招かないようにするためには、今後も「理解する」「交流する」といった意識的に接点をつくり出していくような比較的“緩やかな”活動も地道に継続していく必要があるが、多くの日本人市民にとっては、外国人市民の相談の場を増やしたり労働や教育面での支援といった、日本人市民でも想像がしやすく人権保障に関わる緊急度の高い支援が、以前よりも支持されるようになったことを表しているのかもしれない。

今回調査の結果からみえてきたもの

関西大学 名誉教授 いしもと きよひで 石元 清英

今回調査の結果からみえてくるさまざまな課題については、それぞれ分析担当者が考察のなかで触れているので、ここではそれらをまとめることはせず、今回調査の結果からみえてきた特徴的な点をあげておきたい。

まず第1に、今回調査では調査方法の変更を行ったことにより、年齢の若い外国人市民からの回答が多くなったことに加え、調査における使用言語にベトナム語、ネパール語、インドネシア語を新たに加えたため、ベトナム、ネパール、インドネシアの各国籍の外国人市民からの回答が大幅に増加したことである。その結果、回答者に占める、日本における居住年数10年未満の割合が前回調査の35.0%から62.2%に増加した。このように、日本での居住年数が比較的短い外国人市民からの回答が多くなったことは、今回調査において居住年数の短い外国人市民が抱える問題がより明確にされたといえる。

たとえば、F-Q21の困ったことがあったときの相談相手について、居住年数の長い人では「日本人の友だち」が多いのに対し、居住年数の短い人では「出身国・地域にいる家族・親せき・友だち」が多く、F-Q23の生活に必要な情報の入手先では、居住年数の長い人は「市の広報紙『とよなか』」が多いのに対し、居住年数の短い人では「インターネット」と「とよなか国際交流協会のホームページ」から情報を入手している人が多い。しかし、その一方で、「とよなか国際交流センター」の認知度は居住年数の短い人で低くなっている。また、豊中市役所に行ったときの困ったことの内容を問うたF-Q37-1では、居住年数の短い人で「自分の使える言葉の通訳がない」「自分の使える言葉で書かれた書類がない」などが多くあがった。このように、居住年数の少ない人からの回答が多くなったことが居住年数の少ない外国人市民の抱える問題点を浮かび上がらせたといえる。

第2に、子どもの教育についてである。子どもの教育について困っていることで最も多いのが「先生と言葉が通じない（うまくコミュニケーションがとれない）」で、これは前回調査でも同じであった。その一方で、子どもの進路については、「日本の教育を大学まで受けさせたい」が66.0%と、群を抜いて多かった。そして、子育てや教育・学校のこと困ったりする内容で最も多いのが「子どものことを相談できる人や場所がない」であった。このように、学校で教員と言葉が通じない子どもが多く、子育てや教育について相談できる人や場所がないと感じている親が多くいる一方で、6割強の親は子どもに日本の教育を大学まで受けさせたいと考えているのである。教員と言葉が通じないという問題、そして、子育てや教育について相談できる人や場所がないという問題、これらは子どもに日本の教育を大学まで受けさせたいという親の希望の実現にあたっての大きな阻害要因となる。こうした阻害要因を解消する取組が重要であるといえる。

第3に、外国人市民をとりまく環境の変化である。日本人市民アンケートのJ-Q12では、外国人が増えることによる地域社会への影響を問うているが、「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」「社会に多様性が生まれる」「地域の生活ルールを見直す機会となる」「地域の活動や助けあいが活発になる」といった、プラスの影響があるとする回答が前回調査に比べて増加している。そして、回答割合の高さでは、「外国の言葉や文化に触れる機会が増える」(74.8%)、「社会に多様性が生まれる」(73.5%)、「地域の生活ルールを見直す機会となる」(29.1%)が上位3位を占め、「住環境や治安が悪くなる」(22.8%)、「日本固有の文化が変容する」(13.9%)、「日本人の仕事が減る」(7.3%)などのマイナスの影響があるとする回答は少なかった。このように、外国人が増えることでプラスの影響があるとする日本人市民が多数派を占めているのである。また、外国人とのさまざまな接触(友だちづきあい、学校や職場でのつきあい、結婚などの6形態)についても、「積極的に受容できる」と「まあ受容できる」という回答を合わせると、いずれも8割を超えており、その割合は、前回調査と比較できる5つの形態すべてで大きく増加している。

以上のように、今回調査の日本人市民アンケートからは、外国人が地域社会で増えることや、地域社会、学校、職場、医療・福祉施設、結婚などについて外国人との関わりをもつことをプラスに評価する人が多くなっており、日本人市民の外国人市民への寛容さが高まっていることがうかがわれる。


参考資料

調査に用いた封筒

(表)

とよなかしたぶんかきょうせい かん あんけーと
豊中市多文化共生に関するアンケート

かなら なか み
必ず中を見てください



郵便区内特別


とよなかし じんけんせいさくか
豊中市 人権政策課

〒561-8501 とよなかしなかさくらづか
Tel.06-6858-2654

ちようさきようりよく ねが

調査協力をお願い | Kêu gọi hợp tác trả lời câu hỏi điều tra
Call for participation in the survey | 설문조사 협조 요청

请配合调查 | Solicitud de cooperación en la encuesta
सर्भमा भाग लिनको लागि अनुरोध | Permintaan kerja sama dalam survei



豊中市のキャラクター
マツカキくん

(裏)

<p style="text-align: center;">とよなかしたぶんかきょうせい かん あんけーと 豊中市多文化共生に関するアンケート</p> <p>かなら なか み 必ず中を見てください</p>	<p>Toyonaka City Questionnaire on Intercultural Cohesion</p> <p>Please make sure to read the information inside!</p>
<p>豊中市多元文化共存问卷</p> <p>请务必查看里面</p>	<p>도요나카시 다문화공생에 관한 설문조사</p> <p>내용을 반드시 확인하여 주시기 바랍니다</p>
<p>Bản câu hỏi về cộng sinh đa văn hóa thành phố Toyonaka</p> <p>Nhất định xin hãy xem bên trong</p>	<p>Cuestionario sobre la Convivencia Multicultural de Toyonaka</p> <p>Asegúrese de mirar dentro</p>
<p>तोयोनाका सिटी बहुसांस्कृतिक सहअस्तित्व सम्बन्धी प्रश्नावली</p>	<p>Angket mengenai Konsekuensi Multikultural di Kota Toyonaka</p>
<p>भिन्नका जानकारीहरु अवस्य पदनुहोला</p>	<p>Pastikan melihat isi dalam amplop ini</p>

調査依頼文
(表)



とよなかし
豊中市
たぶんかきょうせい かん あんけーと
多文化共生に関するアンケート
きょうりょく ねが
へのご協力のお願い

10月31日(月曜日)までに答えてください

とよなかし にほんじん がいこくじん く おも
豊中市では、日本人も外国人も、みんなが暮らしやすいまちにしたいと思っています。

そのため、いま、あなたが困っていることや日頃感じていることなどを教えてください。

この紙は、豊中市に住んでいる18歳以上の外国人(2,000人)、日本人(1,000人)に配っています。

みなさんの答えは、調査の目的以外に使いません。また、答えは他の人にはわかりません。

安心して答えてください。

アンケートに答える方法は3つあります

①スマートフォンやコンピューターなどで答える
→ 右のバーコード、アドレスからインターネット
で答えてください。8つのことばから選べます。



<https://toyonaka-ms2022.com/start>

②スタッフに手伝ってもらい、スマートフォンなどで答える


③アンケート(紙)に書いて答える **下記までお問合せください**

(お問合せ先) **公益財団法人とよなか国際交流協会**
とよなかしたまいちょう えとれとよなか こくさいこうりゅうせんたー
豊中市玉井町1-1-1 (エトレ豊中6F) とよなか国際交 流センター
TEL : 06-6843-4343 (木・金・土曜日 11時~16時)
E-mail : atoms@a.zaq.jp

(裏) 外国人市民のみ

<p>English (英語)</p> <p>In Toyonaka City, we would like to create a community where every single person, Japanese and non-Japanese, can live comfortably. To realize this, please tell us what troubles you and what you feel in daily life. This questionnaire is distributed to the residents of Toyonaka City aged 18 and over (2,000 non-Japanese residents and 1,000 Japanese residents). Your answers will be used for the purpose of the survey only and will not be disclosed, so please feel safe to complete it.</p>	<p>中文 (中国語)</p> <p>丰中市希望成为既适合日本人又适合外国人居住的城市。因此，请针对您现在遇到的问题以及日常的感受等，发表您的意见。本问卷发放给居住在丰中市的18岁以上的外国人(2,000人)和日本人(1,000人)。各位的回答不会用于调查以外的目的。并且，其他人也不会知道您的回答。请安心回答。</p>
<p>한국·조선어 (韓国·朝鮮語)</p> <p>도요나카시는 일본인과 외국인도 함께 살기 좋은 도시를 만들고자 노력하고 있습니다. 이를 위해 현재 여러분이 겪고 계신 어려움이나 평소에 느낀 점 등 여러분의 생각과 의견을 알려주십시오. 본 설문지는 도요나카시에 거주 중인 18세 이상 외국인 2,000명과 일본인 1,000명에게 배부합니다. 설문지 답변은 조사 목적 이외에는 사용되지 않으며 타인에게 노출되지 않습니다. 그러므로 안심하고 설문에 참여해주시면 됩니다. 감사합니다.</p>	<p>Tiếng Việt (ベトナム語)</p> <p>Ở thành phố Toyonaka, chúng tôi mong muốn tạo dựng một thành phố nơi mà cả người Nhật và người nước ngoài đều sinh sống một cách thoải mái. Vì vậy, hãy cho chúng tôi biết hiện tại bạn đang gặp khó khăn gì và những điều bạn cảm nhận hàng ngày, v.v.. Bản câu hỏi này được phân phát cho người nước ngoài (2000 người) và người Nhật (1000 người) từ 18 tuổi trở lên đang sống ở thành phố Toyonaka. Nội dung trả lời của bạn sẽ không được sử dụng cho mục đích nào khác ngoài mục đích đề khảo sát. Thêm nữa, những người khác sẽ không biết nội dung trả lời của bạn. Xin hãy an tâm trả lời.</p>
<p>Español (スペイン語)</p> <p>Queremos hacer de Toyonaka un lugar donde todos, tanto japoneses como extranjeros, puedan vivir cómodamente. Por favor, cuéntenos cuál es su problema y cómo se siente en su vida cotidiana. Este papel se distribuye a extranjeros (2.000 personas) y japoneses (1.000 personas) mayores de 18 años que viven en la ciudad de Toyonaka. Sus respuestas no se utilizarán para ningún otro propósito que no sea la investigación. Además, la respuesta no se dará a conocer a otras personas. Por favor, siéntase libre de responder.</p>	<p>नेपाली (नेपाल語)</p> <p>हामी तोयोनाका सिटीमा जापानी तथा विदेशी, सबै नागरिकहरु बसोबास गर्न सहज वातावरण सिर्जना गर्न चाहन्छौ। त्यसका लागि हाल तपाईंहरुले भोगिरहका समस्याहरु या दैनिक जीवनमा महसुस गर्ने कुराहरु हामीहरुलाई बताउनुहोस्। यस पत्र, तोयोनाका सिटीमा बसोबास गर्ने 18 वर्षभन्दा माथिका विदेशी नागरिक (2,000 जना) र जापानी नागरिक (1,000 जना) लाई पठाईएको छ। तपाईंहरुको जवाफलाई अनुसन्धान (सर्भे) को उद्देश्य बाहेक अन्य प्रयोजनका लागि प्रयोग गरिने छैन। साथै, तपाईंको जवाफ अरू मानिसहरुले थाहा पाउने छैनन्। कृपया निर्धक्क भएर जवाफ दिनहोला।</p>
<p>Bahasa Indonesia (インドネシア語)</p> <p>Di Kota Toyonaka, kami ingin menjadikan kota ini lebih nyaman sebagai tempat tinggal baik bagi orang Jepang maupun warga asing semuanya. Oleh karena itu, silakan menjawab hal-hal kesulitan yang Anda alami saat ini dan pendapat Anda yang Anda rasakan dalam sehari-hari. Lembaran ini dibagikan kepada warga asing (2.000 orang) dan orang Jepang (1.000 orang) yang berusia di atas 18 tahun yang tinggal di Kota Toyonaka. Hasil jawaban Anda semuanya tidak digunakan selain untuk tujuan survei. Dan juga tidak diketahui oleh orang lain mengenai hasil jawaban Anda. Silakan menjawab dengan tenang hati.</p>	<p>にほんご (日本語)</p> <p>豊中市では、日本人も外国人も、みんなが暮らしやすいまちにしたいと思っています。そのため、いま、あなたが困っていることや日頃感じていることなどを教えてください。この紙は、豊中市に住んでいる18歳以上の外国人(2,000人)、日本人(1,000人)に配っています。みなさんの答えは、調査の目的以外に使いません。また、答えは他の人にはわかりません。安心して答えてください。</p>

Here is the link to the questionnaire. / 请从此处回答
설문조사 참여하기 / Trả lời từ đây
Ingrese aquí para responder / जवाफको लागि यहाँ जानुहोस्
Silakan menjawab dari sini / 回答はこちらから



<https://toyonaka-ms2022.com/start>



Tel. 06-6843-4343

Association for Toyonaka Multicultural Symbiosis
 公益財団法人丰中国际交流協会 | 공익재단법인 도요나카국제교류협회
 (Tổ chức Pháp nhân Công ích) Hiệp hội Giao lưu Quốc tế Toyonaka
 ATOMS – Asociación para la Simbiosis Multicultural de Toyonaka
 Yayasan Kepentingan Umum Toyonaka International Center (ATOMS)
 तोयोनाका अन्तर्राष्ट्रिय केन्द्र | 公益財団法人とよなか国際交流協会



豊中市多文化共生に関するアンケート
 Toyonaka City Questionnaire on
 Intercultural Cohesion
 豊中市多元文化共存问卷
 도요나카시 다문화공생에
 관한 설문조사
 Bản câu hỏi về cộng sinh đa văn
 hóa thành phố Toyonaka
 तोयोनाका सिटी बहुसांस्कृतिक
 सहअस्तित्व सम्बन्धी प्रश्नावली
 Cuestionario sobre la Convivencia
 Multicultural de Toyonaka
 Angket mengenai Konsekuensi
 Multikultural di Kota Toyonaka

नेपाली (नेपाल語)

Español (スペイン語)

Bahasa Indonesia (インドネシア語)



Tel. 06-6843-4343

E-mail : atoms@a.zaq.jp

わからないことがあるときは、ご連絡してください。
 If you have any questions, feel free to call us at:
 如果有不明白的地方请联系我们。
 문의사항 등이 있으시면 연락주시기 바랍니다.
 Nếu có gì không hiểu, xin hãy liên hệ tới:
 यदि केहि प्रश्नहरू छन् भने हामीलाई सम्पर्क गर्नुहोस्।

Si tiene alguna duda, contáctenos.
 Jika ada hal yang kurang bisa dimengerti, silakan hubungi kami.

アンケートに答えることばを選んでクリックしてください。
 Please select and click on the language
 you would like to use in the survey.
 请选择并点击调查问卷使用的语言。

설문조사에 참여할 언어를 선택하고 클릭하여 주시기 바랍니다.
 Xin hãy lựa chọn và bấm vào ngôn ngữ trả lời câu hỏi điều tra.
 प्रश्नावलीको उत्तर दिने भाषामा क्लिक गर्नुहोस्।
 Selecciones y haga clic en el idioma en que responderá al cuestionario.
 Silakan klik bahasa yang Anda gunakan untuk menjawab anket ini.

にほんご (日本語)

English (英語)

中文 (中国語)

한국·조선어 (한국·朝鮮語)

Tiếng Việt (ベトナム語)

多言語で対応できる時間
 毎週 木曜日・金曜日・土曜日
 午前11時から 午後4時まで

Available in multiple languages
 every Thursday, Friday, and Saturday
 from 11:00 a.m. to 4:00 p.m.

可透过多语言应对的时间
 每周 周四、周五、周六
 11:00~16:00

다국어로 대응가능한 시간
 매주 목요일·금요일·토요일
 오전 11시 ~ 오후 4시

Thời gian có thể trả lời bằng nhiều ngôn ngữ:

Thứ 5, thứ 6, thứ 7 hàng tuần

Từ 11h sáng đến 4h chiều

बहु-भाषामा सपोर्ट उपलब्ध हुने समय
 प्रत्येक बिहिबार, शुक्रवार, शनिबार
 बिहान ११:०० बजे देखि दिउँसो ४:०० बजेसम्म

Horario disponible en varios idiomas

Todos los jueves, vienes y sábados

11 am a 4 pm

Waktu pelayanan dalam multibahasa
 Setiap minggu: Hari Kamis, Jumat, Sabtu
 Dari jam 11.00 pagi sampai jam 16.00 sore



Association for Toyonaka
 Multicultural Symbiosis

豊中市多文化共生に関するアンケート (外国人市民)

あなたと家族について

調査結果を分析し、多文化共生施策の課題を明らかにしていくうえで、性別と年齢は重要な情報となります。そのため、あなたの性別と年齢をお聞きます。

01. あなたの性別を教えてください。(1つ選んでください)

- 1 男 2 女 3 いずれでもない

02. あなたの年齢を教えてください。(1つ選んでください)

- 1 18歳から29歳 2 30歳から39歳 3 40歳から49歳
4 50歳から59歳 5 60歳から69歳 6 70歳以上

03. 生まれたところはどこですか。(1つ選んでください)

- 1 日本で生まれ育った 2 日本以外で生まれた

04. 「豊中市多文化共生に関するアンケート - アンケート調査ご協力のおかげ -」という二次元バーコードの付いた紙の色を教えてください。(紙の色で、みなさんの住んでいる地域がわかります)。(1つ選んでください)

- 1 あお (blue) ※北東部に住んでいる人: 千里中央とか
2 びんく (pink) ※北中部に住んでいる人: 少路とか
3 きいろ (yellow) ※北西部に住んでいる人: 壺池とか
4 しろ (white) ※中部に住んでいる人: 岡町とか
5 むらさき (purple) ※中東部に住んでいる人: 緑地公園とか
6 みどり (green) ※中西部に住んでいる人: 服部天神とか
7 おれんじ (orange) ※南部に住んでいる人: 庄内とか

05. 日本にこれまで合わせて何年住んでいますか。(1つ選んでください)

- 1 1年未満 2 1年から2年 3 3年から4年
4 5年から9年 5 10年から19年 6 20年以上

06. 豊中市にこれまで合わせて何年住んでいますか。(1つ選んでください)

- 1 1年未満 2 1年から2年 3 3年から4年
4 5年から9年 5 10年から19年 6 20年以上

ことばと文化について

013. あなたは、どのぐらい日本語ができますか。「話す」「聞く」「書く」「文字を読む」「文章を読む」の一つずつ、一番あてはまるものを選んでください。

(1) 話す (1つ選んでください)

- 1 日本人と同じくらいできる 2 日常会話ならできる
3 あいさつや簡単な会話ならできる 4 単語が言える
5 ほとんどできない

(2) 聞く (1つ選んでください)

- 1 日本人と同じくらいできる 2 日常会話ならわかる
3 相手がゆっくり話してくれたらわかる 4 単語がわかる
5 ほとんどできない

(3) 書く (1つ選んでください)

- 1 日本人と同じくらいできる 2 簡単な漢字・カタカナ・ひらがなが書ける
3 カタカナ・ひらがなが書ける 4 ひらがなが書ける
5 ほとんどできない

(4) 文字を読む (1つ選んでください)

- 1 日本人と同じくらいできる 2 簡単な漢字・カタカナ・ひらがなが読める
3 カタカナ・ひらがなが読める 4 ひらがなが読める
5 ほとんどできない

(5) 文章を読む (1つ選んでください)

- 1 日本人と同じくらいできる 2 漢字がまざった簡単な文が読める
3 単語(店で売っているものや広告)が読める 4 ほとんどできない

014. あなたは日本語を勉強したことがありますか。(1つ選んでください)

- 1 はい 2 いいえ

07. 国籍・地域はどこですか。(1つ選んでください)

- 1 韓国・朝鮮 2 中国 3 ベトナム
4 フィリピン 5 インドネシア 6 アメリカ
7 台湾 8 ネパール 9 インド
10 タイ 11 ブラジル 12 その他 ()

08. 在留資格<外国人>が日本でできること>は何ですか。(1つ選んでください)

- 1 教授、教育 2 技術・人文知識・国際業務 3 技能
4 留学 5 研修・技能実習 6 家族滞在
7 永住者 8 定住者 9 特別永住者
10 日本人の配偶者等 11 特定技能 12 特定活動
13 その他 () 14 わからない

09. だれと一緒に住んでいますか。(いくつでも選んでください)

- 1 家族 2 友だち 3 会社と一緒に働いている人
4 ひとりで住んでいる 5 その他 ()

(09で4以外を選択)

010. 一緒に住んでいる人に日本語を話せる人がいますか。(1つ選んでください)

- 1 いる 2 いない

011. パートナーや子どもを国に残して日本に来ましたか。(1つ選んでください)

- 1 残してきた 2 一緒にきた 3 パートナーや子どもはいない

(011で1を選択)

011-1. 今後、日本にパートナーや子どもを呼び寄せる予定はありますか。(1つ選んでください)

- 1 呼び寄せる予定がある 2 呼び寄せる予定はない
3 その他 ()

012. あなたは日本の生活を終え、出身国・地域へ帰国する予定はありますか。(1つ選んでください)

- 1 予定がある 2 予定はない 3 わからない

(014で1を選択)

014-1. 日本語はどこで学びましたか。または今も学んでいますか。(いくつでも選んでください)

- 1 日本に来る前に学んだ
2 日本に来てから学校(小学校・中学校・高校など)で学んだ(学んでいる)
3 日本に来てから専門の日本語学校で学んだ(学んでいる)
4 日本に来てから地域(国際交流センターなど)の日本語教室で学んだ(学んでいる)
5 家族から学んだ(学んでいる)
6 日本生まれのため自然に身についた
7 その他 ()

(014で2を選択)

014-2. あなたは日本語を勉強したいと思いますか。(1つ選んでください)

- 1 はい 2 いいえ

015. あなたが使える言葉は何ですか。(いくつでも選んでください)

- 1 日本語 2 韓国・朝鮮語 3 中国語
4 フィリピン語(タガログ語) 5 ベトナム語 6 インドネシア語
7 ポルトガル語 8 タイ語 9 英語
10 スペイン語 11 アラビア語 12 フランス語
13 ネパール語 14 その他の言葉 ()

(09で4以外を選択)

016. あなたは、ふだん、一緒に住んでいる人たちと、どの言葉で話すことが多いですか。(1つ選んでください)

- 1 日本語 2 日本語以外の言葉 3 日本語と日本語以外の言葉

(09で1を選択)

017. 一緒に住んでいる家族と使える言葉がちがうために、困ることがありますか。(例:「自分の考えを家族にうまく伝えられない」、「家族が何を話しているかわからない」など) (1つ選んでください)

- 1 よくある 2 とまどきある 3 そのようなことはない

018. 日本で生まれ育った、外国にルーツをもつ子どもたちが、おとうさん・おかあさんや、おじいさん・おばあさんの出身国・地域の言葉、文化などについて、学んだり体験したりすることを、どう思いますか。(1つ選んでください)

- 1 とても大事だと思う
- 2 どちらかという大事だと思う
- 3 どちらかという大事だとは思わない
- 4 大事だとは思わない
- 5 わからない

019. 自分の国や出身地域の人たちが集まったり、SNS上で交流することはありますか。(1つ選んでください)

- 1 よく交流することがある
- 2 ととき交流することがある
- 3 ほとんど交流することはない
- 4 交流はしていない

地域での暮らしについて

020. 豊中市に住んで、良いと感じることは何ですか。(いくつでも選んでください)

- 1 電車やバスなどを使って、行きたい場所に行きやすい
- 2 買い物がしやすい
- 3 物価が安い
- 4 家賃が安い
- 5 自然環境が良い
- 6 犯罪が少なく安心
- 7 生活情報を手にいれやすい
- 8 公共施設が多い(例:図書館・とよなか国際交流センターなど)
- 9 文化活動・レジャーの機会が多い
- 10 周囲の人がやさしい
- 11 市役所のサービスが使いやすい
- 12 相談できるところが多い
- 13 その他()
- 14 ない

021. 困ったことなどがあつたとき、あなたはだれ(どこ)に相談していますか。(いくつでも選んでください)

- 1 日本にいる家族・親せき
- 2 出身国・地域にいる家族・親せき・友だち
- 3 日本人の友だち
- 4 日本人ではない友だち
- 5 同じ国や地域の人たちのコミュニティ
- 6 近くに住んでいる人
- 7 職場の人
- 8 学校の先生
- 9 留学生センター
- 10 市の相談窓口
- 11 とよなか国際交流センター
- 12 外国人をサポートするグループ
- 13 教会・お寺やモスク・宗教グループ
- 14 その他()
- 15 だれ(どこ)にも相談はしない

(Q24-1で2を選択)

024-1-1. わからないときどのようにしますか。(いくつでも選んでください)

- 1 日本語のできる家族・友だちに通訳してもらう
- 2 お金を払って通訳を連れていく
- 3 通訳のある病院へ行く
- 4 その他()

025. 病院ややすりのことなどで困っていることがありますか。(1つ選んでください)

- 1 困っていることがある
- 2 困っていることはない

(Q25で1を選択)

025-1. 困っていることは何ですか。(いくつでも選んでください)

- 1 病気やけがを治せる病院がどこにあるかわからない
- 2 自分や家族の話し言葉を使える病院がどこにあるかわからない
- 3 通訳してくれる人を見つけるのがむずかしい
- 4 わかるとばで書かれた病院ややすりなどの情報が少ない
- 5 薬局で売っているやすりの説明(飲み方など)がわからない
- 6 病気を治す方法が出身国・地域とちがうので不安
- 7 健康保険に入りたいが、保険料が高いから入れない
- 8 その他()

026. あなたは仕事をしていますか。(1つ選んでください)

- 1 豊中市内で働いている
- 2 他の市町村で働いている
- 3 仕事を探している
- 4 働いていないし、働く予定もない
- 5 その他()

(Q26で1~3を選択)

026-1. 仕事のことで困っていることがありますか。(1つ選んでください)

- 1 困っていることがある
- 2 困っていることはない

022. ふだんの生活で、どんな情報が必要ですか。(いくつでも選んでください)

- 1 仕事のこと
- 2 税金・年金・保険のこと
- 3 子育て・教育・学校のこと
- 4 病院ややすりのこと
- 5 介護・福祉のこと
- 6 ごみの出し方などの地域のルール
- 7 市役所のサービスの内容や手続きの方法
- 8 市役所のサービスの内容や手続きの方法
- 9 病気や事故のときの連絡先
- 10 火事や地震のときの対応
- 11 地域のイベント
- 12 日本人との交流
- 13 ボランティアや市民グループの紹介
- 14 新型コロナウイルス対策に関すること
- 15 その他()
- 16 ない

023. どうやって、生活に必要な情報を手にしていますか。

(1) 何から?(いくつでも選んでください)

- 1 市の広報紙「とよなか」
- 2 豊中市のホームページ
- 3 豊中市のSNS
- 4 市役所にあるチラシ・パンフレット
- 5 とよなか国際交流協会のホームページ
- 6 とよなか国際交流協会のSNS
- 7 日本語の新聞や雑誌
- 8 日本語ではない言葉の新聞や雑誌
- 9 日本語のテレビ・ラジオ
- 10 日本語ではない言葉のテレビ・ラジオ
- 11 インターネット
- 12 その他()

(2) だれ・どこから?(いくつでも選んでください)

- 1 日本人の友だち
- 2 日本人ではない友だち
- 3 家族と一緒に住んでいる人、親せき
- 4 日本にいる同じ国・地域の人たちのコミュニティ
- 5 職場や学校
- 6 市役所の相談窓口
- 7 とよなか国際交流センターの相談窓口
- 8 外国人をサポートするグループ
- 9 その他()

024. あなたや家族は、病気やけが、出産のとき、日本の病院に行ったことがありますか。(1つ選んでください)

- 1 行ったことがある
- 2 行ったことはない

(Q24で1を選択)

024-1. 病院の医者や看護師が説明するとき、言葉がわかりましたか。(1つ選んでください)

- 1 わかる
- 2 わからない

(Q26-1で1を選択)

026-1-1. 困っていることは何ですか。(いくつでも選んでください)

- 1 仕事のさがし方についての情報が少ない
- 2 資格のとりがわからない
- 3 使える言葉で相談できない
- 4 給料など働くときの約束が守られない
- 5 契約書や仕事のルールがわからない
- 6 給与明細をもらえない
- 7 日本人と給料や扱いがちがう
- 8 失業保険のしくみがわからない
- 9 職場でのトラブルについて、どこに相談したらいいかわからない
- 10 職場の人とうまくいっていない
- 11 その他()

027. あなたは、地震や台風などの災害がおきたときに、どこに逃げたいか(=ひなん場所)を知っていますか。(1つ選んでください)

- 1 知っている
- 2 知らない

028. あなたは、ひなん場所を知るための、次のような役立つものがあることを知っていますか。(いくつでも選んでください)

- 1 ひなん場所をわかりやすくするための看板
- 2 災害の内容やひなん場所が書かれた本
- 3 防災訓練(地震や火事などがおきたときの練習)
- 4 豊中市のホームページ
- 5 その他()
- 6 知らない

029. あなたは、あなたが住んでいるまちの人たちと、つきあいがありますか。(1つ選んでください)

- 1 ある
- 2 ない

(Q29で1を選択)

029-1. つきあいがあるのは、どんな人たちですか。(いくつでも選んでください)

- 1 同じ言葉や文化をもつ人たち
- 2 同じ言葉や文化ではない人たち

(Q29で1を選択)

029-2. つきあいがあるのは、どういうときですか。(いくつでも選んでください)

- 1 家の近くに住んでいる人とのあいさつや会話などで
- 2 住んでいる地域の活動やイベントで
- 3 仕事や職場で
- 4 子育て中の親の集まりなどで
- 5 自分や家族が通っている学校の活動やイベントで
- 6 日本語教室や、外国人市民によるグループ活動などで
- 7 その他()

Q30. 住んでいるまちの人のつきあいで困っていることがありますか。(1つ選んでください)

- 1 困っていることがある 2 困っていない

(Q30で1を選択)

Q30-1. 困っていることは何ですか。(いくつでも選んでください)

- つきあう機会が少ない
- 言葉がわからず、仲良くない
- 生活のしかたや文化が違うことを、理解されにくい
- 忙しくて、つきあう時間がない
- 避けられている感じがする
- その他()

Q31. あなたは、住んでいるまちの人たちと積極的に交流したいと思いませんか。(1つ選んでください)

- 1 交流したい 2 交流したいとは思わない

(Q31で1を選択)

Q31-1. どのような交流をしたいと思いませんか。(いくつでも選んでください)

- 日本の文化や習慣を学びたい
- 出身国・地域のことを紹介したい
- 住んでいるまちのイベントと一緒に参加したい
- みんなが住みやすいまちになるように、一緒に考えたり活動したりしたい
- 家庭や子育てについての相談・話をしたい
- 一緒に、ボランティア活動をしたい
- 友だちになりたい
- その他()

Q32. 次のうち、あなたがやってみたいものを選んでください。(いくつでも選んでください)

- 自分が先生になって、出身国・地域の文化、言葉、料理などを紹介すること
- 通訳・翻訳などをして、困っている人を助けること
- 住んでいるまちの人と一緒に、まちのために活動すること(そうじ、おまつりなど)
- 外国人を支援する活動
- 学校などで、自分の国や地域についての授業や、交流活動を手伝うこと
- 外国人市民の代表として、審議会など、市の会議の委員になること
- その他()
- ない

市のサービスについて

Q35. 豊中市で、外国人市民が使えるサービスのなかで、あなたや家族が使ったことがあるものは何ですか。(いくつでも選んでください)

- マイナンバーカードをもらう
- 母子健康手帳をもらう
- 乳幼児健診をうける
- 予防接種をうける
- こども園などに入る
- 市民健康診査をうける
- 国民健康保険によるサービスをうける
- 介護保険によるサービスをうける
- 市営住宅にすむ
- 生活保護をうける

(Q35で選択されなかったもののみ表示)

Q35-1. 外国人市民が使えるサービスを使ったことがない人はその理由を答えてください。(いくつでも選んでください)

	知らなかったから	必要なかったから	その他
(1) マイナンバーカードをもらう	1	2	3
(2) 母子健康手帳をもらう	1	2	3
(3) 乳幼児健診をうける	1	2	3
(4) 予防接種をうける	1	2	3
(5) こども園などに入る	1	2	3
(6) 市民健康診査をうける	1	2	3
(7) 国民健康保険によるサービスをうける	1	2	3
(8) 介護保険によるサービスをうける	1	2	3
(9) 市営住宅にすむ	1	2	3
(10) 生活保護をうける	1	2	3

Q33. あなたは日本でのからして次のようなことがありますか。(いくつでも選んでください)

- 文化や習慣のちがいを理解されない
- 肌の色や服装、宗教、国籍などのちがいを理由にひどいことを言われる
- 公の場で外国人に対するヘイトスピーチやヘイトデモが行われる
- 地域や職場で仲間はずれや無視されたりする
- 外国人であることを理由に、仕事につけない
- 同じ仕事をしているが日本人より賃金が低い
- 外国人であることを理由に、結婚をこたえられる
- 外国人であることを理由に、家を買うことや借りることをこたえられる
- 日本人のような名前(通名)を使うことを求められる
- 年金や保険などで不利に扱われる
- 外国人市民の意見が、政治に生かされていない
- その他()
- ない

Q34. 豊中市は、外国人市民にとって住みよいまちだと思いますか。(1つ選んでください)

- そう思う
- どちらかというそう思う
- どちらかというそう思わない
- そう思わない
- わからない

Q36. あなたや家族は、豊中市が提供している日本語ではない言葉で書かれた資料(本やパンフレットなど)のうち、使ったことがあるものは何ですか。(いくつでも選んでください)

- 生活情報冊子「とよなか生活ガイドブック」
- 広報紙「とよなかしからの おしらせ」
- ごみの分け方・出し方早わかりガイド

(Q36で選択されたもののみ表示)

Q36-1. 日本語ではない言葉で書かれた資料を使ったことがある人は、その情報は役に立ちましたか。(1つ選んでください)

	役に立った	役に立たなかった
(1) 生活情報冊子「とよなか生活ガイドブック」	1	2
(2) 広報紙「とよなかしからの おしらせ」	1	2
(3) ごみの分け方・出し方早わかりガイド	1	2

(Q36で選択されなかったもののみ表示)

Q36-2. 日本語ではない言葉で書かれた資料を使ったことがない人は、なぜ使ったことがないのか、理由を教えてください。(いくつでも選んでください)

	知らなかったから	必要なかったから	その他
(1) 生活情報冊子「とよなか生活ガイドブック」	1	2	3
(2) 広報紙「とよなかしからの おしらせ」	1	2	3
(3) ごみの分け方・出し方早わかりガイド	1	2	3

Q37. あなたが豊中市役所へ行ったときに、困ったことがありますか。(1つ選んでください)

- 1 困ったことがある 2 困ったことはない

(Q37で1を選択)

Q37-1. 困ったことは何ですか。(いくつでも選んでください)

- どの窓口に行けばいいかわからない
- 自分が使える言葉の通訳がない
- 通訳が少ない
- 手続きのしかたがわからない
- 手続きが1回で終わらない
- 窓口の人が親切ではない
- 窓口が開いている時間に行けない
- 市役所で何ができるかわからない
- ホームページに、自分が使える言葉の情報が少ない
- 自分が使える言葉の資料(パンフレットや本など)が少ない
- 自分が使える言葉で書かれた書類がない
- その他()

Q38. あなたは、豊中駅前にある「とよなか国際交流センター」に行ったり、サービスを使ったことがありますか。(1つ選んでください)

- 1 センターへ行ったり、センターの事業に参加したり、サービスを使ったことがある
- 2 センターのことは知っているが、特にかかわりはない
- 3 知らない

(Q38で1と2を選択)

Q38-1. 「とよなか国際交流センター」のサービスで参加したり、使ったりしたいものは何ですか。(いくつでも選んでください)

- 1 にほんごの教室
- 2 相談サービス
- 3 外国にルーツをもつ子どもの活動(サンプリース、母語教室など)
- 4 外国人向けのセミナーなどのイベント(確定申告、シニア世代の暮らし方など)
- 5 その他のイベント(国流フェスタなど)
- 6 イベントの案内やお知らせ
- 7 センターにおいてある新聞、雑誌、パンフレットなど
- 8 その他

(Q38-1で選択されなかったもののみ表示)

Q38-1-1. 「とよなか国際交流センター」のサービスで利用を希望しない理由を教えてください。(いくつでも選んでください)

	内容がわからないから	興味がないから	その他
(1)にほんごの教室	1	2	3()
(2)相談サービス	1	2	3()
(3)外国にルーツをもつ子どもの活動	1	2	3()
(4)外国人向けのセミナーなどのイベント	1	2	3()
(5)その他のイベント	1	2	3()
(6)イベントの案内やお知らせ	1	2	3()
(7)センターにおいてある新聞、雑誌、パンフレットなど	1	2	3()

(4)子どもは母語ができますか

- 1 できる
- 2 少しできる
- 3 ほとんどできない
- 4 どのくらいできるかわからない

(Q39で3～4のいずれかを選択)

Q39-3. 上から3番目の子どもについてあてはまるものを答えてください。

(1)何歳ですか

- 1 0歳から5歳
- 2 6歳から11歳
- 3 12歳から18歳

(2)今どこへ通っていますか

- 1 こども園等
- 2 日本の学校
- 3 民族系・国際系の学校
- 4 その他の学校
- 5 どこにも通っていない

(3)子どもは日本語ができますか

- 1 できる
- 2 少しできる
- 3 ほとんどできない
- 4 どのくらいできるかわからない

(4)子どもは母語ができますか

- 1 できる
- 2 少しできる
- 3 ほとんどできない
- 4 どのくらいできるかわからない

(Q39で4を選択)

Q39-4. 上から4番目の子どもについてあてはまるものを答えてください。

(1)何歳ですか

- 1 0歳から5歳
- 2 6歳から11歳
- 3 12歳から18歳

(2)今どこへ通っていますか

- 1 こども園等
- 2 日本の学校
- 3 民族系・国際系の学校
- 4 その他の学校
- 5 どこにも通っていない

(3)子どもは日本語ができますか

- 1 できる
- 2 少しできる
- 3 ほとんどできない
- 4 どのくらいできるかわからない

(4)子どもは母語ができますか

- 1 できる
- 2 少しできる
- 3 ほとんどできない
- 4 どのくらいできるかわからない

子育て・教育・学校について

Q39. あなたは一緒に住んでいる家族に18歳までの子どもがいますか。(1つ選んでください)

- 1 1人いる
- 2 2人いる
- 3 3人いる
- 4 4人以上いる
- 5 子どもはいない

(Q39で1～4のいずれかを選択)

Q39-1. 子ども(2人以上いる場合は一番上の子ども)について、それぞれあてはまるものを1つ選んでください。

(1)何歳ですか

- 1 0歳から5歳
- 2 6歳から11歳
- 3 12歳から18歳

(2)今どこへ通っていますか

- 1 こども園等
- 2 日本の学校
- 3 民族系・国際系の学校
- 4 その他の学校
- 5 どこにも通っていない

(3)子どもは日本語ができますか

- 1 できる
- 2 少しできる
- 3 ほとんどできない
- 4 どのくらいできるかわからない

(4)子どもは母語ができますか

- 1 できる
- 2 少しできる
- 3 ほとんどできない
- 4 どのくらいできるかわからない

(Q39で2～4のいずれかを選択)

Q39-2. 上から2番目の子どもについて、それぞれあてはまるものを1つ選んでください。

(1)何歳ですか

- 1 0歳から5歳
- 2 6歳から11歳
- 3 12歳から18歳

(2)今どこへ通っていますか

- 1 こども園等
- 2 日本の学校
- 3 民族系・国際系の学校
- 4 その他の学校
- 5 どこにも通っていない

(3)子どもは日本語ができますか

- 1 できる
- 2 少しできる
- 3 ほとんどできない
- 4 どのくらいできるかわからない

(Q39で1～4のいずれかを選択)

Q39-5. 子ども自身が学校のことで何か困っていることはありますか。(1つ選んでください)

- 1 困ったことがある
- 2 困ったことはない
- 3 わからない

(Q39-5で1を選択)

Q39-5-1. 子ども自身が困っていることは何ですか。(いくつでも選んでください)

- 1 先生と言葉が通じない(うまくコミュニケーションがとれない)
- 2 宗教上の理由や生活のしかたがちがうから、給食で食べられないものがある
- 3 言葉や文化の違いを理解してもらえない
- 4 外国にルーツがあることを言えない
- 5 学校に行きたくない
- 6 日本語があまりできないので、授業がわからない
- 7 勉強のしかたが出身国・地域とちがうので、授業についていけない
- 8 いじめられる(仲間はずれにされる)
- 9 学校に行きたいが、入学できる学校がない
- 10 その他()

(Q39で1～4のいずれかを選択)

Q40. あなたは、子どもの次の進路について、どのように考えていますか。(いくつでも選んでください)

- 1 日本の教育を中学まで受けさせたい
- 2 日本の教育を高校まで受けさせたい
- 3 日本の教育を大学まで受けさせたい
- 4 外国人学校やインターナショナルスクール(国際学校)などに行かせたい
- 5 出身国・地域の教育を受けさせたい
- 6 進学させないで、働かせたい
- 7 まだわからない
- 8 その他()

(Q39で1～4のいずれかを選択)

Q41. 子育てや教育・学校のことで、困る(困った)こと、心配する(心配した)ことがありますか。(1つ選んでください)

- 1 ある
- 2 ない

(Q41で1を選択)

Q41-1. 困ったことや心配したことは何ですか。(いくつでも選んでください)

- 1 子どものことを相談できる人や場所がない
- 2 母子健康手帳や予防接種のしくみがよくわからない
- 3 働きたいが、子どもをあずけられない
- 4 出産や子育て、教育・学校にかかるお金が高い
- 5 こども園や学校などに入るための手続きがわからない
- 6 こども園や学校などからの連絡の内容がよくわからない
- 7 理由もなく、子どもをきびしくおこったり、たたいたりしてしまう
- 8 子どもに家族や子ども自身の出身国・地域の言葉や文化を伝えることがむずかしい
- 9 子どもが家族や子ども自身の出身国・地域の言葉や文化に良い感情をもっていない
- 10 その他 ()

さいごに

Q42. 豊中市に住む、いろいろな国籍・文化・生活習慣をもつすべての市民が、暮らしやすいまちをつくることについて、あなたがふだん考えていることを自由に書いてください。

()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

豊中市多文化共生に関するアンケート (日本人市民)

基本項目

調査結果を分析し、多文化共生施策の課題を明らかにしていくうえで、性別と年齢は重要な情報となります。そのため、あなたの性別と年齢をお聞きます。

Q1. あなたの性別を教えてください。(1つ選んでください)

- 1 男
- 2 女
- 3 いずれでもない

Q2. あなたの年齢を教えてください。(1つ選んでください)

- 1 18歳~29歳
- 2 30歳~39歳
- 3 40歳~49歳
- 4 50歳~59歳
- 5 60歳~69歳
- 6 70歳以上

Q3. 生まれたところはどこですか。(1つ選んでください)

- 1 日本で生まれ育った
- 2 日本以外で生まれた

Q4. 現在、お住まいの地域はどこですか。(1つ選んでください)

- 1 北東部(北丘・東丘・西丘・南丘・新田・新田南・東泉丘小学校区)
- 2 北中部(野畑・北緑丘・少路・上野・東豊中・東豊台小学校区)
- 3 北西部(桜井谷・桜井谷東・刀根山・大池・螢池・箕輪小学校区)
- 4 中部(克明・桜塚・南桜塚・熊野田・泉丘小学校区)
- 5 中東部(緑地・寺内・北条・小曾根・高川・豊南小学校区)
- 6 中西部(原田・豊島・豊島北・豊島西・中豊島小学校区)
- 7 南部(野田・島田・庄内・庄内南・庄内西・千成小学校区)
- 8 わからない→〔住所をお書きください〕: 町 丁目

Q5. 豊中市に何年住んでいますか。(1つ選んでください)

- 1 1年未満
- 2 1年以上3年未満
- 3 3年以上5年未満
- 4 5年以上10年未満
- 5 10年以上20年未満
- 6 20年以上

Q6. 職業は何ですか。(1つ選んでください)

- 1 勤労者(公務員・会社役員・内職・アルバイトを含む)
- 2 自営業・自由業
- 3 学生(専修学校・各種学校などを含む)
- 4 家事専業
- 5 無職(年金生活者を含む)
- 6 その他 ()

あなたのことについて

Q7. 豊中市に住んで、良いと感じることは何ですか。(いくつでも選んでください)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1 交通の便が良い | 2 買い物しやすい |
| 3 物価が安い | 4 家賃が安い |
| 5 自然環境が良い | 6 治安が良い |
| 7 生活情報を手に入れやすい | 8 公共施設が多い |
| 9 文化活動・レジャーの機会が多い | 10 周囲の人が親切 |
| 11 市役所のサービスを利用しやすい | 12 相談できる場所が多い |
| 13 その他 () | 14 良いと感じることはない |

Q8. あなたは、日本語以外の言語を使う(理解する、話すなど)ことができますか。(いくつでも選んでください)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 どの言語も使えない | 2 韓国・朝鮮語 |
| 3 中国語 | 4 フィリピン語(タガログ語) |
| 5 ベトナム語 | 6 インドネシア語 |
| 7 ポルトガル語 | 8 タイ語 |
| 9 英語 | 10 スペイン語 |
| 11 フランス語 | 12 ドイツ語 |
| 13 ロシア語 | 14 ネパール語 |
| 15 その他の言語 () | |

Q9. 仕事や旅行で海外(国外)に行ったことや、海外で生活をしたことがありますか。(いくつでも選んでください)

- 1 海外へ出張したことや、海外で滞在勤務をしたことがある
- 2 家族が海外で滞在勤務したときに、一緒に滞在したことがある
- 3 海外へ語学研修や留学をしたことがある
- 4 海外へ観光を目的とした旅行をしたことがある
- 5 海外での生活・文化体験などを目的に滞在したことがある
- 6 その他 ()
- 7 海外に行ったことはない

外国人とのかわりについて

Q10. 外国人とのつきあいがありますか。(1つ選んでください)

- 1 ある
- 2 ない

(Q10で1を選択)

Q10-1. つきあいがあるのはどういうときですか。(いくつでも選んでください)

- 1 家族や親せきにいる
- 2 近所づきあいで
- 3 自治会などの地域の活動で
- 4 仕事や職場で
- 5 子育て中の保護者の集まりなどで
- 6 自分や家族が通っている学校で
- 7 外国人への支援活動などで
- 8 友だちとして
- 9 地域のイベントで
- 10 その他 ()

(Q10で1を選択)

Q10-2. 外国人とのつきあいでは、どの言葉を使っていますか。(いくつでも選んでください)

- 1 日本語
- 2 英語(相手の母語)
- 3 英語(相手の非母語)
- 4 相手の母語
- 5 その他 ()

(Q10で1を選択)

Q10-3. 外国人が困っているときに、相談のったり、助けたりしたことがありますか。(1つ選んでください)

- 1 相談のったり、助けたりしたことがある
- 2 そのようなことはない

Q11. あなたの地域や職場などでの外国人とのかわり、困った経験などがありますか。(1つ選んでください)

- 1 ある
- 2 ない

(Q11で1を選択)

Q11-1. どのようなことでしたか。差し支えなければ書いてください。

()

Q12. あなたは、地域や職場などに外国人が増えることで、地域社会にどのような影響があると思いますか。(あなたの考えに近いものを5つまで選んでください)

- 1 社会に多様性が生まれる
- 2 外国の言葉や文化に触れる機会が増える
- 3 地域の活動や助けあいが活発になる
- 4 地域の生活ルールを見直す機会となる
- 5 ユニバーサルデザイン化がすすむ
- 6 日本固有の文化が変容する
- 7 住環境や治安が悪くなる
- 8 日本人の仕事が減る
- 9 その他 ()
- 10 影響はないと思う

Q13. 次のようなかたちでの外国人とのかわりに対して、(1)から(6)のそれぞれについて、もっともあてはまるものを1つ選んでください。

	積極的に 受容できる	まあ 受容できる	あまり 受容できない	受容 できない
(1)外国人と友だちづきあいを する	1	2	3	4

Q17. あなたは、豊中市内に多くの外国人市民が暮らしていることを知っていましたか。(1つ選んでください)

- 1 よく知っている
- 2 外国人市民がいることはわかっていたが、くわしくは知らなかった
- 3 知らなかった(そのようなことは意識しなかった)
- 4 その他 ()

多文化共生のまちづくりについて

Q18. あなたは、日本に住む外国人にかかわる内容について、これまでに学習したり知識を得たりしたことがありますか。(1つ選んでください)

- 1 ある
- 2 ない

(Q18で1を選択)

Q18-1. どのような学習したり知識を得たりしたことがありますか。(いくつでも選んでください)

- 1 小・中学校で学習した
- 2 高等学校で学習した
- 3 大学・専門学校などで学習した
- 4 一般市民対象の講座などで学習した
- 5 職場の研修で学習した
- 6 「広報とよなか」の記事を読んだ
- 7 テレビ・ラジオの番組で知った
- 8 新聞・雑誌の記事を読んだ
- 9 本・映画・ビデオで知った
- 10 インターネットなどで調べた
- 11 外国人に対する情報サービスなどで知った
- 12 外国人と交流するイベントに参加した
- 13 その他 ()
- 14 学習したこと、または知識を得たことはない

Q19. 日本に住む外国人に関する次の意見について、あなたはどのように思いますか。(1)から(7)のそれぞれについて、1つ選んでください)

	そう思う	どちらか といえば そう 思う	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない
(1)日本人は、外国の言葉や文化を学び、外国人の背景を理解するほうがよい	1	2	3	4
(2)日本社会は、外国人に日本の習慣やルールを押し付けないほうがよい	1	2	3	4

	積極的に 受容できる	まあ 受容できる	あまり 受容できない	受容 できない
(2)外国人と一緒に学ぶ、働く	1	2	3	4
(3)外国人が隣近所に住む	1	2	3	4
(4)家族の誰かが外国人と結婚する	1	2	3	4
(5)外国人から医療や介護を受ける	1	2	3	4
(6)外国人と一緒に自治会活動や地域のイベントに参加する	1	2	3	4

Q14. あなたが、外国人とつきあうにあたり、壁になっていると感じるものがありますか。(いくつでも選んでください)

- 1 言葉の違い
- 2 宗教や文化・生活習慣などの違い
- 3 もの考え方・価値観の違い
- 4 肌の色や服装などの違い
- 5 そもそも外国人とつきあう機会が少ない
- 6 その他 ()
- 7 壁を感じることはない

Q15. あなたが住んでいる地域では、今後、外国人市民とのかわりをどのようにしたらよいと思いますか。(1つ選んでください)

- 1 かわりをもっと深めていく
- 2 他の日本人市民と同じように関わっていく
- 3 かわりを深めるべきではない
- 4 その他 ()
- 5 わからない

Q16. あなたは、地域の外国人市民と交流したいと思いますか。(1つ選んでください)

- 1 そう思う
- 2 そう思わない

(Q16で1を選択)

Q16-1. 地域の外国人市民と今後どのような交流をしたいと思いますか。(いくつでも選んでください)

- 1 外国人市民に日本の文化や習慣を紹介したい
- 2 外国人市民から出身国・地域の文化や習慣を学びたい
- 3 地域のイベント活動と一緒に参加したい
- 4 住みよいまちづくりのための活動を一緒にしたい
- 5 家庭のことや子育てについての相談や情報交換をしたい
- 6 ボランティア活動と一緒にしたい
- 7 友だちになりたい
- 8 その他 ()

	そう思う	どちらか といえば そう 思う	どちらか といえば そう 思わない	そう 思わない
(4)行政は、外国人が日本の言葉や文化を学べるよう援助するほうがよい	1	2	3	4
(5)外国人は、日本の言葉や文化を身につけるために努力したほうがよい	1	2	3	4
(6)外国人は、地域の活動に積極的に参加するほうがよい	1	2	3	4
(7)外国人は、日本社会にとけこむよう日本の習慣やルールを学ぶほうがよい	1	2	3	4

Q20. 豊中市は、外国人市民にとって住みよいまちだと思いますか。(1つ選んでください)

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらかといえばそう思わない
- 4 そう思わない
- 5 わからない

Q21. あなたは、外国人には、日本社会での生活のしづらさがあると思いますか。(1つ選んでください)

- 1 そう思う
- 2 そうは思わない
- 3 わからない

(Q21で1を選択)

Q21-1. あなたは、外国人が日本でのくらしで次のようなことがあると思いますか。(お考えに近いものを5つまで選んでください)

- 1 文化や習慣の違いが理解されない
- 2 肌の色や服装、宗教、国籍などのちがいを理由にひどいことを言われる
- 3 公の場で外国人に対するヘイトスピーチやヘイトデモが行われる
- 4 地域や職場で仲間外れや無視されたりする
- 5 外国人であることを理由に、就職活動をしなくても採用されない
- 6 同じ仕事をしていても日本人より賃金が低いなど、労働条件が悪い
- 7 外国人であることを理由に、結婚を断られる
- 8 外国人であることを理由に、住宅の購入や入居を断られる
- 9 生活や仕事をすうえで、日本人のような名前(通名)を使うことを求められる
- 10 外国人であることを理由に、年金や保険などで不利益を受けている
- 11 外国人の意見が政治に反映されていない
- 12 その他 ()
- 13 ない

Q22. 豊中市では、行政や市民活動団体が、外国人市民と日本人市民の交流活動や、外国人市民への支援活動を実施しています。あなたは、次にあげる活動に参加したことがありますか。(1)～(6)についてそれぞれ1つ選んでください)

	参加したことがある	知っているが参加したことはない	活動のことを知らない
(1) 多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする講座・学習会・セミナー	1	2	3
(2) 外国人との交流を目的としたイベントやお祭り・交流会	1	2	3
(3) 外国の文化や風俗・風習などの体験(芸能、衣服、食事など)	1	2	3
(4) 学校教育での多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする授業	1	2	3
(5) 日本語ボランティアや通訳など外国人の言葉のサポート	1	2	3
(6) 外国人の生活上の悩みごとに対する相談などの支援活動	1	2	3

Q23. 外国人市民と日本人市民の交流活動や、外国人市民への支援活動で、あなたが今後、関心のあるものはありますか。(いくつでも選んでください)

- 1 多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする講座・学習会・セミナー
- 2 外国人との交流を目的としたイベントやお祭り・交流会
- 3 外国の文化や風俗・風習などの体験(芸能、衣服、食事など)
- 4 学校教育での多文化共生や国際理解・国際交流をテーマとする授業
- 5 日本語ボランティアや通訳など外国人の言葉のサポート
- 6 外国人の生活上の悩みごとに対する相談などの支援活動
- 7 その他()
- 8 関心のあるものはない

Q24. 豊中市では、世界の多様な文化や人々との相互理解を深め、人権尊重を基調とした住民主体の国際交流活動をすすめるため、「とよなか国際交流センター」(豊中駅前)を設置していますが、あなたはこの施設を知っていますか。(1つ選んでください)

- 1 知っている
- 2 知らない

(Q24で1を選択)

Q24-1. 「とよなか国際交流センター」が行っている交流イベントや講座などへ参加したり、貸し館の利用をしたことがありますか。(いくつでも選んでください)

- 1 国際交流に関する情報提供について(お知らせ・ニュースレター、ホームページによる情報提供、書籍・新聞・雑誌のコーナーなど)
- 2 国際交流活動への住民参加の促進(市民活動中間支援組織共同デスク、留学生・ホストファミリー事業など)
- 3 国際理解のための講座など(ボランティア研修事業、国際理解講座・セミナー、学習会、講演会、ワークショップなど)
- 4 在住外国人支援および相談事業(多文化子ども保育事業、外国にルーツをもつ子どもたちの母語・学習支援事業、韓国・朝鮮ことばとあそびのつどい、日本語活動事業など)
- 5 会議室などの貸出し
- 6 その他()
- 7 利用したことはない

Q25. 異なる文化や価値観を認めあい、支えあって、ともに地域で暮らす「多文化共生のまちづくり」に向けて、豊中市は、今後どのような取組み(施策・事業)に力を入れたらよいと思いますか。(お考えに近いものを5つまで選んでください)

- 1 外国人市民がいろいろな相談をしやすいとする
- 2 印刷物やSNSなど、日本語以外のいろいろな言語による案内を増やす
- 3 市役所や道路・建物などの日本語以外の言語による案内を増やす
- 4 日本語を学ぶ外国人市民を支援する
- 5 外国人市民の子どもがしっかり学べるようにする
- 6 日本の文化や生活習慣を教える教室などを開く
- 7 外国人市民が働く場を増やしたり、働きやすくしたりする
- 8 外国人市民が病院や福祉サービスを利用しやすくする
- 9 外国人市民が意見を言ったり、まちづくりに参加したりできるようにする
- 10 外国人市民に関わる施策や制度を改善したり、手続きをやすくしたりする
- 11 外国人市民へのいじめや差別などをなくすための取組みをしっかりと行う
- 12 外国人市民が自国の文化やことばを保持できるようにする
- 13 いろんな国の人や文化、習慣の違いについて、日本人市民の理解を深める
- 14 異なる文化、国籍をもつ市民同士が交流する機会を増やす
- 15 その他()
- 16 特に力を入れるべき取組みはない

Q26. 「多文化共生のまちづくり」に向けて、あなたが日ごろ感じていること、取り組む必要があると思うことを自由に書いてください。(外国人市民に取り組んでほしいこと、日本人市民や企業などが取り組むべきだと思うことなど)

()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

豊中市多文化共生に関するアンケート調査結果報告書

2023年(令和5年) 3月

<編集・発行>

豊中市 人権政策課

〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号

電話：06-6858-2654／ファックス：06-6846-6003

E-mail：jkokusai@city.toyonaka.osaka.jp
